

1995年度

経済学部シラバス

獨協大学

—シラバスの見方について—

- この冊子には ①1994年度以降入学者……新カリキュラム
②1993年度入学者……旧カリキュラム
③1992年度以前入学者……旧旧カリキュラム

以上、3つのカリキュラムのシラバスが掲載されていますが分類上、目次と内容は

- ①1994年度以降入学者（新カリキュラム）と
②1993年度以前入学者（旧・旧旧カリキュラム）の2つに分かれています。

〈目次の見方〉

(1) ①1994年度以降入学者対象（新カリキュラム）

科目群ごとに科目名、身分、担当教員数、掲載ページが記載されています。

②1993年度以前入学者対象（旧・旧旧カリキュラム）

部門別に科目名、（旧旧カリキュラム科目名——旧カリキュラムと科目名が異なる場合のみ）、身分、担当教員名、掲載ページが記載されています。

- (2) 合併科目の場合には、（*カリ **学科『科目名***』参照）と記載してありますので、その指示に従って下さい。

〈注 意〉

シラバスの掲載されていない科目については授業時に指示を受けて下さい。

はじめに

——教育研究活性化のために——

経済学部長 齊藤 博

1

私たち経済学部教員一同は、現代社会のニーズに応え、獨協大学の自己評価・自己点検の実践プログラムの一貫として、学部教員の教育能力と専門学術研究能力に関する評価と点検を、色々な方面から行なうことに決意せざるをえなくなったことを、ここに宣言する次第である。

本書は、その一端として、1995年度の経済学部の講義科目について、いわゆるシラバス風の科目内容を開示して、全学の教員と学生の皆さんの評価・批判と点検にゆだねる目的をもって作成された試みである。まだ第3年目であり、無論、不十分なものである。シラバスとして整備された作品ではないが、今後、相互批判と助言の励ましを受けて、前進して行きたいと考えている。

経済学部教員の専門研究領域と業績の概要についても、私たちは早くから、その公開化を考慮してきており、その試みは1990年8月刊行の「獨協経済」誌第55号に掲載公開されたのであった。この紀要は全国関係者にも発送されたし、学内でも院生をはじめ教職員関係者や希望する学部学生諸君にも配布されてきた。この第3版が近く刊行されることになっている。学部教員の略歴、研究テーマの内容、主要業績の特徴、発表誌と発行所、所属学会などが明記されており、学生・院生が研究指導を受けるにあたって、恰好のガイド・ブックになってきたといつてよい。

2

私立大学における研究教育の活性化と高度化をめぐるのは、従来、ともすれば教員相互に「なれあい」と「相互貸借」の暗黙の小共同体関係による「あいまい」化が成立していた、といえないこともない。

自己の専門学問分野における自己規律性の論理と姿勢は、生真面目で勤勉あるいは学界向上欲の強盛な一部分を除いては、ともすれば、教授昇任が終了すれば、中年期には消失の方向性に向ってしまう場合が少なくなかった、といったら大袈裟であろうか。あるいは、初老からは身のまわりの学生相手の教育日常性と冠婚葬祭、ゼミ卒業生交流に自己限定されての

大学教師生活の「享受・満喫」に終始することが、必ずしも少数派でない状況が全国的に見受けられないわけでもない、ということも真実であろう。あるいは大学就職後まもなく、若年寄になってしまうケースも稀れではない。

自己の専門学問分野について、それぞれなりに学会と社会の第一線の問題点や動向、そして業績を吸収し、または咀嚼して、自分なりの視座を構築する努力、あるいは創造的な学術水準の造出に精進する努力を払うことが、私たち大学人に求められている。重い重い鉛の靴をはいて大空に飛翔を試みる徒勞にも似た、あるいは当座の世間ではほとんど意味がないだけの苦汁を飲みほすだけの、しかも血のにじむ苦闘のごとくにきびしい学問研修の要請に、自分なりに責任をもって答える必要と義務があらうかと思う。

ここ五十年の過程でもたらされた、いわゆる大学教員の処遇についての制度的、身分格式的、給与的な平等評価主義と教学自治原則、および民主運営の隆盛とが、旧制帝大や講座制大学における教学評価の正の側面としての切磋琢磨や、日々の知的勤勉による学問的向上と創造的な業績蓄積の努力なしでも、実現・獲得されているだけの傾向がないであろうか。従ってまた自己の学問研修に甘く、それに対応して無論、学生・院生の教育研究指導にも甘く安易な傾向がないであろうか。

互いに、大いに、深く自戒したいところである。

3

大学教員の教育能力の評価と点検にあたっては、これぞれの担当科目を学習し、総括し、構想し、展開する能力が問われるであろう。これには、専門領域の進展に対する最新の知識と創造的な問題意識の有無が、大切となる。無論、教育効果の改善、授業方法の活性化も求められよう。

大学院生やゼミ生に対しては、とくに学位論文やゼミ論文を指導する能力、あるいは「見本」や「基準」としての自己の学術論文＝著作作成能力の実績の有無が、大学教員側に問われるのに違いない。

専門研究能力では、専門分野の研究業績の恒常的な生産性の有無、学界その他での研究業績の学外者評価の多寡、論文＝著作それ自体の質と量、学会や国内外での活躍の程度、大学院生指導上の学問的なレベルと実力の有無などが、きびしく問われざるをえないであろう。

私たち経済学部教員一同は、本書の講義シラバスや既刊の「研究領域・主要業績一覧」の公表はもとより、今後さらに自己点検と自己評価の姿勢を強めて、獨協大学と学部の活性化のために努力したいと考えている。

そのことが、経済学部学生・院生諸君の在学中の学習研究活動の内実を支え、刺激し、発展させることは確実であると信じている次第である。卒

業・修了後の社会人になった段階になって、私たち教学サイドのいつわらざる献身が、必ずや一人一人の学生・院生だった人々に、ある意味と価値を生み出すことがあろうと確信している。

学生・院生諸君自身も、自己の青春の学業・修学時代の人生上の任務に対して、自覚をもって対処されたい。

お互いに、がんばろう。

目 次

はじめに

経済学部長 齊 藤 博

1994年度以降入学者対象 (新カリキュラム)

一般基礎科目群 (経済学科・経営学科共通)

文 学	(日本文学)	助 教 授	飯 島 一 彦	1
"	(日本文学)	教 授	小 島 幸 枝	3
"	(日本文学)	非常勤講師	中 村 文	5
文 学	(世界文学)	教 授	北 澤 滋 久	7
"	(世界文学)	教 授	松 山 恒 見	9
"	(世界文学)	助 教 授	山 路 朝 彦	11
国 語		助 教 授	飯 島 一 彦	13
"		非常勤講師	北 村 進	15
"		教 授	小 島 幸 枝	17
歴史学	(日本史)	助 教 授	新 井 孝 重	19
"	(日本史)	教 授	齊 藤 博	21
"	(東洋史)	非常勤講師	西 嶋 定 生	23
"	(西洋史)	助 教 授	御 園 生 眞	25
日本文化論	(風土)	非常勤講師	小 林 幸 夫	27
思 想	(哲学)	教 授	鈴 木 康 治	29
法 学		非常勤講師	門 廣 乃 里 子	31
地理学		教 授	犬 井 正	33
民俗学		非常勤講師	徳 丸 亞 木	35
数 学		教 授	遠 藤 信	37
自然科学概論		教 授	遠 藤 信	39
保健論		非常勤講師	伊 藤 弘 人	41
体 育					
"	(アウトドアトレーニング・アウトドアレクリエーション山岳型)	専任講師	和 田 智	43
"	(インラインスケート)	非常勤講師	加 藤 雅 子	45
"	(インラインスケート)	専任講師	和 田 智	47
"	(インラインスケート・アウトドアレクリエーション海浜型)	専任講師	和 田 智	49
"	(インラインスケート・スケート)	専任講師	和 田 智	51
"	(硬式テニス)	教 授	小 俣 充	53

体 育			
〃(硬式テニス)	教 授	小 俣 充	55
〃(硬式テニス)	非常勤講師	田 中 茂 宏	57
〃(硬式テニス)	非常勤講師	土 井 浩 信	59
〃(硬式テニス)	非常勤講師	中 沢 克 江	61
〃(硬式テニス)	助 教 授	松 原 裕	63
〃(硬式テニス)	非常勤講師	和 気 秀 文	65
〃(硬式テニス・スキー)	助 教 授	松 原 裕	67
〃(ゴルフ)	非常勤講師	野 口 昭 彦	69
〃(ゴルフ)	非常勤講師	山 中 邦 夫	71
〃(ゴルフ)	非常勤講師	吉 田 卓 司	73
〃(サッカー)	教 授	田 代 力 也	75
〃(サッカー)	非常勤講師	田 中 茂 宏	77
〃(サッカー)	非常勤講師	福 井 真 司	79
〃(サッカー)	非常勤講師	松 本 光 弘	81
〃(サッカー)	助 教 授	松 原 裕	83
〃(スキートレーニング・スキー)	助 教 授	松 原 裕	85
〃(スキー検定トレーニング・スキー検定)	助 教 授	松 原 裕	87
〃(ソーシャルダンス)	教 授	青 柳 多 恵 子	89
〃(ソフトボール)	非常勤講師	池 垣 功 一	91
〃(ソフトボール)	非常勤講師	太 田 朝 博	93
〃(ソフトボール)	非常勤講師	小 川 又 八 朗	95
〃(ソフトボール)	非常勤講師	荻 野 元 祐	97
〃(ソフトボール)	教 授	田 代 力 也	99
〃(ソフトボール)	非常勤講師	檜 山 康	101
〃(ソフトボール・スキー)	教 授	田 代 力 也	103
〃(卓球)	非常勤講師	天 野 和 彦	105
〃(卓球)	非常勤講師	奥 野 忠 枝	107
〃(卓球)	非常勤講師	中 川 昭	109
〃(卓球)	教 授	本 田 稔 祐	111
〃(軟式野球)	非常勤講師	太 田 朝 博	113
〃(軟式野球)	非常勤講師	荻 野 元 祐	115
〃(バスケットボール)	非常勤講師	小 川 又 八 朗	117
〃(バスケットボール)	非常勤講師	勝 瀬 武	119
〃(バスケットボール)	非常勤講師	檜 山 康	121
〃(バドミントン)	教 授	梶 野 克 之	123
〃(バドミントンⅡ)	教 授	梶 野 克 之	125
〃(バレーボール)	教 授	小 俣 充	127
〃(バレーボール)	非常勤講師	中 沢 克 江	129

体 育		
〃(フリースポーツ)	非常勤講師	土井浩信 131
〃(フリースポーツ)	非常勤講師	檜山康 133
〃(フリスビー・ウインドサーフィン)	専任講師	和田智 135
〃(ラグビー)	非常勤講師	天野和彦 137
〃(ラグビー)	非常勤講師	中川昭 139
体育理論	非常勤講師	井上文孝 141
〃	非常勤講師	勝瀬武 143
〃	非常勤講師	土井浩信 145
〃	教 授	本田稔祐 147
〃	非常勤講師	松本光弘 149
〃	非常勤講師	山中邦夫 151
〃	非常勤講師	吉田卓司 153
〃	非常勤講師	和気秀文 155
〃	専任講師	和田智 157

(経済学科) 専門基礎科目群

経済学	助 教 授	小林進 159
〃	教 授	高橋房二 161
〃	教 授	田村申一 163
〃	専任講師	益山光央 165
〃	教 授	松本正信 167
〃	教 授	山越徳 169
〃	専任講師	山本美樹子 171
〃	専任講師	米山昌幸 173
経済原論	教 授	高橋房二 175
〃	教 授	西村允克 177
日本経済史	教 授	齊藤博 179
経済地理	教 授	犬井正 181
経済政策	教 授	伊藤正昭 183
日本経済論	非常勤講師	木村健二 185
統計学	教 授	富田幸弘 187
〃	教 授	本田勝 189
〃	教 授	松井敬 191
経済統計	教 授	松本正信 193
情報処理概論	(新カリ 経営学科「情報処理概論」参照)	

(経済学科) 主要専門科目群

国民所得論	教授 安藤 登	195
一般経済史	非常勤講師 原 剛	197
国際経済論	専任講師 益山 光央	199
地域経済論		
(1) 北米	専任講師 本田 浩邦	201
(2) 西ヨーロッパ	教授 大島 通義	203
(3) 東ヨーロッパ	教授 鈴木 勇	205
(4) アジア・オセアニア	教授 森 健	207
(6) ラテンアメリカ	教授 山本 正三	209
労働経済論	教授 桑原 靖夫	211
金融論	教授 田村 申一	213

(経済学科) 一般専門科目群

経営学	非常勤講師 増田 茂樹	215
プログラミング論	(新カリ 経営学科「プログラミング論」参照)	
情報処理論	(新カリ 経営学科「情報処理論(1)(2)(3)」参照)	
第一外国語		
ドイツ語Ⅰ	各担当教員	217
ドイツ語Ⅱ	各担当教員	219
英語Ⅰ(講読)	各担当教員	221
英語Ⅰ(会話)	各担当教員	223
英語Ⅱ	教授 川崎 潔	225
"	助教授 児嶋 一男	227
"	助教授 佐藤 唯行	229
"	教授 四宮 満	231
"	教授 須賀川 誠三	233
"	教授 長谷部 加寿子	235
"	助教授 原 成吉	237
"	教授 藤田 永祐	239
フランス語Ⅰ	各担当教員	241
フランス語Ⅱ	各担当教員	243
第二外国語		
ドイツ語Ⅰ	各担当教員	245

第二外国語

ドイツ語Ⅱ	各担当教員	247
英語Ⅰ	非常勤講師 升水 一三	249
〃	教授 宮川 潔	251
英語Ⅱ	教授 近藤 ヒカル	253
〃	非常勤講師 松原 拓郎	255
フランス語Ⅰ	各担当教員	257
フランス語Ⅱ	各担当教員	259
スペイン語Ⅰ (総合)	各担当教員	261
スペイン語Ⅰ (会話)	各担当教員	263
スペイン語Ⅱ (総合)	各担当教員	265
スペイン語Ⅱ (会話)	各担当教員	267
スペイン語Ⅱ (講読)	各担当教員	269
中国語Ⅰ (文法)	非常勤講師 秦 敏	271
〃 (講読)	非常勤講師 秦 敏	273
〃 (文法)	非常勤講師 張 継 賓	275
〃 (講読)	非常勤講師 陳 跡	277
中国語Ⅱ (総合)	非常勤講師 秦 敏	279
〃 (総合)	非常勤講師 張 継 賓	281
〃 (講読)	非常勤講師 陳 跡	283
韓国語Ⅰ (文法)	非常勤講師 朴 聖 雨	285
〃 (講読)	非常勤講師 井上 和 枝	287
韓国語Ⅱ (講読)	非常勤講師 井上 和 枝	289
〃 (総合)	非常勤講師 朴 聖 雨	291
ロシア語Ⅰ (文法)	非常勤講師 井上 幸 義	293
〃 (講読)	非常勤講師 井上 幸 義	295
ロシア語Ⅱ (会話)	非常勤講師 井上 幸 義	297
〃 (総合)	非常勤講師 井上 幸 義	299
外国書研究Ⅰ	非常勤講師 青木 雅 明	301
〃	非常勤講師 伊藤 弘 人	303
〃	教授 犬井 正	305
〃	教授 岡村 国 和	307
〃	非常勤講師 奥山 正 司	309
〃	教授 小尾 恵一郎	311
〃	教授 梶山 皓	313
〃	教授 桑原 靖 夫	315
〃	助教授 小林 進	317
〃	非常勤講師 齋藤 正 章	319
〃	非常勤講師 佐々木 實 雄	321

外国書研究 I	教 授 高 橋 善四郎	323
"	教 授 中 村 泰 將	325
"	非常勤講師 長 吉 眞 一	327
"	教 授 西 川 純 子	329
"	非常勤講師 原 剛	331
"	非常勤講師 福 島 寿	333
"	専任講師 本 田 浩 邦	335
"	教 授 松 本 正 信	337
"	教 授 森 健	339
"	教 授 山 越 德	341
"	教 授 山 本 正 三	343
"	専任講師 山 本 美樹子	345
"	専任講師 米 山 昌 幸	347
"	(独語) 助 教 授 御園生 眞	349
"	(仏語) 教 授 千代浦 昌 道	351
"	(外国人学生用) 専任講師 益 山 光 央	353
貿易英語	非常勤講師 山 崎 静 光	355
総合講座 (1)	経 済 学 部	357
特殊講義 A	教 授 本 田 稔 祐	359
	専任講師 和 田 智	361

(経営学科) 専門基礎科目群

経済学	(新カリ 経済学科「経済学」参照)	
経営学総論	教 授 冨 田 忠 義	363
"	非常勤講師 増 田 茂 樹	365
マーケティング論	教 授 大久保 貞 義	367
企業論	教 授 西 川 純 子	369
貿易論	専任講師 米 山 昌 幸	371
簿記原理	教 授 中 村 泰 將	373
"	非常勤講師 福 島 寿	375
"	教 授 細 田 哲	377
"	教 授 百 瀬 房 徳	379
"	教 授 湯 田 雅 夫	381
会計学原理	教 授 中 村 泰 將	383
"	教 授 宮 澤 清	385
統計学	(新カリ 経済学科「統計学」参照)	
情報処理概論	各 担 当 教 員	387

経営管理論	教授 富田 忠義	389
交通論	教授 岡田 博	391
財務会計論	教授 中村 泰將	393
上級簿記	教授 細田 哲	395
〃	教授 百瀬 房徳	397
プログラミング論	教授 高柳 敏子	399
〃	教授 立田ルミ(富澤儀一)	401
情報処理論(1)	教授 高柳 敏子	403
情報処理論(2)	教授 富田 幸弘	405
情報処理論(3)	教授 立田ルミ(井上 洋)	407
老年社会学	非常勤講師 奥山 正司	409
経済原論	教授 高橋 房二	411
〃	教授 西村 允克	413
第一外国語	(新カリ 経済学科「第一外国語」参照)	
第二外国語	(新カリ 経済学科「第二外国語」参照)	
外国書研究 I	(新カリ 経済学科「外国書研究 I」参照)	
貿易英語	(新カリ 経済学科「貿易英語」参照)	
経営英語	専任講師 本田 浩邦	415
総合講座(1)	(新カリ 経済学科「総合講座(1)」参照)	
特殊講義A	(新カリ 経済学科「特殊講義A」参照)	

1993年度以前入学者対象（旧・旧旧カリキュラム）

経済学科講義科目

（ ）内は1992年度以前入学者

理論経済学

経済原論（経済原論Ⅰ）	（新カリ 経済学科「経済原論」参照）	
近代経済学（理論経済学）	助 教 授 小 林 進	417
計量経済学	教 授 小 尾 恵一郎	419
国民所得論	（新カリ 経済学科「国民所得論」参照）	
経済変動論	助 教 授 松 本 正 信	421
経済学史	教 授 鈴 木 勇	423
経済社会学（経済原論Ⅱ）	教 授 高 橋 善四郎	425
社会科学概論（社会科学方法論）	教 授 宮 澤 清	427
経済哲学	教 授 高 橋 善四郎	429

経済史

一般経済史	（新カリ 経済学科「一般経済史」参照）	
日本経済史	（新カリ 経済学科「日本経済史」参照）	
日本社会史	助 教 授 新 井 孝 重	431
西洋経済史	助 教 授 御 園 生 真	433
東洋経済史	非常勤講師 田 中 正 俊	435

経済政策・社会政策

経済政策	（新カリ 経済学科「経済政策」参照）	
国際経済論	（新カリ 経済学科「国際経済論」参照）	
産業組織論	非常勤講師 青 木 雅 明	437
日本経済論	（新カリ 経済学科「日本経済論」参照）	
産業構造論	教 授 山 越 徳	439
流通経済論	教 授 西 村 允 克	441
労働経済論	（新カリ 経済学科「労働経済論」参照）	
交通経済論	（新カリ 経営学科「交通論」参照）	
経済地理	（新カリ 経済学科「経済地理」参照）	
経済開発論	教 授 千 代 浦 昌 道	443
地域経済論		
(1) 北米 (地域経済論)	（新カリ 経済学科「地域経済論(1)」参照）	
(2) 西ヨーロッパ (")	（新カリ 経済学科「地域経済論(2)」参照）	
(3) 東ヨーロッパ (")	（新カリ 経済学科「地域経済論(3)」参照）	

地域経済論			
(4) アジア・オセアニア (地域経済論)	(新カリ	経済学科「地域経済論(4)」参照)	
(地域経済論・ラテンアメリカ)	(新カリ	経済学科「地域経済論(6)」参照)	
地域産業政策論	教	授 伊藤 正 昭	445
地域精神衛生論	教	授 佐々木 雄 司	447
社会政策	教	授 桑 原 靖 夫	449
財政学・金融論			
財政学	教	授 大 島 通 義	451
公共経済学	教	授 伊 藤 為 一 郎	453
金融論	(新カリ	経済学科「金融論」参照)	
国際金融論	専任講師	山 本 美 樹 子	455
統計学・情報科学			
統計学	(新カリ	経済学科「統計学」参照)	
経済統計	(新カリ	経済学科「経済統計」参照)	
応用統計学	(旧カリ	経営学科「応用統計学」参照)	
プログラミング論	(新カリ	経営学科「プログラミング論」参照)	
情報処理概論 (情報処理論 I)	(新カリ	経営学科「情報処理概論」参照)	
情報処理論(1)(2)(3) (情報処理論 II)	(新カリ	経営学科「情報処理論(1)(2)(3)」参照)	
経営学			
経営学	(新カリ	経済学科「経営学」参照)	
会計学			
簿記	(新カリ	経営学科「簿記原理」参照)	
会計学	教	授 宮 澤 清	457
法 学			
民 法	非常勤講師	門 廣 乃 里 子	459
(民法 I・民法 II)	非常勤講師	椿 久 美 子	461
商 法 (商法 I)	専任講師	明 田 川 昌 幸	463
(商 法 II)	専任講師	明 田 川 昌 幸	465
(労働法)	助 教 授	土 田 道 夫	467
(経済法)	教 授	古 沢 博	469
国際法	非常勤講師	廣 部 和 也	471
政治学			
政治学総論	非常勤講師	深 澤 民 司	473
専門外国語			
外国書研究 I (外国経済書・経営書研究 I)			
"	(英語) 教	授 安 藤 登	475
"	" 教	授 伊 藤 正 昭	477
"	" 教	授 岡 田 博	479
"	" 教	授 岡 村 国 和	481

外国書研究 I (外国經濟書・經營書研究 I)

"	(英語) 非常勤講師	奥山正司	483
"	" 非常勤講師	佐々木實雄	485
"	" 教授	栗村英二	487
"	" 教授	桑原靖夫	489
"	" 助教授	小林進	491
"	" 非常勤講師	齋藤正章	493
"	" 教授	高橋善四郎	495
"	" 教授	田村申一 (A・B)	497
"	" 専任講師	本田浩邦	499
"	" 教授	西川純子	501
"	" 非常勤講師	原亨	503
"	" 非常勤講師	福島寿	505
"	" 教授	細田哲	507
"	" 専任講師	益山光央	509
"	" 教授	宮城浩祐	511
"	" 教授	宮澤清	513
"	" 教授	百瀬房徳	515
"	" 教授	山越徳	517
"	" 非常勤講師	山田浩一	519
"	" 教授	山本栄	521
"	" 専任講師	山本美樹子	523
"	" 教授	湯田雅夫	525
"	" 専任講師	米山昌幸	527
"	(独語) 助教授	御園生 眞	529
"	(仏語) 教授	千代浦 昌道		

(新カリ 経済学科「外国書研究 I」参照)

(外国經濟書・經營書研究 II)

"	(英語) 教授	岡村国和	531
"	" 助教授	小林進	533
"	" 専任講師	本田浩邦	535
"	" 専任講師	益山光央	537
"	" 教授	宮城浩祐	539
"	(独語) 助教授	御園生 眞	541
"	(仏語) 教授	千代浦 昌道		

(新カリ 経済学科「外国書研究 I」参照)

"	(外国人学生用) 専任講師	山本美樹子	543
---	---------------	-------	-------	-----

貿易英語

(新カリ 経済学科「貿易英語」参照)

特殊講義

総合講座(1)(総合講座)

(新カリ 経済学科「総合講座(1)」参照)

経営学科講義科目

経営学

経営学総論

(新カリ 経営学科「経営学総論」参照)

経営労務論

教授 宮城 浩 祐 545

経営管理論(経営管理総論)

(新カリ 経営学科「経営管理論」参照)

財務管理論

教授 細田 哲 547

行動科学論(行動科学概論)

教授 大久保 貞 義 549

経営史

一般経営史

非常勤講師 原 剛 551

日本経営史

教授 齊藤 博 553

企業論

企業形態論

教授 栗村 英 二 555

企業論

(新カリ 経営学科「企業論」参照)

協同組合論

教授 栗村 英 二 557

商学

マーケティング論

(新カリ 経営学科「マーケティング論」参照)

貿易論

(新カリ 経営学科「貿易論」参照)

交通論

(新カリ 経営学科「交通経済論」参照)

証券市場論

非常勤講師 原 亨 559

広告論

教授 梶山 皓 561

保険論

教授 岡村 国 和 563

会計学

簿記原理

(新カリ 経営学科「簿記原理」参照)

上級簿記

(新カリ 経営学科「上級簿記」参照)

会計学原理

(新カリ 経営学科「会計学原理」参照)

原価計算論

非常勤講師 齋藤 正 章 565

会計監査論

非常勤講師 長吉 眞 一 567

税務会計論

非常勤講師 山田 浩 一 569

経営分析論

教授 百瀬 房 徳 571

管理会計論

助教授 香取 徹 573

財務会計論

(新カリ 経営学科「財務会計論」参照)

社会会計論

教授 湯田 雅 夫 575

管理工学

管理工学

教授 山本 栄 577

情報科学	
経営数学	教授 前田 功雄 579
統計学	(新カリ 経済学科「統計学」参照)
応用統計学	教授 本田 勝 581
プログラミング論	(新カリ 経営学科「プログラミング論」参照)
オペレーションズ・リサーチ	教授 本田 勝 583
システムズ・エンジニアリング	非常勤講師 天 笠 美知夫 585
情報システム論	教授 前田 功雄 587
標本調査論	教授 松 井 敬 589
情報検索論	助教授 小 田 光 宏 591
情報処理概論	(新カリ 経営学科「情報処理概論」参照)
情報処理論(1)(2)(3) (情報処理論Ⅱ)	(新カリ 経営学科「情報処理論(1)(2)(3)」参照)
高齢社会学	
老年社会学	(新カリ 経営学科「老年社会学」参照)
高齢者エルゴノミクス	教授 山 本 栄 593
宗教学	教授 鈴 木 康 治 595
経済学	
経済原論	(新カリ 経営学科「経済原論」参照)
法 学	
民 法	(旧カリ 経済学科「民法」参照)
(民法Ⅰ・民法Ⅱ)	(旧カリ 経済学科「民法Ⅰ・民法Ⅱ」参照)
商 法 (商法Ⅰ)	(旧カリ 経済学科「商法」参照)
(商 法Ⅱ)	(旧カリ 経済学科「商法Ⅱ」参照)
(労働法)	(旧カリ 経済学科「労働法」参照)
(経済法)	(旧カリ 経済学科「経済法」参照)
国際法	(旧カリ 経済学科「国際法」参照)
政治学	
政治学総論	(旧カリ 経済学科「政治学総論」参照)
専門外国語	
外国書研究Ⅰ (外国経済書・経営書研究Ⅰ)	(旧カリ 経済学科「外国書研究Ⅰ」参照)
(外国経済書・経営書研究Ⅱ)	(旧カリ 経済学科「外国経済書・経営書研究Ⅱ」参照)
貿易英語	(新カリ 経済学科「貿易英語」参照)
特殊講義	
総合講座(1) (総合講座)	(新カリ 経済学科「総合講座(1)」参照)
特殊講義 (経営学特論A)	教授 栗 村 英 二 597

科目名	文学（日本文学）	担当者名	飯島一彦
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文芸と言ってよいが、庶民文芸であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現していて重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深く長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なものか、明らかにしていく。</p>		
講義概要	<p>前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の講読・解釈を毎時間することになる。</p>		
使用教材	テキスト	その都度教室で配付する。	
	参考文献	その都度教室で指示する。	
評価方法	年二回のレポート、学年末試験の成績による。		
受講者に対する要望など	長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「お伽草子」とは何か？
2	「浦島太郎」を読む①
3	「浦島太郎」を読む②
4	「浦島太郎」を読む③
5	奈良時代の「浦島太郎」日本書紀
6	奈良時代の「浦島太郎」②万葉集
7	平安時代の「浦島太郎」①
8	平安時代の「浦島太郎」②
9	昔話・伝説の中の「浦島太郎」
10	国定教科書の「浦島太郎」
11	まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間
12	予備日「絵本の中の浦島太郎」
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「一寸法師」を読む ①
2	「一寸法師」を読む ②
3	「一寸法師」を読む ③
4	奈良時代の「一寸法師」①
5	奈良時代の「一寸法師」②
6	平安時代の「一寸法師」①
7	平安時代の「一寸法師」②
8	芸能に見る「一寸法師」
9	国定教科書の「一寸法師」
10	昔話の「一寸法師」
11	まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。
12	予備日「絵本の中の一寸法師」
備考	

科目名	文学（日本文学）	担当者名	小島幸枝
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>国際社会で活躍しようとする日本人は、欧米諸国の精神的基盤を理解する必要がある。本講は、現代と同じ混迷の時代にあった16、7世紀の日本人を、知的、徳的に指導し、感化したキリスト教の精神風土を講義を通して紹介すると共に、キリスト教を媒介として「本当に生きる」ことを伝えた西欧人とそれを学びとった日本人がまさに相互理解しあえたこの時代を探る知ることによって、我々に自らの生を省み、ただ一つの命、一回限りの人生をもっと充実して生きられるのではないかと問うてみたい。</p>	
講義概要	<p>大航海時代に至るまでのヨーロッパの状況とこれを迎えた日本側の政治、社会状況および文化的実態を知ること。キリシタン版から小話を紹介する形で進めていく。テーマに即したビデオ映画を鑑賞することがある。</p>	
使用教材	テキスト	特になし。プリントを用意する
	参考文献	適宜紹介する
評価方法	レポート	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	キリシタン文学とは何か、大航海時代におけるヨーロッパの拡大について
2	イエズス会宣教師ザビエルの日本布教のヴィジョン
3	東洋巡察師ワリニヤノの教育構想
4	16、7世紀の日本の時代状況。キリシタン文化を受け入れる下地はあったか。小栗判官照手姫
5	キリスト教の精神—ドチリナキリシタンの世界
6	日本人の精神世界—天草本平家物語の死生観
7	同上
8	天草本エソポのハブラスをよむ
9	ヨーロッパ人宣教師の死生観をよむ—サントスの御作業
10	同上
11	同上
12	コンテンツスムンヂの世界—仏教思想とのかかわりについてその①
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	その②
2	その③
3	ぎやどべかどるの世界
4	スピリツアル修行の世界—黙想ということ
5	不干ハビアン「破提字子」をよむ—ある日本人知識人の挫折
6	芥川龍之介—きりしとほろ上人伝
7	元禄の幽霊文学—不干ハビアンは何をしたのか
8	19世紀の長崎県浦上地方の信徒発見。そして「旅」
9	明治のキリシタン迫害と、岩倉具実使節団の欧米における狼狽
10	遠藤周作「沈黙」
11	同上
12	まとめ
備考	

科目名	文学（日本文学）	担当者名	中村文
-----	----------	------	-----

講義の目標	<p>鎌倉時代初頭に成立した説話集『宇治拾遺物語』を読み、王朝の物語に於いては正面から取り上げられることのなかった様々の階層の人物を主人公に据える話や、笑いを誘う話柄、「こぶとり」等の昔話までを掬い取ろうとする、この作品の特質に触れるとともに、それが中世へと変遷してゆく時代相とどう関連しているか考えたい。また、登場人物の行動や心情の深い鑑賞を通して、人間の営みの滑稽さや哀しさがどのように描き出されているか把握し、そうした描写を可能にした、人間に対する好奇心や洞察について考えてみたい。</p>	
講義概要	<p>『宇治拾遺物語』からいくつかの話を選んで講読する。人々が惹き起こす悲喜こもごもの人間ドラマをよく味わいながら、それらの話を書き留め、伝承していく根底にあった好奇心や、人間を見つめるまなざしについて考える。また、『宇治拾遺物語』の大きな特徴である人間の営為に対するおらかな笑いや、武士・僧・稚児・猟師・盗賊など様々な階層の行動様式や心情の傾向を読み取り、そうしたものへと関心が移行する背景にあった時代的要請について考えてみたい。日本のハナシに共通する話型や、配列された話の間の連想関係に触れ、他の説話集に収められる同話・類話との比較を通して、『宇治拾遺物語』の語り方の完結性についても考えたい。</p>	
使用教材	テキスト	・三木紀人・小林保治・原田行造編『宇治拾遺物語』（おうふう）
	参考文献	随時、プリントを配布する。
評価方法	<p>前期・後期各一回レポートを提出してもらい、授業中の発言の内容や回数を加味して判定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>人間の心の動きやふるまい方などに関心を持ち、面白がって作品を読んでもらいたい。私語は厳禁。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	説話、及び『宇治拾遺物語』についての概説。授業の進め方等の説明。
2	道命阿闍梨於和泉式部之許読経五条道祖神聴聞事（以下はおおよその目安です。進度等により変更することがあります。）
3	鬼ニ瘡被取事
4	伴大納言事
5	竜門聖、鹿ニ被替事
6	秦兼久、向通俊卿許悪口事
7	児ノカイ餅スルニ空寝シタル事
8	尼、地藏奉見事
9	修行者、逢百鬼夜行事
10	鼻長僧事
11	袴垂、合保昌事
12	明衡、欲逢殃事
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	絵仏師良秀、家ノ焼ヲ見テ悦事
2	平貞文、本院侍従等事
3	進命婦、清水詣事
4	以長物忌事
5	三条中納言水飯事
6	獵師、仏ヲ射事
7	博打子簀入事
8	伴大納言焼応天門事
9	堀川院、明暹ニ笛吹サセ給事
10	空入水シタル僧事
11	一条棧敷家、鬼事
12	元輔落馬事
備考	

科目名	文学（世界文学）	担当者名	北澤 滋久
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。</p>	
講義概要	<p>—英米の文学に観る人間像— 英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1講義、1作家、1作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもり科目ではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいもののはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>	
使用教材	テキスト	<p>テキストは特に定めません。</p>
	参考文献	<p>参考文献は、2回目の授業時間に一覧表にして配布します。</p>
評価方法	<p>前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、殊に昨年は異常現象が生じ、熱心な学生から私語が多くて困るとの苦情が出ています。単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年10-20%の不合格者が出ています。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2	開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3	I 現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリーの冒険』：インノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4	『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5	『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩 THE CATCHER IN THE RYE by J.D. Salinger
6	II 19世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7	『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8	『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9	III 19世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS By Emily Brontë
10	『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICK by Herman Melville
11	IV 英雄不在の20世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12	『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	V 海洋（冒険）小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
2	『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
3	VI 近代芸術観の極致 『月の六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
4	『アッシャー館の崩壊』他：至上の美を求めて THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe
5	『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
6	VII 父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by Wiliam Shakespeare
7	『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
8	『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
9	VIII 倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
10	『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER by Graham Greene
11	『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
12	閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答
備考	

科目名	文学（世界文学）	担当者名	松山恒見
-----	----------	------	------

講義の目標	読書の愉しみと、それによってもたらされる教養の基盤がいかに大きいかを知らせること。 なお、この講義は他の外国文学の講座に、英米、独があるためフランスを中心とするが、特にそれにこだわるわけではない。		
講義概要			
使用教材	テキスト	テキスト：なし。	
	参考文献	参考文献：多岐にわたるのでその都度指示する。	
評価方法	前・後期とも、課題図書を定め、その読後観を書いてもらうことで、評価の50%とする。 残る50%は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度と、記憶とを見る出題による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	読書について——文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
2	ヨーロッパ文学の源泉(1)古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
3	ヨーロッパ文学の源泉(2)聖書、キリスト教。
4	中世文学——ロランの歌、トリスタンとイゾー、狐物語、ヴィヨン。
5	十六世紀 (ルネッサンス) ——モンテーニュとラブレー。
6	十七世紀——古典主義、コルネリュ、ラシーヌ、モリエール。
7	十七世紀(2)ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人 (クレヴの奥方)。
8	十八世紀——啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。(課題図書発表)
9	十八世紀(2)——ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
10	フランス革命をめぐる。アナトール・フランスの「神々は渴く」。
11	十九世紀——ロマンチズム。シャトーブリアン、スタール夫人。(附) コンスタンの「アドルフ」。
12	十九～二十世紀文学の展望。(進度調節)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ロマンチズムの四大詩人。ユーゴー。
2	スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐる。
3	ジョルジュ・サンド、バルザック。
4	スタンダール、メリメ。
5	フロベール、モーパッサン。
6	ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。(象徴主義)
7	十九世紀のその他の作品。
8	ゾラ、自然主義。(課題図書発表)
9	アンドレ・ジイド、ヴァレリー、ブルースト。
10	コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
11	サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
12	現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニエまで。
備考	

科目名	文学（世界文学）	担当者名	山路朝彦
-----	----------	------	------

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。	
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに（映画化や演劇化されたものも使います）、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。	
使用教材	テキスト	カフカの作品について教室で指示します。
	参考文献	
評価方法	前・後期のレポート	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学の理論へ ①感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質
2	カフカの作品紹介
3	カフカの作品紹介
4	カフカの作品紹介
5	カフカの作品紹介
6	文学の理論へ ②伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌
7	文学の理論へ ③「小説」の誕生とその歴史
8	同上
9	文学の理論へ ④文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究
10	同上
11	文学の理論へ ⑤芸術の自律性、アヴァンギャルド
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学研究の立場と方法 ①精神史的方法
2	②作品内在解釈（インタープリテーション）の方法
3	カフカの解説
4	③マルクス主義の立場から
5	カフカの解説
6	④構造主義的方法
7	カフカの解説
8	⑤文学社会学的方法
9	カフカの解説
10	⑥「エッセイ」という方法
11	カフカの解説
12	⑦新たな立場と方法
備考	

科目名	国語	担当者名	飯島一彦
-----	----	------	------

講義の目標	<p>言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行なう。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。</p>	
講義概要	<p>基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法	<p>毎回のトレーニングに対すとりくみの深さ、その成果。夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行なわれる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	授業ガイダンス。
2	講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3	
4	
5	
6	
7	諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
8	
9	
10	
11	
12	夏休み課題ガイダンス。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	夏休み課題提出。後期ガイダンス。
2	
3	
4	
5	
6	諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
7	
8	
9	
10	
11	
12	冬休み課題提出。年間のまとめ。
備考	

科目名	国語	担当者名	北村 進
-----	----	------	------

講義の目標	<p>和歌・短歌の表現を通して日本語の美しさを学ぶとともに、実作によって表現の仕方を身につける。多くのすぐれた作品に触れ、それらを感じることは教養の一つであり、美しい日本語を身につける手段である。</p> <p>短歌は自分の心（感動）を表現する一手段であるが、散文と違って音数に制約がある。その分感情が凝縮されて言葉で表現した以上のものが生まれてくる。そこにまた魅力があると言える。定型にまとめるのは確かに難しい。その難しい作業を通して日頃おろそかにしている言葉による表現を見つめ直す。</p>		
講義概要	<p>言葉が氾濫していると言われる状況にあって、一語一語を大切にし、美しい日本語による表現力を身につけたい。そのためには多くのすぐれた文学作品に接することが必要だと考えるが、本講座では特に和歌・短歌という定型にこだわって、その表現の変遷をたどりながら言葉の大切さ、日本語の美しさを学ぶつもりである。講義は古代から現代に至る作品を読み味わうことが中心となるが、これにとどまらない。やはり実作を通して学ぶことが大切である。そこで毎月一首以上の短歌制作を義務づける。言葉の選択の仕方、表現の難しさを身をもって体験してもらう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・『新修 日本抒情詩歌』 おうふう</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期はレポート、後期は未定。 出席を重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>休まず出席すること。毎月きちんと課題を提出すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明し、古代から現代までの和歌史を略説する。
2	「万葉集」の歌を五回にわたって取り上げる。第一回目は「万葉集」について解説し、初期万葉の歌人たちの歌を取り上げる。額田王が中心となる。
3	第二回目は宮廷歌人の歌、皇族の歌を取り上げる。柿本人麻呂・大津皇子・大伯皇女など。
4	第三回目は中国文学の影響を色濃く漂わせている大伴旅人・山上憶良を中心に、いわゆる貴族文人の歌を取り上げる。
5	第四回目は近代的憂愁を併せ持った大伴家持と、彼をとりまく女性たちの歌を取り上げる。
6	第五回目は東歌・防人歌・作者未詳歌・伝説歌などを取り上げ、万葉の歌の素朴な表現を味わう。
7	「古今集」の歌を取り上げ、万葉集の歌の表現との違いについて考察する。掛詞・擬人法などの技巧性について述べる。
8	小野小町・和泉式部・伊勢など平安女流歌人の歌を取り上げる。
9	「新古今集」の歌を取り上げ、新古今の表現について考察する。
10	西行・実朝の歌を取り上げ、それぞれの歌人の表現の特質について考察する。
11	百人一首の歌の中から何首かを取り上げ、味わう。
12	「玉葉集」「風雅集」の中から京極為兼・永福門院の歌を取り上げ、その歌風について考察する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	中世の歌謡を「梁塵秘抄」及び「閑吟集」の中から取り上げ、当時の社会についても考察する。
2	近世（江戸時代）の和歌を取り上げる。賀茂真淵の万葉調の歌、香川景樹の古今調の歌、それぞれの歌の特色について考察する。
3	近世末紀に登場し、独自の歌風を樹立した人の歌を取り上げる。良寛・大隈言道・橘曙覧など。
4	正岡子規の和歌改良論及びその歌を取り上げ、和歌が近代的な短歌に脱皮してゆく過程について考察する。
5	明星派の歌人たちの歌を取り上げる。与謝野鉄寛・与謝野晶子・山川登美子など。
6	アララギ派の歌人たちの歌を取り上げる。伊藤左千夫・長塚節・島木赤彦・斎藤茂吉など。
7	この時期に活躍したその他の歌人たち—石川啄木・若山牧水・釈道空・佐佐木信綱などの歌を取り上げる。
8	明治・大正・昭和にわたる「恋」の歌の中から名歌を取り上げる。
9	古代から近代における辞世の歌を取り上げる。
10	詩を取り上げる。島崎藤村・室生犀星・佐藤春夫・立原道造など。
11	現代短歌を取り上げる。寺山修司・佐々木幸綱といった男性歌人の歌。
12	同じく現代短歌を取り上げる。俵万智の「サラダ記念日」など女流歌人の歌。
備考	

科目名	国語	担当者名	小島幸枝
-----	----	------	------

講義の目標	現代の動勢の中で自らの意見を、正確で品位のある日本語で表現する力の養成。実用文が難なく書けるようになることを目標とするが、各自、十分な漢字力をつけ語彙量を増強する訓練を怠らないことを前提としたい。	
講義概要		
使用教材	テキスト	・松村明編『国語表現法』桜楓社
	参考文献	
評価方法	平常の提出物で評価する。試験はしない。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2	音声言語について。文字言語との差異および特徴の認識
3	音声言語の種々相
4	日本語の基礎知識——日本語の音韻、アクセントの特徴
5	美しいことばの条件。正確さと品格をどのように獲得するか
6	スピーチ（演習） 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7	反省とまとめ（次週ディベートの予告）
8	ディベート
9	反省とまとめ
10	敬語について。日本の敬語の歴史と特徴（上代～中世）
11	同上（中世末～現代）
12	漢字テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文字言語——文章を書く手順、材料の収集法
2	文章を書く——自由文又は意見文
3	交換、添削しあう
4	手紙を書く——型のある文章、敬語
5	材料の収集と選択、配列——説明文、報告文を書く
6	文献、資料を用いて文章を補強する
7	漢字テスト
8	アウトラインの作り方——効率よく文章を書くために
9	評論を書く
10	段落とトピックセンテンスのきめ方——書評を書く
11	交換、批評しあう
12	推敲のポイントを学ぶ。まとめ
備考	前期は、読解と実作を習慣づけるために宿題形式で①社説要約（週1作）②読書報告（月1本）③作文（週1作）を課すが後期は短時間で実作する習慣をつけるために作文は授業中に完成する。従って③の課題はない。

科目名	歴史学（日本史）	担当者名	新井孝重
-----	----------	------	------

講義の目標	13世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団＝悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。	
講義概要	鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらをみる。	
使用教材	テキスト	・新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館
	参考文献	・網野善彦『蒙古襲来』（小学館、日本の歴史） ・佐藤進一『南北朝の動乱』（中央公論、日本の歴史）（中公文庫にあり）
評価方法	評価は、後期の試験成績をもってする。	
受講者に対する要望など	紳士的な態度でリラックスして聴いていただければよい。	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	寺社に現われる悪党。これまで荘園を支配し、悪党に対峙する存在として考えられてきた寺院や神社内部から、実は悪党が発生している事実を注目する。
2	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(1)寺院内部の構造としくみを観る。とくに僧房という私的空間に僧の武装慣行のはじまった事実を注目。
3	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(2)寺院の全体意志の形成原理、実現の様式を注目し、それとの対抗的存在と行動を「悪僧」にみる。
4	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(3)寺院「悪僧」と農村武士悪党とのつながりを観察する。
5	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。
6	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。
7	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を剔出する。
8	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに〈荘園〉を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。
9	幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と將軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生する経路と役割の面からみる。
10	幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。
11	幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。
12	悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもちたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。
2	南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。
3	南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。
4	建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。
5	建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。
6	建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争(観応の擾乱)の政治過程を通観する。
7	内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足軽の発生。
8	内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。
9	内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する
10	バサラと芸能(1)内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。
11	バサラと芸能(2)中世を貫徹する「狂」の表現(バサラをも通底する)を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
12	中世の終焉。中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巢窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。
備考	

科目名	歴史学（日本史）	担当者名	齊藤 博
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三視点から日本人像に照射を加えたい。</p>		
講義概要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やCM的流行ムード、あるいは国民的多数のマインドによって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>レポートは、「我が家の歴史」である。夏期休業中に祖父母、家業、家系についての聴き取り調査、文献文書の報告書（400字詰縦書き5枚以上）を提出（後期第1回目授業まで）する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤 博『歴史の精神』学文社 ・齊藤 博『民衆史の構造』新評論 	
	参考文献	<p>講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい。</p>	
評価方法	<p>前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>出席が良好でないと理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本および日本人について。日本史の特徴Ⅰ、日本人が日本史を学ぶ困難性
2	日本史の特徴Ⅱ、風土と歴史、日本史研究者像Ⅰ、新井白石、本居宣長、伴信友
3	日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田國男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎
4	日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎
5	日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治
6	地域民衆史の視座と方法
7	「日本的なもの」を考える
8	「天への想い」Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋の歴史像の構築
9	「天への想い」Ⅱ
10	アジア的共同体論についてⅠ
11	アジア的共同体論についてⅡ
12	「我が家の歴史」をどう記録するか
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近世史と近代史の問題点Ⅰ
2	近世史と近代史の問題点Ⅱ
3	明治維新論Ⅰ
4	明治維新論Ⅱ
5	高杉晋作の漢詩集を読む、教育精神の系譜から（獨協精神）、吉田松陰論、品川弥二郎論
6	同上Ⅱ、幕末維新論Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）
7	同上Ⅲ、幕末維新論Ⅱ
8	同上Ⅳ、幕末維新論Ⅲ
9	同上Ⅴ、幕末維新論Ⅳ
10	同上Ⅵ、幕末維新論Ⅴ
11	同上Ⅶ、近代化論をどう考えるか。
12	まとめ（総括）—日本および日本人論をめぐって
備考	

科目名	歴史学(東洋史)	担当者名	西嶋定生
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>日本の歴史を東アジア世界の中に位置づけて理解することを目的とする。これは日本歴史を世界史の中に位置づけるということである。その位置づけ方として、世界史の新しい構想が必要となる。東アジア世界とは近代的世界、すなわち19世紀において完成する全地球的世界が形成される以前の複数の世界のうちのひとつであり、その中で日本の歴史は育成された。このような観点から東アジア世界の形成とその構造を解説し、その中に日本の歴史の展開を位置づけてみたい。</p>	
講義概要	<p>まず東アジア世界とはいかなる歴史的世界であるかを説明する。そして東アジア世界が漢字文化圏であり、中国文化圏であることを説き、この文化圏が成立するためには、冊封体制という中国王朝を中心とする国際的政治関係が形成されることが必要であることを説明する。これによって価値体系を共有する領域が形成され、その領域が東アジア世界にほかならぬことを説明する。そしてこの東アジア世界が10世紀にひとたび崩壊すると、各地域にそれぞれ独自の民族文化が形成される。そしてそれ以後、東アジア世界は独自の交易圏として復活し、19世紀にいたって近代的汎地球的世界の中に吸収されることを説明する。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・西嶋定生『中国史を学ぶということ』(吉川弘文館) ・西嶋定生『日本歴史の国際環境』(東京大学出版会)
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・西嶋定生『中国古代国家と東アジア世界』(東京大学出版会) ・西嶋定生『倭国と邪馬台国』(吉川弘文館)
評価方法	<p>学年末に常時出席者を対象として筆記試験を行う。出席していなかったものは原則として受験資格が認められない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義中の私語は厳禁する。違反者は退室してもらう。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	世界史とは何か。世界史の構造。世界とは何か。
2	東アジア世界とは何か。東アジア世界と日本。
3	漢字文化圏の成立。漢字はいかにして中国の周辺地域に伝えられたか。
4	冊封体制とは何か。中国王朝と周辺地域との関係がなぜ冊封体制をつくるか。
5	冊封体制と文書外交。文書作成と印章制度。
6	冊封体制と中国文化圏の形成。
7	邪馬台国をめぐる東アジア状勢。
8	南北朝の分裂と日本。倭の五王の問題。
9	日本における治天下大王の出現と東アジア。
10	遣隋使外交の意味するもの。
11	遣唐使外交の意味するもの。
12	遣唐使停止の背景。古代東アジア世界の崩壊。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	東アジア交易圏の成立。宋代における社会経済の発展。日宋貿易の発展。
2	モンゴル帝国の出現と東アジア。蒙古襲来の事情とその背景。
3	明王朝の成立と東アジア世界の再現。勘合貿易の意味。倭寇の活躍とその対策。
4	秀吉の朝鮮侵略とその失敗。
5	江戸時代における鎖国政策と東アジア世界。
6	江戸時代の日本文化と中国文化。
7	東アジア世界と大清帝国。
8	大清帝国の文化。
9	ヨーロッパ世界のアジア進出。
10	東アジア世界と近代世界との相克。
11	近代世界と日本。日本と東アジア世界。
12	汎地球的全世界の中における東アジア世界その他の旧世界の残滓。
備考	

科目名	歴史学（西洋史）	担当者名	御園生 眞
-----	----------	------	-------

講義の目標	近代のヨーロッパおよびアメリカの歩みをルネサンスから帝国主義時代までたどり、その歴史的意義を社会経済史的側面に焦点をおいて考察する。		
講義概要	<p>前期：近代ヨーロッパおよびアメリカの歴史を、ルネサンス、絶対王政、市民革命、イギリス産業革命などを中心に講義する。</p> <p>後期：19世紀中葉以降の展開を、ナショナリズムの問題、国民国家の形成、後発国の工業的発展、帝国主義と植民地などを中心に講義する。</p>		
使用教材	テキスト	・大下尚一、西川正雄、服部春彦、望田幸男編『西洋の歴史〔近現代編〕』ミネルヴァ書房、1987年	
	参考文献	最初の講義の時に指示する。	
評価方法	定期試験（前期後期の2回）の成績を基に評価する。		
受講者に対する要望など	事情により講義内容の予定が変更される場合がある。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション。参考文献の紹介。
2	1. 近代ヨーロッパの胎動。(1)ルネサンス。
3	1. 近代ヨーロッパの胎動。(2)大航海時代。
4	1. 近代ヨーロッパの胎動。(3)宗教改革。
5	2. 絶対主義の時代。(1)ポルトガル・スペイン・オランダの盛衰。
6	2. 絶対主義の時代。(2)イギリス・フランスの発展。
7	2. 絶対主義の時代。(3)イギリスの革命。
8	2. 絶対主義の時代。(4)プロセイン・オーストリア・ロシアの興隆。
9	3. ブルジョア革命とその余波。(1)アメリカの革命
10	3. ブルジョア革命とその余波。(2)フランスの革命。
11	3. ブルジョア革命とその余波。(3)ナポレオン時代とウィーン体制。
12	4. 産業革命とナショナリズム。(1)イギリス産業革命とその波動。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	4. 産業革命とナショナリズム。(2)1848年の革命。
2	4. 産業革命とナショナリズム。(3)イタリアの統一。
3	4. 産業革命とナショナリズム。(4)ドイツの統一。
4	4. 産業革命とナショナリズム。(5)南北戦争。
5	4. 産業革命とナショナリズム。(6)オスマン帝国の近代化と民族問題。
6	5. 帝国主義時代。(1)ドイツ・オーストリアの帝制。
7	5. 帝国主義時代。(2)フランスの共和制。
8	5. 帝国主義時代。(3)イギリスの議会政治。
9	5. 帝国主義時代。(4)ロシア・東ヨーロッパの反動と革命。
10	5. 帝国主義時代。(5)ラテンアメリカの独立と民族運動。
11	5. 帝国主義時代。(6)帝国主義と植民地争奪。
12	5. 帝国主義時代。(7)第一次世界大戦。
備考	

科目名	日本文化論（風土）	担当者名	小林幸夫
-----	-----------	------	------

講義の目標	日本の伝統的な文化様式・価値観等がいかなるものであったか、また、近代化の過程でいかなる変容をとげていくかという問題について理解を深めてゆく。	
講義概要	<p>柳田国男という保守～リベラルの立場から明治～昭和を生きた人物の目を通して、日本の伝統的な文化様式・価値観が、近代化の過程でどのように変貌したかを考察する。それと同時に、現在の我々の文化的立脚点を再確認し、日本的＝特殊、国際化＝普遍といった図式ではない「開かれた日本文化」の模索を学生各自で行ってもらおう。</p> <p>具体的テーマとして、前期は柳田国男について、彼の思想的特質、その背景となっている彼の経歴・彼の業績を明らかにして、スタンスの確認をするとともに、衣食住の生活文化について考察する。</p> <p>後期は、「家」「共同体」の問題について考察するとともに、日本文化の今後におけるあるべき姿について学生各自に考えてもらおう。</p>	
使用教材	テキスト	・柳田国男『明治大正史世相篇』（筑摩文庫版『柳田国男全集』第26巻所収）
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・筑摩書房『定本柳田国男集』 ・中村哲『柳田国男の思想』（上・下巻）講談社学術文庫
評価方法	出席およびレポートにより評価。特に出席については、教室後部の席にすわり不熱心な学生に対してはカライ評価を行うことがあるので、注意をうながしたい。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ			
1	・柳田国男という人物について 離	・柳田国男の生きた時代	・柳田国男の方法（手法）	・我々と柳田国男の距
2	・柳田国男という人物について 離	・柳田国男の生きた時代	・柳田国男の方法（手法）	・我々と柳田国男の距
3	・柳田国男という人物について 離	・柳田国男の生きた時代	・柳田国男の方法（手法）	・我々と柳田国男の距
4	・柳田国男という人物について 離	・柳田国男の生きた時代	・柳田国男の方法（手法）	・我々と柳田国男の距
5	テキスト Ch. 1～3 及び Ch. 7	日本における衣食住の生活文化の変遷		
6	テキスト Ch. 1～3 及び Ch. 7	日本における衣食住の生活文化の変遷		
7	テキスト Ch. 1～3 及び Ch. 7	日本における衣食住の生活文化の変遷		
8	テキスト Ch. 1～3 及び Ch. 7	日本における衣食住の生活文化の変遷		
9	テキスト Ch. 1～3 及び Ch. 7	日本における衣食住の生活文化の変遷		
10	テキスト Ch. 1～3 及び Ch. 7	日本における衣食住の生活文化の変遷		
11	テキスト Ch. 1～3 及び Ch. 7	日本における衣食住の生活文化の変遷		
12	テキスト Ch. 1～3 及び Ch. 7	日本における衣食住の生活文化の変遷		
備考				

後期

週	主 要 テ ー マ			
1	テキスト Ch. 8～10	日本の伝統的「家」制度の特色と、近代化過程におけるその変貌		
2	テキスト Ch. 8～10	日本の伝統的「家」制度の特色と、近代化過程におけるその変貌		
3	テキスト Ch. 8～10	日本の伝統的「家」制度の特色と、近代化過程におけるその変貌		
4	テキスト Ch. 8～10	日本の伝統的「家」制度の特色と、近代化過程におけるその変貌		
5	テキスト Ch. 11～13	日本の「村」共同体の特色と、近代化過程におけるその変貌		
6	テキスト Ch. 11～13	日本の「村」共同体の特色と、近代化過程におけるその変貌		
7	テキスト Ch. 11～13	日本の「村」共同体の特色と、近代化過程におけるその変貌		
8	テキスト Ch. 11～13	日本の「村」共同体の特色と、近代化過程におけるその変貌		
9	テキスト Ch. 14～15	柳田という保守～リベラルを生きた人物による日本近代化の理想像の検証		
10	テキスト Ch. 14～15	柳田という保守～リベラルを生きた人物による日本近代化の理想像の検証		
11	テキスト Ch. 14～15	柳田という保守～リベラルを生きた人物による日本近代化の理想像の検証		
12	テキスト Ch. 14～15	柳田という保守～リベラルを生きた人物による日本近代化の理想像の検証		
備考				

科目名	思想（哲学）	担当者名	鈴木康治
-----	--------	------	------

講義の目標	専門学習のために展開される一般学習履修の土台をなすもの。	
講義概要	講義において哲学とは、宗教とはの諸問題を具体化してゆく。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	授業時に提示する。
評価方法	年一回の、ノート持ちこみのテストによる。	
受講者に対する要望など	できる限り静かに毎回聞き、考えることを求める。	

科目名	法 学	担当者名	門 廣 乃 里 子
-----	-----	------	-----------

講義の目標	<p>本講義は、私達が社会生活を送るうえでの法の役割を理解し、「法」的な思考を習得することを目的とする。</p>	
講義概要	<p>「法とは何か」という大きなテーマの下に、まず、法とは国家権力による物理的強制力を伴う行為規範である点で、道徳や慣習といった他の行為規範と異なることを明らかにし、次に法の分類を通して、法の中にも効力の優劣があり、憲法は最も優越した法、つまり最高法規であることを確認し、その具体的内容を検討する。また成文法と不文法の分類に関連して、成文法の国である我国においても事実上の判例法が存在することを具体例を通して考察する。次に、封建法から近代法、近代法から現代法への変化・発展の流れを追うことによって、現代法の特徴を明らかにする。最後に、法律関係とは権利・義務関係であることを確認する。</p>	
使用教材	テキスト	・伊藤正己著『近代法の常識（第三版）』有信堂
	参考文献	
評価方法	<p>前期と後期に筆記試験を行う。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	法とは行為規範である——行為規範とは何か——。
2	法とは行為規範である——法と道德の関係——。
3	法の二重構造と強制力
4	法の強制力——死刑制度を考える——。
5	法の形式的効力と憲法の最高法規性
6	憲法の最高法規性と憲法改正問題
7	憲法の最高法規性と違憲審査制度——刑法200条の尊属殺規定の違憲判決他——。
8	違憲立法審査権と三権分立の関係——モンテスキュー型三権分立とルソー型三権分立——。
9	成文法と不文法——その他の法の分類も含めて——。
10	成文法の解釈——解釈の必要性和方法——。
11	刑法における罪刑法定主義と類推解釈の禁止
12	解釈論の対立
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	不文法——慣習法と判例法——
2	我国における（事実上の）判例法
3	現代法の特徴——近代法の特徴の承継、自由・平等を基本理念として——。
4	”
5	現代法の特徴——近代法の修正、社会法の出現——。
6	”
7	現代法の特徴——女性の地位の向上、家族法の改正——。
8	” ——女性の地位の向上、雇用機会均等法——。
9	法律関係とは権利義務関係である——憲法上の基本権と公共の福祉——。
10	私法における権利と義務——権利の種類、単なる友誼関係との区別——
11	権利・義務の主体と客体
12	まとめ
備考	

科目名	地理学	担当者名	犬井 正
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならない。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。</p>		
講義概要	<p>熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、この開発の結果どのようなことが生起しているのか。なにが適切な解決策かなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTRなども援用しながら講義をすすめる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会</p>	
	参考文献	<p>・T.C.ホイットモア著『熱帯雨林総論』1993、築地書館 ・ジョン・C.クリッチャー著『熱帯雨林の生態学』1992、どうぶつ社 ・四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』1992、NHK ブックス</p>	
評価方法	<p>前期、後期各1回ずつの定期試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>「経済地理（犬井教授担当）」、「地域経済論〈ラテンアメリカ〉（山本正三教授担当）」、およびその「演習」を履修する予定者は、本講義を履修しておくことが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容についてのオリエンテーションをおこなう。
2	1次生産者としての森林の重要性について。
3	世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。
4	熱帯雨林成立の過程と特質。
5	熱帯雨林の森林としての構造。
6	熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。
7	熱帯雨林の生態学的多様性。
8	VTR『熱帯雨林の生態』視聴。
9	熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。
10	様々な開発形態と開発速度。
11	薪炭材の生産と焼畑農耕—伝統的焼畑農耕は破壊か？
12	人口爆発と集落再編計画。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商業的木材生産による森林破壊。
2	プランテーション経営と牧畜業。
3	ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。
4	熱帯雨林破壊による生物学的多様性の損失。
5	熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。
6	熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。
7	熱帯雨林破壊の経済と生態系の損失。
8	熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境—アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。
9	VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。
10	日本の熱帯材輸入と森林破壊。
11	熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策は？
12	まとめ—再考「人間と自然のかかわり」。
備考	

科目名	民族学	担当者名	徳丸 亞木
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、今日なお継承されている、日本の豊かな民族文化に関する知識を参加者各人が得る事により、各々が今日まで無意識に接して来た日本の生活文化に潜在する豊かな意味を自覚し、自文化に対する内省的理解を深める事を目的とします。</p>		
講義概要	<p>近年、日本文化を森の文化として論ずる著作が数多く刊行されています。本講義では、日本における森の信仰を取りあげ、日本民俗学の立場から心意伝承研究の視角と方法論を具体的に紹介すると共に、それをささえる日本の伝統的な社会構造、経済活動、生活文化について逐次、解説を加え、講義全体としては民俗学の概論的性格を持たせます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>教科書の指定はしませんが、授業の進展に応じて、参考文献、参考資料をそのつど指示します。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・柳田国男『民間伝承論』1980年 伝統と現代社 ・柳田国男「先祖の話」『定本 柳田国男集』第10巻 1979年 筑摩書房 ・宮田登『日本の民俗学』1987年 講談社学術文庫 ・中井信彦『歴史学的方法の基準』1975年 塙書房 	
評価方法	<p>前後期の試験によります。</p>		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	柄杓のことから一柄杓と言う一つの「もの」を例として、民俗学における「形意伝承」「言語伝承」「心意伝承」の概念を解説します。
2	日本民俗学の成立と柳田国男「日本民俗学の父」と呼ばれる柳田国男の活動を通して、日本民俗学の学史を解説します。
3	日本民俗学の方法論—柳田国男が行った山村調査の意義と、柳田民俗学の方法論である比較研究法、重出立証法に関して検討を加えます。
4	神とカミ—日本文化における神霊表出の類型を解説し、日本人の神観念の特質について論じます。
5	聖地としての森—森を聖地とする観念について、堀一郎、原田敏明、M. エリアーデなどの論を引きながら検討を加えます。
6	境界とハレ・ケ・ケガレ—日本の民俗文化を論ずる際に重要である「境界」、およびハレ・ケ・ケガレの観念について解説し、民俗社会における時間・空間認識の特徴を論じます。
7	生業と信仰Ⅰ（稲作をめぐる民俗）—稲の成育過程に見られる一年間の様々な儀礼を紹介し、田の神と稲霊（いなだま）の観念について解説します。
8	生業と信仰Ⅱ（畑作をめぐる民俗）—焼畑耕作における儀礼や、芋や雑穀をめぐる様々な儀礼を紹介し、稲作文化に潜在する畑作文化に関して検討を加えます。
9	生業と信仰Ⅲ（漁撈をめぐる民俗）—船霊（ふなだま）信仰や恵比寿信仰など漁民の信仰習俗を紹介すると共に、漁民の経済活動の特徴を農耕民との比較の中で検討します。
10	生業と信仰Ⅳ（山をめぐる民俗）—林業従事者や狩猟民の保持する信仰習俗の中から、特に山の神信仰を取り上げ論じます。
11	誕生と死の民俗Ⅰ（産育の民俗）—映像資料を通して産育に纏わる民俗を紹介し、そこに見られる日本人の時間認識を具体的に検討します。
12	誕生と死の民俗Ⅱ（葬送の民俗）—映像資料を通して葬送に纏わる民俗を紹介し、引き続き日本人の時間認識に関して検討します。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	墓制と他界観Ⅰ（日本本土の墓制）—日本の墓制に関して概説し、特に遺体を埋める場所と祀る場所を異にする両墓制をめぐる習俗を取り上げ、日本人の靈魂観、他界観について検討を加えます。
2	墓制と他界観Ⅱ（沖縄の洗骨改葬習俗）—死者の骨の浄化を待って改葬する沖縄の洗骨改葬習俗を取り上げ、沖縄における靈魂観、他界観について検討を加えます。
3	先祖の話Ⅰ—柳田国男が終戦直後に発表した「先祖の話」を取り上げながら、以降、日本人の祖霊観の特徴を論じて行きます。
4	先祖の話Ⅱ—日本人にとって「家」とは何か。先祖の祭祀単位である「家」の概念について有賀喜左衛門ほかの著作を取り上げて検討を進めます。
5	先祖の話Ⅲ—「家」の拡大理念である「同族」の概念について、擬制的親子の習俗の紹介を交えながら検討を進めます。
6	先祖の話Ⅳ—一家父長制における「家」概念と家族国家観との関わりについて、戸籍法の推移などを論じつつ検討を加えます。
7	先祖の話Ⅴ—集落神社に対して加えられた近代の宗教統制を例にとりながら国家神道の成立過程と「民俗神道」との相克を論じます。
8	屋敷神信仰と森の信仰—家々の屋敷地に祀られる屋敷神をめぐる信仰を柳田国男の祖霊信仰論との関わりから検討します。
9	文化複合論と森の信仰Ⅰ—日本文化における来訪神（まれびと）信仰を紹介し、岡正雄の文化複合論を柳田国男の稲作文化論との対比の中で検討します。
10	文化複合論と森の信仰Ⅱ—国分直一の論考を紹介する中で、文化複合論から見た日本の森の信仰の意味を検討します。
11	御霊と憑霊—祖霊信仰と対置される御霊信仰や、憑霊信仰に関する論考を紹介し、その民俗的な意味を論じます。
12	神に近づく人々—今日なお、日本人の信仰習俗に深く関わり続ける宗教的職能者を取り上げ、彼らと民俗社会との相互作用のありかたを検討します。
備考	

科目名	数 学	担当者名	遠 藤 信
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。</p> <p>この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微積分である。</p>	
講義概要	<p>前半では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部が実社会に出て、応用することが多い分野である。</p> <p>後半では、微積分を講義する。これらは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。</p> <p>定理の証明や公式を導くに当たっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第1とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じて、プリント使用。
	参考文献	参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。
評価方法	<p>前期、後期それぞれ各1回の試験をおこなう。この成績に、出席状況を中心とした平常点を考慮して、成績評価をおこなう。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	行列の定義 行列の演算
2	行列の定義 行列の演算
3	行列の変形 行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること 逆行列
4	行列の変形 行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること 逆行列
5	行列式の定義
6	行列式の性質
7	行列式の性質
8	余因子とその性質
9	余因子とその性質
10	余因子を用いて逆行列を求める方法
11	連立1次方程式 1. Cramer の公式 2. 掃き出し法
12	連立1次方程式 1. Cramer の公式 2. 掃き出し法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	関数と関数の極限 関数の連続
2	関数と関数の極限 関数の連続
3	微分係数と導関数の定義
4	微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
5	微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
6	平均値の定理 関数の極大・極小
7	平均値の定理 関数の極大・極小
8	偏微分の定義 偏微分の応用
9	偏微分の定義 偏微分の応用
10	不定積分と定積分
11	不定積分と定積分
12	微積分の社会科学への応用
備考	

科目名	自然科学概論	担当者名	遠藤 信
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>現代の自然科学、特に現代物理学の諸概念が、人間の精神活動にどのような影響をおよぼしたか、また、それがいかに芸術表現に反映されているか、そして現代の自然科学は物質や宇宙についてどこまで解明しているかということ、生々しく、定性的に、また感性的にでも分かってもらうことが講義の目標である。</p>	
講義概要	<p>前半では、究極の物質は何かについて講義する。デモクリストス以来、自然科学が追求してきたこの問題を、歴史をたどりながら、現在ではどのように考えられているかを説明し、また、ミクロの世界の理論である量子論について講義する。</p> <p>後半では、相対論を中心に講義する。この理論がどのようにして生まれたか、また、相対論がもたらした結果について考察し、さらに宇宙の成り立ちや進化について現代の科学はどこまで解明しているかについて述べる。</p> <p>授業で特に留意する点は、できるだけ数式を使わないこと。また、講義の進行に合わせてビデオを観る。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じてビデオを利用する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・広瀬立成著『現代物理への招待』培風館 ・アインシュタイン-インフェルト著 石原純訳『物理学はいかに創られたか』(上、下巻) 岩波新書 <p>その他、適当と思われるものを、授業中に示す。</p>
評価方法	<p>①年に1～2回、授業中にまとめのレポートを提出する。この際、自筆のノートのみ使用可とする。</p> <p>②後期に試験をおこなう。</p> <p>①と②の成績に出席状況を考慮して、成績評価をおこなう。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	根元物質をめぐる先人達の考え
2	原子とその構造
3	量子の世界
4	量子の世界
5	素粒子
6	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
7	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
8	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
9	自然界の力 力の統一
10	自然界の力 力の統一
11	自然界の力 力の統一
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	光とエーテル
2	光速度の測定
3	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
4	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
5	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
6	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
7	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
8	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
9	特殊相対性理論
10	宇宙のはじまり 相転移
11	宇宙のはじまり 相転移
12	まとめ
備考	

科目名	保健論	担当者名	伊藤弘人
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>本講義では、わが国の産業現場におこる精神衛生（メンタルヘルス）の歴史と現状、および今後の可能性について考えていきたい。なお、産業衛生や精神医学についてや、アメリカでのシステムについても説明し、検討する。講義は少人数で、論文輪読、討論や論文作成の試みを通してすすめる。意欲ある学生の積極的な参加を期待する。</p>	
講義概要		
使用教材	テキスト	<p>使用教材は、以下の文献をはじめ産業衛生に関連する文献で、第3回目に配布するので、必ず出席すること。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・加藤正明：産業精神保健活動の歴史。産業精神保健 1 (1) 3-10、1993。 ・黒木宣夫：精神における労災認定—業務上外認定と等級認定における諸問題—。こころの臨床ア・ラ・カ・ル・ト増刊号 71-76、1993。 ・川上憲人、伊藤弘人：EAPと米国の産業精神保健。こころの臨床ア・ラ・カルト増刊号 110-114、1993 ・伊藤弘人：「相談」活動の意義と問題点—職場の精神衛生相談の窓口から。医学のあゆみ 165(8)484、1993。など
評価方法	<p>評価は2回のテストと、講義への貢献度によって評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の概要説明
2	産業精神衛生概論
3	産業精神衛生専門家の役割
4	メンタルヘルス活動の技術：直面化
5	メンタルヘルス活動の技術：その他
6	人事労務管理とメンタルヘルス
7	メンタルヘルス教育
8	メンタルヘルス活動のモデル(1)：事業所内モデル
9	メンタルヘルス活動のモデル(2)：事業所外モデル
10	トータル・ヘルス・プロモーション・プラン (THP)
11	従業員支援制度 (EAP)
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	いかに論文を読むか
2	産業精神衛生活動の事業報告書(1)
3	産業精神衛生活動の事業報告書(2)
4	アメリカでの産業精神衛生活動(1)
5	アメリカでの産業精神衛生活動(2)
6	産業精神衛生活動の評価(1)
7	産業精神衛生活動の評価(2)
8	いかに論文をまとめるか(1)
9	いかに論文をまとめるか(2)
10	事例研究：事業所での具体的問題への対処(1)
11	事例研究(2)：事業所での具体的問題への対処(2)
12	まとめ
備考	

科目名	体 育 アウトドアトレーニング(前期) アウトドアレクリエーション山岳型 (集中授業)	担当者名	和 田 智
-----	---	------	-------

講義の目標	山岳型野外活動の基本的な知識と技術の習得・グループワークトレーニングを前期授業の中で行い、実践の場として集中授業で山へ出かけていく。これらの活動を通して、将来個人で、また家族で、安全で快適に自然を享受できる能力を身につけることを目標とする。	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・志賀高原で実施する集中授業に向けて、必要な知識、技術を前期学内の授業でグループワークを中心に学ぶ。集中授業では、ホテルをベースに、毎日変化に富んだコースを歩き、志賀高原の自然を楽しむ。歩くコースはファミリー向けのハイキングコースだが、期間中歩く距離は30～40 km に及ぶ。 ・学内の授業は、平常授業時間以外に週末を利用することもある。 ・集中授業では、日頃から歩きなれていない者にとっては大変つらく感じるかもしれない。そのため、4泊5日乗り越える自信のある者、あるいは挑戦してみたい者の受講を望む。 ・集中授業は、必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として35000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 ・集中授業は、期間：平成7年9月4日（月）～8日（木）4泊5日 場所：長野県志賀高原周辺（志賀パレスホテル泊）の予定 現地集合・現地解散とする。 	
使用教材	テキスト	ナシ
	参考文献	
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（40%）で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	グループ編成・グループゲーム
3	班別野外炊事打ち合わせ
4	班別野外炊事 その1
5	マップリーディング
6	コンパスゲーム
7	野外技術 その1
8	野外技術 その2
9	野外技術 その3
10	班別野外炊事打ち合わせ
11	班別野外炊事 その2
12	集中授業についてのオリエンテーション
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 (インラインスケート)	担当者名	加藤雅子
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>インラインスケートに乗る感覚を覚える。</p> <p>フォアとバックのスケータリングや、ターン等、乗る位置を確認して使い分けて滑ることを学ぶ。</p> <p>一人で滑るだけでなく、二人で滑るときのポジションや、滑り方を学ぶ。</p>	
講義概要	<p>スケータリング、クロス、ステップ、ターンなど、基本的な滑り方や足の置き方、動作を学ぶ。</p> <p>パイロンを使ったスラロームや、ローラーホッケーを体験する。</p> <p>ビデオで、スケータリング等をチェックし、客観的に運動を観察することを学ぶ。</p> <p>雨天時には、3棟1階の体育掲示板で集合場所を指示する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	出席状況、授業態度、レポート、技術の向上を加味して評価する。	
受講者に対する要望など	<p>交通機関及び体調等やむを得ない理由以外の遅刻は認めない。</p> <p>動きやすい服装で受講すること。</p> <p>ソックスは必ず着用すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション イメージビデオの視聴
2	安全のための諸注意 靴の選び方、履き方 転び方、立ち方、歩行、ヒールストップ
3	フォア歩行 ヒールストップ フォア・スケーティング
4	パイロンを使った歩行、ひょうたん、片ひょうたん
5	パイロンを使った両足カーブ、片足カーブ T字ストップ
6	バック歩行 バックひょうたん
7	バックスケーティング
8	バックからフォアへチェンジ (踏み替え)
9	フォアからバックへチェンジ (踏み替え)
10	ターン スパイラル
11	ローラーホッケー
12	ローラーホッケー
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	フォアクロスの導入
3	フォアクロス
4	バッククロスの導入
5	バッククロス
6	パワーストップ ダンスのポジション学習
7	ダンス
8	プログラム作成
9	プログラム
10	これまでの復習
11	ローラーホッケー
12	ローラーホッケー
備考	

科目名	体育 (インラインスケート)	担当者名	和田 智
-----	----------------	------	------

講義の目標	インラインスケート基本技術の習得		
講義概要	<p>インラインスケート初心者でも受講可能。 スケート靴、プロテクター類はすべて大学で用意している。 動きやすい服装で受講すること。 ソックスは必ず用意すること。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献		
評価方法	出席状況 (60%)、受講態度 (20%)、テストの結果 (20%) で評価する。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意、ストップング
3	歩行からフォアストローク・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロークの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後期

週	主要テーマ
1	前期の復習
2	ターン
3	パワースライド
4	フォアクロス その1
5	フォアクロス その2
6	フォアクロス その3
7	ダンスの練習
8	ダンス
9	バッククロス
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育 インラインスケート（前期） アウトドアレクリエーション海浜型（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	---	------	------

講義の目標	<p>前期インラインスケートでは、基本的なスケート技術の習得を目標とする。</p> <p>集中授業アウトドアレクリエーション海浜型では、スキندайビング、ウインドサーフィン、カヤック、フィッシングに関わる知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・用具、施設の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。 ・インラインスケート実施時にはソックスを必ず用意すること。 ・インラインスケート、スキندайビングは未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。 ・集中授業の必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として30000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成7年7月25（火）～29日（土）4泊5日 場所：新潟県佐渡郡赤泊村庭場（むしろば）海水浴場の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意・ストップング
3	歩行からフィアストロック・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 インラインスケート（後期） スケート（集中授業）	担当者名	和田 智
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	<p>後期インラインスケートでは、アイススケートのための基本的なスケート技術の習得を目標にする。集中授業アイススケートでは、冬季の代表的なスポーツであるアイススケート・カーリングの実践を通して知識・技術を身につけることにより、将来に向けての余暇享受能力を開発することを目標とする。</p> <p>アイススケートでは、後期に実施してきたインラインスケートの技術を活かしながら、基本滑走、アイスフォークダンス、アイスダンス、アイスホッケー、ノルマの達成を通して、フォアクロス、バッククロスまでできることを技術的な目標に置く。</p> <p>カーリングでは、ゲームの楽しさを理解できる程度の知識、技術の習得を目標に置く。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・インラインスケート実施時にソックスを必ず用意すること。 ・インラインスケート、アイススケートの未経験者でも受講可能。 ・インラインスケートに関わる用具はすべて大学で用意しているが、アイススケートの靴については、自分の靴を準備することが望ましい。 ・集中授業の必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として40000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成7年12月18（月）～22日（金）4泊5日 場所：長野県軽井沢スケートセンター（塩壺温泉ホテル）の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意 ストッピング
3	歩行からフィアストロック フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育（硬式テニス 土2）	担当者名	小 俣 充
-----	--------------	------	-------

講義の目標	テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取り組み方に必要なこと（基礎）の獲得を目指す。		
講義概要	アグレッシブ・テニスに必要な基礎（ボレー）と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	1 ベスト・テクニック・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社 2 テニスのメンタルトレーニング ロバート・S・ワインバーグ、大修館書店 3 スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂	
評価方法	出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価		
受講者に対する要望など	経験者（中級以上：フォアとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる）のみ受講可。		

年 間 講 義 予 定

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ボレーの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線 (バックとフォアの見分け)

科目名	体育（硬式テニス 土1）	担当者名	小 俣 充
-----	--------------	------	-------

講義の目標	テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取り組み方に必要なこと（基礎）の獲得を目指す。		
講義概要	アグレッシブ・テニスに必要な基礎（ストローク）と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	1 ベスト・テクニック・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社 2 テニスのメンタルトレーニング ロバート・S・ワインバーグ、大修館書店 3 スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂	
評価方法	出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価		
受講者に対する要望など	経験者（中級以上：フォアとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる）のみ受講可。		

年 間 講 義 予 定

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の軸と身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ストロークの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線 (バックとフォアの見分け)

科目名	体育 (硬式テニス)	担当者名	田中茂宏
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>技術的には、フォア、バックの両ストロークを中心にラリーが続けられる様になり、ゲーム形式の練習時ではゲームの進め方、ルールを学んでもらう。</p>	
講義概要	<p>ストロークの練習、ボレー、サービスの練習を中心に行い、授業の後半では、ゲームの結果を記録する。</p> <p>能力別のグループ分けを行い、レベルに応じて授業を進める。</p> <p>グループ対抗のゲームを通してルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>出欠点呼を毎回実施し、やむを得ない場合を除き遅刻を認めない。</p> <p>雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。</p> <p>着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。</p> <p>見学者は着替えた後に出席すること。</p> <p>授業はテニスコートで実施する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上・リーグ戦の成績を加味して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>クレーテニスコートを使用するので必ずテニスシューズで出席すること（他のシューズは認めない） 出欠状況は各自で覚えておくこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方。 ストロークを中心に練習し、ラリーを続けられる様にする。
3	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
4	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
5	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
6	ストローク、ボレーを中心に練習する。
7	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
8	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
9	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
10	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
11	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
12	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
2	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
3	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
4	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
5	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
6	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
7	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
8	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
9	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
10	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
11	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
12	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
備考	

科目名	体育（硬式テニス）	担当者名	土井浩信
-----	-----------	------	------

講義の目標	テニスの授業を通して、体育とは何か、自分にとっての生涯スポーツの在り方とはどんなものであるかを考えていきたい。		
講義概要	テニスに関する技能学習が中心になるが、場に応じた課題を与えていく。スポーツの楽しさ、スポーツにとってのルール、他者観察力、自己観察力、自分自身の身体との対話能力、中心把握のポイント等々、授業を通して課題について考える。		
使用教材	テキスト	なし。※雨天時等に指導ビデオの教材を使用する。	
	参考文献	なし。	
評価方法	授業への出席度とレポートによる評価。		
受講者に対する要望など	テニスコート専用の運動靴（テニスシューズ）着用厳守。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成。
2	ラケットの基本的な持ち方握り方。グループ分け。用具の準備の仕方。フォアハンドの基本ストロークの学習。用具の片付けとコート整備の仕方。
3	フォアハンド(手なげトスのボール)。ショートラリー。バックハンド(手なげトスのボール)
4	サーブ練習の導入。球出し練習。 テニス経験者、ゲーム指導(ローテーション方式)。
5	サービスとサービスレシーブ練習。 連続グラウンドストロークのポイント式ゲーム導入。
6	ダブルスゲーム(ルールの説明、審判の仕方、ゲームケアのマナー)の導入。円滑なゲーム運営について役割確認。
7	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
8	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
9	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
10	ダブルスゲームのチーム戦開始。
11	ダブルスゲームのチーム戦開始。
12	ダブルスゲームのチーム戦開始。前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ボレーの基本練習。ショートフライボールのボレー、ロングフライボールのボレー、ライナーボールのボレー連続。 サービス、サーブレシーブの練習。
2	シングルスゲームの導入。ルールの説明、運営方法の確認。
3	シングルスゲームのチーム戦。動き方の基本、ポジショニングの学習。
4	シングルスゲーム・ダブルスゲームのチーム戦。
5	ダブルスゲームのゲーム評価の仕方。動きのチェック。
6	ダブルスゲーム(乱取り形式でのゲーム運営)。 課題「全員が楽しめるテニスのプレイ」
7	ダブルスゲーム(乱取り形式) 課題「視・観・察」
8	ダブルスゲーム(乱取り形式) 課題「自分に最も適した運動リズムとフォーム」
9	ダブルスゲーム 課題「自己観察、他者観察」
10	ダブルスゲーム 課題「中心把握する能力」
11	ダブルスゲーム 課題「自分自身の身体との対話、イメージ能力」
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育 (硬式テニス)	担当者名	中 沢 克 江
-----	------------	------	---------

講義の目標	テニスのゲームができるように基本的技術を習得し、体を動かし、楽しむ。ボールを打ち合いながら受講生同士の親睦を図る。	
講義概要	<p>基本的技術の習得</p> <p>ルール、マナーの理解</p> <p>ゲームを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームはダブルスを行う。 ・ゲームのペアは、受講生同士の親睦を深めることを目的に組むので、教員が指示する。 ・技術レベル別リーグ戦では、受講生同士でペアを組み、レベル別を決める。 	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。 受講態度の中には、服装も対象とする。	
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講のこと。</p> <p>クレーコートに適するテニスシューズ必ず用意すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基礎練習：ラケットの使い方。ボールに慣れる。身体の使い方。等
3	基礎練習：グラウンドストローク。
4	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。
5	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。ボレー。 応用練習：グラウンドストローク。
6	基礎練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。 応用練習：簡易ゲーム＝ルール説明
7	応用練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。
8	応用練習：ダブルスゲーム＝ゲーム方法の説明。ルール説明。
9	ダブルスゲーム
10	ダブルスゲーム
11	ダブルスゲーム
12	ゲームを中心に、評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。3棟の体育掲示板を見ること。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基礎応用練習：グラウンドストローク他。
2	基礎応用練習中心で、ゲームも行う。 ゲームは男女別、男女混合でも行う。
3	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
4	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
5	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のためのダブルスペア作りの準備。
6	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のダブルスペアの決定。
7	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
8	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
9	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
10	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
11	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
12	評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。3棟の体育掲示板を見ること。

科目名	体育 (硬式テニス)	担当者名	松原 裕
-----	------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、硬式テニスを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術のレベルは問わないが、ダブルスの試合ができるようになることを目標とする。一面6人×6面=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>基本技術では、ストロークよりもサーブ、レシーブ、ボレーに中心をおいて練習する。ゲームの要素を早い時期から取り入れ、分習法よりも全習法が主体となる。コートが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。</p>		
使用教材	テキスト	『テニス教本』 社団法人日本プロテニス協会編	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「突然変わり出す覚え方」 サーブの新打法とネットダッシュ 宮村 宏 ・VTR「突然変わり出す覚え方」 ネットプレーの新技術 宮村宏 	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
6	技術レベルごとに班編成をし班別に練習③ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
7	技術レベルごとに班編成をし班別に練習④ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
8	ダブルスの試合の進め方① ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
9	ダブルスの試合の進め方② ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
10	ダブルスの試合の進め方③ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
11	ダブルスの試合の進め方④ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

後期

週	主要テーマ
1	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方① ○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方② ○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育（硬式テニス）	担当者名	和気秀文
-----	-----------	------	------

講義の目標	主として日常生活における運動不足の解消と健康の保持、増進のために、生涯を通して運動（テニス）に親んでもらう能力と態度を身につける。	
講義概要	前期は、個々の能力に応じた指導を行うために、初心者と経験者に分かれて練習を行う。初心者はグランドストロークの練習を中心に、経験者はアプローチショットやネットプレー等実践的な練習を中心に行う。尚、出来る限り短期間で技術の向上を図るために、ストロークやボレー等のビデオ撮影を行い、個々の欠点を細く分析してゆく予定である。後期は、初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、グループごとの対抗戦（ダブルス）を行う。尚雨天時には、トレーニングルームおよび教室にて健康維持のため（減量、成人病予防を含む）の運動処方（運動の種類、強度、頻度等）について講義および実技指導を行う。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	授業への貢献度によって決定する。	
受講者に対する要望など	必ずテニスシューズを着用すること。雨天時にも必ずトレーニングウェアを持参すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（種目の選択、授業に関する注意事項等）。
2	テニスによる傷害（肉離れ、テニス肘等）予防と競技力向上を目的としたストレッチ等の具体的方法について学習する。
3	初心者はグリップの握り方とボールに慣れるための練習（ボールつきなど）を行う。経験者はグラウンドストロークの練習を中心に行う。
4	初心者はグラウンドストロークの練習を、経験者は主としてボレーの練習を行う。
5	初心者はグラウンドストロークの練習とボレーの練習を、経験者は、スマッシュの練習を中心に行う。
6	初心者、経験者に分け、6～8人のグループをつくる。そしてグループごとにストロークやボレーの練習を行う。ビデオ撮影。
7	上記に同じ。また、特に経験者のグループでは、サーブ、スマッシュやアプローチショット、ボレーの組み合わせなどの実践的な練習を中心に行う。ビデオ撮影。
8	上記に同じ。また、同じグループ内でダブルスのゲームを行う。その際、ゲームの進め方、審判の仕方も学習する。
9	上記に同じ。
10	上記に同じ。
11	上記に同じ。
12	グラウンドストローク、ボレーおよびルールについて簡単な試験を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学んだ各技術の復習を行う。
2	初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、同じグループ内でダブルスのゲームを行い、お互いの実力を確認しあう。
3	グループごとの対抗戦（ダブルス、4～6ゲーム先取の1セットマッチ）を行う。
4	上記に同じ。
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	サーブと試合を通して実践的技術の試験を行う。
備考	

科目名	体育 硬式テニス(後期) スキー(集中授業)	担当者名	松原 裕
-----	------------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という健学の理念に基づき、硬式テニスとアルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女は問わないが、技術レベルは原則としてテニス・スキーとも経験者とする。硬式テニスはダブルスのゲームを目標とし、一面6人×6面=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>スキーはアルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標としスキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。</p> <p>学内の授業でコートが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。</p>		
使用教材	テキスト	『ベーシック・スキー・テキスト』 板垣和男/佐々木明男著	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「THIS IS THE オーストリアスキー」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」 	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方① ○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方② ○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育（ゴルフ）	担当者名	野口昭彦
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>現代社会においては、健康増進、健康維持、またはストレス解消等さまざまな目的に応じて、身体活動を行う社会へと変化してきた。それは現代の生活環境の変化や悪化等により、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウェルネス（WELLNESS）運動として生涯必要とされている現状である。</p> <p>このことを考慮し、学生時代にゴルフを媒介としての運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。</p>		
講義概要	<p>ゴルフは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じプレーが可能のため、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。また、ゴルフはメンタルな要素を多く含んでおり、いかなる時でも冷静な判断で行動を行なうことで精神力や集中力を養い、人への思いやりや、気配等のエチケットやマナーを守り、周囲の人々の人間関係を大切にするスポーツである。以上の様にゴルフは非常に特徴のあるスポーツなので、技術の習得はもとより、ゴルフを通じて生活環境の変化や悪化等にも対応できる、精神力や体力を養い、永い人生での社会生活に貢献できることを期待したい。</p>		
使用教材	テキスト	適宜資料を配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『はじめてのゴルフ』 谷口信弘、新星出版社 ・『ゴルフスウィング、レッスン』 伊能一郎、新星出版社 ・『ゴルフ基本』 学研 ・『ゴルフ上達の科学』 田中誠一、プレジデント社 ・『ティーチング・ゴルフ』 市村操一、ベースボールマガジン社 ・『ザ・アスレチックスウィング』 デビット・レッドベター、ゴルフダイジェスト社 	
評価方法	出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。また、簡単なテストを行なう。		
受講者に対する要望など	<p>降雨や降雨後グラウンドが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行なう。</p> <p>年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の履修概要の説明。
2	基礎知識＝エチケット、マナー、服装、クラブ構造と用途について。
3	前期は基礎技術を中心に行なう＝クラブの握り方、左手、右手の握り方、グリップとクラブフェスの関係について。
4	スタンス（身体の構え）＝両足と上体の構え、左腕、右腕の構え方、両足とボールの位置関係を中心に行なう。
5	正しいアドレスの入り方＝ボールの後方から球筋を見る、右手で目標ラインに合わせる、飛球線と平行に構える等を中心に行なう。
6	正しいスイングの基本＝スイングのスタート、バックスイングのトップ、ワンピーススイング等について行なう。
7	正しいスイングの基本＝ダウンスイングの開始、インパクト、フォロースルー等について行なう。
8	スイングの弧とショットの関係＝スイングの弧とボール位置、円軌道のタイプと飛球方向等について行なう。
9	タイミングの実際＝ダウンスイングの開始とタイミング、タイミングとリズムの関係を中心に行なう。
10	ミドルアイアの練習＝前回までの学習を踏まえて、ゴルフ練習場にて練習球を使用した練習。
11	ミドルアイアの練習＝確実にヒットすることを目標に。
12	ミドルアイアの練習＝ダウンプローを中心とした打ち込み。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業で行なった練習の復習。
2	ショートアイアの練習＝目標に対して正確に打つ練習。
3	アプローチショット＝ピッチエンドラン、ランニングアプローチ、ピッチショット等コントロールを必要とする練習を中心に行なう。
4	ロングアイアンの練習＝苦手意識を捨てる事の練習を行なう。
5	ドライバー＝構えとボールの位置、アッパーブローに打つ、力まず力を抜いて打つ練習を中心に行なう。
6	フェアウェイウッド＝ドライバーと同様の練習。
7	5、6週目と同じ練習。
8	応用スイング＝基本スイングを変化させ、応用スイングの知識を知る練習を行なう。
9	8週目と同じ練習。
10	各クラブの基本スイングを変化させ、応用スイングにて実践的な練習を行なう。
11	10週目と同じ練習。
12	10週目と同じ練習。
備考	

科目名	体育（ゴルフ）	担当者名	山中邦夫
-----	---------	------	------

講義の目標	ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。	
講義概要	ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングが出るよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	
評価方法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。	
受講者に対する要望など	欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。登録時に、練習場のボール代（10,000円）を払込むこと。ゴルフグラブは各自で、靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフ競技の概要 (VTRと講義)
3	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
4	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
5	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
6	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
7	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
8	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
9	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
10	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
11	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
12	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットティングの練習も行なう。
2	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットティングの練習も行なう。
3	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットティングの練習も行なう。
4	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットティングの練習も行なう。
5	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットティングの練習も行なう。
6	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットティングの練習も行なう。
7	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットティングの練習も行なう。
8	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットティングの練習も行なう。
9	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
10	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
11	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
12	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
備考	

科目名	体育（ゴルフ）	担当者名	吉田卓司
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得して欲しい。</p>	
講義概要	<p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をVTRビデオにより学習する。前期は主として、クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック、ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>後期は、はじめから、ゴルフ練習場にて、実習する。雨天にかかわらず実習可能なので、直囀ゴルフ場に集合すること。ショートアイアン、ミドルアイアンの打法と1番・3番ウッドの打法を習得する。TVビデオを使用して、個人個人のスイングをチェック指導の予定である。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出席を重視し、普段の履習態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドの2回実施する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフの歴史と正しいマナーについて
3	基本的技術のTVビデオ鑑賞
4	ショートアイアン(8, 9, PW, SW)のスウィング(グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法をを習得する)
5	(学内でプラスチック・ボールを使用して実習)
6	(各人の個別指導) (正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法)
7	
8	ゴルフ練習場にて実習 ショートアイアン ミドルアイアン 基本的なスウィングと打球
9	(反復練習)
10	(個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック)
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	ゴルフ練習場にて、実習
2	アイアンショット(3, 5, 7, 9, PW, SW)練習 (個別指導とフォームのチェック)
3	1番ウッド(ドライバー) 3番ウッド(スプーン)の打法と練習
4	(ロングアイアン3, 4)ショット練習
5	
6	TVビデオを使用して、個人個人のスウィングをチェック指導
7	
8	
9	
10	テスト(アイアン、及びウッド)及び実習
11	
12	
備考	

科目名	体育（サッカー）	担当者名	田代力也
-----	----------	------	------

講義の目標	技術の習得、体力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性を高める。正しいルールと、フェアで安全なプレイを学ぶ。		
講義概要	<p>さまざまな基本練習から、攻撃、守備の展開、ゲームへと移行する。ゲーム毎にポイントを与え、確認する。</p> <p>グラウンド不良時には、ビデオ等により、さまざまな角度からサッカーを学習する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性を評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育（サッカー）	担当者名	田中茂宏
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>ゲーム形式中心の内容を通してゲームの進め方・ルールを学ぶ。 更にグループ別の練習を取り入れて基礎的な技能の向上を養う。 各グループの力が均等になる様に分けてリーグ戦を行う。 ゲームでは、主審、ラインズマンを各自、一度は経験してもらう。 準備体操各種を各自で行える様にする。</p>	
講義概要	<p>基本的にゲーム中心で行うが、ゲームの中でボールを扱える様に各自または、各チームでキック等の練習を取り入れる。 ビデオ等で審判のやり方を学び、ゲームで実際に経験する。 出欠点呼を毎回実施し、やむを得ない場合を除き遅刻を認めない。 雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。 着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。 見学者は着替えた後に出席すること。 授業はサッカー場で実施する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上・リーグ戦の成績を加味して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出欠状況は各自で覚えておくこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方。 キック・トラップ等の練習を行い、ゲームでしめくくる。
3	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
4	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
5	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
6	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
7	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
8	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
9	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
10	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
11	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
12	チームの成績を発表する。オールコートでゲームを実施する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用したのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
2	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用したのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
3	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用したのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
4	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
5	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
6	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
7	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
8	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
9	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
10	チーム成績発表する。 オールコートでゲームを行う。
11	オールコートでゲームを行う。
12	オールコートでゲームを行う。
備考	

科目名	体育（サッカー）	担当者名	福井真司
-----	----------	------	------

講義の目標	サッカーの楽しさを理解し基礎的技術を身につけて、生涯を通じてサッカーを親しめるようになる。また、ルール、審判法、作戦、健康、安全に対する態度などを習得する。	
講義概要	各週の授業は、主要テーマ以外に簡易ゲームも行う。	
使用教材	テキスト	ナン
	参考文献	ナン
評価方法	出席、態度、技術等から評価する。技術評価として簡単なテストを行う。	
受講者に対する要望など	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実施場所：サッカー場（雨天などによる実施場所の変更連絡は、3棟体育掲示板で指示する） ・授業の進行状況により、変更の場合もある。 ・1週目の授業には筆記用具を準備すること。 	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (学習上の注意、服装、用具等について) サッカーとケガ、準備体操について
2	ボールに慣れる (ボールリフティング、ボールタッチ)
3	サッカーに必要な基本的な走力を身につける
4	パスとシュート (キック、ヘディング)
5	ドリブルとフェイント
6	1対1の攻防 (マーク、タックル練習)
7	トラッピングからシュート
8	2対1 (パスとドリブルからシュートまで)
9	浮いたボールの処理、せり合い
10	パス連続ゲーム
11	ミニゲーム、簡単なルールと審判法
12	ミニゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	前期の復習
3	壁パス、スルーパス、センタリングからシュート (ゴールキーブ)
4	フリーキック、コーナーキック、スローインからの攻防
5	ゴールを使用しての守備と攻撃 (システムの決定)
6	正規のゲーム (練習ゲーム、ルールと審判法)
7	正規のゲーム (練習ゲーム、ルールと審判法)
8	正規のゲーム (リーグ戦)
9	正規のゲーム (リーグ戦)
10	正規のゲーム (リーグ戦)
11	正規のゲーム (リーグ戦)
12	正規のゲーム (リーグ戦)
備考	

科目名	体育（サッカー）	担当者名	松本光弘
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して体力の向上も合わせて目標とする。内容的には高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。</p>	
講義概要	<p>サッカーの技術と戦術と各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時も体育館で実技を行うか、教室にて講義等を行う。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法	<p>出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能程度を総合して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツが用意できればさらに良い。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション、種目分け
2	体力測定、12分間走 簡単なゲーム
3	技術練習とハーフゲーム
4	技術練習とハーフゲーム
5	技術練習とハーフゲーム
6	ルールの解説（講義）
7	個人戦術とハーフゲーム
8	個人戦術とハーフゲーム
9	個人戦術とハーフゲーム
10	グループ戦術とハーフゲーム
11	グループ戦術とハーフゲーム
12	サッカーの歴史（講義）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム戦術とミニゲーム
2	チーム戦術とミニゲーム
3	チーム戦術とミニゲーム
4	攻撃におけるグループ戦術とミニゲーム
5	守備におけるグループ戦術とミニゲーム
6	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
7	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
8	フルゲーム
9	フルゲーム
10	フルゲーム
11	フルゲーム
12	フルゲーム 評価
備考	

科目名	体育 (サッカー)	担当者名	松原 裕
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>「大学は学問を通じてこ人間形成の場である」という建学の理念に基づき、サッカーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。</p>		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、4-4-3の試合ができるようになることを目標とする。一チーム12人×3チーム=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>基本練習は、VTRを見て共通のイメージを作ってから行なう。前期は、分習法が主体となる。後期はゲーム中心の全習法が主体となる。</p> <p>グラウンドが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか、基本的な理論を講義する。</p>		
使用教材	テキスト	VTR「サッカー・コーチング・バイブル」 田嶋幸三 監修	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップVOL1」 ・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップVOL2」 	
評価方法	<p>毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>出来るだけサッカーシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	基本トレーニング① ○ボール遊びと幼児のトレーニング
3	基本トレーニング② ○基本技術とウォーミングアップ
4	パス・コントロール
5	シュート
6	1vs1の攻防
7	グループの戦術①・攻撃
8	グループの戦術②・守備
9	ゴールキーパー
10	1-4-4-3スタイルのゲーム
11	1-4-4-3スタイルのゲーム
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業のダイジェスト
2	チーム分けとゲーム
3	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦①
4	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦②
5	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦③
6	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦④
7	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑤
8	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑥
9	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑦
10	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑧
11	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑨
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育 スキートレーニング(後期) スキー(集中授業)	担当者名	松原 裕
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、アルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、アルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標とする。学内の授業では、ローラースキー・ローラーブレード等のバランス感覚とストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。40名以上は抽選となる。</p> <p>スキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	『ベーシック・スキー・テキスト』 板垣和男/佐々木明男著	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「THIS IS THE オーストリアスキー」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」 	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○デモビデオでのイメージトレーニング ○基本滑走
3	ストックワーク① ○直滑降姿勢・曲げプルーク・伸しプルーク ○ストックワーク
4	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード・ローラースキー① ○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード・ローラースキー② ○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード・ローラースキー③ ○ペア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③ ○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	スキー実習のオリエンテーション① ○テキスト配布 ○スキー指導法 ○スキーの基本理論
11	スキー実習のオリエンテーション② ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
12	スキー実習のオリエンテーション③ ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
備考	

科目名	体育 スキー検定トレーニング（後期） スキー検定（集中授業）	担当者名	松原 裕
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、SAJ 基礎スキー検定を通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女は問わないが、技術レベルとしてはリフトに乗って中斜面を滑った程度以上を目安とする。</p> <p>SAJ 基礎スキー検定の基本を理解し、身に付けることを目標とし、学内の授業では、ローラースキー・ローラブレード等のバランス感覚、ストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。</p> <p>40名以上は抽選となる。</p> <p>スキー実習は12月下旬長野県斑尾高原サンパティックスキー場を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	『日本スキー教程』 全日本スキー連盟編	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「基礎スキー検定」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」 	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成 (写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○デモビデオでのイメージトレーニング ○基本滑走
3	ストックワーク① ○直滑降姿勢・曲げプルーク・伸しプルーク ○ストックワーク
4	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード・ローラースキー① ○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード・ローラースキー② ○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード・ローラースキー③ ○ベア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③ ○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	総合練習
11	スキー実習のオリエンテーション
12	スキー実習の反省
備考	

科目名	体育（ソーシャルダンス）	担当者名	青柳多恵子
-----	--------------	------	-------

講義の目標	日本人は日常の生活が西洋化されているにも関わらず、所作やダンスに対する考え方は日本的な領域から脱皮していない。国際的な挨拶の型である“握手”と同様、今ではコミュニケーションの大きな分野としての“踊る”意味を考えると合わせて、組んで踊るための基本的な動き方と音楽との関連を踊りながら知ることがめざしたものです。	
講義概要	ソーシャル・ダンスの初歩の歩行から、ワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャなどの技術的なことと同時に、踊るための体力の養成をし、踊ることの楽しさと、音楽によって自由に動けるテクニックを訓練する。しかし、特殊な難しいことでなく、歩ける人と音楽を楽しめる人であれば誰でも出来る、また楽しい生涯体育の一つです。	
使用教材	テキスト	ソーシャルダンス基礎編（配布）
	参考文献	
評価方法	出席を重視する。ただし、ワルツ・ルンバをマスターする事。	
受講者に対する要望など	ダンスは男女同数しか受けません。	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	授業概要の説明
2	ダンスの歩行・ステップの説明 ブルース・マンボのリズムにのって
3	ワルツ・ブルース・マンボ
4	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
5	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
6	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
7	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
8	VTR タンゴ・ワルツ・ブルース・ルンバ
9	タンゴ (リンク・) ワルツ・ブルース・ルンバ
10	チャチャ・ジャイブ
11	チャチャ・ジャイブ
12	VTR 撮影 総まとめ
備考	

後期

週	主要テーマ
1	前期の復習 ステップの解説
2	前期の VTR の解説 ワルツ・ジャイブ・ルンバ
3	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
4	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
5	チャチャ・キュウバンルンバ
6	チャチャ・キュウバンルンバ
7	VTR ジャイブ・
8	VTR ワルツ
9	VTR ルンバ
10	VTR ブルース
11	VTR 総まとめ
12	VTR 映写 解説
備考	

科目名	体育（ソフトボール）	担当者名	池 垣 功 一
-----	------------	------	---------

講義の目標	正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。	
講義概要	前期の前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。後期は試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	評価は体育実技評価規準により、出席点に技能点、総合点（態度・努力・服装等）を加味して行なう。	
受講者に対する要望など	前・後期とも、雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、ソフトボールの特質、ルール等について説明
2	キャッチボール（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法）
3	ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法） トスバッティング
4	ピッチング（各種投法の復習） ハーフバッティング
5	守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング
6	守備練習（各ポジションの守備方法） シートノック
7	ベースランニングおよびスライディングの練習 バント練習（内野手の連けいプレー）
8	シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習
9	審判の方法についての説明 チームの編成(1)（ポジション・打順を決める） 練習試合
10	チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D
11	チーム練習（トスバッティング） 試合 A～C、B～D
12	チーム練習（バント） 試合 A～D、B～C
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学習した内容の総合的練習(1) 審判方法の復習
2	前期に学習した内容の総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明
3	チーム編成(2)（以下、各々試合3回ごとに編成をかえる） 練習試合
4	チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ） 試合 E～F、G～H
5	チーム練習 試合 E～G、F～H
6	チーム練習 試合 E～H、F～G
7	チーム編成(3) チーム練習 試合 I～J、K～L
8	チーム練習 試合 I～K、J～L
9	チーム練習 試合 I～L、J～K
10	チーム編成(4) チーム練習 試合 M～N、O～P
11	チーム練習 試合 M～O、N～P
12	チーム練習 試合 M～P、N～O
備考	

科目名	体育（ソフトボール）	担当者名	太田朝博
-----	------------	------	------

講義の目標	ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。	
講義概要	個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能 捕球——送球 遠投 ・ゲーム結果（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。 欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	個人的技能 基本技能 キャッチング
2	スローイング 1対1での正確な技能の習得 バッティング ノックとトスバッティング、 フリーバッティング
3	正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかり身につける
4	ピッチング
5	集団的技能 連携プレー 攻撃＝バント及びヒットエンドラン
6	タッチアッププレー 守備＝フォースプレー
7	ダブルプレー バントの処理と各野手の動き
8	カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
9	ルールの解説とスコアのつけ方（ワンプレーに対する判定法）
10	簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	個人技能 の反復練習 ゲーム ・個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなるようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
2	キャッチボール トス、フリーバッティング ・簡単なスコアをつけ個々の成績 (打率、盗塁、打点など)を集計し成績を出し、技能を競い合う。
3	ピッチング
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育（ソフトボール）	担当者名	小川 又八朗
-----	------------	------	--------

講義の目標	ソフトボールの特性や技術構造を理解し、それらを構成する基礎的な体力や技術、戦術などの習得を中心にして、ゲーム展開の方法を高める。	
講義概要	<p>ソフトボールは野球にいた球技が、1932年から統一される努力がなされ、今日「ソフトボール」という1つの球技になったものである。</p> <p>「投げる」「捕える」「打つ」「走る」といった運動の基本動作を複雑に組み合わせて行われる球技であり、「いつでも」「どこでも」「だれでも」手軽に行える球技で老若男女がその技術水準に応じて、競技的にも、レクリエーション的にも行える球技でスポーツマンらしいプレーが出来るようにする。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	出席点呼を毎回実施し、出席点を中心に評価し授業態度（服装）技能の進歩などを加味する。欠課時数が多い者については評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。	
受講者に対する要望など	<p>授業実施場所、野球場 AB。</p> <p>雨天の場合教室に於てルール及びゲームをビデオで見て技術、戦術の学習をする。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (体育館)、登録の確認と授業内容の説明 個人の資料作成等。
2	ソフトボールの歴史や特性をはじめとしてゲーム構造や基本ルールなどを講義する、球の握り方やキャッチボールなど防御の個人技能を実習する。
3	バッティングやセーフティーバントなど攻撃の個人技能を実習する、ヒットエンドランなどの集団技能を実習する、簡易ルールでゲームの攻防を実習する。
4	上記と同じ。
5	上記と同じ。
6	投手のピッチングを中心にした防御技能を実習する、ゴロや飛球に対するフィールドイングを中心にした防御の個人技能を実習する、簡易ルールでゲームの攻防実習する。
7	上記と同じ。
8	併殺や長打のカットオフとリレーなどの攻防の集団技能を実習する、球審や塁審の個人技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
9	上記と同じ。
10	4チームによるリーグ戦 ①。
11	リーグ戦 ②。
12	リーグ戦 ③、前期まとめテスト。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習、簡易ルールでゲームの攻防を実習する。
2	上記と同じ。
3	盗塁阻止やランダウンなど攻防の集団技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
4	上記と同じ。
5	上記と同じ。
6	得点圏に走者を置いた攻防の集団技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
7	上記と同じ。
8	上記と同じ。
9	4チームによるリーグ戦 ①。
10	リーグ戦 ②。
11	リーグ戦 ③。
12	ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする、ルールやセオリー、審判法など知的理解度をテストする。
備考	

科目名	体育（ソフトボール）	担当者名	萩野元祐
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p>		
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション(体育館)。登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	ソフトボールの歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。独自ルールでのゲーム実施。
4	バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。独自ルールでゲームの実習。
5	前回の復習。独自ルールでのゲーム実施。
6	前回までの復習。バンドのグリップ、スタンス、セフティバンドなどの練習。独自ルールでのゲーム実施。
7	守備における送球、補球(ゴロ、フライ)練習。独自ルールでゲームの実習。
8	前回の復習。独自ルールでのゲーム実施。
9	投手のボールの握り方と投法練習。独自ルールでゲームの実習。
10	前回の復習。4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
11	前期の復習。リーグ戦、(A対C、B対D)
12	ゲームの攻防を通してテスト。リーグ戦、(A対D、B対C)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。独自ルールでゲームを実施。
2	上記と同じ。
3	集団技能(守備)、ベースカバーを練習。4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
4	前回の復習。リーグ戦、(A対C、B対D)
5	集団技能(守備)、リレープレイを練習。リーグ戦、(A対D、B対C)
6	前回の復習。リーグ戦2巡目、(A対B、C対D)
7	集団技能を復習。リーグ戦、(A対C、B対D)
8	スクイズプレイの練習。リーグ戦、(A対D、B対C)
9	ダブルプレイの練習。リーグ戦3巡目、(A対B、C対D)
10	前回の復習。リーグ戦、(A対C、B対D)
11	リーグ戦、(A対D、B対C)
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育 (ソフトボール)	担当者名	田代力也
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>打つ、走る、投げる、捕える等の基本的運動能力を高める。 チームゲームを通じて協調性を高める。</p>		
講義概要	<p>打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性について評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 (ソフトボール)	担当者名	檜山 康
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>①ソフトボールの特性を知り、自分たちの技能に応じた攻め方、守り方とルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <p>②マナーや安全の大切さを知って、楽しく学習が進められるようにする。</p>	
講義概要	<p>①やさしいルールで、ストレートヒッティングを中心にした攻め方とそれに対応した守り方によるゲームを楽しむ。</p> <p>②ヒットエンドランやスクイズを使った作戦的な攻め方とそれに対応した守り方を工夫してゲームを楽しむ。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によって簡単なレポートを課すこともある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>雨天時は、室内において他種目、または教室にて講義を行う。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション
2	簡略化したルールで試しのゲームを行う。安全上の注意も行う。
3	ボールに慣れる。 キャッチボールとトスバッティング
4	守備の練習① ゴロの捕球とスローイング、フライの捕球とスローイング
5	守備の練習② 内野守備と外野守備における連系プレー
6	守備の練習③ バントとその守備。盗塁とその守備。
7	攻撃の練習。 フリーバッティング、バッティングの基礎。
8	攻撃 練習。 ヒットエンドランの攻撃方法について
9	チーム別の練習ゲーム ルール、審判法について学ぶ
10	チーム別のリーグ戦①
11	チーム別のリーグ戦②
12	チーム別のリーグ戦③
備考	

後期

週	主要テーマ
1	チーム編成を変え、試しのゲームを行う。
2	守備の練習① ポジション別の具体的な役割を知る。実践に応じた動き。
3	守備の練習② 2週目の課題について様々な状況を設定して更に学ぶ。
4	攻撃の練習① ベースランニングの方法、実践に応じたランニング、スライディング。
5	攻撃の練習② 4週目の課題について、バッティングと組み合わせて学ぶ
6	チーム別のリーグ戦① 毎回のゲームの反省を生かしてチーム別に練習ができるようにする。
7	チーム別のリーグ戦②
8	チーム別のリーグ戦③
9	チーム別のリーグ戦④
10	チーム別のリーグ戦⑤
11	チーム別のトーナメント戦①
12	チーム別のトーナメント戦②
備考	

科目名	体育 ソフトボール スキー（集中授業）	担当者名	田代力也
-----	---------------------------	------	------

講義の目標	<p>・ソフトボール</p> <p>打つ、走る、捕える、投げる等の基本運動能力を高める。</p> <p>チームゲームを通じて協調性を高める。</p> <p>・スキー</p> <p>生涯スポーツとしてのスキーを認識する。</p> <p>理論と実技の中で、技術の習得、安全なスキーを学ぶ。</p>		
講義概要	<p>・ソフトボール</p> <p>打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。</p> <p>・スキー</p> <p>体力、技術程度により班別講習を行なう。“スキーはリズム”をテーマとする。ビデオによって各自のすべりの分析を行ない、技術向上への資料とする。ソフトボールと並行してスキーのトレーニングを行なう。</p>		
使用教材	テキスト	ベーシックスキーテキスト	
	参考文献		
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、またソフトボールについては、チームの中での協調性について評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育（卓球）	担当者名	天野和彦
-----	--------	------	------

講義の目標	卓球の基本的知識を学習するとともに、技能の向上をはかる。	
講義概要	ゲームを中心に行い、その中で、ルール、打法、ゲームのすすめ方を紹介する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラリーの連続を行うために①——コントロール
3	ラリーの連続を行うために②——サービスとレシーブ
4	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
5	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
6	グループ別でのシングルスゲーム
7	グループ別でのシングルスゲーム
8	グループ別でのシングルスゲーム
9	上級者と初級者のペアで、ダブルスの練習
10	ダブルスゲームのリーグ戦
11	ダブルスゲームのリーグ戦
12	ダブルスゲームのリーグ戦
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラリーの連続を行うために③——いろいろな打法
2	全員によるシングルストーナメント
3	全員によるシングルストーナメント
4	能力別でのダブルスゲーム
5	能力別でのダブルスゲーム
6	能力別でのダブルスゲーム
7	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
8	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
9	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
10	全員によるダブルストーナメント
11	全員によるダブルストーナメント
12	
備考	

科目名	体育（卓球）	担当者名	奥野忠枝
-----	--------	------	------

講義の目標	卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。	
	ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。	
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成
2	競技場と用具について（準備と片付け方） ラケットの種類、持ち方
3	ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合
4	サービス、レシーブの練習 ミニ試合
5	バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合
6	サービスについて ボールの回転とラケットの動きを練習 シングルス試合
7	審判法について学ぶ
8	ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合
9	グループでリーグ戦形式のダブルス試合
10	上記に同じ
11	シングルス試合
12	前期のまとめ シングルス試合
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 基本の動き シングルス試合
2	カットについて学ぶ シングルス試合
3	マナーについて 悪いマナー 良いマナー
4	ダブルの作戦おパートナーとの動きについて
5	グループでダブルの試合
6	上に同じ
7	上に同じ
8	上に同じ
9	シングルのトーナメント試合
10	シングルス ダブルスにわかれて試合
11	総復習
12	総復習と反省
備考	

科目名	体育（卓球）	担当者名	中川 昭
-----	--------	------	------

講義の目標	卓球の技能を習得し、ゲームをエンジョイする。併せて、体力の向上を図る。	
講義概要	毎時間、基本となる技術練習を行い、ゲーム（シングルス・ダブルス）を行う。また、体力の向上を狙いとしたトレーニングを毎時間、授業の初めに行う。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席を重視し、技能の伸びや授業中の態度等を加味する。	
受講者に対する要望など	必ず、運動ができる服装に着がえて授業に出てくること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
3	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
4	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
5	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
6	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
7	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
8	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
9	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
10	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
11	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
12	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
2	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
3	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
4	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
5	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
6	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
7	体力トレーニング、班対抗のゲーム
8	体力トレーニング、班対抗のゲーム
9	体力トレーニング、班対抗のゲーム
10	体力トレーニング、班対抗のゲーム
11	体力トレーニング、班対抗のゲーム
12	体力トレーニング、班対抗のゲーム
備考	

科目名	体育 (卓球)	担当者名	本田 稔 祐
-----	---------	------	--------

講義の目標	卓球を通じて、運動をする習慣を身につけ、生涯体育として健康の維持増進をはかるとともに、卓球の基本動作、ルールなどについても勉強し、技能の向上を計るとともに、社会生活の中でもそれらを活用できるようにすることをめざす。		
講義概要	卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、集中力を養う。また、サービスとレシーブの重要性を理解させ簡単なゲームができること。審判ができるようにルールについても勉強していく。ゲームは、簡単なものから、個人ゲーム、ダブルスゲーム、団体対抗ゲームと進めていく。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	特になし	
評価方法	評価は出席点を中心とし、技能の進歩の度合、平素の授業態度、特に服装の適否なども加味して行なう。尚欠席が7回以上の者は、評価はFとする。やむを得ず欠席した場合はできるだけ早く口頭で届け出ること。		
受講者に対する要望など	欠席、遅刻はしないこと。服装は体育に適したもの。Gパンは認めない。靴も、ゴム底の運動靴を使用すること。用具については、大学で用意するが、ラケットはできるだけ各人で用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と、個人の資料作成、授業内容の説明。
2	教室でビデオを見て、基本的知識を修得する。
3	準備運動の実施方法 簡単な能力テストをし、能力別のグループ作成。 ルールについて説明。
4	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
5	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
6	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
7	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
8	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
9	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
10	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
11	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
12	全員を抽選により、トーナメント試合
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	トーナメント試合
2	トーナメント試合
3	トーナメント試合
4	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
5	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
6	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
7	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
8	シングルス及び、ダブルスゲーム
9	シングルス及び、ダブルスゲーム
10	シングルス及び、ダブルスゲーム
11	シングルス及び、ダブルスゲーム
12	技能テスト
備考	

科目名	体育 (軟式野球)	担当者名	太田朝博
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>野球は、守備と攻撃を規則的に交代しあってゲームを展開し、一定回数内の得点を競い合うスポーツである。投球、捕球、打撃、走塁などの基本的な個人技能を習熟するとともに、スクイズ、バントエンドラン、ヒットエンドランなどの攻撃法やバントシフト、ピックオフプレー、カットプレーなどの防御法を通して集団的技能を身につける。これらのことを基礎にして、ゲームでは、個人的、集団的技能を生かした作戦をたてて組織的なゲーム展開が出来るようにする。</p>	
講義概要	<p>個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲーム展開が出来ることを目指し授業を進める。</p> <p>雨天等で実技が出来ない時はルール of 解説、スコアのつけ方、ビデオなどを見て学習。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席点を中心にして評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的技能——捕球——送球 遠球 ・ゲーム結果——(集団、個人技能)等を総合的に見て評価する。 <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	個人的技能 基本技能 キャッチング
3	スローイング 1対1での正確な技能の習得 バッティング ノックとトスバッティング、フリーバッティング、バント
4	正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかりと身につける ピッチング
5	↓
6	集団的技能 連携プレー 攻撃=バント及びヒットエンドラン
7	タッチアッププレー 守備=フォースプレー
8	ダブルプレー バント処理と野手の動き
9	カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
10	ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法)
11	簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
12	↓ ↓
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人技能 } の反復練習 集団技能 }
2	キャッチング } ゲーム 個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなりな トス、フリーバッティング } らないようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
3	シフト打撃 } スコアをつけ個人の打撃成績 (打率・盗塁・打点など) ピッチング } を集計し技能を競い合う。
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	↓ ↓
備考	

科目名	体育（軟式野球）	担当者名	萩野元祐
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、軟式野球を楽しむということも目標のひとつである。</p>	
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、軟式野球の特性や、技術、戦術を高める。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (体育館)。 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	軟式野球の歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。 バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。
4	前回の復習。 ゲーム形式で練習。
5	バンドのグリップ、スタンス、セフティバンド ゲーム形式で練習。
6	前回の復習。 ゲーム形式で練習。
7	投手のボールの握り方と投法練習。 4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
8	守備における送球、補球(ゴロ、フライ)練習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
9	前回の復習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
10	集団技能(守備)、ベースカバーを練習。盗塁、盗塁阻止練習。 リーグ戦2巡目、(A対B、C対D)
11	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、(A対D、B対C)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。 練習形式のゲーム。
2	上記と同じ。
3	集団技能(守備)、バックアップを練習。 チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
4	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
5	集団技能(守備)、リレープレイを練習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
6	前回の復習。 リーグ戦2巡目、(A対B、C対D)
7	集団技能を復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
8	スクイズプレイの練習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
9	ダブルプレイの練習。 リーグ戦3巡目、(A対B、C対D)
10	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
11	リーグ戦、(A対D、B対C)
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育 (バスケットボール)	担当者名	小川 又八朗
-----	---------------	------	--------

講義の目標	バスケットボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。		
講義概要	個人技能に習熟し、自分の能力が集団の中でよく発揮できるようにするためにはいつも集中して練習ができるように習慣づける。スピードあるいろいろな動きの中でも、相手との攻防でタイミングを合わせ、からだやボールをコントロールができるようにする。チームがよくまとまり、個人の特徴を生かした作戦が考えられ、それぞれの役割を果たすことができるようにする。技術や練習法を学び、ルールを理解し、授業などでも審判の判定を公正にでき、プレーヤーとしてもすなおに判定に従う態度がとれるようにする。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席点呼を毎回実施し出席点を中心に評価し授業態度（服装）技能の進歩などを加味する。欠課時数が多い者については評価の対象としない、交通機関及び体調等なむを得ない事由以外の遅刻は認めない。		
受講者に対する要望など	授業実施場所、体育館 ABコート。 体育館シューズを用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (体育館)、登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成等。
2	授業に関するオリエンテーション、個人技能 (ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート)。
3	個人技能 (ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート)、個人技能 (パス、ドリブルシュート、リバウディング)。
4	個人技能 (パス、ドリブルシュート、リバウディング)、1対1の攻防、ハーフコート於てゲーム。
5	上記と同じ。
6	2対2の攻防、ハーフコート於てゲーム、3対3の攻防、ハーフコート於てゲーム。
7	対人防御と地域防御に対する攻撃法、(1) ゲーム、対人防御と対人防御に対する攻撃法、(2) ゲーム。
8	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(1) ゲーム、地域防御と地域防御に対する攻撃法、(2) ゲーム。
9	リーグ戦形式によるゲーム。
10	リーグ戦形式によるゲーム。
11	リーグ戦形式によるゲーム。
12	リーグ戦形式によるゲーム、ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習、チーム再編成、個人技能 (ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス)。
2	個人技能、(ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート)。
3	速攻攻撃法、(1) ゲーム、速攻攻撃法、(2) ゲーム。
4	上記と同じ。
5	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(1) リーグ戦形式によるゲーム。
6	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(2) リーグ戦形式によるゲーム。
7	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(3) リーグ戦形式によるゲーム。
8	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(4)。
9	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(1) リーグ戦形式によるゲーム。
10	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(2) リーグ戦形式によるゲーム。
11	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(3)。
12	リーグ戦形式によるゲーム、まとめのテスト。
備考	

科目名	体育 (バスケットボール)	担当者名	勝 瀬 武
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p>	
講義概要	<p>バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲームの時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。</p> <p>個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)
3	基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)
4	セットオフフェンス (ハーフコートにおける 3対2)
5	セットディフェンス (ハーフコートにおける 5対5)
6	オールコートにおける試合 (班分けをする)
7	オールコートにおける試合 (班分けをする)
8	リーグ戦開始 (前期) (試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)
9	リーグ戦開始 (前期) (試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)
10	リーグ戦開始 (前期) (試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)
11	リーグ戦開始 (前期) (試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)
12	リーグ戦開始 (前期) (試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期リーグ戦前の予備試合 (後期リーグのためにチームの再編成)
2	後期リーグ戦前の予備試合 (後期リーグのためにチームの再編成)
3	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
4	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
5	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
6	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
7	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
8	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
9	後期リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
10	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
11	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
12	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
備考	

科目名	体育 (バスケットボール)	担当者名	檜山 康
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>①バスケットボールの特性を知り、自分たちの技能に応じた攻め方、守り方とルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <p>②マナーや安全の大切さを知って、楽しく学習が進められるようにする。</p>	
講義概要	<p>①やさしいルールで、速攻や、守備のあいているスペースをつく攻撃と、マンツーマン防御によるゲームを楽しむ。</p> <p>②工夫したルールで、ギブアンドゴープレイやスクリーンプレイなどを用いた攻撃と、互いに協力し合うマンツーマン防御やゾーン防御でゲームを楽しむ。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によっては簡単なレポートを課すこともある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>室内シューズを必ず着用のこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	1年間の授業内容の説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
3	パスの方法と速攻の練習。速攻を生かしたゲーム。
4	パスの方法と速攻の練習。速攻を生かしたゲーム。チームは固定せず、編成を変えながらゲームを行う。
5	ショットの方法について① レイアップショットとランニングショット。ショットの方法に注意してゲームを行う。
6	ショットの方法について② ジャンプショットとターンショットなど。ショットの方法に注意してゲームを行う。
7	ディフェンスの方法について① マンツーマン・ディフェンスについて。
8	ディフェンスの方法について② ゾーン・ディフェンスについて。
9	ディフェンスの方法について③ マンツーマンとゾーンを使い分ける。
10	リーグ戦① (チーム固定) 班別、チーム別練習
11	リーグ戦② 班別、チーム別練習
12	リーグ戦③ 班別、チーム別練習
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム分け。試しのゲーム
2	オフェンスの方法① カットインプレイ
3	オフェンスの方法② スクリーンプレイ (インサイド、アウトサイド)
4	オフェンスの方法③ 3人で行うスクリーンプレイ
5	オフェンスの方法④ ハイポストからの攻撃
6	3対2の攻防 今までのオフェンスの方法を組み合わせる。
7	練習ゲーム① スクリーンプレイ、ゾーンディフェンス、3点シュート制などを取り入れて、力が同じ程度のチームにくり返し挑戦する。
8	練習ゲーム②
9	リーグ戦①
10	リーグ戦②
11	リーグ戦③
12	リーグ戦④
備考	

科目名	体育 (バドミントン)	担当者名	梶野克之
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、バドミントンの基本的なプレーの練習を通して、身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合方法を理解して実践できるようにするとともに、審判法についても十分に理解し、進んで審判ができるようにする。バドミントンの全般的な理解とともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標としたい。</p>	
講義概要	<p>バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合を実施し、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習したプレーが生かせるようにするとともに、課題を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判をつとめるとともに、ゲームの進行にも関心を持ち、授業が円滑に進行するように努力する。</p>	
使用教材	テキスト	使用しない。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『やさしいバドミントンレッスン』、相沢マチ子、1983、ベースボールマガジン社 ・『基本レッスンバドミントン』、阿部一佳、渡辺雅弘、1985、大修館書店
評価方法	<p>評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎回出席を原則とし、毎週新しい技術の習得を目指したい。より効果をあげるために出席して、努力してほしい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーに近づける。
3	前回は練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーの構えから、シャトルをコントロールしてネット際に落とすドロップを学ぶ。
4	前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行いが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を学ぶ。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び、練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解も深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育 (バドミントンⅡ)	担当者名	梶野克之
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>バドミントンの授業を受講した者や経験者を対象とした授業としたい。バドミントンの各種のプレーの練習を通して、身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合を実践することを通して技術の向上とともに、審判法についても理解を深める。バドミントンをより深く理解するとともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせることを目標としたい。</p>	
講義概要	<p>バドミントンについてのルールや技術についてより深い理解をする。各種のストロークの正確性をより向上させる。シングルス・ダブルスの試合を実施し、ゲーム中でのプレーについて反省し課題の克服を目指す。より高いレベルのゲームを求めて練習に取り組む。審判を進んで実施するとともに、全体の進行状況にも関心をもち、ゲーム・授業が円滑に進行するように心掛ける。</p>	
使用教材	テキスト	<p>使用しない。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『基本レッスンバドミントン』、阿部一佳渡辺雅弘、1985、大修館書店 ・『ウィニングバドミントン [シングルス]』 ・『ウィニングバドミントン [ダブルス]』、阿部一佳他訳、Jake Downey、1990、大修館書店
評価方法	<p>評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>より効果的な授業とするために、毎回の出席を原則とする。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリアーに近づける。
3	前週に練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリアーに発展させる。ハイクリアーの構えから、シャトルをコントロールしてネット際に落とすドロップを学ぶ。
4	前週までのクリアー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行すが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前週までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を学ぶ。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前週までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前週までのストロークを課題をきめて練習する。前週に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度の参考とする。
8	前週までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスのゲームを実施する。
9	前週までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前週に続いて正規のシングルスのゲームを実施する。
10	前週までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリアーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前週までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び、練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解も深める。
12	前週までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前週に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリアーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリアーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリアーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリアーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育 (バレーボール)	担当者名	小 俣 充
-----	-------------	------	-------

講義の目標	バレーボールの面白さの経験とそれによる運動欲求の充足を目指す。また自らの努力と、他の努力を促すことによりチームの仲間意識（存在意識）を育む。		
講義概要	ゲームに向けた基礎とその動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。また基礎を簡潔にまとめ、その動作を繰り返し練習する。続いてリーグ戦を行い、勝つことを目指して力を合わせ気持ちを集中し、その楽しさと充足感を体験する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	1 スポーツとルールの社会学 守能信次著、名古屋大学出版会 2 スポーツ・人間・社会 ライナー・マートンズ、ベースボール・マガジン社 3 人と人との間 木村 敏、弘文堂	
評価方法	出席回数をベースにし、どれほど自ら努力しまた他の努力を促したかにより評価。		
受講者に対する要望など	バレーボールを面白くするためにバレーボール経験者（運動部）の受講を多少優遇することがある。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
2	基本技術と動きの反復練習。運動量と脈搏・呼吸の関係の理解。プレーしながらの発声の徹底。
3	チーム分け。ゲームでのポジション確定へのプロセスに導入。 : 固定ポジションとローテーション
4	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
5	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
6	ポジション確定。ゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1
8	リーグ戦その2
9	リーグ戦その3
10	リーグ戦その4
11	リーグ戦その5
12	順位決定戦と前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏季休業中のスポーツ・レクリエーション活動実態調査。授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。
2	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
3	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
4	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
5	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
6	ローテーションでのゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1 (固定およびローテーション)
8	リーグ戦その2 (上に同じ)
9	リーグ戦その3 (上に同じ)
10	リーグ戦その4 (上に同じ)
11	リーグ戦その5 (上に同じ)
12	順位決定戦と後期のまとめ。
備考	

科目名	体育 (バレーボール)	担当者名	中 沢 克 江
-----	-------------	------	---------

講義の目標	<p>バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本的技術、ルール等を学びながら、体を動かし、チームワークを養う。</p> <p>チームプレーの中で自分の役割を考え、受講生同士の親睦を図る。</p>	
講義概要	<p>基本的技術の習得。</p> <p>ルールの理解。</p> <p>ゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期のゲーム：受講生の親睦を深めるため、チームの編成は毎週変更する。 技術レベル別、男女混合などのゲームも行う。 ・後期のゲーム：4週目までは前期と同じ。 5週目からは、メンバー編成固定でリーグ戦を行う。 	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。</p> <p>受講態度の中には、服装も対象とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講すること。</p> <p>体育館専用シューズを用意すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス
3	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス トス 簡易ゲーム
4	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 簡易ゲーム
5	基本応用技術：サーブレシーブ等 簡易ゲーム
6	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは毎週変更する。 ゲーム
7	ゲーム
8	ゲーム
9	ゲーム
10	ゲーム
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 基本応用技術：サーブレシーブ等
2	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは4週目まで毎週変更。 ゲーム
3	ゲーム
4	ゲーム
5	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦 ・チームの構成メンバーを固定し、リーグ戦を行う。
6	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
7	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
8	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
9	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
10	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

科目名	体育 (フリースポーツ)	担当者名	土井浩信
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>様々なレクリエーションスポーツ、軽スポーツ、ニュースポーツに挑戦し、自分にとっての生涯スポーツの目的を考える。スポーツの楽しさについても掘り下げて考えていきたい。</p>	
講義概要	<p>屋外で出来る軽スポーツやニュースポーツの方法について実践的な学習をする。若者の運動負荷の高い種目からハンディーキャップスポーツ、シルバースポーツ種目まで、各々の特性に応じた楽しみ方を学ぶことになる。</p> <p>これまでに体験したことのないスポーツ種目が多いから、その方法や技術についての学習が中心にならざるを得ないが、出来るなら、自分達でレクリエーションゲームやニュースポーツの創作に挑戦したい。</p>	
使用教材	テキスト	なし。指導 VTR 等の視聴覚教材を使用する場合もある。
	参考文献	なし。
評価方法	授業への出席度とレポートによる評価。	
受講者に対する要望など	かなりハードな種目にも挑戦するので、それなりの服装に留意すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成
2	フライングディスク (フリスビー)。 基本練習 (スローイング、キャッチング)。コントロール投の練習。
3	フライングディスク (フリスビー) アルテミット (※フリスビーゲーム) のルール、競技方法の説明。グループ分け。
4	フライングディスク (フリスビー) アルテミット、チーム対抗ゲーム
5	フライングディスク (フリスビー) アルテミット、チーム対抗ゲーム。ガッツ (※フリスビーゲーム) 説明。
6	一輪車 一輪車の扱い方。一輪車乗りこえ練習。一輪車乗車姿勢、半回転前進とリカバリー連続動作の練習。
7	一輪車 一輪車の補助の仕方。三人一組のグループ分け。補助者付き前進練習。 経験者には別途指示。
8	一輪車 一輪車の有効な失敗体験。補助なし前進 5 m に挑戦。 経験者は補助なし乗車練習。
9	一輪車 補助なし10 m に挑戦。補助者付き連続乗車400 m。
10	一輪車 補助なし全員10 m 前進乗車達成。
11	一輪車 補助なし乗車 (乗り方) の基本練習。横乗り乗車、ケリ上げ乗車への挑戦。
12	前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ベタンク ベタンクのルール、競技方法の学習。チーム分け練習。
2	ベタンク チーム対抗ゲーム。安全指導。
3	ベタンク チーム対抗ゲーム。
4	ゲートボール ゲートボールのルール、競技方法の学習。打球の基本練習。
5	ゲートボール コートの作り方、競技の運営方法。作戦のたて方。
6	ゲートボール チーム対抗ゲーム
7	ターゲットバードゴルフ 基本のスウィング練習。安全の為にルールとマナー。
8	ターゲットバードゴルフ 基本練習。コース作りの方法。簡単なゲーム。
9	ターゲットバードゴルフ コース作りとゲーム。
10	フットバッグ VTR 指導。フットバッグ的な世界のスポーツについて。
11	フットバッグ 連続リフティング 5 回以上に挑戦。グループリフティング。
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育（フリースポーツ）	担当者名	檜山 康
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>様々なスポーツ活動を通して、スポーツの楽しさを知り、スポーツ文化に触れることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>主に球技を主体とした種目を中心に授業を行っていく。具体的には、バスケットボール、ハンドボール、サロンフットボール、バレーボールを考えている。それぞれの種目を5～6回の授業で交代していき、半期で2種目行えるように考えている。種目は異なるが、球技共通の特性について解説していくつもりである。内容的にはゲーム中心で行うが、ゲームの中から特性について学べればと思っている。楽しめる授業にしたい。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によっては簡単なレポートを課すこともある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>室内で行う時は、必ず室内シューズ着用のこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	バスケットボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
3	パスの方法とショットの方法。 速攻を生かしたゲームを行う。
4	ショットの方法について レイアップショットとランニングショット ショットの方法に注意してゲームを行う。
5	リーグ戦① (チーム固定)
6	リーグ戦②
7	リーグ戦③
8	ハンドボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム
9	パスとショットの方法。 速攻を生かしたゲームを行う。
10	リーグ戦① ゲームを行いながらルールを確認していく。
11	リーグ戦②
12	リーグ戦③
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	サロンフットボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
2	基本戦術の説明 パスアンドゴー、まわりを見る、ボールに寄るなど
3	チーム戦術の説明。 トライアングル、コーチングなど
4	リーグ戦① ゲームを行いながらルール、戦術の確認をしていく。
5	リーグ戦②
6	リーグ戦③
7	バレーボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
8	パスの方法とレシーブの方法 アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、レシーブを確実にし、ラリーの続くゲームを行う。
9	スパイクの方法 トスをオープンにあげて、スパイクを行う。簡単なオープンからの攻撃を行い、ゲームができるようにする。
10	リーグ戦① ゲームを行いながらルール、戦術の確認をしていく。
11	リーグ戦②
12	リーグ戦③
備考	

科目名	体 育 フリスビー（前期） ウィンドサーフィン（集中授業）	担当者名	和 田 智
-----	-------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>前期フリスビーでは、基本的なスローイング技術の習得とアルテミットというゲームを楽しむためのルール・チームの動きを学習してもらう。</p> <p>集中授業ウィンドサーフィンでは、ウィンドサーフィンに関する知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。 ・フリスビー、ウィンドサーフィン未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。 ・用具類はすべて大学で用意している。 ・ウィンドサーフィンは、必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として28000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 ・ウィンドサーフィンの技術進歩は、天候に大きく左右される。 <p>集中授業は、期間：平成7年9月12日（火）～17日（土）4泊5日 場所：千葉県館山市獨協学園館山海の家の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	霜山厚、『ボードセイリングマスター』、マリン企画	
	参考文献		
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション
2	フリスビー・ディスクの基本的スローとキャッチ
3	バックハンドスローの練習 その1
4	バックハンドスローの練習 その2
5	サイドアームスローの練習 その1
6	サイドアームスローの練習 その2
7	アルテミットのルールとミニゲーム
8	アルテミットリーグ戦
9	アルテミットリーグ戦
10	アルテミットリーグ戦
11	アルテミットリーグ戦
12	ウインドサーフィンのオリエンテーション
備考	

後期

週	主要テーマ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 (ラグビー)	担当者名	天野和彦
-----	-----------	------	------

講義の目標	ラグビーの技術、戦術の基礎を習得する。また、ルールを理解とゲームの展開方法を学習する。	
講義概要	安全に留意しながら、最終的には、15人制のゲームができるようにする。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。	
受講者に対する要望など	できる限りスパイクを用意すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラグビーの個人技術を学ぶ①
3	ラグビーの個人技術を学ぶ②
4	ラグビーの個人技術を学ぶ③
5	ラグビーの個人技術を学ぶ④
6	ラグビーの集団技術を学ぶ①
7	ラグビーの集団技術を学ぶ②
8	ラグビーの集団技術を学ぶ③
9	ラグビーの集団技術を学ぶ④
10	フォワードの戦術①
11	バックスの戦術①
12	ゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	フォワードの戦術② スクラムからの攻撃と防御
2	フォワードの戦術③ ラインアウト、モール・ラックからの攻撃と防御
3	バックスの戦術② パスによる攻撃と防御
4	バックスの戦術③ キックによる攻撃と防御
5	フォワード、バックスが一体となった動き①
6	フォワード、バックスが一体となった動き②
7	フォワード、バックスが一体となった動き③
8	いろいろな状況からの攻撃と防御①
9	いろいろな状況からの攻撃と防御②
10	ゲーム
11	ゲーム
12	ゲーム
備考	

科目名	体育（ラグビー）	担当者名	中川 昭
-----	----------	------	------

講義の目標	ラグビーの技能を習得し、ゲームをエンジョイする。併せて、体力の向上を図る。		
講義概要	前期は身体接触のないタッチラグビーを行う。後期から徐々にコンタクト技術の練習を行い、最終的には15人制の正規の試合を行う。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席を重視し、技能の伸びや授業中の態度等を加味する。		
受講者に対する要望など	スパイク（サッカー・ラグビー用）をできるだけ用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
3	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
4	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
5	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
6	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
7	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
8	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
9	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
10	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
11	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
12	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
2	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
3	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
4	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
5	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
6	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
7	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
8	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
9	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
10	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
11	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
12	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
備考	

科目名	体育理論	担当者名	井上文孝
-----	------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、「健康・体力と運動」を主たるテーマとして、健康論、健康のための運動法、基礎体力養成法、運動障害の基礎知識と処置について展開し、生涯にわたる健康管理の一助となることをねらいとする。</p>	
講義概要	<p>講義概要の主なる項目は次の通りである。 ○現代社会における健康観 ○現在の社会環境と健康 ○現代社会における健康に関する問題点と健康対策 ○現代社会における運動の必要性と体力 ○各年齢段階に応じた体力と運動 ○基礎体力養成のためのトレーニング法 ○トレーニングプログラムの作成 ○運動障害の基礎知識と救急処置について</p>	
使用教材	テキスト	・井上文孝『生涯健康と運動』鳳書房
	参考文献	
評価方法	<p>評価は、毎授業時における小テスト50%、期末のレポート50%により決定する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期 (半期完結科目)

週	主 要 テ ー マ
1	(1)講義概要の説明 (2)現代社会における健康観 (3)現在の社会環境と健康 以上3項目についての説明と考察をする。(教科書pp.1-19)
2	(1)現代社会における健康に関する問題点 (2)現代社会における健康対策と健康管理 以上2項目について考察する。(教科書pp.20-33)
3	(1)現代社会における運動の必要性和体力について (2)各年齢段階に応じた体力と運動 以上2項目について考察・検討する。(教科書pp.72-90)
4	(1)健康のための運動法についての考察 (2)各自の運動法についての検討。(教科書pp.91-92と資料)
5	基礎体力養成のためのトレーニング法 (1)トレーニングの原則 (2)トレーニング内容 以上2項目について考察する。(教科書pp.72-90)
6	基礎体力養成のためのトレーニング法 (1)柔軟性養成 (2)筋力養成 以上2項目のトレーニングについて考察する。(教科書pp.99-120)
7	基礎体力養成のためのトレーニング法 持久力養成のトレーニングについて考察する。(教科書pp.121-136)
8	各自の体力や能力に応じたトレーニングプログラムを作成する。(教科書pp.137-140)
9	運動障害の基礎知識 (1)外傷について (2)障害について 以上2項目について考察する。(教科書pp.141-144と資料)
10	運動障害の基礎知識 運動障害と救急処置について(その1) (教科書pp.144-156)
11	運動障害の基礎知識 運動障害と救急処置について(その2) (教科書pp.156-168)
12	授業のまとめとレポートテーマの発表を行う。
備考	

後 期 (半期完結科目)

週	主 要 テ ー マ
1	(1)講義概要の説明 (2)現代社会における健康観 (3)現在の社会環境と健康 以上3項目についての説明と考察をする。(教科書pp.1-19)
2	(1)現代社会における健康に関する問題点 (2)現代社会における健康対策と健康管理 以上2項目について考察する。(教科書pp.20-33)
3	(1)現代社会における運動の必要性和体力について (2)各年齢段階に応じた体力と運動 以上2項目について考察・検討する。(教科書pp.72-90)
4	(1)健康のための運動法についての考察 (2)各自の運動法についての検討。(教科書pp.91-92と資料)
5	基礎体力養成のためのトレーニング法 (1)トレーニングの原則 (2)トレーニング内容 以上2項目について考察する。(教科書pp.72-90)
6	基礎体力養成のためのトレーニング法 (1)柔軟性養成 (2)筋力養成 以上2項目のトレーニングについて考察する。(教科書pp.99-120)
7	基礎体力養成のためのトレーニング法 持久力養成のトレーニングについて考察する。(教科書pp.121-136)
8	各自の体力や能力に応じたトレーニングプログラムを作成する。(教科書pp.137-140)
9	運動障害の基礎知識 (1)外傷について (2)障害について 以上2項目について考察する。(教科書pp.141-144と資料)
10	運動障害の基礎知識 運動障害と救急処置について(その1) (教科書pp.144-156)
11	運動障害の基礎知識 運動障害と救急処置について(その2) (教科書pp.156-168)
12	授業のまとめとレポートテーマの発表を行う。
備考	

科目名	体育理論	担当者名	勝 瀬 武
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>近年、機械化、自動化は年毎に進み、そのうえ車社会の発展は日常生活において体を動かすことを少なくしています。そこで本講義は、健康の維持、増進を目的とした、主として生涯スポーツについての講義を行う。</p>		
講義概要	<p>教室における講義のほか、自転車エルゴメータを使用して、各個人の自己体力を把握し、自分が将来健康な生活を送るための運動処方を作成する。また、運動障害における救急処置の方法を習ぶ。たとえば、ケガ予防あるいは応急処置としてのテーピングの技術を習得するなどスポーツ医学面の実習も行う予定である。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	<p>評価は筆記テストにおいて60点以上を合格とする。また、授業に参加することを原則とし、1/3以上の欠席者は受験停止とする。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期 (半期完結科目)

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (講義概要ならびに評価についての説明)
2	運動の必要性
3	運動障害と救急処置
4	テーピングの理論
5	テーピングの実際 (実習)
6	健康と運動
7	肥満と運動
8	生涯スポーツ
9	体力トレーニング
10	体力診断テスト (自転車エルゴメータを用いての自己体力の把握)
11	運動処方作成
12	総合テスト (筆記試験)
備考	

後 期 (半期完結科目)

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (講義概要ならびに評価についての説明)
2	運動の必要性
3	運動障害と救急処置
4	テーピングの理論
5	テーピングの実際 (実習)
6	健康と運動
7	肥満と運動
8	生涯スポーツ
9	体力トレーニング
10	体力診断テスト (自転車エルゴメータを用いての自己体力の把握)
11	運動処方作成
12	総合テスト (筆記試験)
備考	

科目名	体育理論	担当者名	土井浩信
-----	------	------	------

講義の目標	<p>体育について正しい認識をしている人は少ない。学校教師でさえ、学校教育における体育が、体力運動技能習得の場と短絡的に認識している者が多い。こうした実情を踏まえて、身近な問題から「体育とは何か」を考察していく。</p>		
講義概要	<p>講義全体を通してのキーワードは「人間」「教育」である。青年期の健康問題を、身近な問題点から明らかにしながら、人間の生き方に関わる体育というものを考えさせていく。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	なし	
評価方法	<p>授業への出席度とレポート試験による評価。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業開始から15分を経た後の出席は認めない。授業開始後15分以内であれば遅刻扱いとする。</p>		

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カードの作成。
2	やせる、ふとる、脂肪沈着のとらえ方考え方。スポーツ選手は健康か。
3	肥満と運動。体格と体型と性格。肥満のとらえ方考え方。
4	消化吸収能、基礎代謝について。1日の基礎代謝量の計算。
5	有酸素、無酸素運動の効用。筋肉の性質。疲労のメカニズム。
6	人間の体力とは。体力の概念。自分の体力分析。
7	運動の心理と生理、技能習得のメカニズム。
8	知性と情性を結ぶもの。体育は道徳か。
9	学識教育、技能教育、人間教育の視点。「視、観、察」について。
10	上記のつづき。
11	生涯スポーツ、野外スポーツ、体育の原点について。福祉と体育の関係。
12	講義のまとめ。レポート提出。
備考	

科目名	体育理論	担当者名	本田稔祐
-----	------	------	------

講義の目標	運動不足により起る障害を考え、運動の必要性と、習慣を身につけてもらう事。	
講義概要	運動不足が、からだに及ぼす影響について考え、将来健康を維持していくためには、どのような運動を、どのように実施したら良いかを考え必要な点は、板書をして説明していく。	
使用教材	テキスト	なし。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・大学保健体育会研究会編『大学生の体育と保健』道和書院 ・大学体育研究会編『保健体育概論』教育の科学社 ・福岡スポーツ研究所編『健康スポーツライフ』スキージャーナル
評価方法	授業への出席度と、レポートにより評価する。尚授業を4回以上欠席した者は、レポートを提出しても単位の認定はしない。	
受講者に対する要望など	遅刻をしないことと、前の方の座席を空けないこと。	

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	講義計画と内容の説明 ビデオを見て運動不足が及ぼす影響を理解する。
2	日常生活の中での運動と、運動の概念について。
3	運動不足による、体力、機能など生体の変化。
4	運動不足による、疾病、障害及びその症状について。
5	運動不足を解消するため、日常生活ではどうすれば良いか、また余暇の有効利用について考える。
6	運動の種類と健康との関係、健康スポーツに適した運動種目について。
7	健康スポーツの実施方法
8	体力と体格のちがいと、その概念。
9	体力づくりのための、健康的なトレーニングの実施方法。
10	運動と、呼吸、循環の関係、心拍数、呼吸数などについて。
11	運動をする際の筋肉と神経のかかわりについて。
12	運動と疲労 授業のまとめと、レポートのテーマの発表。
備考	

科目名	体育理論	担当者名	松本光弘
-----	------	------	------

講義の目標	<p>人間の運動の発生のメカニズムを知ることにより、日常生活の在り方等について学生各自が自己点検できるようになることを目標とする。</p> <p>又、後半ではJリーグに関わる課題について取り扱い、現代のスポーツが社会的でいかなる位置におかれているかを検討する。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	・浅見俊雄著『スポーツトレーニング』朝倉書房	
評価方法	出席状況と数回のレポートによって評価する。		
受講者に対する要望など	特になし		

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	調査書記入、講義の概要の説明
2	筋肉の収縮と骨格の動き
3	筋肉を構成する3つの筋線維
4	人間の筋線維組成の推定
5	エネルギーの流れ
6	酸素を必要としない運動
7	酸素を必要とする運動
8	Jリーグの設立の経緯
9	Jリーグの選手、指導者の立場
10	Jリーグの経済学
11	スポーツ（サッカー）と生活
12	世界のサッカー
備考	

科目名	体育理論	担当者名	山中邦夫
-----	------	------	------

講義の目標	スポーツとは何か。スポーツと人間のかかわり方を理解し、各自の今後のスポーツ活動の向上や発展のための、何らかの知識や指針を得ること。	
講義概要	人間とスポーツのかかわり方をテーマに、スポーツに関連する諸科学的知識や結果について検討することを中心とする。特にチームスポーツを対象とし、技術・戦術・体力論的観点からの各種の測定・評価・分析結果を材とし、スポーツのトレーニング法について論じる。また、コンピュータやVTRを用いた分析結果も紹介する。	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	授業時に、紹介する。
評価方法	出席状況とテストにより評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前期・後期共通（半期完結科目）

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	スポーツ、スポーツマン、スポーツマンシップとは スポーツ技術や戦術の歴史の変遷 スポーツ人口と競技力
3	スポーツのルール、競争、トレーニングについて スポーツのルールと審判法
4	スポーツ競技における三要素について
5	スポーツ種目と体力要素
6	チームスポーツにおけるプレーのスタイルとシステムについて
7	スポーツトレーニングプログラム作成方法（1） 概要について
8	スポーツトレーニングプログラム作成方法（2） 具体例について
9	スポーツマンと心理 セルフコントロールについて メンタルトレーニングおよびメンタルリハーサルについて
10	チームスポーツにおける管理運営法について 組織の戦略と戦術とコーチングスタッフ
11	スポーツにおけるデータ管理とQC手法
12	テスト
備考	

科目名	体育理論	担当者名	吉田卓司
-----	------	------	------

講義の目標	<p>現在、我国は、男女ともに世界一の長寿国であり、高齢者社会になっている。本講義は、運動生理学の観点から基本的知識や正しい運動処方、生涯スポーツなどを通して、健康でより美しく老ゆるためには、どのようにしたら良いかを学習する。</p>		
講義概要	<p>体育理論の概要は、「健康、体力と運動」を中心に展開し、健康観、体力の構成、体力養成のためのトレーニング方法、正しい運動処方、スポーツと栄養、運動不足による肥満とその対策など、全般的に幅広く講義する予定である。また、長期間、運動することによって、形態的变化や機能的变化が起るスポーツ障害やスポーツ外傷の原因・テーピングの理論と実際について実習する。この講義が、学生諸君の健康維持・増進や安全対策に役立てば幸いであると考えている。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献	必要に応じて、資料を準備する。	
評価方法	<p>テストの点数と出席状況から出席点を加味して、総合評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期 (半期完結科目)

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	健康と体力について
3	運動は必要か？
4	トレーニング法について
5	運動処方
6	スポーツと栄養 肥満の対策について
7	W-up と cooling down の生理
8	スポーツ障害について
9	スポーツ心理 (あがり、slump)
10	テーピングの理論と実際
11	生涯スポーツ
12	まとめ
備考	

後 期 (半期完結科目)

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	健康と体力について
3	運動は必要か？
4	トレーニング法について
5	運動処方
6	スポーツと栄養 肥満の対策について
7	W-up と cooling down の生理
8	スポーツ障害について
9	スポーツ心理 (あがり、slump)
10	テーピングの理論と実際
11	生涯スポーツ
12	まとめ
備考	

科目名	体育理論	担当者名	和気秀文
-----	------	------	------

講義の目標	解剖生理学および運動生理学の基礎を学ぶと共に、運動不足が身体に及ぼす影響について理解し、健康の保持・増進を目的とした定期的な運動を行うための知識と態度を身につけることを本講義の目的とする。また、健康維持だけではなく、競技力向上を目的とした運動処方についても学習する。	
講義概要	まず最初に、解剖生理学の基礎として、神経系、呼吸循環器系、消化器系、内分泌系等について、運動生理学の基礎として、骨格筋収縮の機序、エネルギー代謝、運動と呼吸循環器系について学習する。次いで、安静臥床や宇宙飛行等による身体不活動の影響について学習し、運動不足が健康の減退をもたらすことについて理解する。そして成人病予防やダイエットなど健康の保持・増進を目的とした運動処方や、高血圧、糖尿病、虚血性心疾患、高脂血症患者に対する運動療法の実際について学習する。そして講義の後半には、サッカー、テニス等の各種競技の競技力向上を目的とした運動トレーニングの方法についても学習する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	評価は、筆記試験と授業への参加度によって決定する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期 (半期完結科目)

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明。解剖生理学の基礎について論じる。
2	解剖生理学の基礎について論じる。
3	運動生理学の基礎 (骨格筋の収縮メカニズム) について論じる。
4	運動生理学の基礎 (運動とエネルギー代謝) について論じる。
5	上記に同じ。
6	運動生理学の基礎 (運動と呼吸循環器系) について論じる。
7	上記に同じ。
8	運動不足および定期的な運動が身体に及ぼす影響について論じ、健康の保持・増進のための運動処方について学習する。
9	成人病予防のための運動処方および成人病患者に対する運動療法について論じる。
10	減量 (ダイエット) のための運動処方について論じる。
11	競技力向上のための運動処方 (筋力トレーニング) について論じる。
12	競技力向上のための運動処方 (エネルギー出力系を高めるトレーニング) について論じる。
備考	

後 期 (半期完結科目)

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明。解剖生理学の基礎について論じる。
2	解剖生理学の基礎について論じる。
3	運動生理学の基礎 (骨格筋の収縮メカニズム) について論じる。
4	運動生理学の基礎 (運動とエネルギー代謝) について論じる。
5	上記に同じ。
6	運動生理学の基礎 (運動と呼吸循環器系) について論じる。
7	上記に同じ。
8	運動不足および定期的な運動が身体に及ぼす影響について論じ、健康の保持・増進のための運動処方について学習する。
9	成人病予防のための運動処方および成人病患者に対する運動療法について論じる。
10	減量 (ダイエット) のための運動処方について論じる。
11	競技力向上のための運動処方 (筋力トレーニング) について論じる。
12	競技力向上のための運動処方 (エネルギー出力系を高めるトレーニング) について論じる。
備考	

科目名	体育理論	担当者名	和田 智
-----	------	------	------

講義の目標	<p>人生80年時代において労働時間は人生の1割、自由時間は2～3割へと増えつつある。現在から将来に向けて、この自由時間をいかに有効に使えるかが人生にとって重要な課題となるだろう。そこでこのクラスでは、自由時間をレジャーという観点からとらえ、自分のレジャーの将来像を考えていきたい。</p>		
講義概要	<p>自由時間について、さまざま考え方を紹介し、各自の考え方を作文にまとめてもらう。また、レジャー実習として実際に体を動かしてもらうこともある。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に指定しない</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・中野孝次、『清貧の思想』、草思社 ・松田義幸他、『人生80年時代のライフスタイル』、日経マーケディア ・ミヒャエル・エンデ（大島かおり訳）、『モモ』、岩波書店 	
評価方法	<p>出席状況（40%）、テストの成績（60%）で評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期 (半期完結科目)

週	主 要 テ ー マ
1	なぜ自由時間について考えることが大切なのか
2	自由時間の意味の変遷
3	自由時間の現状
4	レジャーとレクリエーション
5	わたしの自由時間の過ごし方
6	わたしの自由時間の過ごし方
7	レジャー実習 その1
8	レジャーとライフスタイル
9	レジャーの実践のための手順
10	レジャー実習 その2
11	わたしのレジャーライフの創造
12	わたしのレジャーライフの創造
備考	

後 期 (半期完結科目)

週	主 要 テ ー マ
1	なぜ自由時間について考えることが大切なのか
2	自由時間の意味の変遷
3	自由時間の現状
4	レジャーとレクリエーション
5	わたしの自由時間の過ごし方
6	わたしの自由時間の過ごし方
7	レジャー実習 その1
8	レジャーとライフスタイル
9	レジャーの実践のための手順
10	レジャー実習 その2
11	わたしのレジャーライフの創造
12	わたしのレジャーライフの創造
備考	

科目名	経済学	担当者名	小林 進
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>最近では経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば若い人の多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できないことが憂慮される事態が少なからず生じている。新入生を対象にしたこの講義では経済学の必要性を十分に理解できるように講義を進める。またカレントな経済の話題を通じて経済学への関心を高めるようにして経済学への一層の興味を持てるようにしたい。</p>		
講義概要	<p>マクロ経済学を前半にそして後半はミクロ経済学の初歩的概念を講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>テキストなし</p>	
	参考文献	<p>講義の中で適時に指示する。</p>	
評価方法	<p>前期と後期の二回の試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

I. マクロ経済学

国民所得概念

付加価値の定義 (単なる所有権の移転だけでは変化しないことに注意)

GNP = 雇業者所得 (賃金) + 営業余剰 (利潤) + (間接税 - 補助金) + 資本減耗分

GNP - 資本減耗分 = NNP (資本減耗分 = 減価償却費)

GNP と GDP (国内総生産) の相違 (海外からの要素所得 - 海外への要素所得)

GNP = C + I + G + X - Q (総需要)

(C: 消費, I: 投資, G: 政府支出, X: 輸出, Q: 輸入)

主婦の労働と農家の自家消費は国民所得に含まれるか?

消費関数 $C = cY + A$ の性質

限界消費性向 $c = \frac{\Delta C}{\Delta Y}$ ($0 < c < 1$ の経済的意味に注意)

貯蓄の定義及び貯蓄関数

国民所得の決定 I. 単純モデル ($Y = C + I$)

① 代数解

$$Y = \frac{1}{1-c} (A + I)$$

② 45度線図による理解

③ 貯蓄と投資の均等による図からの理解

(投資) 乗数理論

$$\Delta Y = \frac{1}{1-c} \Delta Y$$

生産関数 $Y = F(K, N)$ (Kは資本, Nは労働)

短期生産関数 $Y = f(N)$ (Kは短期では一定と見なす)

インフレギャップとデフレギャップ

(完全雇用時の国民所得 Y と現実の国民所得の乖離)

国民所得の決定 II. 政府を含むモデル ($Y = C + I + G$)

可処分所得 $Y^d = Y - T$

貯蓄と投資の関数式 $I = S + (T - G)$

均衡予算乗数は 1 ($\Delta Y = \Delta G$)

貯蓄のパラドックス (貯蓄は美德か?)

マネタリストの主張 (大恐慌の原因は貨幣量の異常な縮小)

資本の限界効率と投資関数

IS 曲線とその右下がりの性質

貨幣需要関数と LM 曲線

IS-LM 曲線と経済政策の有効性

貨幣数量説 (フィッシャーの交換方程式とケンブリッジ残高方程式)

マーシャルの K といわゆる「カネ余り」の問題

$$\frac{\Delta M}{M} = \frac{\Delta k}{k} + \frac{\Delta p}{p} + \frac{\Delta y}{y} \quad (y: \text{実質国民所得})$$

短期及び長期のフィリップス曲線

II. ミクロ経済学

経済主体 (消費者及び企業) の合理的行動 → 最大化行動

・ 消費者行動

効用関数

無差別曲線

限界代替率 (MRS) 逡減の経済的意味

予算線

最適消費点 → MRS = 価格比

所得効果、上級財 (正常財)、下級財 (劣等財)

価格変化と代替効果

下級財の特殊例としてのギッフェン財

個別需要曲線の導出

需要の価格弾力性

豊作貧乏の理論的理解

・ 企業の理論

総費用 (TC) = 可変費用 (VC) + 固定費用 (FC)

平均費用 (AC) と限界費用 (MC) の関係 (平均概念と限界概念の把握)

利潤最大条件 → 価格 $P = MC$

個別供給曲線の導出

科目名	経済学	担当者名	高橋 房二
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>本講においては講義を通じて経済学に関する入門段階としての必要な基礎知識を与え、その理解のうえにたって経済学一般に関する基礎学力の育成をはかる。その場合、あわせて経済学的な考え方と見方、経済問題についての取り組み方の基礎を与える。</p>		
講義概要	<p>この講義においては経済学入門段階としての経済学一般、すなわちマクロ経済学とミクロ経済学の基礎が取り扱われる。初めに、その導入として資本主義経済とその特質について説明し、ついで経済学の発展に寄与した若干の経済学者の主な議論を簡単にとりあげる。つぎに、実際に主な国々の経済でみられる傾向や特長について述べる。そのあと、経済分析の基本的な手法や方法論について講義される。つぎの段階として、経済理論に進み、まず、マクロ経済学的な視点から、消費、貯蓄、投資の問題や貨幣の諸関係を取り扱い、さらに成長、インフレ、失業等の問題についてふれる。ついで、ミクロ経済学の視点から、消費に関連する様々の問題が述べられ、そして生産と費用に関する議論の展開がなされる。</p>		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	・サロー、ハイルブローナー、ガルブレイス、『現代経済学』(上・下) TBSブリタニカ、他。	
評価方法	定期試験、ミニテスト、出席状況。		
受講者に対する要望など	出席状況だけでなく、受講態度も問題にされる。教養レベルの経済学の評価のある書物に出来るだけ親しむようにつとめること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の内容とその展開についての概要と学習上の留意点の説明、資本主義経済とその特質。
2	経済学と代表的な若干の経済学者 A. スミス、K. マルクス、M. ケインズ等
3	経済分析における行動仮説と経済学における分析手法の基礎 関数関係、恒等関係、図と表、図解的分析、数学的分析等
4	経済における長期的な推移 経済成長、経済成長率、労働生産性の動き、所得分配の傾向、企業の動向、政府の動向
5	需要と供給 (I) 価格と行動、需要、需要曲線、需要法則、限界効用、消費者余剰、供給、供給曲線
6	需要と供給 (II) 需要と供給の均衡、均衡価格の成立とその特徴、超過需要、安定均衡、需要曲線と供給曲線のシフト、長期と短期の関係
7	国民所得 (I) 国内総生産、国内純生産、個人可処分所得、分配国民所得、生産、貯蓄、投資、最終消費、政府支出、純輸出
8	国民所得 (II) 貯蓄・投資の均衡、貯蓄曲線と投資曲線、単純な均衡国民所得の決定関係
9	公共支出と赤字財政 公共部門、財政赤字とその危険
10	家計の消費動向 消費の一般的性格、消費と所得の関係、平均消費性向、限界消費性向、消費関数
11	企業の投資行動 投資の一般的性格、投資需要、加速度原理、予想、資本の限界効率、投資の誘因
12	財の生産 投入・産出の関係、資本、労働、技術進歩、生産関数、生産可能性フロンティア、投入要素の最適結合
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	貨幣と経済システム (I) 貨幣、貨幣数量説とそのバリエーション、貨幣の流通速度等
2	貨幣と経済システム (II) ケインズの貨幣需要理論、ケインズ理論と貨幣数量説
3	インフレーション (I) インフレーション、デマンドプルインフレ、コストプッシュインフレ、スタグフレーション
4	インフレーション (II) 失業とインフレ、インフレーションの危険、インフレーションのコントロール
5	市場システム (I) 価格と配分、価格以外の割当て
6	市場システム (II) 需要の価格弾力性、価格弾力性と総収入、代替財、補完財
7	市場の失敗 公共財、外部性
8	競争的企業 (I) 完全競争、経済的利潤、企業者の最適化行動
9	競争的企業 (II) 短期費用、固定費用、可変費用、平均費用、限界費用、平均生産物、限界生産物、限界生産物逡減の法則
10	競争的企業 (III) 総収入、平均収入、限界収入、短期における利潤極大化
11	独占と寡占 純粋独占、独占価格、独占利潤、寡占、複占
12	貿易 貿易利益、比較優位、為替レート
備考	

科目名	経済学	担当者名	田村申一
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>この講義では、はじめて経済学に接し、これから勉強をはじめようとする学生が経済の動きに興味をもち、経済学の学習に意欲をもつキッカケをつくりたいと思います。経済学を学ぶうえで大事なことは、理論や学説を暗記することではなく、毎日の新聞の経済記事を読んで自分なりに理解し、考え、疑問をもち、解決への手掛りを探ることです。現実を生ずる経済問題に対処するためには、経済学的な考え方、分析の仕方を身につけることが必要です。経済が身近かで面白くなり、経済への興味が問題意識にまで高められ、経済の動きが読めるようになれば成功です。</p>	
講義概要	<p>経済に興味をもち、経済学アレルギーを起さないために、講義は原論的ではなく物語風に進めます。前半では、現代の代表的な経済学であり、現実の経済の動きに影響力が強いケインズ、ケインジアン、フリードマン、マネタリスト達が経済をどうとらえ、経済政策をどう考えたかを明らかにする中で経済学の理屈や流れを学びます。同時に、彼等が活躍した時代の経済的状况を把握し、経済学と経済の現実を絡めて織り混ぜながら説明します。後半には、わが国ばかりでなく世界的にも重要な今日の経済問題である経済成長と環境、財政赤字、国際通貨体制などをテーマにとりあげ、アメリカを中心として多角的に検討し、21世紀に向かう国際経済のメガトレンドを占ってみたいと思います。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・W.カール・ビブン著、斎藤精一郎訳『[物語・経済学] 誰がケインズを殺したか』日本経済新聞社、1990年、1,500円</p>
	参考文献	<p>・飯田経夫『経済学誕生』筑摩書房、1991年、1,600円 ・伊賀隆・菊本義治・藤原秀夫著『どちらが名医かマネタリストとケインジアン』有斐閣、1983年、1,400円 ・根井雅弘著『現代アメリカ経済学』岩波書店、1992年、2,000円 ・レスター・C.サロー著、佐藤隆三訳『デンジャラス・カレンツ』東洋経済新報社、1983年、1,800円</p>
評価方法	<p>成績評価は、前期のレポートと後期の試験との平均点を基準とし、これに出席状況を加味して決定します。前期レポート、後期試験のいずれか一方を欠いた場合は、単位を授与できません。前期レポートの提出期限は9月末日(教務課)、後期試験は定期試験の時間割で行います。</p>	
受講者に対する要望など	<p>欠席すると、話のつながりが分らなくなりますので、必ず出席して下さい。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	この講義の狙い、年間プログラム、受講上の注意、成績の評価方法などについてガイダンスしたあと、日本経済の現状に関するトピックスをとりあげ、イントロダクションとして説明します。
2	第1章 ケインズは古典派を超えたか 1、古典派経済学とは何か、—アダム・スミスの「国富論」見えざる手、古典派、ミクロ経済学、価格メカニズム (市場メカニズム)、
3	価格メカニズムと資源配分、レオン・ワルラスの一般均衡論、—2、貨幣について古典派はどう考えたか、—相対価格と物価、フィッシャーの交換方程式、貨幣数量説、貨幣ペール観、—3、ケインズ対古典派、
4	第2章 ケインズ革命はどう波及したか 1、「一般理論」の米国上陸2、ケインズの政策の実験と浸透、—ルーズベルト、雇用法、財政のビルトインスタビライザー、—3、円卓の騎士、—新古典派総合、減税案、—
5	4、フィリップス曲線はいかに創られたか、—雇用と物価のトレードオフ関係、—5、円卓の騎士たちの「輝ける一瞬」、—ウォルター・ヘラー、新古典派総合、ケネディ、ファインチューニング、ジョンソン、—
6	第3章 マネタリズムの反革命 1、社会問題としてのインフレーション、—マイルド・インフレ、ハイパー・インフレ、—2、フリードマンとマネタリズム、—シカゴ学派、アメリカのインフレ、マネタリズムの特質、—
7	3、ケインジアン対マネタリスト論争、—貨幣の流通速度、—4、マネタリズムとフィリップ曲線、—自然失業率仮説、スタグフレーション、—5、合理的期待学派の登場、—経済政策無効論、価格・賃金の伸縮性、—
8	6、マネタリズムは今、第4章 マネタリズムは金融政策をどう変えたか 1、銀行とは何か、—銀行の機能、信用創造、—2、FBRの煙幕、—金融政策の手段、フェッド・ウォッチャー、—
9	3、マネタリストの凱旋、—マネーサプライ、ルール方式対裁量方式、—4、ボルカーの政策、5、金利対マネーサプライ、—金利変動リスク、変動金利貸付、ヘッジ、先物市場、金融先物、
10	ヘッジ取引、投機取引、裁定取引、ブラック・マンデー、プログラム売買、金融イノベーション、—6、マネタリズムの失敗か、—貨幣の流通速度の不安定化、金融の自由化、—
11	講義の前半部分、第1章～第4章のまとめをしたあと、前期レポートの課題を発表します。
12	第5章 経済成長のダイナミズム 1、景気循環と経済成長、—景気のサイクル、経済成長、—2、マイクロエレクトロニクス革命の衝撃、—トフラーの「第3の波」、コンピュータの小型化・インテリジェント化、
備考	

後期

週	主要テーマ
1	ネットワーク化、—3、日本経済の成長、—戦後の日本経済の成長段階、経済成長のメリット、経済成長のコスト、公害・環境破壊、成長と環境、—
2	4、シュムペーターのイノベーション論—資本主義の特質、革新、創造的破壊、—5、経済成長のメカニズム、—資本蓄積、貯蓄率、「儉約のパラドックス」、生産性上昇、—
3	第6章 財政赤字の経済学 1、サプライド・エコノミックスとは何か、—ラフファー曲線、ケインズ対SSE、減税対財政支出、乗数効果、限界税率、累進課税、—
4	2、1981年レーガン税制改革、—カリフォルニアのタックス・レボリューション、タックスフレーション、経済再生計画、—3、レーガノミックスのメカニズム、—SSEとマネタリズム、
5	レーガノミックスの実績、—4、財政赤字のネガティブ効果、—クラウディングアウト効果、名目金利対実質金利、リカードの均衡化定理、財政赤字のネガティブ効果、—
6	第7章 ドル体制は崩壊したのか 1、為替レート、—貿易黒字、対外資産残高、為替レート、—2、すべては金本位制からはじまった、—金本位制メカニズム、
7	金本位制の効果、金本位制の歴史、通貨切下げ、金本位制のゲームのルール、—
8	3、ブレトンウッズ体制とは何か、—ブレトンウッズ協定、ホワイト案対ケインズ案、IMF体制のメカニズム、アジャスタブル・ペッグ、IMF体制の歩み、流動性ジレンマ、国際清算同盟、SDR、—
9	4、金との訣別、—ニクソン・ショック、変動相場制のメカニズム、スミソニアン協定、—5、「双子の赤字」原因と結果、—財政赤字、貿易赤字、対外債務国化、—
10	6、プラザ合意、—購買力評価説、アセット・アプローチ、協調介入、管理フロート制、対外均衡と対内均衡、バブル発生、平成不況、—
11	7、EMSとEC統合、—EMS、ERM、マーストリヒト条約、通貨統合、EC単一市場、EMI、欧州中央銀行、—
12	講義の後半部分、第5章～第7章をまとめ、さらに第1章～第7章全体のまとめとして「誰がケインズを殺したか」について考えてみます。最後に、後期試験に関する注意事項を確認します。
備考	

科目名	経済学	担当者名	益山光央
-----	-----	------	------

講義の目標	「近代経済学」の基本理論を学ぶ。	
講義概要	経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期はミクロ経済学、後期はマクロ経済学を講義する。現実の問題は扱わない。	
使用教材	テキスト	教科書 ・中込正樹ほか、『チャートで学ぶ経済学』有斐閣、1990
	参考文献	近代経済学（非マルクス経済学）の文献であれば全て可。
評価方法		
受講者に対する要望など	数学を履修してほしい。まじめに勉強してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	消費者行動の理論 I
3	消費者行動の理論 II
4	消費者行動の理論 III
5	生産者行動の理論 I
6	生産者行動の理論 II
7	生産者行動の理論 III
8	完全競争市場 I
9	完全競争市場 II
10	独占 I
11	独占 II
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国民所得の諸概念
2	消費関数と貯蓄関数
3	所得決定メカニズム I
4	所得決定メカニズム II
5	投資関数
6	利子率の決定 (流動性選好説) I
7	利子率の決定 (流動性選好説) II
8	貨幣供給メカニズム
9	IS 曲線と LM 曲線
10	金融政策と財政政策 I
11	金融政策と財政政策 II
12	まとめ
備考	

科目名	経済学	担当者名	松本正信
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代経済の実際と理論を知識すること。——経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体からみると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来得れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探してみたいと考える。</p>		
講義概要	<p>年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間講義予定に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人（消費者）や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社</p>	
	参考文献	<p>・根岸隆他共著『近代経済学—経済分析の基礎理論』（有斐閣大学双書）有斐閣</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違。自身で自学自習すれば受講時間の5倍、10倍の時間を要するであろう。努々忘れ給もうな。</p>		
受講者に対する要望など	<p>静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除されるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。</p>		

つぎの序・終章を含めた12の章を2～3回の講義で進めて行く積もりである。

○ 序章 (プロローグ)

経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題 (地球系と人間系)、人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、さらびに経済思想の変遷 (アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ジュンベータ、ケインズ等々)、資本主義経済の変遷 (とりわけ第二次世界戦争前と後の移り変わり)、現代の経済思想。

○ 第I部 ミクロ経済学 (価格分析)

1 需要の理論

(狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。)

消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財 (競争財) と補完財、需要の価格 (所得) 弾力性、消費者余剰。

1章の最後には、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉 (ウルグアイラウンド) において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。

2 生産の理論

(狙いは「生産の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。)

生産とは、企業 (生産者) 行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。

3 市場：マーケット (交換の理論)

市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構 (マーケット・メカニズム) の果たす役割、とその効率性、価格の媒介機能 (Parametric function of price)、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論 (農産物価格の形成過程)

4 競争の問題

競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売手独占について考える。独占均衡と、独占利潤、完全競争均衡との相違 (短期・長期)、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング (廉価販売) 提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。

5 市場の限界と失敗・欠落

市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争。アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス (ワイロ)、談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意見するもの、一般通路で通行料徴収するが税では賄うかどうか効率的か火を見るより明らか。

外部経済・不経済、公共財 (公共サービス)、パブリック・ユティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。

○ 第II部 マクロ経済学 (所得分析)

6 国民所得の分析

マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。

マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給 (総生産) あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効用；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利率、貯蓄と投資の不均衡による均衡国民所得水準の変動、乗数過程、節儉のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論、国民所得水準と労働雇用水準との関係。

7 貨幣・金融市場

金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利率いわゆる市場利率

8 中央銀行の機能と役割：金融政策

現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ法定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。

9 政府の経済的役割：財政政策

政府の経済的役割すなわち経済政策には大きく分けて2つ；その1つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう1つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割をの狭義の財政政策 (フィスカル・ポリシー) として考える。

その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策 (当時のルーズベルト大統領による) に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。

政府も1つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真パラドックスなる由縁である。

分析：政府財制支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファー曲線、完全雇用政策と物価水準安定 (貨幣価値の維持)、フィリップ曲線

10 財政・金融政策とヒックス＝ハンセン 総合 (IS-LM 曲線)

ポリシー・ミックスについて、国民生産物市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再論とまとめ；IS-LM分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マネタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。

○ 終章 (エピローグ) 結びにかえて

人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費説と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化

科目名	経済学	担当者名	山越 徳
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済学を初めて学ぶ人にとって、経済や経済学を身近に感じ、理解が進められ、2年次以降さらに深く入っていくための基礎づくりを目指す。経済学とはどのような学問であり、どのような考え方、捉え方をするのかを、それぞれの対象や分野の経済理論を扱いながら用語や概念とともに理解していく。そしてそれらの理論が現実の経済とどのように結びついているか、どこまで説明しているのかを考察し、それにより日本経済の大きさや構造、その動向への理解を高め、その問題や課題に関して、ともに考えていく。</p>		
講義概要	<p>経済理論はどのような考え方に基づき、どのような内容を持つものなのかについて、考察し理解を進めていくとともに、それが現実の経済状況とどのように結びついているか、どこまで説明しているのかを、理論モデル、統計データ、およびそれらを用いての実証分析結果を関連させながら、見ていくことにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・西川俊作著『経済学（第3版）』東洋経済新報社</p>	
	参考文献	<p>・L.C.サロー、J.K.ガルブレイス、R.L.ハイルブローナー著、中村達也訳『現代経済学（上・下）』TBSブリタニカ</p> <p>・篠原三代平著『日本経済講義』東洋経済新報社</p> <p>データで語る経済のダイナミックス</p> <p>この他の参考書および各項目に関する参考書は講義の中で紹介する。</p>	
評価方法	<p>現実の経済の諸問題、規模、構造、動向あるいは経済理論、それらを結びつけた実証分析等にどの程度理解が深まり、考察できるようになったかを、レポートおよび試験答案などを通して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>現実の経済やその動きに常に興味を持って、上記テキストや参考書以外にも、広く、種々の文献を読んでいくことが望ましい。</p>		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	<p>経済学とは 社会科学としての経済学、経済学の考え方、経済合理性、前提、対象、範囲、ミクロとマクロ、経済主体、経験法則、経験科学、理論と実態、理論と実証、経済学の流れ</p> <p>市場、需給均衡、価格決定 需要と供給、競争、自由放任、神の見えざる手、均衡、短期と長期、物価</p> <p>消費者均衡、需要理論、消費理論 需要曲線、効用理論、限界概念、無差別曲線、経済要素、弾力性、価格と所得、財と費目、家計予算分析、市場分析、0次同次性、時系列とクロスセクション、回帰分析、重回帰、マルチコ、指数と集計、指標、消費仮説</p> <p>国民所得、日本経済の規模と変動 国民経済勘定体系、新SNA、ストックとフロー、GNP、三面等価の原則、国民所得の決定、乗数理論、有効需要の原理、消費性向、貯蓄と投資 政府と財政、貿易、産業連関論</p> <p>日本経済の成長 産業の活動、産業構造、成長の要因、産業の相互依存関係、経済成長理論、国際化と依存関係</p>
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	<p>供給者均衡：生産理論 供給曲線、固定コスト、可変コスト、コスト曲線 利潤極大、限界生産力命題、生産水準の決定 企業と事業所</p> <p>生産関数、技術変化 生産要素、資本と労働、原材料とエネルギー、要素間代替、分配、生産性、規模の経済、1次同次性、中立的技術変化、労働集約、資本集約、体化した技術</p> <p>労働市場 労働市場理論、賃金理論、完全雇用、失業、労働供給と労働需要、日本の労働市場、就業構造、人口構造、基幹労働力と縁辺労働力、産業と職業、年齢と性別、学歴、地域、大企業と中小企業、終身雇用と年功制、定年制、雇用調整</p> <p>一般均衡モデル 一般均衡と部分均衡、一般均衡図式 マクロ計量モデル、経済予測、シミュレーション</p> <p>経済分析と経済政策 理論、実態、政策との結びつき</p>
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	経済学	担当者名	山本美樹子
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>有名な経済学者であるロビンソンは「経済学は人間の行動の学問である」といっている。が、日常の経済行動の背後にはどのような経済的法則があるのだろうか？経済理論とはそのような法則について扱っている分野だと考えればわかりやすいだろう。本講義では経済学部の学生として、最低限知って欲しい経済理論の基礎を講義する。これらは3、4年次、各自が財政論であるとか金融論その他の専攻に進む上で土台となるものである。各自真剣に取り組んで欲しい。</p>	
講義概要	<p>経済理論は大きくミクロ経済理論、マクロ経済理論に分けられる。</p> <p>ミクロ経済理論：個々の消費者や会社の意志決定まで遡って、それぞれの行動を分析する。 ミクロ経済理論の背後には、「限られた資源の効率的分配による各人の経済的厚生最大化」という経済学の究極的目標がある。</p> <p>マクロ経済理論：経済全体、とくに国レベルを、一つの巨大な単位として考え、その単位の中の各集計量（消費、投資、etc）の間の関係について扱う。</p> <p>前期はマクロ経済理論、後期はミクロ経済理論を講義する予定である</p>	
使用教材	テキスト	<p>平成6年度は入門経済学（伊藤元重著、日本評論社刊） 平成7年度は現在検討中</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷 徹 『入門マクロ経済学』 日本評論社 ・伊藤 元重 『入門ミクロ経済学』 日本評論社 ・福岡 正夫 『ゼミナール経済学入門』 日本経済新聞社 ・松下他 『チャートで学ぶ経済学』 有斐閣 ・福岡他 『経済原論』 世界書院 ・幸村千佳良 『経済学事始』 多賀出版
評価方法	<p>前期、後期の期末試験 毎回とる出席（前、後期あわせて5回以上休んだ場合は単位は出さない。）</p>	
受講者に対する要望など	<p>1年間でミクロ経済学、マクロ経済学両者を駆け足で講義するので、1回でも休むと授業がわからなくなる。必修の授業であるのでできる限り休まず出席して欲しい。</p>	

年間講義予定

第一部 はじめに

第1章 経済学とはなにか (第1週)

- 1、経済学を学ぶ目的
- 2、経済学と経済理論
 - (1) 経済理論とはなにか
 - (2) 経済理論が他の分野の理論とのちがい
 - (3) 経済学の分類

第2章 経済体制 (第2週)

- 1、混合資本主義体制の性格
- 2、社会主義体制の性格

第二部 マクロ経済の基礎理論

第3章 マクロ経済学の課題

- 1、マクロ経済学で取り扱うこと
- 2、ストックとフロー

(3、4週)

第4章 国民所得とそれに関連する集計量 (5、6週)

- 1、国民総生産、国民純生産、国民所得
- 2、三面等価の原則
- 3、国民所得集計上の留意点

第5章 有効需要の理論 (7、8週)

- 1、消費関数
- 2、投資関数
- 3、簡単な国民所得決定の理論
- 4、海外部門を含めた場合
- 5、政府支出を増加させた場合
- 6、の輸入が増大した場合

第6章 貨幣の需要と貨幣の供給 (9、10週)

- 1、貨幣とはなにか
- 2、貨幣の需要
- 3、貨幣の供給
- 4、信用常数

第7章 IS-LM 分析 (11、12週)

- 1、IS 曲線
- 2、LM 曲線
- 3、IS-LM の同時均衡が意味すること
- 4、財政政策の効果
- 金融政策の効果

第8章 ミクロ経済学(理論)の課題 (1週)

第9章 消費者行動の理論 (2、3、4週)

- 1、効用、限界効用、限界効用逓減の法則
- 2、無差別曲線
- 3、限界代替率、限界代替率逓減の法則
- 4、予算制約と消費者の効用極大化行動
- 5、財の分類 (1)正常財、劣等財、ギッフェン財
(2)代替財と補完財
- 6、エンゲル曲線(所得消費曲線)と価格消費曲線
- 7、需要曲線、消費者余剰

第10章 生産者行動の理論 (5、6週)

- 1、等量曲線と限界代替率
- 2、生産者の利潤極大化行動
- 3、生産可能性曲線と限界変形率
- 4、費用関数、5、供給関数

第11章 市場価格の決定 (7、8週)

- 1、市場価格の決定—均衡価格の決定
- 2、価格調整 (1)ワルラス的調整
(2)マーシャル的調整
(3)蜘蛛の単的調整

第12章 独占、寡占、独占的競争 (9、10週)

- 1、完全独占
- 2、差別独占
- 3、独占的競争
- 4、寡占と複占
- 5、独占の弊害点

第13章 資源配分の効率性と市場の失敗 (11週)

- 1、米価問題と間接税
- 2、市場の失敗(1)外部経済のケース
(2)収穫逓減産業のケース
(3)公共財のケース

第14章 まとめ (12週)

科目名	経済学	担当者名	米山昌幸
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済学は、経済社会のメカニズムを分析的手法により解明し、貧困、不平等、公害といったさまざまな問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指している実践的な学問である。</p> <p>この講義では、経済学の理論的フレームワークの修得を通して、現実の経済学の問題に実態的・理論的にアプローチするための基礎（分析道具）を得ることが目標である。すなわち、経済理論によって現実の経済問題をどのように分析できるかを明らかにし、現実の経済問題を自分で考える方法を身に付ける。</p>				
講義概要	<p>経済学は、分析対象の経済変数を決定し、経済変数間の相互依存関係を明らかにする学問である。前期は、資源配分のメカニズムを明らかにする<ミクロ経済学>を講義する。ここでは、家計と企業の行動を分析し、完全競争市場における価格決定のメカニズムを明らかにする。</p> <p>後期は、GNP、物価水準、失業率などの経済全体を捉えるマクロ変数の相互関係を明らかにする<マクロ経済学>について講義する。ここでは、財市場・貨幣市場・労働市場の分析を行い、経済全体のマクロ均衡がどのように達成されるのかを明らかにする。また、マクロ経済政策の効果の分析も行う。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>未定。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡正夫『ゼミナール経済学入門』日本経済新聞社、1986年。 ・伊藤元重『入門①経済学』日本評論社、1988年。 ・奥野正寛『ミクロ経済学入門（第2版）』日経文庫、1990年。 ・西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、1986年。 ・伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社、1992年。 ・中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年。 ・浅子和美・加納悟・倉澤資成『マクロ経済学』新世社（新経済学ライブラリー3）、1993年。 ・広松毅・R. ドーンブッシュ・S. フィッシャー『マクロ経済学（第4版）（上）／（下）』マグローヒル、1989年。 <p>なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	未定。	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡正夫『ゼミナール経済学入門』日本経済新聞社、1986年。 ・伊藤元重『入門①経済学』日本評論社、1988年。 ・奥野正寛『ミクロ経済学入門（第2版）』日経文庫、1990年。 ・西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、1986年。 ・伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社、1992年。 ・中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年。 ・浅子和美・加納悟・倉澤資成『マクロ経済学』新世社（新経済学ライブラリー3）、1993年。 ・広松毅・R. ドーンブッシュ・S. フィッシャー『マクロ経済学（第4版）（上）／（下）』マグローヒル、1989年。 <p>なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p>
テキスト	未定。				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡正夫『ゼミナール経済学入門』日本経済新聞社、1986年。 ・伊藤元重『入門①経済学』日本評論社、1988年。 ・奥野正寛『ミクロ経済学入門（第2版）』日経文庫、1990年。 ・西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、1986年。 ・伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社、1992年。 ・中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年。 ・浅子和美・加納悟・倉澤資成『マクロ経済学』新世社（新経済学ライブラリー3）、1993年。 ・広松毅・R. ドーンブッシュ・S. フィッシャー『マクロ経済学（第4版）（上）／（下）』マグローヒル、1989年。 <p>なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p>				
評価方法	<p>学生諸君が自分自身の理解度を確認するとともに、日常的な学習姿勢を習慣付けるため、レポートおよび小テストをできるだけ多く行う。成績評価は、前期・後期の定期試験に、レポートおよび小テストの得点を加味して行う。</p>				
受講者に対する要望など	<p>経済学は皆さんがこれから進んでいく専門分野の基礎となるので、講義を聞いただけでわかったつもりにならず、十分に納得するまで自分で勉強して下さい。</p>				

年間講義予定

【前期】

第1週；イントロダクション

経済学とは？、経済理論・モデル分析の必要性、ミクロ経済学とマクロ経済学、講義の範囲、学習の仕方、テキスト・参考文献の紹介、履修の仕方など

第2～12週；＜ミクロ経済学＞

1. 家計の行動と需要曲線

効用と無差別曲線、無差別曲線の性質、限界代替率逓減の法則、最適消費計画（予算制約と効用最大化）、価格の変化と需要の変化、需要曲線の導出、代替効果と所得効果、市場需要曲線と消費者余剰、価格弾力性、所得弾力性、与件の変化と需要曲線のシフト

2. 企業の行動と供給曲線

利潤とは？、生産関数（技術の制約）と利潤最大化、限界生産性逓減の法則、短期費用曲線、（短期）限界費用と平均費用、利潤最大化と（短期）個別供給曲線、短期市場供給曲線と生産者余剰、与件の変化と市場供給曲線のシフト
単位等量曲線、等量曲線の基本的性質、限界代替率逓減の法則、生産技術の選択（等費用曲線と費用最小化）、長期費用曲線、長期平均費用と長期限界費用、個別企業の生産規模に関する収穫逓増・不変・逓減、長期個別供給曲線

3. 長期市場均衡

産業の長期均衡、参入と退出、経済的利潤と会計的利潤、長期市場供給曲線、産業の規模と個別費用曲線のシフト、費用一定産業、費用逓増産業、費用逓減産業、外部経済と不経済

4. 完全競争市場と効率性—部分均衡分析—

完全競争市場とは？、市場の部分均衡、市場メカニズム、均衡の存在と安定性、生産者余剰と消費者余剰、経済厚生、与件の変化と市場均衡、市場の失敗（不完全競争、外部効果、公共財）、分配と公正

5. 完全競争市場と効率性—一般均衡分析—

部分均衡と一般均衡、ボックス・ダイアグラム分析、交換とパレート効率性、厚生経済学の基本命題、生産とパレート効率性、生産要素の契約曲線（効率軌跡）
一般的な生産フロンティアの導出、消費と生産の一般均衡

【後期】

第1週；前期試験の解説

第2～12週；＜マクロ経済学＞

1. GNPと物価指数

GNP（国民総生産）とは？、三面等価の原則、貯蓄と投資の恒等関数、ISバランスと財政収支・経常収支、物価とインフレーション、パーシェ指数とラスパイレス指数

2. 国民所得決定の理論

需給不一致とその調整、消費関数と貯蓄関数、45°線分析による所得決定、乗数理論、均衡予算乗数の定理、所得決定理論への限定事項、投資の限界効率表

3. 貨幣需要・マネーサプライ・利子率

貨幣市場と資産市場、貨幣の機能、貨幣に対する需要（取引需要と資産需要）、債券価格と利子率、貨幣の定義、マネーサプライ、利子率の決定、素朴な貨幣数量説

4. 総需要の均衡

IS曲線の導出（財市場における均衡国民所得と利子率）、LM曲線の導出（貨幣市場における均衡国民所得と利子率）、財市場と貨幣市場の同時均衡、不均衡からの調整過程、総需要（AD）曲線の導出（均衡国民所得と物価水準）

5. IS=LM分析—マクロ経済政策の効果—

財政政策・金融政策とは？、財政政策の効果、金融政策の効果、マクロ経済政策の有効性

6. 総供給の均衡

労働需要、労働供給、労働市場における均衡、総供給（AS）曲線の導出（均衡国民所得と物価水準）、期待と総供給、短期総供給曲線と長期総供給曲線

7. 総需要と総供給

短期均衡と長期均衡、古典派とケインジアン、均衡国民所得・物価水準・雇用量・利子率の同時決定、マクロ経済政策の効果

科目名	経済原論（済新、旧） 経済原論Ⅰ（済旧旧）	担当者名	高橋 房 二
-----	--------------------------	------	--------

講義の目標	<p>本年は経済原論として現代経済理論にしたがってマクロ経済学の基礎を統一的に講義する。経済学科の専門課程の学生としての巨視的経済理論に関する必要不可欠な基礎学力の涵養をはかる。それと同時に現実経済の動きに関する認識の基礎を与えることをめざすものである。</p>		
講義概要	<p>マクロ経済学に関して取扱うべき内容は多く、また多岐にわたるが下記のように限定される。まず、国民経済において最も重要な経済量の一つである国民所得と以後の議論の展開において必須の重要な若干の概念について述べる。ついで、均衡国民所得の決定の基礎的な関係について講義される。それにつづいて、乗数理論に関して閉鎖・開放両体系について議論する。つぎの段階として、ケインジアン体系についてその重要な経済概念と理論の講義が展開される。さらに、経済動学として経済成長、景気変動の問題についてふれる。ついで、インフレと失業に関して議論される。また、マネタリズムや合理的期待仮説がとりあげられそれらの特質や問題点に関して講義が行われる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ドーンブッシュ、フィッシャー『マクロ経済学』マグロウヒル ・バロー『マクロ経済学』多賀出版 ・中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社 ・ホール・テラー『マクロ経済学』多賀出版 他	
評価方法	定期試験、レポート、ミニテスト、出席状況		
受講者に対する要望など	出席が重視される。授業内容の理解につとめ、反復して復習すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済原論の授業内容と展開の概要の説明、国民所得に関する若干の基礎概念 GDP、NDP、分配国民所得、個人可処分所得等、所得分析
2	最終消費と貯蓄に関する基礎的関係 事前的概念と事後的概念、消費関数、消費曲線、貯蓄曲線、APC、MPC、APS、MPS
3	単純な国民所得の決定関係 (I) 貯蓄と投資による国民所得の決定 (閉鎖体系)、広義と狭義における完全雇用、均衡国民所得、均衡理論
4	単純な国民所得の決定関係 (II) 最終消費と投資による国民所得の決定 (閉鎖体系)、均衡の存在と安定条件
5	インフレギャップとデフレギャップ、およびその対策 乗数理論 (I) —閉鎖体系— 単純な乗数理論、投資乗数、比較静学
6	乗数理論 (II) —閉鎖体系— 政府活動と乗数理論、その一般的関係、赤字予算と均衡予算の場合、税率変化と乗数効果
7	乗数理論 (III) —開放体系— 2国貿易モデル、輸入関数、限界輸入性向、2国の国民所得の変化、2国の貿易収支の変化、外国貿易乗数
8	ケインズ経済学 (I) ケインズの「一般理論」の意義とその特質、新古典派理論との相違、有効需要の原理
9	ケインズ経済学 (II) 非自発的失業、非自発的失業の再決定仮説による説明、不均衡理論、企業の投資、予想、資本の限界効率、投資のインセンティブ
10	ケインズ経済学 (III) 貨幣需要、流動性、流動性選好説、流動性のトラップ、債券価格と利子率、資産選好
11	消費関数の理論 (I) 消費に関するクズネッツの指摘、ケインズ型消費関数、相対所得仮説
12	消費関数の理論 (II) 恒常所得仮説、恒常所得の導出、ライフサイクル仮説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	投資の理論 誘発投資、加速度原理による投資関数とそのバリエーション、ストック調整モデル
2	経済成長の理論 (I) 動学、長期理論、経済成長率の諸概念、均衡成長、恒常成長、ハロッド・ドーマーモデルとその不安定性
3	経済成長の理論 (II) カルドアによる定型化された事実、新古典派成長モデル、技術進歩と経済成長、黄金時代均衡、最適成長、経済成長の促進策
4	景気変動 景気循環、各種のサイクル、単純な乗数加速度モデル
5	IS・LM分析 (I) 生産物市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、生産物市場と貨幣市場の均衡と均衡国民所得および均衡利子率の決定
6	IS・LM分析 (II) IS曲線のシフト、LM曲線のシフト、両曲線のシフトと均衡国民所得と均衡利子率の変化、IS・LM分析と金融政策
7	物価水準 総需要関数、総供給関数、物価水準、マークアップ原理
8	失業とインフレ (I) フィリップス曲線、インフレ期待、インフレ需要曲線とインフレ供給曲線
9	失業とインフレ (II) 短期インフレ率、長期均衡への調整、自然失業率仮説、短期フィリップス曲線のシフト、長期フィリップス曲線
10	合理的期待仮説 合理的期待、合理的期待仮説とその評価
11	マネタリズムとケインズ経済学派 マネタリズムとマネタリストの主張、マネタリストのモデルとケインズモデルの比較、両者の議論の相違
12	国際経済学 国際収支、為替レートの決定、国民所得と為替レートの決定
備考	

科目名	経済原論（済新、旧） 経済原論Ⅰ（済旧旧）	担当者名	西村 允 克
-----	--------------------------	------	--------

講義の目標	<p>市場経済は一つの組織である。組織が永続的に機能するには、そこに秩序が維持されなければならない。経済学では、この秩序を市場均衡として把握する。それゆえ、市場均衡をいかに理解するかが、この講義の第一の主要課題となる</p> <p>だが、市場経済は単に均衡を維持するだけでなく、変動しながら成長する組織である。それゆえ、この変動と成長の過程を理解する論理システムを学ぶことが第二の主要課題となる。このようにして、現実の経済を理解するための論理システムを習得する。</p>	
講義概要	<p>現実経済は極めて複雑である。複雑なシステムを理解するには、システムを、そのシステムを構成する基本的要素と基本的要素間の関係によって、複雑なシステムを理論的分析が可能なモデルに変える必要がある。1～8は経済を構成する基本的要素と要素間の関係を理解し、経済分析の基礎的分析ツールを学習する。9～16では、理論モデルに基づいて、基本的経済分析を行ない、現実経済分析のやり方を学習する。17～18では失業とインフレを問題とするが、それはこれまでのモデル分析を通じてなされる。19～24では、変動と成長の関係を取扱う。経済理論はマクロとミクロに分けられるが、講義はマクロに重点を置くが、ミクロも論及がなされる。</p>	
使用教材	テキスト	・中谷 巖 著『入門マクロ経済学』 日本評論社
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・広松毅、R. ドーンブッシュ、S. フィッシャー『マクロ経済学』 マグロウヒル ・幸村千佳良『マクロ経済学事始』 多賀出版 ・J. P. クワーク著、久保雄志訳『現代ミクロ経済学』 マグロウヒル
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題とその採点は講義において注意した点をよく理解しているかについてなされる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>学習効果は日々学習し、その学習成果を次の講義において役立てることによって完全なものとなる。講義に出席するには、必ずテキストの関連する部分を読んでいなければならない。</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学を学ぶための基礎(1) 経済主体、経済活動、経済資源、財と用役、実物資産と金融資産
2	経済学を学ぶための基礎(2) 分析ツール 関数と曲線、関数の限界値、数式と図表の読み方、市場均衡と主体均衡、完全競争市場、独占的競争市場、不完全競争市場、独占市場
3	国民経済計算(1) 付加価値額、国内総生産、国内総支出、国民所得、三面等価の原則、内需と外需、グロスとネット
4	国民経済計算(2) 物価指数(デフレーター)、名目値と実質値、経済成長率
5	生産関数 投入量と産出量 等産出量曲線 限界生産力、規模の経済
6	消費関数(1) 限界消費性向、限界貯蓄性向、平均消費性向、平均貯蓄性向
7	消費関数(2) 恒常所得仮説、合理的期待仮説、ライフサイクル仮説
8	投資関数 投資の限界効率 加速度原理(独立投資と従属投資) 技術革新(イノベーション)
9	市場均衡理論(1) 価格を調整変数とする場合 価格の決定と価格の変動理論(生鮮食品はなぜ日々価格が変化するのか。工業製品の価格はなぜ変化しないかなどの問題を考える基礎理論)
10	市場均衡理論(2) 生産量を調整変数とする場合 国民所得の決定と国民所得の変動理論
11	市場均衡理論(3) 生産量を調整変数とする場合 投資乗数の理論を中心とした問題
12	前期のまとめと前期の補読
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	貨幣と貨幣市場 マネーサプライ、その決定因、金融政策とマネーサプライ 貨幣数量説、ハイパワードマネー
2	貨幣供給と貨幣需要(貨幣市場の均衡理論) 所得動機による貨幣需要、投機的動機による貨幣需要
3	IS・LM分析(1) 国民所得と利率の同時決定 IS曲線とLM曲線の導出とその意味、国民所得、利率の同時決定のメカニズム
4	IS・LM分析(2) 国民所得と利率はどのように変化するのか。IS曲線とLM曲線を変化させる要因、これらの要因が変化すればどのように両曲線は変化するのか。財政・金融政策の効果
5	失業問題 自然失業率 フィリップス曲線
6	インフレーション マネーサプライとインフレ、スタグフレーション
7	成長と変動の理論(1) 景気変動、在庫循環、設備投資循環 リアル・ビジネス・サイクル
8	成長と変動の理論(2) 経済成長の理論。(ハロッドモデル、新古典派モデル)
9	成長と変動の理論(3) 戦後日本の成長と変動
10	国際マクロ経済理論 外国貿易乗数、外国為替相場制(固定相場制と変動相場制)、国際収支(貿易収支、貿易外収支、移転収支、経常収支、長期短期資本収支)
11	総供給・総需要分析(I) 総供給曲線と総需要曲線の導出
12	総供給・総需要分析(II)
備考	

科目名	日本経済史	担当者名	齊藤 博
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>世界でもっとも華麗な超一流選手となった現代日本の社会経済の、「栄光」の土台と繁栄の原因は、なにか。その歴史的な過程の問題点はなにか。本講義は、これからの課題に対して、いわゆる「社会経済史学」の方法、「地域社会史」の視座、「民衆史」の見方をもって、答えようとしている。日本社会経済史の展開過程の特徴を概観しながら、学問的に、眞摯に、知的な好奇心と生真面目な問題意識をもち、さらには社会的な同情心を身につけて、日本および日本人に関する「過去と現在との対話」を試みてみたい。</p>	
講義概要	<p>本講義の枠組みと範疇がもつ、基礎概念と問題意識のキーワードは、以下の通りである。</p> <p>1. 本源的蓄積期 2. 人間疎外 3. 零細過小農経営 4. 商品経済 5. 貨幣</p> <p>6. 農民分解 7. 村落共同体 8. 地域社会史</p> <p>いわゆる、上すべりの現代経済風俗や繁栄風潮の歴史的原因や動向を描写することはしない。歴史的かつ社会的な人間諸関係の特殊具体像を細密に歴史描写しながら、日本および日本人についてきびしく、かつ暖かい自己批判と反省を加え、21世紀に生きる日本人の生き方の指針の参考にしたい。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤博『概観日本社会経済史』学文社 ・齊藤博『地域社会史の誕生』藤原書店
	参考文献	
評価方法	<p>前期および後期末に、それぞれ筆記試験を行なう。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義内容と課題は「反現代」的で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。数冊のテキストや参考文献は、必らず直接手にして熟読することを要請する。なお、受講生有志の強い希望があれば、(金5)に少人数の自主研究として「資本論輪読会」を開設することができる。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

主 要 テ ー マ

週	主 要 テ ー マ
1	① 社会経済史学の課題と問題点 「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
2	① 社会経済史学の課題と問題点 「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
3	① 社会経済史学の課題と問題点 「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
4	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
5	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
6	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
7	② 日本に於ける社会経済史学の発達 日本資本主義の発展、あるいは日本経済の近代化に対応する歴史意識の展開
8	③ 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風 いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史」の新傾向と現代社会
9	③ 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風 いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史」の新傾向と現代社会
10	③ 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風 いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史」の新傾向と現代社会
11	④ 近世封建社会の構造と展開、および問題点 封建領主制と封建農奴、零細過小農経営、商品経済
12	④ 近世封建社会の構造と展開、および問題点 封建領主制と封建農奴、零細過小農経営、商品経済
備考	

後 期

主 要 テ ー マ

週	主 要 テ ー マ
1	⑤ 社会経済史学の課題一
2	⑥ 本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」 封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
3	⑥ 本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」 封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
4	⑦ 近代日本形成確立の全体像と問題点 秩父事件にみる、地域社会史と民衆史の全体史的な把握
5	⑦ 近代日本形成確立の全体像と問題点 秩父事件にみる、地域社会史と民衆史の全体史的な把握
6	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
7	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
8	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
9	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
10	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
11	⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
12	⑨ 総括一近代日本の批判的考察と現代日本への展望
備考	

科目名	経済地理	担当者名	犬井 正
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。</p>		
講義概要	<p>単に講義による農業地理学の理論だけでなく、前期、後期に各1回ずつのフィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式なども採り入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各2回（それぞれ4000字程度）の小論を提出し、論文の書き方の基本を習得する。</p>		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ D.グリッグ著『農業地理学入門』1986年、原書房 ・ 定本正芳著『農業地理学の理論』1983年、大明堂 ・ 山本正三他編著『日本の農村空間』1990年、古今書院 	
評価方法	<p>年間指定小論4作、および2回のフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。フィールドワークに出かけるため多人数では不可能なので、第1回目の講義時に受講者が50人を超えた場合は抽選を行う。したがって、受講希望者は第1回目の講義には必ず出席すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定する。
2	経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。
3	経済地理学研究のためのデータの収集とその活用の方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。
4	農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。
5	農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。〈前期小論1提出〉
6	農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競合を視点として考察する。
7	農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。
8	国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。
9	日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。〈前期小論2提出〉
10	東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。
11	同上
12	前期のまとめと評価。前期フィールドワークのレポート提出
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本の農業の特色と農業地域の概観。
2	首都圏の農業地域の構造と特色。
3	輸送圏外農業地域の構造と特色。
4	米作地域の農業経営の特色と問題点。〈後期小論1提出〉
5	農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。
6	イギリスの農業の特色と農業地域の概観。
7	イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察する。
8	イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。
9	農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。〈後期小論2提出〉
10	同上
11	草加市の綾瀬川流域沖積低地の伝統的農産物生産地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。
12	同上
備考	1年間の講義のまとめと評価。後期フィールドワークのレポート提出。

科目名	経済政策	担当者名	伊藤正昭
-----	------	------	------

講義の目標	<p>資源配分のゆがみ、不公平な所得分配、経済の低成長、景気の変動、地価や内外価格差問題、そして、談合などにみられる企業の独占的な行動、消費者・生活者を重視した経済への体質転換（構造調整）、規制緩和など現代的な経済問題が山積している。こうした経済問題へのいわば処方箋を検討するのが経済政策（論）とすることができるであろう。</p> <p>経済問題に関心をもつ者に、経済政策の理論と現実をできるかぎりやさしく解説することにより、受講者の経済政策をみる目を養うことを目的としたい。</p>
講義概要	<p>経済政策は応用経済学の一分野であり、マクロおよびミクロ経済学で蓄積された諸理論を応用することになる。経済政策の方法論から始め、マクロ経済学のエッセンスを学んだ後、財政学、金融論などを応用して財政、金融政策について学習する。ついで、マクロ経済学をベースにした経済成長政策、そして、景気循環や雇用・物価問題にかかわる経済安定政策を学ぶ。</p> <p>さらに、価格理論ともいわれるミクロ経済学をベースとする産業組織政策などに触れ、市場経済の役割、規制緩和の是非など現代的な経済問題へアプローチする。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長谷川啓之・伊藤正昭他著『経済政策の基礎理論』八千代出版、1990年 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川・大塚・高山・武蔵他著『経済政策入門(1)理論』有斐閣、1993年 ・永井・藤井・阪本・安田他著『経済政策入門(2)理論』有斐閣、1993年 ・尾上久雄・新野幸次郎編『経済政策論（新版）』有斐閣、1993年 ・伊東正則・山崎良也編『基本経済政策』有斐閣、1987年 ・ドーンブッシュ・S、フィッシャー／廣松訳『マクロ経済学（上・下）』マグローヒル ・中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年 ・倉澤資成『入門／価格理論（第2版）』日本評論社、1993年、その他。
評価方法	<p>前期末および学年末の定期試験期間に筆記試験を行い、その結果で成績評価を行う。</p>
受講者に対する要望など	<p>経済学部必修科目である「経済学」の単位をすでに修得していることを前提に講義を進める。また、「経済原論」も既修であることが望ましい。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済政策序説(1) 経済政策とはなにか (講義のフレームワークの説明とガイダンス) 資源の希少性、効率的な資源配分、経済問題、経済体制
2	経済政策序説(2) 戦後日本の経済政策のレビュー プラザ合意以降の政策、財政・税制改革、規制緩和と自由化
3	政策の主体と経済政策思想(1) 政策主体と政策決定メカニズム 政治と経済、公共選択、政治家・官僚の行動原理、審議会
4	政策の主体と経済政策思想(2) 現代の経済政策思想—政府介入をどうみたらよいか— ケインズ、新古典派総合、新自由主義、サプライ・サイド
5	経済政策の目的と手段(1) 経済政策における価値判断の問題 ウェーバー、ピグー、パレート最適、厚生経済学の基本定理
6	経済政策の目的と手段(2) 政策の目的と階層性—目的間のトレード・オフ— 政策手段 (財政・金融政策、経済的規制) の多様性と有効性
7	マクロ経済政策の原理(1) 完全雇用と政府介入の論理—ケインズのねらい— 古典派とケインズの雇用理論 (2つの公準)、価格調整と数量調整
8	マクロ経済政策の原理(2) 国民所得決定の理論—マクロ経済政策の基礎理論— 有効需要、国民所得、消費 (貯蓄) 関数、投資乗数、 $I=S$
9	財政政策(1) 財政政策と手段 財政の機能、予算と財政投融资、財政制度改革、公債負担問題
10	財政政策(2) ビルト・イン・スタビライザーと裁量的財政政策 経済安定化政策、累進税制、政府支出乗数、政策のラグ
11	金融政策(1) 金融政策の理論的基礎 貨幣の需要と供給、流動性選好、マネー・サプライ、 $L=M$
12	金融政策(2) 金融政策の目的と手段 ハイパワード・マネー、マネー・サプライの管理、金融自由化
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財政政策と金融政策の IS-LM 分析(1) 財政政策と金融政策の有効性と条件 生産物市場と貨幣市場の同時均衡、ポリシー・ミックス
2	財政政策と金融政策の IS-LM 分析(2) 財政金融政策に関する諸見解 ケインジアンとマネタリストの論争、貨幣数量説、合理的期待
3	経済成長と経済安定の政策(1) 経済成長の基礎理論と政策 ハロッド=ドーマー/新古典派モデル、生産関数、技術選択
4	経済成長と経済安定の政策(2) 景気変動と政策 景気循環の理論、リアル・ビジネス・サイクル、景気動向指数
5	インフレーションの理論と政策(1) 総需要曲線と総供給曲線 物価水準、インフレ供給・需要曲線、スタグフレーション
6	インフレーションの理論と政策(2) ケインジアンとマネタリスト フィリップス曲線、自然失業率仮説、オーカンの法則
7	産業政策(1) 産業構造政策と産業調整政策 サプライ・サイド、保護主義、NAP と PAP、技術革新
8	産業政策(2) 産業組織論と独占禁止政策—日本とアメリカの比較— S-C-P パラダイム、シカゴ学派、コンテストタビリティ、サンク・コスト
9	規制緩和と経済政策(1) 現代の市場システムと問題 市場の失敗、自然独占と規制の論拠、レント・シーキング
10	規制緩和と経済政策(2) 産業規制と規制緩和 規制緩和の経済理論、規制緩和のプラスとマイナス
11	国際協調の経済政策(1) 自由貿易と保護主義の論理と現実 GATT から WTO へ、国家主権、地域統合の時代
12	国際協調の経済政策(2) 経済摩擦の分析と政策 日米経済摩擦の 3つの局面、経済政策摩擦、日本の経済体質
備考	

科目名	日本経済論	担当者名	木村健二
-----	-------	------	------

講義の目標	戦前・戦後の日本経済の構造的特徴をおさえ、そのもとでの対外経済関係や国民生活の変遷、そして移動する人々の特徴をあとづける。	
講義概要	<p>前期では、現代日本経済の原型が成立する第一次世界大戦以降、敗戦までをとりあげ、日本経済の重化学工業化や戦争経済の進行の中で、植民地やアジア諸国との経済関係（貿易、資本輸出、人の移動）がどのように切り結ばれ、またその間に都市と農村との生活格差がどのように生じたかを検討する。</p> <p>後期では、戦後復興から高度成長、オイルショック、円高、バブル景気とその崩壊とたどる過程で、同様に対外経済関係や国民生活がどのように変遷していったかを検討する。</p>	
使用教材	テキスト	とくに定めない。講義の中で指示する。参考資料を配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・森武麿ほか著『現代日本経済史』有斐閣、1993年 ・竹内宏『昭和経済史』筑摩書房、1988年
評価方法	出席と簡単な小テスト。前後期の試験の結果を総合して判定する。	
受講者に対する要望など	熱心な学生の受講を期待する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明。第一次世界大戦と日本経済。
2	1920年代の産業構造の変遷。
3	対外貿易、植民地との経済関係。
4	移動する人々。農村から都市へ、農村からブラジルへ、植民地から日本内地へ。
5	国民生活の変遷と国際化。
6	昭和恐慌と日本経済の重化学工業化。
7	農村経済更生運動と満州移民。
8	労働者の構成と中小企業。
9	戦時経済の進行。
10	大東亜共栄圏の経済連関。
11	国民の耐乏生活と朝鮮人強制連行。
12	前期のまとめと試験対策。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	戦後改革と戦後復興。
2	朝鮮特需と対外経済関係。
3	地域経済の復興計画と国民生活。
4	高度経済成長下の産業・貿易・技術構造。
5	企業集団と中小企業。
6	合理化と日本的労使関係。
7	国民生活の変貌と公害。
8	人の移動と過疎・過密問題の発生。
9	オイルショック以降の産業構造と対外経済関係。
10	円高以降の産業構造と対外経済関係、外国人労働者問題。
11	バブル経済とその崩壊、国民生活の国際化。
12	後期のまとめと試験対策。
備考	

科目名	統計学	担当者名	富田幸弘
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達はそのデータの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組とその重要性を十分に理解し、応用能力を身につけることを目標としている。</p>		
講義概要	<p>出来るだけ具体的な問題を意識しながら教科書にそって進める。その内容は以下のようなものである。</p> <p>(1)記述的な統計 (2)初歩的な確率論と確率分布 (3)統計的推定 (4)統計的仮説検定</p> <p>講義内容を良く理解してもらうために、適宜演習問題に取り組んでもらう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・池田貞雄・松井敬・富田幸弘・馬場善久共著『統計学—データから現実をさぐる』内田老鶴圃</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期と後期の2回の定期試験の結果により評価する。また、毎回の出席とレポートも考慮する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>電卓が必要です。</p>		

年 間 講 義 予 定

※各週の〈 〉の中には、キーワードです。

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今年度の「統計学」の講義について 〈統計学、教科書とノート、定期試験と出欠席、評価〉
2	統計的な考え方と例 〈ゲーム、国勢調査、品質管理、コンピュータ〉
3	統計学の発達と先駆者 〈ガリレオ、コルモゴロフ、ピアソン、フィッシャー〉
4	データの整理(1) 〈尺度、平均値、分散、標準偏差〉
5	データの整理(2) 〈中央値、最頻値、範囲、四分位数〉
6	データの整理(3) 〈度数分布表、ヒストグラム、階級値、累積度数〉
7	データの整理(4) 〈簡便法、平均値、分散、標準偏差〉
8	データの整理(5) 〈散布図、共分散、相関係数、回帰直線〉
9	データの整理のまとめ
10	確率(1) 〈大数の法則、事象、順列、組み合わせ〉
11	確率(2) 〈互いに独立、条件付き確率、乗法定理、ベイズの定理〉
12	確率分布(1) 〈離散型確率変数、二項分布、漸化式、期待値〉
13	確率分布(2) 〈連続型確率変数、正規分布、標準化、二項分布の正規近似〉
14	確率と確率分布のまとめ
15	前期試験

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の結果と復習
2	母集団と標本(1) 〈乱数、標本調査、無作為抽出、統計的実験〉
3	母集団と標本(2) 〈母集団分布、標本分布、中心極限定理、自由度〉
4	統計的推定(1) 〈不偏推定量、推定、信頼係数、区間推定〉
5	統計的推定(2) 〈比率の推定、二項分布、信頼区間、サンプルサイズ〉
6	統計的推定(3) 〈母平均の推定、正規分布、相対効率、最尤推定〉
7	統計的推定のまとめ
8	統計的仮説検定(1) 〈帰無仮説、対立仮説、第1種の過誤、有意水準〉
9	統計的仮説検定(2) 〈比率の仮説検定、片側検定、両側検定、比率の差の仮説検定〉
10	統計的仮説検定(3) 〈 2×2 の分割表、I型の分割表、独立性の仮説、 $r \times s$ の分割表〉
11	統計的仮説検定(4) 〈母平均の仮説検定、母平均の差の仮説検定、相関係数の検定〉
12	統計的仮説検定のまとめ
13	ノンパラメトリックな方法(1) 〈スピアマンの順位相関係数、ケンドールの順位相関係数、適合度検定〉
14	ノンパラメトリックな方法(2) 〈符号検定、順位和検定、ウイルコクソンの符号付き順位和検定〉
15	後期試験
備考	

科目名	統計学	担当者名	本田 勝
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>我々の身の回りの様々なデータを解析し、推論していく統計学の手法は経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義の目的は、統計学の基本的考え方と、それを具体的に応用していく方法を習得することである。</p>	
講義概要	<p>記述統計学によって、データの整理のし方を述べる。</p> <p>確率分布の準備のために確率の概念を述べる。</p> <p>一般的な確率分布の考え方を述べる。</p> <p>いくつかの特殊な確率分布について述べる。</p> <p>標本分布の考え方について述べる。</p> <p>推定について、点推点、区間推定の順に述べる。</p> <p>統計的仮説検定について述べる。</p> <p>2変量の統計的解析について述べる。</p> <p>ノンパラメトリックな検定について述べる。</p>	
使用教材	テキスト	・拙著 『基本統計学』 産業図書
	参考文献	・C.R. ラオ著 (藤越他訳) 『統計学とは何か』 丸善
評価方法	前期および後期の定期試験と、レポート、出席調査による総合評価。	
受講者に対する要望など	各自、専用のノートを用意し、講義内容を記録すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	統計的とは何かについて、統計学の導入を行なう。(母集団、標本、記述統計、推測統計)
2	標本として得られるデータの整理の仕方について述べる。位置の尺度のとらえ方など。(度数分布、平均、中央値、最頻値)
3	ばらつきの尺度によるデータ特性の把握の仕方について述べる。(分散、標準偏差、チェビシェフの不等式)
4	データ整理の方法を理解するための演習を行なう。
5	確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。(和事象、積事象、順列、組み合わせ)
6	確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。確率に関する問題演習を行なう。
7	確率度数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。
8	確率分布の数学的定義を、密度関数と分布関数を用いて説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。
9	2項分布を例に、確率分布(離散型)の性質を調べる。
10	ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。
11	連続分布とその特性について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。
12	正規分布の確率の求め方と確率度数の標準化について述べる。問題演習。(標準正規分布)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	標本分布とは何か、標本分布はどのような確率分布をするかについて述べ、中心極限定理についても言及する。
2	標本比率の分布はどのような確率分布をするかについて述べ、2項分布の正規近似についても言及する。
3	カイ2乗分布およびスチュードントのt分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。
4	母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。(不偏推定量、信頼係数)
5	母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習。
6	母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。
7	統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。問題演習。(帰無仮説、対立仮説、検定の過誤)
8	2度数間の相関とは何かについて述べる。(共分散、正の相関、負の相関、完全相関)
9	回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法)
10	カイ2乗検定の考え方について述べる。問題演習。(適合度検定、分割表、独立性の検定)
11	ノンパラメトリック検定の考え方を述べる。(符号検定、順位和の検定)
12	一年間の総復習を行なう。
備考	

科目名	統計学	担当者名	松井 敬
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献をしてきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの目ざましい発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。</p> <p>本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目標とするが、出来るだけ具体的な問題を意識しながら進めることにする。</p>		
講義概要	<p>前期では記述的な統計から始め、単純回帰、初歩的な確率論を経て、確率分布までを扱う。既知の内容も多いと思うが、後期で扱う応用のための方法論の基礎となるものなので、後期の内容との関連の上で体系的に説明してゆきたい。後期は、統計的方法として様々な分野で応用される内容を含んでいる。すなわち、推定、検定、ノンパラメトリック法などの理論と方法である。</p> <p>実験、観察、調査などには数量的なデータが付随するが、これらの処理にはデータの背景を十分に考えた適切な統計的方法を選択する必要がある。講義の中ではこういった点に十分配慮し、統計の応用に際して留意すべき点を明確にしてゆきたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃</p>	
	参考文献	<p>上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているため、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。</p>	
評価方法	<p>前・後期二回の期末試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義内容をより良く理解してもらうために、適宜演習を取り入れている。そのために、電卓を常に持参してほしい。</p>		

年間講義予定

前期

主要テーマ	
週	
1	統計学とは何だろうか：(1)統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのかについて概説する。あわせて、統計学の位置づけや統計的な考え方についても述べたい。(2)年間の授業の進め方、方針、その他。
2	統計学の考え方、データを記述する尺度：(1)統計的な見方、考え方とはどんなことか。(2)変量(変数)と尺度。(3)データを記述する尺度について。
3	データを記述する尺度：(1)位置と散らばりの尺度、(2)データを記述する様々な尺度の意味と特徴およびそれらを求める(計算する)上での注意。(3)度数分布表、ヒストグラムなど。
4	2つの変数の間の関係をさぐる-1：身長と体重、需要と供給、打率と打点といった2つの変数の間の関連性を説明する尺度について考える。相関係数と回帰。
5	2つの変数の間の関係をさぐる-2：2つないし3つ以上の変数間の“線型”な関係を調べる。回帰直線、重回帰。
6	確率-1：(1)なぜ確率を学ぶか、どんな点に注意すべきか。(2)確率を考える立場、用語、定義。
7	確率-2：(1)順列、組み合わせなど。(2)独立性など事象についての諸概念。(3)条件付き確率、ベイズの定理。(4)復元抽出、非復元抽出。
8	確率分布-1：(1)確率の考えを借りて、試行(実験)の結果を分布という概念でとらえる。(2)離散型確率分布-超幾何分布、二項分布、ポアソン分布など。
9	確率分布-2：(1)確率分布の意味を再考し、一般化する。(2)離散型確率分布の平均値と分散、期待値。
10	確率分布-3：(1)連続型確率分布-連続型確率分布の意味。(2)正規分布-分布の形状、特徴その他。
11	正規分布その他：データ処理の様々な場で見られる正規分布とその周辺のことについて考察する。(1)正規分布。(2)二項分布の正規近似。(3)その他の連続分布。(4)連続型確率分布の平均と分散(期待値)。
12	データの要約：(1)データを記述する尺度とデータの特徴づけを終えたところで、統計的な考え方を再考する。(2)前期のまとめ。
備考	

後期

主要テーマ	
週	
1	無作為標本(ランダム・サンプル)、母集団と標本-1：母集団と標本の概念は、現代の統計学の枠組みを与えていて大変重要。(1)無作為標本。(2)乱数、無作為抽出法。(3)母集団と標本、統計量、標本分布。
2	母集団と標本-2：(1)標本平均の標本分布、中央値の標本分布、一般に標本分布。(2)中心極限定理。カイ2乗分布、t-分布、F-分布。
3	推定-1：標本(サンプル)にもとづいて母集団のパラメータ(母数)を推定する一方法とその意味。(1)点推定。(2)比率の区間推定。(3)サンプルの大きさについて。
4	推定-2：(1)正規分布の母平均 μ の区間推定。(2)なぜ標本平均を用いるか-推定量の意味、推定量の性質、推定量の比較。(3)最尤推定法-データから母数を探る。
5	統計的仮説検定-1：“仮説”の検定を、どんな考え方にそって行うのかを、まず、(1)手法(考え方)の理解、次に、(2)様々な場合への対応という点から理解してもらう。
6	統計的仮説検定-2：(1)比率の検定-考え方と手順。(2)2x2表-2x2表にもとづく検定の意味。
7	統計的仮説検定-3：(1)2x2表-モデルとの関連、タイプの異なる2x2表。(2) $r \times s$ 表
8	統計的仮説検定-4：正規分布の母平均の検定-母集団が1つの場合、母集団が2つの場合(平均の差の検定)。それぞれの場合について、分散が既知、未知の場合にわけて検討する。
9	統計的仮説検定-5：(1)相関係数の検定、分散の検定(母集団が1つの場合、2つの場合)。(2)一般に統計的仮説検定を行う際の手続きと注意-具体例を通して、統計的仮説検定の問題を考えてみる。
10	ノンパラメトリックな方法-1：(1)ノンパラメトリックな方法とは？なぜノンパラメトリックな方法を用いるのか。(2)順位相関係数。(3)符号検定。
11	ノンパラメトリックな方法-2：(1)順位にもとづく検定。(2)適合度検定。
12	統計的推測：(1)統計的方法の枠組みの理解と様々な手法の関連を再考する。(2)後期のまとめ。
備考	

科目名	経済統計	担当者名	松本正信
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。</p>		
講義概要	<p>第Ⅰ部 指数の問題、その成り立ちと理論的根拠 第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表 第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析 以上、詳しくは後の年間講義予定を見られよ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年（21刷）</p>	
	参考文献	<p>・講義の都度指示</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に、出席状況・受講態度を加味して評価する。2回の試験のうち、学年末の後期定期試験にややウエイトを置いた配点としたい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>まずは講義を聴き給え。きっと面白いぞ。</p>		

年 間 講 義 予 定

以下の、序論を含めた19の項目を年間を通じて1～3回にわたる講義で進める予定である。

序 論

経済と経済統計と経済学

第I部 指数

- 1 指数について（指数理論）
- 2 平均値について
- 3 物価指数と数量指数
- 4 消費者物価指数（付論：消費者選好理論とヴェルトケウイッチの関係式）
- 5 その他の物価指数の例と各種デフレーター
- 6 生産数量と生産指数——いくつかの代表例

第II部 国民所得統計と産業連関表

- 1 国民所得統計と国民所得分析
- 2 社会会計の考え方とマトリックス
（2の付論：コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制）
- 3 新SNA
- 4 産業連関表
- 5 産業連関分析とその応用

第III部 時系列分析と回帰分析

- 1 時系列データとその解析
- 2 時系列分析——トレンド（趨勢、傾向線）、循環変動、季節変動、不規則変動——
- 3 時系列分析の方法——移動平均法、趨勢線のあてはめ、他——
- 4 景気動向指数——ディフュージョン・インデックス——
- 5 回帰分析と回帰方程式
- 6 計量経済学の方法
- 7 構造推計と将来予測

なお、学年末にいたって時間に余裕があれば、教科書の付録にある「ORの話」「ゲームの理論」にも触れることで、のちのちの経済学の勉学に資するようにしたいと思う。（昨年度はそれがあつた程度できたのである。）

科目名	国民所得論	担当者名	安藤 登
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>こんにちは、国民経済の動向に関する多種多様な情報と経済指標の利用によって経済の現状分析が活発に行なわれ、時々刻々、茶の間にも届けられている。そのさい多くのマクロ的経済指標が利用されていることに気づくであろうし、それらを作り出す基礎的枠組が GNP などを含む国民経済計算であることが分かる。国民経済計算こそ実際のマクロ経済分析の基礎（経済の解剖学）なのである。</p> <p>本講義ではこれが学習の上に、「経済の生理学」たるマクロ経済学へと可能なかぎり学習を進めてゆくことを目指すのである。</p>	
講義概要	<p>「国民所得」の略史から始める。簡単に一瞥したのちは、太平洋戦争終結後、輸入学問として入ってきた国民所得分析（ラッグルスによれば「国民所得勘定と所得分析」）があり、その後年を経るにつれて、現在の「SNA」が形成・発展・利用されてきた経過を講義する。現実経済の発展に伴なって改訂と展開をいまなおつづけている状況もつけ加える。</p> <p>つづいて国民所得分析理論（マクロ経済学）について、上記ラッグルスの時代に比べれば、はるかに多様多彩となった理論を、極めて入門的なところから始めて、可能なかぎり最近までの動向についてできるだけ分かりやすい講義にするように努力する。</p>	
使用教材	テキスト	未定（選定中）
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・白川一郎・井野靖久『SNA 統計一見方・使い方』 東洋経済新報社、(準テキスト) ・新開陽一『マクロ経済学 第2版』 東洋経済新報社 (準テキスト) ・中谷巖『入門マクロ経済学 第3版』 日本評論社
評価方法	<p>前・後期定期試験の成績によって評価するが、受講態度（主に出欠）も勘案することがある。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国民所得から国民経済計算へ——国民所得推計の沿革、国民所得から国民所得勘定へ、アメリカ方式から国連方式へ（旧 SNA と新 SNA）。
2	各種の国民経済計算の成り立ちと発展——各種経済計算体系の導入と試算。
3	リチャード・ストーン博士と SNA——ケインズの直弟子、“ストーン・エイジ”を築く、さらなる発展への展望。
4	SNA でみる経済循環の姿——わが国経済の循環を計数入りでトレースする。
5	個別の経済計算体系の構造と特徴——国富と資本ストック、概念と構造。
6	同上——産業連関表、概念と構造、W・レオンチェフの創意、国民経済の一大フロー・ダイアグラム。
7	同上——資金循環勘定、概念と構造、M・コーブランドの創意、資金過不足分析。
8	同上——国際収支表、概念と構造、IMF 方式。
9	マクロ経済学の課題——古典派とケインズ、マクロ経済政策の目標と効果。
10	国民所得決定のケインズ理論——有効需要の原理、乗数、消費、投資、純輸出、経済安定化政策。
11	消費関数——絶対所得仮説、相対所得仮説、恒常所得仮説、生涯所得仮説。
12	投資関数——資本の限界効率、加速度原理、ストック調整原理、トービンの q 理論。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	IS・LM 分析について——J. R. ヒックスの書評論文、その後の経緯。
2	IS 曲線の導出——かんたんな投資関数と総独立支出関数、IS 曲線の導出、IS 曲線のシフト。
3	LM 曲線の導出——資産市場、貨幣供給、貨幣需要、貨幣需給の一致、LM 曲線の導出、LM 曲線のシフト。
4	所得と利子率の同時決定（IS-LM の同時均衡）
5	IS・LM 分析——財政政策の効果、クラウディング・アウトとクラウディング・イン
6	同上——貨幣・利子理論再論
7	同上——金融政策の効果
8	IS・LM 分析理論再考
9	インフレーションと失業
10	景気循環
11	経済成長
12	マクロ経済学の動向
備考	

科目名	一般経済史	担当者名	原 剛
-----	-------	------	-----

講義の目標	近代的工業化社会の成立にいたるまでの人間社会の経済の歴史の跡を、原始時代からたどることを目的とする。	
講義概要	まず経済史の課題について述べ、次に人口変化と経済変化の歴史的関係について述べる。その後には世界の様々な文明圏における経済発展の歴史を産業別に講義する。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	マルサス著、高野岩三郎・大内兵衛訳、『人口の原理』（岩波文庫、1935）。石南國、『人口論—歴史・理論・統計・政策』（創成社、1993）。村上陽一郎、『ペスト大流行—ヨーロッパ中世の崩壊』（岩波新書、1983）。ボズラップ著、安澤秀一・みね訳、『農業成長の諸条件—人口圧による農業変化の経済学』（ミネルヴァ書房、1975年。）中尾佐助、『栽培植物と農耕の起源』（岩波新書、1966）。スチュアート・ヘンリ編著、『世界の農耕起源』（雄山閣、1986）。他多数。
評価方法	前期試験および学年末試験によって評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済史の課題：経済発展の歴史的考察の方法
2	人口の歴史：人口変化と経済変化の歴史的関係
3	農業の起源と古代世界の農業：最初の経済革命、栽培植物と農耕の起源、古代中国の農業、古代地中海世界の農業
4	中世の農業：東アジアの農業、イスラム圏の農業
5	同：ヨーロッパ封建制度下の農業
6	近・現代の農業：イギリスの農業革命とヨーロッパ大陸諸国の農業
7	同：アジア、大洋州、アフリカの農業
8	同：アメリカ大陸の農業
9	工業の歴史の開始と古代の工業：新石器革命と日用品の製作、中国、オリエント、ギリシャ、ローマの工業
10	中世の工業：中国とヨーロッパの手工業と東から西への技術の伝播
11	近代ヨーロッパ工業：イングランドの早期産業革命
12	同：イギリスの産業革命
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近代ヨーロッパ工業：産業革命の世界への波及
2	後発工業国の前進：英国経済の相対的な衰退
3	商業の起源と古代の商業：ヒックスのモデルと古代アジアと地中海地域の商業
4	中世の商業：東アジア、イスラム圏の商業
5	同：ヨーロッパの商業：初期の停滞と復活
6	近代の商業：16世紀の商業革命：世界貿易の開始
7	国民経済の衝突：重商主義
8	世界経済の成立：工業化と国際分業
9	大企業の時代：流通システムの整備と株式会社の増加
10	近代社会の貧困：救貧法の歴史
11	同：福祉国家の形成
12	工業化の功罪：生活水準の向上と環境破壊
備考	

科目名	国際経済論	担当者名	益山光央
-----	-------	------	------

講義の目標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。	
講義概要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は開放経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。	
使用教材	テキスト	教科書 ・仙頭佳樹ほか『あなたにもわかる国際経済学』多賀出版、1991
	参考文献	・渡辺太郎『国際経済（第四版）』春秋社、1990 ・Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994
評価方法		
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	リカード的奉易理論Ⅰ
3	リカード的貿易理論Ⅱ
4	ヘクシャーオリーン定理Ⅰ
5	ヘクシャートリーン定理Ⅱ
6	リプチンスキー定理
7	ストルパーサミュエルソン定理
8	関税Ⅰ
9	関税Ⅱ
10	国際生産要素移動Ⅰ
11	国際生産要素移動Ⅱ
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	GNP と GDP
2	固定収支表
3	固定相場制下の所得決定Ⅰ
4	固定相場制下の所得決定Ⅱ
5	変動相場制下の所得決定Ⅰ
6	固変動相場制下の所得決定Ⅱ
7	開放経済上の金融政策Ⅰ
8	開放経済上の金融政策Ⅱ
9	開放経済上の財政政策Ⅰ
10	開放経済上の財政政策Ⅱ
11	ポリシーミックス
12	まとめ
備考	

科目名	地域経済論(1) 北米(済新、旧) 地域経済論(済旧旧)	担当者名	本田浩邦
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	現代アメリカ経済論を講義する。大恐慌以降現在までを対象にマクロ経済の発展過程を概観し、各段階における資本蓄積および経済政策の問題点を検討する。		
講義概要	講義の内容は、29年恐慌の分析をつうじて新古典派、ケインジアン、マルクス経済学、その他の経済理論、経済政策論の対立点を把握し、それを基礎に戦後の景気循環のプロセスを分析するという前段と、80年代の経済不均衡の諸側面を分析する後段とに分かれる。講義をつうじて、つかんでほしいと思っている点は、アメリカにおける既存の経済政策体系がいかなる現実的背景と理論的根拠をもって出現し、それらが各段階の資本蓄積とのかかわりでどのような意義と限度を持ったかということである。		
使用教材	テキスト	・平井規之他著『概説アメリカ経済』有斐閣、1994年刊	
	参考文献	・佐藤定幸『20世紀のアメリカ資本主義』新日本出版社、1993年刊 ・『アメリカ経済白書(95年度版)』(『週刊エコノミスト』臨時増刊号、4月上旬発売予定)	
評価方法	前期および後期の定期試験による。		
受講者に対する要望など	応用的な性格の強い科目であるが、必要に応じて基礎的なことがらから説明するつもりなので、意欲的に参加してほしい。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	現代アメリカ経済論をなぜ学ぶか アメリカ経済研究の現状/講義の課題と構成/すすめ方と注意事項/テキストおよび参考文献について (＊出席者はテキストとシラバスを持参すること)
2	1920年代のブームから大恐慌の発生・波及 20年代の繁栄とその国際的背景/住宅・耐久消費財/国内経済の破綻/国際金融危機/労資関係の変容と政治的危機/33年・35年銀行法と金融制度改革
3	ニューディールの展開過程 第1期 (1933~35) / 第2期 (1935~37) / 第3期 (1938~39) / ローゼベルトの対外政策/再建金本位制の崩壊からブロック経済へ/ロンドン世界経済会議 (1933)
4	29年恐慌とニューディールの理論—資本蓄積と経済政策 ブルッキングス研究所・ケインジアン/マネタリスト/マルクス経済学/29年恐慌の国際的位置/キンドルバーガー「覇権安定化理論」/1920年代のフラン問題
5	戦後アメリカの経済政策とケインズ経済学 ケインズ経済学の形成と背景/『雇用・利子および貨幣の一般理論』(1936) /ケインズの世界経済認識/ケインズ経済学にたいする批判/ケインズ以降のケインズ経済学
6	戦後世界体制の再編とアメリカ 戦後世界体制の政治的枠組み/「大西洋憲章」(1941.8) /トルーマン・ドクトリン (1947.2) /朝鮮戦争 (1950.6~53.7)
7	戦後世界経済の枠組みと戦後初期における経済成長の国内的条件 マーシャル・プラン (1947.6) /IMF・GATT 体制/戦後初期の発展過程の概観/「1946年雇用法」/戦後の国債価格支持政策
8	ベトナム戦争とアメリカ社会 アイゼンハワーからケネディへ/「軍産複合体」と宇宙開発競争/ベトナム戦争・人種問題/「偉大な社会」の矛盾
9	ケネディ政権期の経済政策と経済成長 「ニュー・エコノミックス」による成長政策/基本内容/1964年減税その他一連の経済政策をめぐる/オペレーション・ツイスト/インフレーションとドル過剰、IMF体制の動揺
10	1967~79年のアメリカ経済の発展過程 スタグフレーションと1974~75年恐慌/国際収支危機/「第二次石油危機」と二桁インフレ/金融自由化/景気循環過程の分析
11	マネタリズムとサプライサイド経済学 アメリカの経済的停滞と経済学の混迷/マネタリズムの主要な政策論/合理的期待形成学派/問題点/サプライサイド経済学/減税路線とラフファー曲線
12	前期全体のまとめ、質疑
備考	

後期

週	主要テーマ
1	後期全体の概説と時事問題
2	レーガノミックスと1980年代のアメリカ資本主義 「経済再建プログラム」(1982.2) /1981~82年のリセッション/1980年代のマクロ経済の概観—家計・企業・政府部門/貯蓄・投資バランスからは見えない問題
3	アメリカ財政の現状と問題点 1980年代の財政政策の展開/グラム=ラドマン=ホリングス法 (1985) /1986年税制改革法/1990年包括財政調整法/1996年度予算案の分析/財政赤字の国際的なファイナンスと日本
4	財政の理論的分析—財政赤字および公債をめぐる議論 財政赤字肯定論 (ロバート・アイズナー、リカード=バローの等価定理) /財政赤字の批判 (たとえばクルーグマン) /財政赤字はどのような意味で問題か
5	アメリカの金融制度改革と金融政策 第1段階 (1979~82) /第2段階 (1982.8~1985.9) /第3段階 (1985.9~) /金融政策の事後的評価/途上国債務問題/貯蓄貸付組合 (S&L) の破綻/商業銀行の破綻
6	金融危機の国際的側面 ハードランディング・シナリオ (P・クルーグマンとS・マリス) /金融不安と実態経済 (H・ミンスキー「金融不安定仮説」)
7	1980年代アメリカの産業と産業金融 産業再編をめぐる議論の特徴/産業再編の特徴と第4次M&Aブーム/企業戦略の国際的条件/リストラクチャリングと金融・資本市場
8	アメリカにおける国民生活の実態 貧困の定義/家計の貯蓄・債務の水準/経済的不平等の進行とアメリカン・ドリーム of 終焉/人種差別・性差別/ポスト・ケインジアンによる所得格差の分析
9	クリントン政権の国内経済政策 国際競争力の定義/アメリカ企業の多国籍化と国際収支/国内経済の空洞化/クリントン政権の国際競争力強化策
10	クリントン政権の対外経済政策 日米経済関係/NAFTA/APEC/EU/発展途上国/対外不均衡と国際的資金循環の制約/ドル暴落・インフレ爆発の可能性と政策協調
11	世界経済のなかのアメリカと日本 貿易面での相互関係/日本企業の対外進出とアメリカ/日米構造協議、MOSS協議から日米包括経済協議へ
12	講義全体のまとめ、質疑
備考	

科目名	地域経済論(2) 西ヨーロッパ(済新、旧) 地域経済論(済旧旧)	担当者名	大島 通 義
-----	-------------------------------------	------	--------

講義の目標	<p>ヨーロッパは今、アジアとアメリカとならんで、世界経済の三極化の一つの中心をなしている。その原動力はドイツにあり、第二次世界大戦後には、ドイツとフランスの協調関係のうえにヨーロッパ共同体が築かれてきた。しかし、この大戦の以前にまでさかのぼるならば、そこではドイツとフランスは政治的にも経済的にも対立し競合していた。列強の対立から協調へとこのように大きな転変をとげるヨーロッパ経済の歴史を、ドイツに焦点を合わせながら前世紀後半以来の時期について振り返り、現在の状況を見るのが、この講義の目的である。</p>		
講義概要	<p>前期においては、19世紀後半以来第一次世界大戦まで、両大戦間の時期、第二次大戦後の時期にわけて、ヨーロッパにおける諸国の経済関係がどのように発展してきたかを概観し、かつては対立・競合していた列強諸国が戦後になって経済の統合へと転換していく過程を明らかにする。</p> <p>後期には、最近の西欧における経済統合のもとで、各国の経済においてどのような事態の展開がみられるのかを考察する。いま欧州では、統合を背景に「国家を上を超えようとする国際化」と「下に多元化しようとする地域化」が進みつつあるといわれる。この両面に留意しながら、最近のこの地域の経済の動向について理解を深めることにつとめる。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しない。講義の進行におうじて必要な文献を指示する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・大西健夫編『ドイツの経済』早稲田大学出版部、1992年 ・坪郷実著『統一ドイツのゆくえ』岩波新書、1992年。 ・梶田孝道著『統合と分裂のヨーロッパ』岩波新書、1993年。 ・田中友義・河野誠之・長浜貴樹『ゼミナール 欧州統合 歴史・現状・展望』有斐閣ビジネス、1994年。 	
評価方法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。ほかに、前・後期にそれぞれ3回程度、それまでの講義内容についての短いレポートの提出を求める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>履修者は、理論経済学の基礎を理解していることが望まれる。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第一次世界大戦以前のヨーロッパ経済 (1) 国民国家と国民経済の形成
2	同 (2) 勢力均衡と市場獲得競争
3	两大戦間期のヨーロッパ (1) ヴェルサイユ体制のもとでの欧州経済
4	同 (2) 世界大恐慌とブロック経済への転換
5	同 (3) 第二次大戦による地域経済の変貌
6	戦後体制の準備とその制度化 (1) 連合国による戦後構想
7	同 (2) 戦後復興の開始
8	同 (3) 統合への始動と反動
9	ヨーロッパ共同体の形成過程 (1) 域内市場統合の完成まで
10	同 (2) その後の発展
11	ヨーロッパ共同体の現状
12	ヨーロッパ共同体の今後
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国民経済と経済統合 (1) 企業活動
2	同 (2) 労働問題、社会保障
3	同 (3) 金融・保険
4	同 (4) 通貨・財政・租税
5	同 (5) 国際経済
6	同 (6) 国家主権
7	地域経済と経済統合 (1) 国境を越える地域
8	同 (2) その実態
9	ヨーロッパ経済と各国経済 (1) ドイツ
10	同 (2) イギリス
11	同 (3) フランス
12	同 (4) 北欧三国
備考	

科 目 名	地域経済論(3) 東ヨーロッパ (済新、旧) 地域経済論 (済旧旧)	担当者名	鈴木 勇
-------	---------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>この地域の諸国は社会主義体制の崩壊と資本主義体制への移行という大転換期に直面している。社会主義の崩壊という現実、マルクス主義の見方からすれば、歴史の歯車の逆転であって起るはずのない出来事であった。にもかかわらず、ソ連・東欧の社会主義は崩壊してしまった。「なぜ崩壊したのか」、「社会主義とは一体何であったのか」。これらの問題を考察することが本講義の第一の目標である。もう一つの目標は、転換期のただ中にあるこれらの国が、どのような状況にあり、どのような問題を抱えているのか、体制転換の展望と意義を探ることにある。</p>	
講義概要	<p>つい最近まで、この地域の諸国は社会主義体制のもとにあったが、同じ社会主義といっても経済システムの特徴からすると著しく性質を異にするものであった。まず、ソ連型の国家管理社会主義と旧ユーゴスラヴィアの労働者自主管理社会主義、それに1968年改革後のハンガリーの経営者管理社会主義の三つに大別できる。本講義ではこの点に着目して、これら三つのパターンを中心に考察し、マルクスの社会主義モデルとの比較検討も加えて、上記の講義目標に接近したいと思っている。この地域の最近の経済事情に関しては、本年度はロシア経済と新ユーゴ経済を中心に考察する予定である。</p>	
使用教材	テキスト	・鈴木勇『市場的社会主義とマルクス主義』(増補改訂版)学文社、1988年
	参考文献	その都度指示する。
評価方法	評価は定期試験の成績をもって行う。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の目標と概要について
2	社会主義経済システムの比較研究のための準備的考察
3	マルクスの社会主義・共産主義モデル
4	ロシア革命 (1917年)
5	戦時共産主義と新経済政策 (NEP) の時期
6	集権型国家管理社会主義の形成と経済構造 (1)
7	同 上 (2)
8	ソ連の経済改革 (1965年)
9	第2次世界大戦後の東欧諸国
10	旧ユーゴスラヴィア (1) 対ソ決裂から独自の道へ
11	同 上 (2) 労働者自主管理社会主義の形成
12	同 上 (3) 1980年代までの変遷過程
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ハンガリー (1) 1968年の経済改革
2	同 上 (2) 経営者管理社会主義の経済
3	市場的社会主義の理論 (1) (B. ホルヴァート)
4	同 上 (2) (O. シク)
5	ソ連の国有企業法 (1987年) とペレストロイカ (1)
6	同 上 (2)
7	社会主義の崩壊 (ソ連・東欧諸国)
8	ソ連邦崩壊後のロシア経済 (1)
9	同 上 (2)
10	旧ユーゴスラヴィアの解体と現状 (1)
11	同 上 (2)
12	総 括
備考	

科目名	地域経済論(4)・アジア・オセアニア (済新、旧) 地域経済論 (済旧旧)	担当者名	森 健
-----	--	------	-----

講義の目標	<p>アジア太平洋に位置する様々な国・地域の経済を学ぶことによって、要素賦存状況、国の大小、発展段階、政治社会状況、価値観などがそれぞれ異なる国において、経済的特徴はどのように変化するのか、経済原則はどのように貫徹しているのかを理解する。今年度の講義では、豪州経済の検討を中心とし、さらに、豪州経済と日本を含む西太平洋岸アジア諸国との相互依存関係の変化の特色を学ぶ。</p>		
講義概要	<p>前期では、英国の流刑植民地として開発が始まった豪州について、羊毛産業確立以降の様々な経済変動を通じて、対英関係が変化した因果関係、19世紀においてこの国が最も先進的な福祉と民主的政策を導入できた理由、1901年の連邦結成の背景、両次大戦が豪州経済に与えた影響、戦後の大規模な資源開発がもたらした産業構造へのインパクト、といった歴史的な側面について学ぶ。後期では、関税保護による輸入代替工業化政策をとってきた豪州が、保護コストを増大させていくメカニズムを検討し、近年の自由化路線への転換に至る経緯を分析する。次に、外資と移民が果たしてきた役割について検討する。さらに、日豪経済交流についてとりあげる。最後に、環太平洋経済圏の現状と将来について考える。</p>		
使用教材	テキスト	(以下の文献と共に、適宜、プリントした資料を配布する)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・関根政美、鈴木雄雅、竹田いさみ、加賀爪優、諏訪康雄著『概説オーストラリア史』有斐閣、1988年 ・マニング、クラーク著、打下美保子訳『オーストラリアの歴史：距離の暴虐を超えて』サイマル出版会、1978年 ・ウォーレン、リード著『オーストラリアと日本』中公新書、中央公論社、1992年 	
評価方法	成績は、年2回の定期試験の結果で評価する。		
受講者に対する要望など	<p>要望：上に記したように、特定のテキストではなく、講義とプリントを中心に授業を進めるので、欠席した場合は友人のノートを借りて補完する努力を怠らないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	地域研究の意義、アジア・太平洋経済を学ぶ意義
2	前史、植民地の成立
3	ブルー・マウンテンズ踏破、羊毛業の成立、スクオッター
4	労働力不足と流刑囚労働の扱い、国有地売却、一般移民
5	対英不満、ウェークフィールド方式
6	流刑廃止、植民地政府法
7	金発見、1860～1880年代のブーム、人口急増
8	金鉱夫と民主化、中国人排斥
9	1890年代の恐慌
10	連邦成立
11	豪州工業化の特質
12	「仲間主義」再論
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	豪州の産業構造
2	国際収支構造、資源ブームと「オランダ病」
3	農牧業、鉱物資源産業
4	アボリジニ
5	多民族・多文化社会の実験
6	製造業
7	保護政策と近年の政策変更（関税委員会、産業援助委員会、ガーノー報告、バトン計画）
8	自動車産業をめぐる保護の歴史（国産化計画の経済学）
9	外資問題、競争政策
10	貸金決定制度
11	日豪経済関係（貿易、投資を中心として）
12	環太平洋経済をめぐる問題（APECなど地域経済協力の含意）
備考	

科目名	地域経済論(6) ラテンアメリカ (済新) 地域経済論 (済旧旧)	担当者名	山本正三
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	日本経済と深いつながりのあるラテンアメリカ諸国および諸地域の経済事情を、自然的基盤、歴史的発展過程、資源と産業、国内諸地域の地理的、経済的、社会的諸特性を分析し、考察することが目標で、この地域の経済の将来展望、日本との関連についても考察を進めていく。	
講義概要	前期にはラテンアメリカ経済の現状とその自然的基盤との関連、歴史的経緯、経済活動を一般的に説明し、後期にはこの地域の経済発展の諸相、経済問題、産業と企業の特質について説明する。	
使用教材	テキスト	後期のみ使用 ・小池洋一、西島章次編『ラテンアメリカの経済』新評論社、1993
	参考文献	・加茂雄三編『ラテンアメリカ・ハンドブック』講談社、1982 ・細野昭雄『ラテンアメリカの経済』東大出版会、1983 ・染田秀藤編『ラテンアメリカ』世界思想社、1993
評価方法	定期試験の成績と、前期と後期それぞれ1～2回のレポートおよび出席を加味して行う。	
受講者に対する要望など	テキストを必ず用意すること。私語をつつしむこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラテンアメリカ経済の一般的・地域的特質
2	経済の一般的条件 (1) 自然条件——位置、地形
3	経済の一般的条件 (2) 自然条件——気候の地域的差異と経済への影響
4	経済の一般的条件 (3) 歴史と住民——住民の構成、歴史的発展過程
5	経済の一般的条件 (4) 歴史の住民——先住民とその文化・経済、植民の展開
6	経済の一般的条件 (5) 住民の社会的特質
7	経済の一般的条件 (6) 人口増加、分布状態、都市の発展
8	経済活動 (1) 農牧業——土地所有、農場規模構造、生産構造、生産物の経済的特性
9	経済活動 (2) 農牧業——農牧業の地域分化、生産の地域的特性
10	経済活動 (3) 鉱山業——経済における鉱山業の地位、発展過程、主要鉱山業地域
11	経済活動 (4) 商業・貿易——輸出業の盛衰、その特質
12	経済活動 (5) 工業——工業化の進展、経済における工業の地位の変遷、工業地域の形成過程と地域的特質
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済発展の諸相 (1) ラテンアメリカ農牧業の特質——大土地所有制、輸出指向、近代化と農村人口減少、農村の貧困
2	経済発展の諸相 (2) 一次産品輸出経済——その形成過程と要因、温帯工業国との関連
3	経済発展の諸相 (3) 工業化戦略の展開——輸入代替工業化戦略、自由主義戦略
4	経済発展の諸相 (4) 経済発展と所得分配——現状と歴史的、社会的構造的要因
5	経済発展の諸相 (5) 都市のインフォーマルセクター——その実態とその社会経済的意義
6	ブラジルの経済 (1) ブラジル経済の特質、その形成過程、自然的基盤
7	ブラジルの経済 (2) 経済発展の地域的特質、地域較差と地域開発計画の進展
8	ブラジルの経済 (3) ブラジル経済における日系人
9	アンデス諸国の経済的特性——とくにペルー、コロンビア、ベネズエラ、ボリビアの経済的特性
10	温帯ラテンアメリカの経済——アルゼンチン、ウルグアイ、チリその経済的発展
11	メキシコの経済——アメリカ合衆国との関係
12	ラテンアメリカ経済と日本との関連——歴史的過程、日系企業の進出、相互依存関係
備考	

科目名	労働経済論	担当者名	桑原 靖夫
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>労働経済学 (Labour Economics, The Economics of Labour) は、多くの人々が人生においてさまざまな仕事 (労働) に従事する次元、いかえると「労働市場」の構造、機能、政策を分析対象とする応用経済学である。講義では現実の複雑な事象を分析するための方法を蓄積するために理論的側面に重点を置くが、できるかぎり最近の労働市場における新しい展開も併せて紹介するようになりたい。</p>	
講義概要	<p>労働経済学は今日の応用経済学の中では、次々と新たな問題が生まれ、新しい仮説も提示されているため、最も「面白い」領域といわれている。いわば臨床医学に相当するこの分野の全体像を把握するには1年間の講義では十分ではないが、初歩的段階から専門文献が読めるまでの理論および実証分析のトレーニングを行いたい。受講者が終了段階で今まで見えなかった世界への分析武器を身につけることが出来たと実感できるように、インテンシブな講義を目指している。講義では現代労働経済学の主要領域をカバーし、さらに上級段階へ登頂するための手がかりを準備したい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>本講義の全体をカバーするテキストは使用しないが、『労働白書』の内容にしばしば言及するので準備すること。労働省編『平成7年 労働白書』日本労働研究機構、1995年。</p>
	参考文献	<p>開講に際して参考文献リストを配布する。労働経済学の主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門用文献に目を通すことを勧める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西川俊作『労働市場』日経文庫、1980年 ・小野旭『労働経済学第2版』東洋経済新報社、1994年
評価方法	<p>原則として年1ないし2回のテストによる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義ではできうるかぎり、グラフィックな提示などを通して、平易な解説に努めるが、受講生にも参考文献を読み、問題に取り組む積極的な姿勢を期待したい。計量経済学、社会政策、産業構造論など関連講義の受講を勧めたい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	労働経済学とはいかなる学問か 臨床医学・基礎医学との対比 制度学派、社会政策学との関連 応用経済学としての特徴
2	労働経済学の発展 イギリス、アメリカなどにおける学問的發展 マクロ・ミクロ経済理論との関係 労働統計の見方、使い方
3	労働市場の理論（学説史的考察） 学問的系譜 制度学派、新古典派、組織の経済学
4	労働市場理論の展望(1) 制度学派の貢献、分析のための工具箱の充実
5	労働市場理論の展望(2) 新古典派の労働市場についての見方
6	労働市場理論の展望(3) 組織の経済理論、組織論 理論の統合は可能か
7	労働供給の理論(1) 家計の経済的意味、所得・余暇選好の理論、労働供給の理論→供給曲線の導出、供給曲線の形状と意味、所得効果と代替効果
8	労働供給の理論(2) 日本の経済学者の貢献、新しい発展→新家庭経済学（New Home Economics） 家計内生産（home production）の意味
9	労働力と労働時間・余暇 労働力をめぐる諸概念（労働力、労働力率、失業率など）；労働力の調査について、労働時間と余暇の概念
10	労働需要の理論(1) 派生需要としての労働需要、企業の行動様式の理論化、企業の労働需要曲線の導出、産業・社会全体の労働需要
11	労働需要の理論 不完全競争下の労働需要、投資と雇用
12	労働市場の構造と機能 労働市場における需給調整、調整の速度、制度的要因 分断的労働市場（Segmented Labour Markets）の理論
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	労働市場の構造と機能 労働市場における需給調整、調整速度、制度的要因 分断的労働市場（Segmented Labour Markets）の理論
2	労働移動の理論、地域・産業間移動、国際労働移動の理論と実証 無制限的労働供給の理論（ジョブ・サーチの理論）
3	労働移動の理論、地域・産業間移動、国際労働移動の理論と実証 無制限的労働供給の理論（ジョブ・サーチの理論）
4	賃金決定の理論(1) 賃金構造（賃金格差）、賃金プロファイル 最低賃金制度、労働組合と賃金決定
5	賃金決定の理論(2) 最低賃金制度、労働組合と賃金決定
6	雇用と賃金の理論(1) 古典派理論、ケインズ理論、新古典派理論の展開 失業の概念→自発的失業、非自発的失業、摩擦的失業
7	雇用と賃金の理論(2) 失業とインフレーション、フィリップス曲線、自然失業率の概念、所得政策、効率賃金仮説、暗黙の契約理論
8	雇用調整のメカニズム 雇用調整の速度と範囲、雇用保険制度の機能
9	人的資本の理論 理論の基本的骨組み、熟練と訓練、一般的熟練と企業特殊的熟練 教育の経済学→教育投資と生涯賃金、応用問題：差別の経済分析 高齢化と定年制
10	労使関係の理論(1) 労働組合の構造と機能、団体交渉、労使協議、苦情処理
11	労使関係の理論(2) 対立と協調、シェア・エコノミーの概念
12	政策的課題の展望
備考	講義の進度は受講生の理解度を見て調整する

科目名	金融論	担当者名	田村申一
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>この講義の目標は、現代の金融理論を基礎におき、わが国の金融の現状を明らかにするところにあります。金融論は理論経済学と違い、理論の枠にとどまっていたら意味がなく、いま動いているナマの姿をとらえて分析し、はじめて生きてきます。他方、金融論は応用経済学の一分野ですから、理論の裏付けがないとただの時事研究になってしまいます。金融の出来事をバラバラではなく、理論をもとに体系的に把握することにより、金融の姿が分るのです。講義では、最小限の理論をベースにして金融の現実を平易に説明し、激動する金融の世界を解明していきます。</p>		
講義概要	<p>金融を理解するためには、金融システム、金融行動、金融市場、金融政策の4本の柱を一体的にとらえ、それらの相互関係を知ることが大事です。時代的な経済環境は金融システムを規定し、その中で各経済主体の最適な金融行動が決まり、その結果行われる金融取引が金融市場を動かします。市場の動向は金融政策を発動させ、政策は金融行動や市場を望ましい方向に誘導します。このような観点に立ち、講義ではこれら4本柱を順次説明し、その体系的把握ができるよう組み立てます。講義のもう一つの視点は、これら4つのテーマを全体としてひとつの大きなテーマで包括することです。いま、わが国では金融の自由化・証券化・国際化が急速に進んでいますが、このトレンドを軸に4本柱を結びつけてみます。</p>		
使用教材	テキスト	未定。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・山田良治・田村茂・田村申一・花輪俊哉著『金融入門』有斐閣、1989年 ・池尾和人・岩佐代市・黒田晃生・古川顯著『金融』新版、有斐閣、1993年 ・柴沼武・森映雄・藪下史郎・書間文彦著『金融論』有斐閣、1993年 ・堀江康熙・吉野直行著『金融』東洋経済新報社、1991年 ・岩田規久男著『金融入門』岩波書店、1993年 <p>など、あとは各章ごとにその都度提示します。</p>	
評価方法	<p>成績評価は、前期のレポートと後期の試験との平均点を基準とし、これに出席状況を加味して決定します。前期レポート、後期試験のいずれか一方を欠いた場合は、単位を授与できません。前期レポートの提出期限は9月末日(教務課)、後期試験は定期試験の時間割で行います。</p>		
受講者に対する要望など	<p>欠席すると、内容の理解が困難になってきますので、必ず出席して下さい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	この講義の狙い、年間プログラム、受講上の注意、成績の評価方法などについてガイダンスしたあと、金融の現状に関するトピックスをとりあげ、イントロダクションとして説明します。ビデオを利用することもあります。
2	第1章 金融システム 1、マネー、マネーの機能（計算単位、交換・決済手段、価値貯蔵手段）、古典派ケインズの貨幣観（交換機能対資産機能）、マネタリストの貨幣観、マネーサプライ、 M_2+CD の動き、
3	金融自由化とマネー概念をめぐる問題、中国ファンド決済、カード決済、2、資金循環、1資金過不足、SIギャップと資金過不足、部門別資金過不足状況、金融の機能、金融方式
4	直接金融対間接金融、債務証券（本源的証券、間接証券）、金融仲介機関、金融構造、間接金融優位、オーバー・ローン、オーバー・ボローイング、資金偏在、ディス・インターメディエーション、金融構造の変化、1
5	3、金融制度、一戦後の金融制度、業務分野規制、銀行・証券の分離、グラス・スティーガル法、証券取引法、新銀行法、長短金融の分離、商業銀行主義、長期信用銀行、銀行・信託の分離、信託銀行、公的金融機関、
6	金融制度改革、専門金融機関制度、金融制度調査会、金融制度改革法、ユニバーサル・バンキング、業態別子会社方式（証券子会社、信託銀行子会社）、金利規制、人為的低金利政策、臨金法、内外市場分断規制、1
7	4、金融機関、1金融機関の機能・存在理由、伝統的理論対情報理論、メイン・バンク、金融機関のタイプ、1第2章 金融行動 1、ポートフォリオ・セレクション、1貨幣需要（ケインズの流動性選好説、
8	トービンの在庫理論的アプローチ）、金融資産選択、期待効用極大化、金融資産のタイプ（安全資産、危険資産）、投資家のタイプ、投資機会、最適ポートフォリオ（均衡）、個人部門の金融資産選択の動向、1
9	2、企業金融、1内部金融対外部金融、エクィティ・ファイナンス対デット・ファイナンス、資本コスト（伝統的見解対モジリアニ＝ミラー仮説）、財務の安全性、アベラビリティ、
10	わが国企業の資金調達行動の変遷、3、銀行行動、1銀行の機能（金融仲介、信用創造）、銀行の業務（固有業務、付随業務）、信用創造のメカニズム、
11	銀行の経営原則（3原則）、銀行の行動原理、銀行のバランス・シート、利潤極大化仮説、バブル期の銀行行動、BIS規制、不良債権問題、1
12	講義の前半部分、第1章～第2章のまとめ、講義後の状況変化をフォローしたあと、前期レポートの課題を発表します。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第3章 金融市場 1、金融市場、1金融取引（相対取引、市場取引）、金融市場の分類基準、金利、金利裁定取引、マネー・マーケット、インターバンク市場（コール市場、手形売買市場）、
2	インターバンク市場の自由化と金融政策、オープン市場（現先、CD、CP、FB・TBの各市場）、マネー・マーケットの拡大、多様化、自由化、
3	キャピタル・マーケット（発行市場、流通市場）、公社債市場、利回りと債券価格、長期金利の指標、債券先物市場、株式市場、外国為替市場、1
4	2、金利、1利子率決定論（古典派、ケインズ、新古典派、ケインジアン）の諸理論）、貸出金利、短期プライムレート、新短期プライムレート、長期プライムレート、変動型新長期プライムレート、貸出約定金利、
5	預金金利、ガイドライン方式、預金金利の自由化プロセス、銀行預金対郵便貯金、金利自由化と銀行経営、1
6	3、金利体系、1金利の期間構造理論（特定期間選好仮説、期待仮説、流動性プレミアム仮説）、利回り曲線、順イールド、逆イールド、わが国における長短金利の関係、1
7	第4章 金融政策 1、金融政策の目標、1政策目標の歴史的変遷、政策目標間のトレードオフ関係、ポリシー・ミックス、わが国の政策目標、国際協調対国内均衡、
8	運営目標、トランスミッション・メカニズム、中間目標（金利対マネーサプライ）、マネーサプライ重視の金融政策、操作目標（インターバンク市場金利対銀行支払準備）、1
9	2、金融政策の手段、1 貸出政策、オープンマーケット・オペレーション、準備率操作、日本銀行の金融調節、1
10	3、金融政策の有効性、1わが国における金融政策の波及経路、金融自由化と金融政策の有効性、1
11	4、金融政策と金融システムの安定性、1決済システム、システムミック・リスク、セーフティ・ネット、マーケット・ディシプリン、預金保険制度、モラル・ハザード、1
12	講義の後半部分、第3章～第4章をまとめ、さらに第1章～第4章全体のまとめとして「わが国金融の自由化」について考えてみます。講義後の状況変化もフォローし、最後に後期試験に関する注意事項を確認します。
備考	

科目名	経営学	担当者名	増田茂樹
-----	-----	------	------

講義の目標	経済学科生にとっての経営学に関する全般的理解が得られるようにする。		
講義概要	<p>①経営学の生い立ちをたどり、経営学の性格、経営学独自の研究方法は何かを考察し、他の学問、とくに経済学との違いについて論ずる。 ②経営学の研究対象である企業の主体（経営者は誰かの問題）と目的（「営利性」にとどまるのかどうかの問題）を変遷・発展的にとらえる。その上で新しい企業、21世紀における企業の経営理念・経営哲学を展望し、新しい経営者の役割り・資質について論ずる。 ③企業におけるマネジメントを階層的（経営と管理）に、およびプロセス的（計画・組織・統制）に分析して、その概略を理解する。 ④日本の経営の特質は何であり、それは維持されるべきか否かなどについて検討する。</p>		
使用教材	テキスト	・河野重榮編著『マネジメント要論』 八千代出版	
	参考文献	<p>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』 中央経済社</p> <p>・その他の参考文献は講義のつど紹介する。</p>	
評価方法	成績評価は前後期の定期試験の結果による。出題形式などは前後期それぞれの最終講義で説明する。		
受講者に対する要望など	講義への出席を奨励する。そのために何らかの方法で、毎回、出席をとる予定である。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	はじめに——経営学の学び方—— ①この講義のねらいと、②体系について説明し、③経営学を学ぶ姿勢・方法について話す。
2	①経営学の研究対象と研究方法 ドイツ経営学とアメリカ経営学を、研究対象と研究方法の面から概観し、真の経営学の研究対象と研究方法を提言する。
3	②企業の定義と企業形態 ①企業の定義 経済学における定義と経営学における定義を紹介し、定義の面から企業概念の明確化をはかる。
4	②企業形態 (1)企業の法律形態・経済形態・経営形態 企業を諸形態に分類することにより企業の種類を知り、種類の面から企業概念の明確化をはかる。
5	(2)株式会社の本質 株式会社形態を他の諸形態とくに合名会社形態と比較することにより、その相違点を明確化して、人類の一大発明とも言うべき株式会社の本質を明らかにする。
6	③企業体制発展の理論と経営自主体生成の必然性 ①「資本と経営の分離」論 (1)資本と経営の分離の意味
7	(2)資本と経営の分離の必然性 どうして両者は分離するのか。分離することの必然性について述べる。上記(1)(2)を通じて現代企業の主体(経営者)は誰であるのか、目的は何であるのかを論ずる。
8	②経営自主体の原理的特質 (1)経営自主体の主体 経営自主体でないもの、すなわち人的企業・資本的企業と比較しながら検討する。下記の(2)についても同様の方法で行う。
9	(2)経営自主体の目的 資本と経営の分離の結果生成してくるのは経営自主体である。上記(1)(2)を通じて経営自主体の原理的特質・本質を明確化する。
10	④新しい企業の経営理念・経営哲学と経営者の役割・資質 ①社会的責任から社会貢献(フィランソロピー)へ両者の本質的な違いを究明し、それらが主張される根拠について検討する。
11	②新しい時代における経営者の役割と資質 上記①②を通じて、新しい企業、21世紀における企業の経営理念・経営哲学を展望し、新しい経営者の役割・資質について論ずる。
12	(前期講義のまとめと定期試験について)
備考	

後期

週	主要テーマ
1	(後期の講義をはじめるときに) ①前期試験結果の講評と前期講義の復習 ②後期講義の構想
2	⑤マネジメントの生成と発展 能率増進運動、テイラー・システム、フォード・システム、人間関係論、現代マネジメント論について述べ、マネジメントという機能を理解する。
3	⑥マネジメントの階層的機能とプロセス的機能 ①マネジメントと作業 企業の機能はマネジメントと作業に分けられる。両者を比較することにより、マネジメントの本質を明らかにする。
4	②マネジメントの階層的機能(1) マネジメントは経営と管理の2階層的機能に分けられる。おのおのの機能の内容を明らかにし、両者を比較することにより本質の相違点を明らかにする。
5	③マネジメントの階層的機能(2) 経営環境、経営戦略、ゼネラル・マネジメント機能について詳しく検討し、トップ・マネジメント機能の重要性を理解する。
6	④マネジメントのプロセス的機能(1) マネジメントは、計画、組織、統制の3プロセス的機能に分けられることを理解する。
7	⑤マネジメントのプロセス的機能(2) 上記の3プロセス的機能の内容を明らかにし、3者の密接な関連を(プロセス的関連のみならず、それらの階層的関連をも)理解する。
8	⑦マネジメントの機関 ①マネジメントの諸機関 株式会社を前提にして、マネジメントの諸機関を挙げ、それらの諸機関の関連を概観する。
9	②トップ・マネジメントの諸機関と企業監査 監査役による監査や会計監査人による監査の現状と在り方にふれ、コーポレート・ガバナンス問題に言及する。
10	⑧日本的経営 ①日本の経営の特質 終身雇用制、年功制、企業別組合など日本型経営システムとそれらの根底にある日本独特の経営理念について検討する。
11	②日本の経営の将来性と国際性 産業の空洞化、高齢化社会の進展など企業をとり巻く環境の激変の中で、日本的経営は存続し得るか。また、外国に移転し得るかについて検討する。
12	(後期講義のまとめと定期試験について)
備考	

科目名	ドイツ語 I (総合) (1外)	担当者名	各担当教員
-----	------------------	------	-------

講義の目標	<p>経済学部と法学部の1年1組を合併して授業を行います。</p> <p>対象は、ドイツ語の基礎を高校(中学)で学んだことのある人か、ドイツ語圏に滞在しドイツ語の知識のある人です。</p> <p>ドイツ語の基礎的な力を確実なものにし、さらに高度な能力にのばすように指導します。</p> <p>文法を中心に勉強してきた人は、聞いたり話したりする力をつけましょう。また、耳からドイツ語を覚えてきた人は、正確な文章を話し、書くことができるように練習しましょう。</p>		
講義概要	<p>ドイツ人教員と日本人教員がペアを組み、緊密に連絡し合いながら指導します。</p> <p>日本人教員が、文法と語彙の説明、テキストの意味の確認を行います。次に、ドイツ人教員が、それらの知識をもとに、発音、反復、聞き取り、簡単な対話の練習を指導します。さらにわからないことがあれば、次の時間に日本人教員が質問に答え、説明します。</p> <p>教科書は、下記のものを使いますが、参加者の希望とレベルに応じて何課から始めるか決めたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ <i>Sprachbrücke 1</i> (Klett-Verlag), および Arbeitsbuch</p>	
	参考文献	<p>・ 独和辞典 (中型のもの)</p>	
評価方法	<p>少人数でのクラスですので、必ず出席し、積極的に練習して下さい。平常点を重視します。他に、ショートテスト・前期・後期の試験を行います。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストの紹介と今後の授業の進め方、進度などについて話し合う。
2	テキストを用いて総合的ドイツ語学習を行う。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	同上
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語Ⅱ（総合）（1外）	担当者名	各担当教員
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>1年次に「ドイツ語Ⅰ総合」を履修した学生、また、新たに2年次からドイツ人教員の指導を受けたいと考える学生の参加も認めます。</p> <p>1年次に修得した基礎知識をさらに高度なものにのばせるように指導します。</p>		
講義概要	<p>ドイツ人教員と日本人教員がペアを組み、緊密に連絡し合いながら指導します。</p> <p>日本人教員が、文法と語彙の説明、テキストの意味の確認を行います。次に、ドイツ人教員が、それらの知識をもとに、発音、反復、聞き取り、簡単な対話の練習を指導します。さらにわからないことがあれば、次の時間に日本人教員が質問に答え、説明します。</p> <p>教科書は、下記のものを使います。昨年度の「ドイツ語Ⅰ総合」では1～8課まで勉強しましたので9課から始めたいと考えています。しかし、参加者の希望とレベルに応じたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ <i>Sprachbrücke 1</i> (Klett-Verlag)、および <i>Arbeitsbuch</i></p>	
	参考文献	<p>・ 独和辞典（中型のもの）</p>	
評価方法	<p>少人数でのクラスですので、必ず出席し、積極的に練習して下さい。平常点を重視します。他に、ショートテスト・前期・後期の試験を行います。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今後の授業の進め方、進度などについて話し合う。
2	テキストを用いて総合的ドイツ語学習を行う。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	同上
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語 I (講読) (1外)	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、経済学部専門書のみならず、英語で書かれた新聞、雑誌、小説など様々なジャンルの文章を読みこなすことができるようになるための文章の読解力を養うことを目的とする。周知の通り英語で書かれた文章には様々なものがあるが、いずれの文章を読むにしても英語の文法、語彙などについてたゆまざる学習が基本にあることは言うまでもない。様々な文章を通して自由自在に英語が読める力を身につける。外国語の学習には王道は一つしかないこと、それは着実にかつ確実に学習することが不可欠であることを前提に講義を進めて行く。</p>		
講義概要	<p>講義の内容は、各講師が学生の英語力を考慮した上で適切と思われる英語教材により講義を行なう。教材は現代英語で平易に書かれた様々な種類のものを用い、講義の形態は英文の読解力を養う上で最も基本となる文章理解が中心となり、訳読、要約、文法チェックなど総合的に英語力をつけるものとする。これにより、経済学部専門書が読めることを可能とする英語の基礎力をつける。本講義では英語読解力の基礎を養うことが目的であるので、経済学部の専門書を教材とするものではない。これは本講義で学ぶ読解力と経済学の専門知識を身につけた上で各分野の専門の講師による「外書講読」で学ぶ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>使用する教材は各担当講師が「講義の目的」に沿ったものを選択し、使用する。</p>	
	参考文献	<p>参考文献は各講師の指示による。</p>	
評価方法	<p>評価方法は各講師による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>外国語学習には予習・復習が不可欠であること、また積極的に学習することが基本であることなどを念頭に入れて学習して欲しい。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語 I (会話) (1外)	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	英語でコミュニケーションを行なう能力を身につけることを目標とする。つまりナチュラルスピードの英語を聞き、内容を理解し、基本的な日常会話を英語で行なえるようになることを目指す。	
講義概要	前・後期ともビデオ教材を使用する。1回の授業で1課ずつ進み、ビデオの内容理解、文法・重要表現・発音の練習、およびペアワークやQAなどのコミュニケーション練習を行なう。毎回授業の最後にクイズをする予定。	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・前期: <i>Your Life in Your Hands</i> (Longman) の script と reference booklet ・後期: <i>Come and Join Us at Gostwycke Hall</i> (成美堂)
	参考文献	
評価方法	前・後期の定期試験の結果および平常点による。	
受講者に対する要望など	<p>テープを持参すること。</p> <p>遅刻者は教室への入室を認めない。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	<i>Your Life in Your Hands</i> Unit1 Sound Video
2	Unit1 Profile
3	Unit2 Sound Video
4	Unit3 Sound Video
5	Unit3 Profile
6	Unit4 Sound Video
7	Unit5 Sound Video
8	Unit5 Profile
9	Unit6 Sound Video
10	Unit6 Profile
11	Unit7 Sound Video
12	Unit8 Sound Video
備考	

後期

週	主要テーマ
1	<i>Come and Join Us at Gostwycke Hall</i> lesson 1
2	lesson 2
3	lesson 3
4	lesson 4
5	lesson 5
6	lesson 6
7	lesson 7
8	lesson 8
9	lesson 9
10	lesson 10
11	lesson 11
12	lesson 12
備考	

科目名	英語Ⅱ(1外)	担当者名	川崎 潔
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>聖書は西欧文明の礎石の一つであり、英米の文化にも深く広い影響を与え、例えばイギリス社会主義の基盤は聖書であると言われる。聖書は旧約聖書と新約聖書から成るが、旧約聖書の中の印象深い物語のいくつかを英語で読み、それらが現代の我々にとってどのような意味を持つかを各自が考えることを目標としたい。</p>	
講義概要	<p>1) アダムとイヴ、楽園喪失、2) カインとアベル、3) ノアの箱舟、4) バベルの塔、5) エジプトでのヘブライ人、6) 紅海での奇蹟、7) モーセの十戒、8) サムソン、9) ダビデなどの物語が収録されているが、それらが現代の我々にも理解し易いようにと物語の背景を説明しつつ描き出されている。また著者は執筆に当って英訳聖書 Revised Standard Version (改訂標準訳) を用いたとのことであるので、それをも読み較べることができればよいと思う。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ Gavin Bantock; <i>Dramatic Tales From The Bible</i>, 金星堂</p>
	参考文献	<p>・ The Revised Standard Version ・ 須藤信雄著『英文学としての聖書』興文社 ・ B. B. ノローウィック著、吉田新一訳『文学としての聖書』開文社</p>
評価方法	<p>前期と後期、2回のテスト、及び平常点で評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>予習と復習を行うように希望したい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ(1外)	担当者名	児嶋一男
-----	---------	------	------

講義の目標	演劇文化について考えながら、現代英語の会話表現を覚えたいと思います。	
講義概要	<p>役割をその場で分担して、言葉の関わりを意識してまずは直訳し、次に自然なしゃべり言葉になおしてみたいと思います。芝居の台本ですから、違和感のない日本語を考えながら、ゆっくり読んでいきましょう。</p> <p>後期には、文字通り会話表現を体得するために、適当な箇所を選んで、実際にスタジオで演じてみるつもりです。</p>	
使用教材	テキスト	欧米の高校生の教養レベルのものを、〈註〉とともに、プリントにて配布します。
	参考文献	適時指定します。
評価方法	前期と後期に試験を行いません。無遅刻・無欠席の場合の皆勤点と、自由課題の観劇レポート点、および録画撮りの際の演技力を平常点としてプラスします。前・後期授業数のうち1/3以上を欠席した場合は、試験・レポート等々の成績を問わず、単位を認定しないことにします。	
受講者に対する要望など	辞書を引いて単語や連語を調べ、きちんとノートを作って、出席して下さい。そうすれば、楽しく文化背景を話し合いながら、役者気分が味わえます。カメラの前に立って演じてみたい人は、受講して下さい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示します。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ(1外)	担当者名	佐藤唯行
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>我が国の一般的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。専門過程に進学し、英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、章毎の内容要約能力が常に求められます。その為、本授業では、次年度に専門課程に進む学生のために、そうした弱点を補強する為に、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を学習の主眼としたい。</p>	
講義概要	<p>使用するテキストは合衆国ユダヤ人史の視学、Hyman Grinsteinが、アメリカ人の大学教養課程の学生向きに執筆した教科書です。しかし、そこにかかれた英語は極めて平易で、我が国の平均的大学生でも辞書をひきながら容易に読むことができます。唯、時おり「特殊な単語」が登場することがありますので、そういう時には労を惜しまず図書館へゆき大辞典で調べてください。本授業は英語の読解力を高める事に主眼がおかれていますが、同時に、講読を通じてアメリカユダヤ人の世界についての概観的な理解を持ってもらう事も担当者は期待しております。米国内において人種差別に対する日本人の無神経さへの批判が高まる昨今、米国社会に占めるユダヤ人の特殊な位置を理解することは必要な事です。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・Hyman B. Grinstein; <i>A Short History of the Jews in the United States</i>, Soncino Press, London (但し、コピーを配布)</p>
	参考文献	
評価方法	<p>前期試験結果 30%、後期試験結果 30%、平常点 40%、 欠席が授業回数の1/3を越えたときは試験で合格点に達していても、単位を与えません。 遅刻3回で欠席1回に換算します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業は毎回4頁程の分量を読みます。出席する学生は全員、上記の分量を予習し、正確な和訳作業を各センテンス毎に行なうと同時に、パラグラフ毎の要旨をまとめてくる事が要求されます。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ(1外)	担当者名	四宮 満
-----	---------	------	------

講義の目標	環境問題が今日の大きなテーマであるが、Kundsensのこの問題に関するエッセイを読むことで、環境意識をたかめることと、さらにこの種の表現や、文体に慣れることにより専門的な論文理解への準備をすることを目的としたい。	
講義概要	それぞれの環境テーマを十分に理解させるために、専門的な用語を含め内容をていねいに読み説明する。さらに練習問題を通し、この種の論文の表現の特長などを解説し、その種の表現に慣れさせる。	
使用教材	テキスト	・ J. Kundsens : Saving our planet
	参考文献	
評価方法	前期後期のテスト、教室での学習活動、出席度などによる。	
受講者に対する要望など	必ず出席し、予習をしてこよう。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業のすすめ方、評価に対する具体的説明など授業に関するオリエンテーションをする。学生からの疑問にも答える。各週の授業については、テキストの章別にその都度指示。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ(1外)	担当者名	須賀川 誠 三
-----	---------	------	---------

講義の目標	<p>①基本的文法事項の習熟を徹底し、平明な英文が書けるようにする。</p> <p>②英米の文化一言語・慣習・美術・ライフスタイル・経済・歴史—などについて英文での確に表現できるようにする。同時に、異文化（主として英米）への理解を図る。</p>		
講義概要	<p>授業は文法事項の簡単な説明、文法・作文の練習問題などにより進めていく予定。また、5分間テストなども随時行い、ヒアリング・語法などの演習を行う。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・須賀川・川崎著『異文化への旅—簡明英語表現』英宝社</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期・後期2回の試験と平常点による。出席は重視する。3回以上連続して欠席した（する）場合は、必ず届け出る。</p>		
受講者に対する要望など	<p>第1回目の授業に必ず出席し、受講の許可を得ること。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ(1外)	担当者名	長谷部 加寿子
-----	---------	------	---------

講義の目標	英字新聞を読む練習をする。		
講義概要	テキスト及びその時々の英字新聞を読む。		
使用教材	テキスト	・安田哲夫・松田徳一郎編註『時事英語』(1994/95年度版)成美堂 ¥1600	
	参考文献		
評価方法	定期試験期間の筆記試験及び平常点。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ(1外)	担当者名	原 成 吉
-----	---------	------	-------

講義の目標	第2次大戦後のイギリスが生んだ最大の文化的ヒーロー、The BeatlesのBiographyを読みながら、1960年代の時代精神と文化状況を考察する。講読中心の授業になるが、英語を日本語へ置き換えるという作業ではなく「自分の言葉」による内容理解をめざす。		
講義概要	内容理解を深めるため Audio-Visual を使いながら授業を進める。		
使用教材	テキスト	・ <i>The Beatles Story</i> (Macmillan)	
	参考文献	・ Jon Wiener; <i>Come Together : John Lennon In His Time</i> , London: Faber & Faber, 1982	
評価方法	授業への参加度と年2回の定期試験による。		
受講者に対する要望など	最初のクラスで英語力診断テストを行うので、受講希望者は必ず出席のこと。		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	診断テストの結果を考慮しながら進める。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ(1外)	担当者名	藤田永祐
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>国際的な新聞や週刊誌を一人で読みこなせるようになるには修練が必要。未ず、比較的易しい新聞に慣れ親しむことが第一歩。それとて大学の一、二年生にとっては決して易しくはない。簡潔で、要をえた新聞の用語、文章に慣しみ、普通の英字新聞を、辞書を片手に一人で読んでいくことができるようになることが目標。</p>	
講義概要	<p>これから英字新聞を読もうとする学習者のための入門。はじめに必要な不可欠な新聞英語基礎知識の説明。テキストの例文は最近の内外ニュースから精選、社会、環境、政治、経済、国際情勢、スポーツ等15のトピックに分けられている。英語を日本語に移し変えるというだけでなく、英語を駆使する能力を身につけるために、日本語と英語の発想の違い、それぞれの特徴を、単語、語句、文章一つ一つによく吟味し、分析しながら授業をすすめる。</p>	
使用教材	テキスト	・Newspaper English—1995/96 edition—(英文ニュース入門)〔成美堂〕
	参考文献	
評価方法	二回のテストと平常点	
受講者に対する要望など	<p>授業時間だけの語学ではとてもダメ。日頃、簡単な英字新聞(週刊のでも可)でよいから努めて読む意欲のある人。語学が好きな人が望ましい。</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス語Ⅰ（1外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	フランス語の基礎を復習しながら、さらに確かなものにします。		
講義概要	この科目は週に二コマ、二人の担当者によって行われます。講義の進め方などの詳細については、第一回目に各担当者から説明がありますので、必ず出席するようにしてください。		
使用教材	テキスト	各担当者による	
	参考文献	辞書や文法辞典など、参考書に関しては直接担当者に相談してください。	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス語Ⅱ（1外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	中級文法の学習や、テキスト講読をつうじて、フランス語の多様な表現を学びます。		
講義概要	経済学部の「フランス語Ⅱ（第一外国語）」は、外国語学部フランス語学科「フランス語Ⅱ」との合併授業になります。後者には「文法」と「講読」がそれぞれ週四コマずつ開講されますので、そのなかから選んで履修するようにしてください。		
使用教材	テキスト	各担当者による	
	参考文献	フランス語の辞書や文法辞典など、参考書に関しては担当者に直接相談してください。	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語 I (2外)	担当者名	各担当教員
-----	-------------	------	-------

講義の目標	<p>I A (基礎) / ドイツ語圏の社会や文化についての基礎的な知識の獲得と、ドイツ語の基本能力の修得を目標とします。</p> <p>I B (読解練習) / 読解に重点を置きながら、ドイツ語の基本的な語彙や構文が理解できるよう指導します。</p> <p>I C (口頭練習) / 日常会話における基本的な表現を使って、ドイツ語での応答ができるよう指導します。</p>	
講義概要	<p>I A (基礎) / ドイツ語圏の社会や文化にさまざまな形で触れた後、発音・数字・日常的な表現等の導入を経て、徐々にドイツ語の基本的語彙・表現・文法事項を学んでいきます。</p> <p>I B (読解練習) / 易しい文章を読みながら、そこに出てくる基本的な語彙や構文を理解し、修得していきます。</p> <p>I C (口頭練習) / コミュニケーションを意識しながら、日常会話における場面ごとの基本表現を学び、実際的な応答練習を行います。</p>	
使用教材	テキスト	各担当者により使用テキストが異なります。詳しくは教科書販売所の掲示を見て下さい。
	参考文献	独和辞典 (中型のもの)
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。	
受講者に対する要望など	練習が主体の科目ですから、授業には必ず出席し、積極的に発言して下さい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1週 テキストの内容を紹介し、今後の授業の進め方・進度等について説明します。
2	第2週～第12週 テキストに基づいた練習
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第13週～第24週 テキストに基づいた練習
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語 II (2外)	担当者名	各担当教員
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>II A (読解練習=ノンフィクション) } /ドイツ語 I で修得したドイツ語の基礎知識を応用し、辞書さえ使用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。</p> <p>II B (読解練習=フィクション) }</p> <p>II C (口頭練習) /基本単語を使用して、何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝えられる能力を養成することを目標とします。</p>	
講義概要	<p>II A (読解練習=ノンフィクション)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>ドイツの政治・経済・社会・地誌などに関する文章やエッセイ等、いわゆるノンフィクションをテキストとして使用します。</p> </div> <p>II B (読解練習=フィクション)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>小説・童話・説話・小話などのフィクションを教材とします。</p> </div> <p>II C (口頭練習) /場面に応じて、基本的な文章を聞き取り、反復・応答できるように指導します。</p> <p>/最初に文法の基本事項の復習と未修事項の学習を行い、その後テキストの読解に入りますが、はじめは文法的な解説を充分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力を置きます。それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。</p>	
使用教材	テキスト	各担当者の使用テキストは、教科書販売所の掲示を見て下さい。
	参考文献	独和辞典 (中型のもの)、ドイツ語 I で使用したテキスト。
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。	
受講者に対する要望など	練習が主体の授業ですから、必ず出席して積極的に発言して下さい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキスト内容の紹介と今後の授業の進め方、速度などについて話します。また1年次に使用したテキスト（各自持参）及び既修・未修文法項目の確認と、基本的な文法事項の復習を行います。
2	2週～12週 未修文法事項の学習の後、ドイツ語ⅡA・Bではテキストの読解練習に、ドイツ語ⅡCでは口頭練習に入ります。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	1週～12週 ドイツ語ⅡA・Bはテキストの読解練習、ドイツ語ⅡCは口頭練習を行います。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語 I (2外)	担当者名	升水 一三
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>初歩的なレベルから少しアップして、native の書きおろしたエッセイを読みながら読解力を高める。テキストの内容を細部まできちんと把握する intensive な読み方と並行して、プリント教材などにより、速読して大意をつかむ練習もしたい。</p> <p>テキスト付属の吹込みテープを活用して、聴き取り能力を養い、簡単な質問への応答を心がける。</p>		
講義概要	<p>世界各地から興味深い話題を選んで、毎章手ぎわよくまとめてあるエッセイを読む。テーマは文化、歴史、言語、風土など多岐にわたっていて、知的好奇心を刺戟されながら、語彙、語法、慣用表現などを学ぶことができる。</p> <p>各章ごとに用意された exercises で、内容理解の確認、関連する英作文、テープを利用した聴き取り問題などに取り組む。</p> <p>なお以上とは別に Japan Times など英語新聞からの切り抜きを配布して、最新の時事記事を読む予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ William F. O'Conner; <i>Multi-Topic World Scene</i> 弓プレス</p>	
	参考文献	<p>エッセイの内容により、その都度指示する。</p>	
評価方法	<p>出席状況。予習など授業参加への積極性。小テスト。前・後期テストなど。</p>		
受講者に対する要望など	<p>納得のいく予習など授業への前向きな姿勢がほしい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の概略、評価の仕方、教室での基本的なルールなどの説明。テキストについて。プリント教材配布。質疑。
2	プリント教材の訳読と説明。 テキスト第1章「日本語と英語」
3	テキスト第2章「少数民族語」
4	テキスト第3章「ミューズの神々の神殿」
5	テキスト第4章「甲の薬は乙の毒」 プリント教材配布。
6	テキスト第5章「今こそリサイクル」
7	テキスト第6章「サインをお願いします」
8	テキスト第7章「水が熱い」 プリント教材配布。
9	テキスト第8章「車の国から」
10	テキスト第9章「君は何番目？」
11	テキスト第10章「カウボーイ、映画、駝鳥」
12	前期テスト実施。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の授業およびテストの反省。テキスト第11章「煙とともに」 プリント教材配布。
2	テキスト第12章「アメリカの神話」
3	テキスト第13章「偉い人のクスリ」
4	テキスト第14章「テレビ」
5	テキスト第15章「大切な行事」 プリント教材配布。
6	テキスト第16章「けちん坊ニュース」
7	テキスト第17章「歯、歯ブラシ、ガム」
8	テキスト第18章「頭髪」 プリント教材配布。
9	テキスト第19章「ブーメラング」
10	テキスト第20章「微小国アンドラ公国の横顔」
11	テキスト第21章「ひとりでタンゴは踊れない」
12	後期テスト実施。
備考	

科目名	英語 I (2外)	担当者名	宮川 淑
-----	-----------	------	------

講義の目標	社会経済関係の文献読解力を養う。	
講義概要	イギリス社会経済史の概説。	
使用教材	テキスト	・ L. C. B. Seaman; <i>A Short Social History of England.</i>
	参考文献	
評価方法	前・後期2度の試験と日常の学習評価（出欠状態も含む）。	
受講者に対する要望など	長谷川啓之編『英和経済用語辞典』富士書房を購入しておくとい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	VI REVOLUTION IN INDUSTRY AND AGRICULTURE, 1760-1860
2	1週の続き
3	2週の続き
4	3週の続き
5	V FREE TRADE AND AFTER, 1846-1939
6	5週の続き
7	6週の続き
8	7週の続き
9	VI THE TWENTIETH CENTURY
10	9週の続き
11	10週の続き
12	11週の続き
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	I THE MEDIEVAL CHURCH
2	1週の続き
3	2週の続き
4	3週の続き
5	II ANGLICANS, ADVENTURERS AND PURITANS, 1485-1689
6	5週の続き
7	6週の続き
8	7週の続き
9	III THE ENGLISH COUNTRY GENTLEMAN, 1485-1760
10	9週の続き
11	10週の続き
12	11週の続き
備考	

科目名	英語Ⅱ(2外)	担当者名	近藤ヒカル
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>近年急激に日本も国際化され、様々な皮膚の色をした外国人達を身近に見掛けるようになり、彼等が情報の手段として英字新聞や雑誌に目を通して光景をよく見掛けるようになった。我々日本人も外国に行けばきっと彼等同様、唯一の情報手段として英字新聞や雑誌に頼らざるを得ないであろうと思われる。その生きる手段のような英字新聞や雑誌の読み方を教えるのがこの授業である。これは談話(会話)ではない、文字による実用英語を学ぶこととあってよいだろう。そのために「多読」によって英字新聞に馴れることを目標にしたいと思っている。</p>		
講義概要	<p>英字新聞といっても日本の新聞社の発行する英字新聞は対象にしない。それは日本のマスコミは画一的で政府の御用機関紙のようであり、英米にみられるような記者魂が感じられないからである(フォーリン・アフェアズ誌ウォルフレン論文参照)。したがって英字新聞ではアメリカのニューヨーク・タイムズ、ワシントン・ポスト、また日本で唯一入手できる外国発行の英字新聞であるヘラルド・トリビューン紙等、そして英文雑誌では、タイム、エコノミスト、フォーリン・アフェアズ等を取り上げる。トピックスはまず日本関係の報道、これは我々にとって一番親しめる身近なものでそれを英文で読み、外国人の批評眼を知ることができるものであり、その他興味ある up-to-date な外国の事件等を取り上げる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>概要に挙げた英字新聞や雑誌を適時プリントし配布する。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『リーダーズ英和辞典』研究社(英字新聞を読むには必須で、高価だが便利なIC版もある。) ・『社会科学総合辞典』新日本出版社 ・『国際大百科事典』ブリタニカ ・日本関係の報道ならば日本の新聞との比較が一番よい。 	
評価方法	<p>前・後期の定期試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<ul style="list-style-type: none"> ・出席を絶対条件(9回欠席すれば単位不認定)とする。 ・追試験は行なわないので必ず定期試験を受験すること。 		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英語Ⅱ(2外)	担当者名	松原拓郎
-----	---------	------	------

講義の目標	一般常識としての社会の各事象に対する理解を基盤に、英語での聞き取り、表現力に至るまでの基礎を養います。	
講義概要	経済発展をにらんだ“平和の道”が世界の動きの中で、機能し始めた現在、英語力は勿論のこと、第一外国語で培われた情報、知識をふまえ、まずは欧州に目を向け、英語との接点を各自見出す姿への導入から展開します。	
使用教材	テキスト	プリント使用
	参考文献	
評価方法	授業重視の形となります。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス語 I (2外)	担当者名	各担当教員
-----	--------------	------	-------

講義の目標	フランス語の基礎文法を習得し、簡単なテキストを読む能力を身につけます。	
講義概要	フランス語の基礎を学びます。発音、動詞の活用、文法事項など、最初は複雑に思えるかも知れませんが、ある程度の根気と努力さえあれば習得できます。予習、復習に力を入れて、その都度マスターするように心掛けてください。	
使用教材	テキスト	各担当者による
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・初学者のために工夫された仏和辞典がいろいろとありますので、必ず購入してください。 ・教科書の末尾にはたいてい動詞活用表が掲載されていますが、より詳細なものも出版されていますので、購入すると良いでしょう。その他の参考書については、担当者に直接相談してください。
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。	
受講者に対する要望など	どの学習でもそうですが、とりわけ語学においては持続的な積み重ねが重要です。毎日少しの時間でもよいから、フランス語に触れるよう努力してください。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス語Ⅱ（2外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	一年次に学習したフランス語の基礎知識を復習し、さらに確実なものにします。		
講義概要	一年間の学習を通じて、フランス語の基礎的な文法事項は一通り終えたものの、知識がどうしても不完全であったり、断片的であったりするものです。また動詞の活用は習得出来ているでしょうか。フランス語を本当に身につけるには、こうした点をここでもう一度整理しなおすことが大切です。さらに語彙に関しても、知識を拡げてゆかねばなりません。二年次には主としてテキスト講読を行います。以上の点を念頭に置き、精読を心掛けてください。		
使用教材	テキスト	各担当者による	
	参考文献	参考書や辞書類については、担当者に相談してください。また大学の「外国語教育研究所」にもいろいろな設備がありますから、利用してください。	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など	毎日少しの時間でもよいから、フランス語に触れるよう努力してください。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅰ（総合）（2外）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語を初めて学ぶ学生を対象として、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話の習得および簡単な文章の読解力の養成を目的とする。</p>		
講義概要	<p>この授業で学ぶ文法項目は、直説法現在、命令の用法、疑問詞、形容詞、名詞、代名詞、数などである。できれば直説法単純過去まで進みたい。日常的によく使う会話文については、順次練習をおこなう。受講生の積極的口頭練習が求められる。テキストでは Unit 1 から Unit 6 あるいは Unit 7 までである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Los Mejores Momentos</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅰ（総）の進行にあわせて会話練習をおこなうスペイン語Ⅰ（会）が用意されているので、同時履修を要望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅰ（会話）（2外）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ（総）の進行にあわせて会話練習を中心に授業をおこなう。自然なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを主要な目的とするが、文法についてもスペイン語Ⅰ（総）を補う形で、練習を中心に授業を進めることになる。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅰ（総）と同じテキストを用い、スペイン語Ⅰ（総）の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅰ（総）で主におこない、この授業では練習を中心にする。また随時ビデオ教材も使って、耳からだけではなく映像を通してテキストを補いたい。進度については、スペイン語Ⅰ（総）のシラバスを参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Los Mejores Momentos</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>原則としてスペイン語Ⅰ（総）との組み合わせで受講すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅱ（総合）（2外）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ（総）の続きの授業である。スペイン語Ⅰ（総）の既習者を対象として、より進んだ文法の習得と、その文法内容をつかうより進んだ聴取力、理解力、口述能力の習得を目的にする。具体的には、二つある過去形の活用と使い分けを自由に行えるようにすることが中心となる。</p>		
講義概要	<p>主な文法項目は、単純過去、不完了過去、動詞の原型の使い方、現在進行形、過去分詞の使い方などである。テキストの Unit 7 から Unit 12 を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Los Mejores Momentos</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ（会）あるいはスペイン語Ⅱ（読）との組み合わせで受講することを要望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅱ（会話）（2外）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ（会）の続きである。スペイン語Ⅱ（総）の進度にあわせて新たに学習する文法項目を使った会話の練習をおこない、基本的な日常会話力の獲得を目的とする。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ（総）と同じ教科書を使い、その進度に合わせて会話練習をおこなう。文法の説明も随時スペイン語Ⅱ（総）を補う形でおこないたい。過去形を使った会話文や現在分詞、過去分詞を使う会話文などの練習を順次すすめる。随時、ビデオ教材・プリントなどを使って、テキストを補いたいと思う。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Los Mejores Momentos</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験などによって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業は、スペイン語Ⅱ（総）の同時履修を前提におこなうので、スペイン語Ⅱ（総）との組み合わせで受講することを要望する。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	スペイン語Ⅱ（講読）（2外）	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰの既習者を対象として、スペイン語の簡単な文章を読み、読解力を身につけることを目的にする。また、教材をスペイン・ラテンアメリカの文化・社会・経済に関するものとし、スペイン語圏の現状に触れる機会にもしたいと考えている。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ（総）での文法事項の進捗に配慮しながら、スペインやラテンアメリカで発行されている新聞・雑誌記事などを読んでいきたい。人数にもよるが、受講生には毎回訳を發表してもらおうつもりである。新出の文法事項については、適宜補いながら、授業を進める。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリントを用意する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、年2回の定期試験などによって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業は、スペイン語Ⅱ（総）の同時履修を前提におこなうので、スペイン語Ⅱ（総）との組み合わせで受講することを要望する。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	中国語Ⅰ（文法）（2外）	担当者名	秦 敏
-----	--------------	------	-----

講義の目標	石確な発音と初歩的な文法が身につく、一年で簡単な会話ができることを目標とする。		
講義概要	講義の内容は、発音、文型、文法です。発音は声調から母音、子音の発音と組合せまで、文型は初級段階で必要と思われる重要表現項目を例文に応じて配布し、文法は例文を学ぶことによって理解を深めます。		
使用教材	テキスト	・相原 茂・玄 宜青著『リピート中国語』朝日出版社	
	参考文献	なし	
評価方法	評価は前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	中国語Ⅰ（講読）（2外）	担当者名	秦 敏
-----	--------------	------	-----

講義の目標	石確な発音と初歩的な文法が身につく、一年で平易な文章が読めることを目標とする。	
講義概要	講義の内容は発音、文型、文法です。発音は声調から母音、子音の発音と組合せまで、文型は初級段階で必要と思われる重要表現項目を例文に応じて配布し、文法は例文を学ぶことによって理解を深めます。	
使用教材	テキスト	・相原 茂・玄 宜青著『リピート中国語』朝日出版社
	参考文献	なし
評価方法	評価は前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	中国語Ⅰ（文法）（2外）	担当者名	張 継 冥
-----	--------------	------	-------

講義の目標	中国語じはじめて学ぶ人を対象に、発音からはじめて、読み、書き、聞き、話すの基礎力の養成を目的とする。	
講義概要	<p>第一段階では発音の集中練習を行う。</p> <p>第二段階では、基礎的な文法を説明しながら、平易な文章を読み、書き、やさしい会話と聞きとりの訓練をする。</p>	
使用教材	テキスト	最初の時間に指示する。
	参考文献	
評価方法	出席状況、授業中の態度、前・後期の試験などを総合して評価する。	
受講者に対する要望など	自分での毎週の復習と予習することを望みます。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	くわしい予定は授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	中国語Ⅰ（講読）（2外）	担当者名	陳 跡
-----	--------------	------	-----

講義の目標	中国語の基礎発音と、文法の仕組みを学んだ上で日常生活において必要とされる言葉を習得することを目指す。	
講義概要	発音は初心者にとって最も難しい課題である。中国語独特の音声で、日本語の音声体系にないもの、つまり、四声—四種の調子音や、その他の特に注意すべき子音と母音の読み方を、集中的に練習する。言葉は、コミュニケーションの手段の一つである。初級中国語の授業は簡単で実用的な言葉や短い会話を用いて行う。	
使用教材	テキスト	・丁秀山 著『初級中国語講座』 金星堂 大学中文テキスト
	参考文献	
評価方法	評価は、前後期各一回の定期試験と授業への参加度によって決定する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	中国語Ⅱ（総合）（2外）	担当者名	秦 敏
-----	--------------	------	-----

講義の目標	中国語Ⅰに引き続き、基礎的な文法を習得します。その後、平易な文章を読める、基本的な単語が会話で使えることを目標とする。	
講義概要	授業ではまず、基礎的な文法をマスターします。その後、会話を練習し、平易な中国語文章を読みます。	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	なし
評価方法	評価は前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	中国語Ⅱ（総合）（2外）	担当者名	張 繼 濱
-----	--------------	------	-------

講義の目標	一年次に習得した基本的な文法を復習しながら、聞く、話す、読む、書くの訓練をすすめ、総合的な基礎力を身につけることを目標にする。	
講義概要	前半では、発音の練習、やさしい会話と聞きとりの訓練を行うと共に、学んだ文法の知識を確認する。後半は中国語特有の表現や文法に慣れ、正しく文をつくれるようにすすめたい。	
使用教材	テキスト	最初の授業に指示する
	参考文献	
評価方法	出席状況、授業中の態度、前後期の試験などを総合して評価する。	
受講者に対する要望など	自分での毎日の復習と予習をすることを望みます。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	くわしい予定は授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	中国語Ⅱ（講読）（2外）	担当者名	陳 跡
-----	--------------	------	-----

講義の目標	発音の練習の次に少し長い会話ができることを目指す。	
講義概要	本講義で扱うテキストは自己紹介から中国旅行までの日常会話を網羅するものである。本授業の目的は会話練習しながら自然と語彙を増やし、文法の仕組みを習得させることである。更に中国語文化を紹介する。	
使用教材	テキスト	・相原茂・玄宜青著『リピート中国語』 朝日出版社
	参考文献	
評価方法	評価は、前後期各一回の定期試験と授業への参加度によって決定する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	韓国語Ⅱ（総合）（2外）	担当者名	朴 聖 雨
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>韓国語の多面的な会話表現力を深め広げながら、韓国語文章の読解力と作文力を高め、定着させる。特に会話指導の場合、日本人が韓国で遭遇する多様な場面を想定、そのような状況に対応し得る表現や文型等を習熟させる。また、新聞やテレビ等マスコミで報じられる韓国や朝鮮の報道等に関心を持ち、それらの事項について自分の意見や見解を口頭あるいは文章で的確に表現できるようにする。韓国語Ⅱ（総合）は韓国語Ⅰに比べ、より多様で高度な会話と長文の読解力、作文力の培養が求められる。</p>		
講義概要	<p>自然なスピードの韓国語を正確に聴取でき、多様な状況や場面に即して適切な会話表現ができるようにする。また、辞書を活用しながら韓国語の長文の読み書きが可能であるように、特に指導に力点を置く。役割遊び（ロール・プレイング）等を通じ学習に取り組んで行くようにする。さらに、テレビやラジオ放送、新聞等を通じて韓国や朝鮮に関して様々な時事情報を入手し、活用することができるような積極的な学習態度をもって学習にのぞむようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・朴 勇俊 編 『韓国語ひとりあるき』 韓国書籍 7年3月 ・同 『やさしい韓国語の基礎』 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・朴 聖雨・金貞淑 編著 『韓国語 学習の完成』 同文書院 1988 	
評価方法	<p>評価は、前後期各1回の定期試験と出席、平素の授業参加度などを含め総合的に判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義は個別進度に即して行いが、自分の学習テンポをたしかめ、学習内容を反復練習し、強化すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義概要の説明および受講の留意点を周知させる。日韓両国語の共通点と相違点を、文字、発音、構文、文法等の例を通して考え、ハングル 24 字の制定過程と発音、構成原理等を学ぶ。・基本会話(1)あいさつ
2	ハングル 24 字の組み合わせによる音節一覧表である「半切表」の習熟。読みと発音と表記の練習・基本会話(2)自己紹介①
3	ハングルの字形①「初声+中声」からなる単語 21 例の読みとそれらにまつわる韓国の民話と風習の紹介。 ・基本会話(3)自己紹介② 韓国童話「野兎(サントツキ)」、韓国語の品詞の種類
4	ハングルの字形②「初声+中声(複母音)」からなる単語 15 例の読みとそれらにまつわる韓国文化の諸相説明。 ・基本会話(4)物の名前(主格助詞)(指示代名詞、近・中、遠称)
5	ハングルの字形③「濃音」および「初声+中声+終声」からなる単語 17 例の読みとそれらにかかわる韓国の伝説を紹介。 ・基本会話(5)食事(目的格助詞)(人称代名詞)
6	ハングルの文章の読み(上の①、②、③、に助詞がついた完成文) ・基本会話(6)曜日と時間 韓国民謡「アリラン」 「離し書き」の規則
7	・基本会話(7)机と本と椅子 「前置詞」の種類とはたらき 「連音」の規則
8	・基本会話(8)家族と友人 「子音接変」の規則、韓国歌謡「サランへ(愛している)」
9	・基本会話(9)学校と勉強と先生 待遇法「敬称と卑称」における語尾変化
10	・基本会話(10)買物と商品と値段 「数字の表記法」
11	・基本会話(11)電 話 韓国歌謡「愛の迷路」 ^{サランヘミロ} 「動詞の時制」
12	前期の学習の総括と反省のための個別発表
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	・前期の定期試験結果の総評と反省 後期の学習課題とテキストの活用方式、学習段階について説明
2	テキスト 第1課 天気と気候 文法「母音調和」の事例をあげ、指導する。
3	テキスト 第1課 天気と気候 文法 音韻の「縮約」「脱落」
4	テキスト 第2課 交通機関と旅行 文法 音韻の「付加」
5	テキスト 第2課 交通機関と旅行 文法 音韻の「付加」
6	テキスト 第3課 劇場と映画 文法 「終声の母音連音」
7	テキスト 第3課 劇場と映画 文法 「終声の母音連音」
8	テキスト 第4課 わが家の構造 文法 「体言のはたらき」
9	テキスト 第4課 わが家の構造 文法 「体言のはたらき」
10	テキスト 第5課 招待とパーティ 文法 「変則動詞①」
11	テキスト 第5課 招待とパーティ 文法 「変則動詞①」
12	・後期の学習結果の総括および1年間の学習成果の評価、反省
備考	

科目名	韓国語Ⅰ（講読）（2外）	担当者名	井上和枝
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>韓国語Ⅰ（文法）と並行しながら、韓国語の文字と発音を学び、基本的な文章が読めるようにする。あわせて韓国語の土台になっている韓国の歴史や文化にも触れる。</p>	
講義概要	<p>韓国語の学習は、発音を除いては日本人にとって非常に入りやすいものです。語順が日本語とほとんど同じだからです。ですから単語と基本文法を習得すれば、文章を読むことは比較的容易にできます。</p> <p>文字と発音になれば、日常生活で使う簡単な文章を出来るだけたくさん読みます。</p> <p>毎回テキストの基文構文（会話形式）を暗誦し、出て来る文法事項は説明より文の暗記で覚え、言い換えの練習問題をたくさんやることで、一課をものにします。1年生では、時間をかけて辞書を引くより、出て来た単語と構文を覚えることに重点を置きます。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『한국어 Ⅰ』（ソウル大学校語学研究所）
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 辞書：小学館 『朝鮮語辞典』 参考書：野間秀樹『<u>길</u>—朝鮮語への道』、有明学術出版社
評価方法	<p>出席点とそのつど簡単な宿題を出してもらって評価します。宿題は授業でやった練習問題を書いてくるだけのものです。</p> <p>試験はしません。</p>	
受講者に対する要望など	<p>韓国語は早く言えば日本語の文章に韓国語の単語をあてはめるだけで作れそうな気がしますが、発音は絶対に独習できません。1にも2にも出席です。そうすれば苦労しないで学べます。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	韓国語の歴史、文字の概要、単母音、基本子音（平音）
2	基本子音、子音（激音）、子音（濃音）
3	二重母音、終声
4	指定詞の上称形（一番丁寧な表現）の普通文と疑問文、有声音化、終声の初声化、濃音化、口音の鼻音化
5	指定詞の上称形の否定文
6	簡単な自己紹介、動詞上称形の作り方、助詞（目的語をあらわす）
7	疑問詞（どこ、何）、助詞（動作の行われる場所をあらわす）
8	尊敬の表現、助詞（方向）
9	形容詞の上称形、激音化、基本的形容詞の使い方
10	曜日の表現、文の接続
11	略待丁寧形（丁寧でくれた表現）、存在詞
12	略待丁寧形
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	過去形の作り方（上称形、略待丁寧とも）
2	尊敬の過去形、月日の表わし方
3	文の接続（逆接）、日変則用言
4	電話での話し方、意志・未来の表現、尊敬の命令形
5	買い物で使う表現、固有数字、序数詞
6	固有数字、漢数字の習熟
7	食堂で使う表現、聞き手の意向をたずねる表現（～しましょうか？） 授与動詞とその謙讓表現
8	勧誘形
9	乗り物に乗る時使う表現、理由・原因の表わし方
10	目的を表わす方法（～しようと思う）
11	日変則、復習をかねて自己紹介を韓国語でする
12	音楽を聞きながら、表現の復習をする
備考	

科目名	韓国語Ⅱ（講読）（2外）	担当者名	井上和枝
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>ひとつおりの文法事項をおさえて、いろいろな文章をどんどん読んでいきます。しかし以前に学んだ文章に若干の単語をつけ加えた文を読んでゆくことで、踏み固め踏み固めしながら少しずつ難かしい文に接するよう工夫します。読む文章そのものは現代韓国の実状がよくわかるものとし、背後にある社会と文化に対する知識も探めます。辞書さえ引けば、後は自分で勉強できるようにするのが目標です。</p>		
講義概要	<p>1年生で学んだ文法と表現を土台に、用言の活用の残りを習得し、日常の文章が読めるよう訓練する。平易な表現を繰り返し復習しながら新しい表現を加えてゆく。前半は1年生の時と同様辞書なしでも予習ができるように教材を用い、後半は辞書を引く練習を行う。各課の例文は全て暗誦し、入れ換え問題をたくさんやって、応用力を養うようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・『“한국어Ⅰ”』（ソウル大学校語学研究所）—昨年度韓国語Ⅰ使用テキストを継続使用</p>	
	参考文献	<p>・『朝鮮語辞典』（小学館）</p>	
評価方法	<p>出席と毎回簡単な宿題を提出してもらって評価します。試験はしません。</p>		
受講者に対する要望など	<p>1年生では復習中心に勉強してくるように言いましたが、そろそろ予習をしてきて下さい、と言ってもテキストの後ろの単語リストを引いてくるだけでもよいのです。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	原因・理由（～ので）を表わす表現①、当為（～ねばならない）の表現 地下鉄に乗る時使う表現、韓国の交通に対する知識
2	目的を表わす表現（～しようと思う）、固有数字と漢数字の復習、バスに乗る時使う表現
3	ㄹ変則用言、原因・理由を表わす表現（②）、招待する時に用いる表現
4	聞き手の同意を求める表現（～ですね?）、家族関係を表わす単語
5	不可能形の表わし方（短い形、長い形）①、短い不可能形の読み方
6	現在連体形、ㄷ変則用言、移動を表す動詞、旅行に使う表現、韓国の観光地
7	願望を表わす表現、可能を表わす表現、理由で終止する表現（～だからです）、洋服屋での買物
8	ㄷ変則、ㄱ変則
9	推量・意志の表現、文の接続（順接、逆接、単純）
10	補助用言（～してみる）、薬の買い方
11	不可能の表わし方（②）、飲食に使う動詞、食堂での注文の仕方
12	現代韓国のドラマ観賞により見聞を深める
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	時間の表現、一日の生活の表わし方
2	相手への約束の仕方（～するからね）、喫茶店で友達におごる時の表現、値段の言い方、韓国におけるお金の使い方の知識
3	感嘆文①、ㄷ変則
4	進行形（～している）、同時進行（～しながら）、季節用語、韓国の気候に関する知識
5	比較級、ㄱ変則
6	未来連体形、過去連体形
7	感嘆文②、（動詞の現在形の感嘆文）、大きな数字の発音の仕方、銀行で使う表現
8	移動動詞と共に用いて目的を表わす表現（～しに行く、来る）、仮定形
9	辞書の引き方と練習
10	簡単な新聞記事
11	同上
12	同上
備考	

科目名	韓国語Ⅰ（文法）（2外）	担当者名	朴 聖 雨
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>本科目では、韓国の民俗、習慣など日常生活の具体的場面に即した典型的文化の諸相を紹介しつつ、それらにかかわる基礎的、実会的会話を習熟させることを主な目標とし、個別進度に見あう教授方式によって講義を進める。対象は韓国語の初学者。</p> <p>とくに日本語と韓国語の共通点と相違点などを対照、考察することで理解を深めさせ、実感的文法を体得させることによって、韓国社会で通用できる正しい話す力、聞き取り能力、基礎的な文章解読力、作文力の基本を着実に定着させる。</p>		
講義概要	<p>韓国固有の民俗、歴史、日常活動、芸能、衣食住等を題材に実用会話を指導する。韓国の平均的市民が体験、当面する典型的な生活の節目や場面にかかわる会話を抽出、整理した結果を基本会話シリーズとして教材化し、活用、練習させる。</p> <p>後期では「基本文型」、「基本単語」、「基本会話」などの共通基本系列と、能力差に対応する「個別指導系列」に区分し、共通指導部分と習熟・発展部分を学生個々の学習進度に即して適用、指導して行く。教材は、自学自習が可能になるよう作成に留意し、机間指導によって学習成果を診断し個別指導を行なう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・朴 勇俊 編 『韓国語ひとりあるき』 韓国書籍 7年3月発刊</p> <p>・同 『やさしい韓国語の基礎』</p>	
	参考文献	<p>・朴 聖雨・金貞淑 編著 『韓国語 学習の完成』 同文書院 1988</p>	
評価方法	<p>評価は、前後期各1回の定期試験と授業への参加度、平素の学習態度等を含め総合的に判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義は個別進度に即して行いが、1時間ごとの学習事項は当該時間内に習熟、体得できることを基本とする。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義概要の説明および受講の留意点を周知させる。 韓国語Ⅰでの学習成果をふまえ、韓国語Ⅱはより高度な会話力および長文読解力、作文力の学習が求められること。教材の解説、紹介
2	テキスト 第6課 食堂（やさしい韓国語の基礎） 文法「変則動詞 ①」
3	テキスト 第7課 図書館 文法「変則動詞 ②」
4	テキスト 第7課 図書館 文法「変則動詞 ③」
5	テキスト 第8課 バス・タクシー 文法「変則形容詞 ①」
6	テキスト 第8課 バス・タクシー 文法「変則形容詞 ①」
7	テキスト 第9課 書店 文法「変則形容詞 ②」
8	テキスト 第9課 書店 文法「変則形容詞 ②」
9	テキスト 第10課 下宿 文法「語幹と語尾」
10	テキスト 第10課 下宿 文法「語幹と語尾」
11	テキスト 第11課 わが家 文法「子音の接変」
12	前期の学習の総括と自己評価による個別発表
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	・前期の定期試験結果の総評と反省 後期に用いる新しいテキスト「やさしい韓国語ひとりあるき」の内容と活用方法の説明
2	テキスト 第1課 外国旅行（出入国審査、税関） 文法「接頭辞」
3	テキスト 第1課 外国旅行（出入国審査、税関） 文法「接頭辞」
4	テキスト 第2課 地下鉄 文法「接尾辞」
5	テキスト 第2課 地下鉄 文法「接尾辞」
6	テキスト 第3課 ホテル・旅館 文法「自動詞と他動詞」
7	テキスト 第3課 ホテル・旅館 文法「自動詞と他動詞」
8	テキスト 第4課 韓国料理 文法「形容詞の時制」
9	テキスト 第4課 韓国料理 文法「形容詞の時制」
10	テキスト 第5課 伝統的行事 文法「動作、作用の進行」
11	テキスト 第5課 伝統的行事 文法「動作、作用の進行」
12	・後期および年間学習成果の総括、評価および反省
備考	

科目名	ロシア語Ⅰ（文法）（2外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>単語の活用が多く、一見取っつきにくいロシア語の骨組みを、文法を通してつかみ、少しでもロシア語に慣れることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>全くの初学者を対象としており、キリル文字（アルファベット）、発音から始めます。文法の教科書にしたがって名詞の格変化、動詞の現在人称変化、過去時称形、未来形などを中心に学び、最も基本的な構文が理解でき、使いこなせるようにします。授業はゆっくりといねいに進めます。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・桑野隆著『はじめてのロシア語』白水社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・博友社ロシア語辞典 	
評価方法	<p>前後期各一回の試験、各課終了時の単語試験及び授業への出席の度合によって決定します。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要説明、ロシア語の簡単な歴史、及びキリル文字（アルファベット）の発音について学ぶ（プリント教材）。
2	キリル文字での単語の綴りの練習を行なう。ごく基本的な単語の発音の練習を行なう。
3	基本的な平叙文と疑問文(1)の説明及び練習問題 1 と 2 を行なう（教科書第 1 課）
4	基本的な平叙文と疑問文(2)の説明。名詞の性について説明する（教科書第 2 課）
5	文字と発音(3)。動詞の不定形と現在人称変化（第一変化）を学ぶ（教科書第 3 課）。
6	子音の同化、硬音記号と軟音記号を含む発音（教科書第 3 課）。
7	名詞の複数形、正書法の規則を学ぶ（教科書第 4 課）。
8	所有代名詞、名詞の格変化の練習問題を解く（教科書第 4 課）。
9	形容詞の性・数変化、動詞の現在人称変化（第二変化）を学ぶ（教科書第 5 課）。
10	前置格の用法を学ぶ（教科書第 6 課）。
11	前期の授業の総括を行なう。
12	前期試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	過去時称形を学ぶ（教科書第 7 課）。
2	生格の用法を学ぶ（教科書第 7 課）。
3	所有の表現とその否定の用法を学ぶ（教科書第 7 課）。
4	対格の用法を学ぶ（教科書第 8 課）。
5	運動・動作の目標の用法を学ぶ（教科書第 8 課）。
6	与格の用法を学ぶ（教科書第 8 課）。
7	未来形を学ぶ（教科書第 9 課）。
8	造格の用法を学ぶ（教科書第 9 課）。
9	人称代名詞の格変化、不定人称文を学ぶ（教科書第 10 課）。
10	形容詞の格変化を学ぶ（教科書第 10 課）。
11	後期の授業の総括を行なう。
12	後期試験を行なう。
備考	

科目名	ロシア語Ⅰ（講読）（2外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	複雑な構造のロシア語の骨組みを、講読を通してつかみ、できるだけロシア語に慣れることを目標とします。		
講義概要	全くの初学者を対象としています。前期は文法の授業と並行して進め、名詞の格変化、動詞の現在人称変化がおおよそ理解できるようにします。後期は前期で学んだ文法知識の応用として簡単なテキストによる講読を行ない、基本的な構文が理解でき、使いこなせるようにします。授業はゆっくりといねいに進めます。		
使用教材	テキスト	プリント教材	
	参考文献	・博友社ロシア語辞典	
評価方法	前後期各一回の試験及び授業への出席の度合によって決定します。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要説明を行なう。キリル文字の発音を学び、筆記体を習得する（プリント教材）。
2	文字と発音(1)、アクセント、基本的な平叙文と疑問文(1)（教科書第1課）。
3	文字と発音(2)、硬子音と軟子音、基本的な平叙文と疑問文(2)（教科書第2課）。
4	名詞の性を説明し、練習問題1と2を解いてみる。（教科書第2課）
5	動詞の不定形と現在人称変化（第一変化）を学ぶ（教科書第3課）。
6	動詞の不定形と現在人称変化の練習問題（教科書第3課）。
7	所有代名詞、名詞の格変化を学ぶ（教科書第4課）。
8	指示代名詞、形容詞の性・数変化を学ぶ（教科書第5課）。
9	形容詞の性・数変化、動詞の現在人称変化（第二変化）の練習問題を解く（教科書第5課）。
10	場所の用法を学び、練習問題を解く（教科書第6課）。
11	前期の授業の総括を行なう。
12	前期試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	簡単なテキストの講読を行なう（教科書 p. 57）。
2	簡単なテキストの講読を行なう（教科書 p. 58）。
3	簡単なテキストの講読を行なう（プリント教材）。
4	簡単なテキストの講読を行なう（プリント教材）。
5	簡単なテキストの講読を行なう（プリント教材）。
6	簡単なテキストの講読を行なう（プリント教材）。
7	簡単なテキストの講読を行なう（プリント教材）。
8	簡単なテキストの講読を行なう（プリント教材）。
9	簡単なテキストの講読を行なう（プリント教材）。
10	簡単なテキストの講読を行なう（プリント教材）。
11	後期の授業の総括を行なう。
12	後期試験を行なう。
備考	

科目名	ロシア語Ⅱ（会話）（2外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	日常生活で使われる基本的な構文から、より複雑な構文まで会話を通して学び、これらの構文がスムーズに表現できるようになることを目標とします。		
講義概要	ロシア語Ⅰ（文法、講読）を昨年履修した学生を対象とします。テキスト（プリント教材）にしたがって、自己紹介、あいさつから始め、道の尋ね方、電話での会話など様々な状況での会話を学び、ロシア語に特徴的な種々の表現を使いこなせるようにします。		
使用教材	テキスト	プリント教材（ステパーノヴァ、チェボタリョフ共著『ロシア語集中講義』）	
	参考文献	・博友社ロシア語辞典	
評価方法	前後期各一回の試験及び授業への出席の度合によって決定します。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要説明を行なう。自己紹介に関する表現について学ぶ (テキスト第1課)。
2	あいさつに関する表現について学ぶ (テキスト第1課)。
3	あいさつに関する表現の続きを学ぶ (テキスト第1課)。
4	年齢、家族構成に関する表現について学ぶ (テキスト第1課)。
5	ホテルにおける表現について学ぶ (テキスト第2課)。
6	ホテルにおける表現の続きを学ぶ (テキスト第2課)。
7	値段に関する表現について学ぶ (テキスト第2課)。
8	レストランにおける表現について学ぶ (テキスト第2課)。
9	場所の表現について学ぶ (テキスト第3課)。
10	場所の表現について引続き学ぶ (テキスト第3課)。
11	道をたずねるときの表現について学ぶ (テキスト第3課)。
12	前期試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	郵便局における様々な表現について学ぶ (テキスト第4課)。
2	郵便局における様々な表現について引続き学ぶ (テキスト第4課)。
3	電報の打ち方について学ぶ (テキスト第4課)。
4	電話に関する様々な表現について学ぶ (テキスト第4課)。
5	買物に関する様々な表現について学ぶ(1) (テキスト第5課)。
6	買物に関する様々な表現について学ぶ(2) (テキスト第5課)。
7	買物に関する様々な表現について学ぶ (テキスト第5課)。
8	出会い、訪問、会話に関する様々な表現について学ぶ(1) (テキスト第6課)。
9	出会い、訪問、会話に関する様々な表現について学ぶ(2) (テキスト第6課)。
10	出会い、訪問、会話に関する様々な表現について学ぶ(3) (テキスト第6課)。
11	後期の授業の総括を行なう。
12	後期試験を行なう。
備考	

科目名	ロシア語Ⅱ（総合）（2外）	担当者名	井上幸義
-----	---------------	------	------

講義の目標	ロシア語Ⅰ（文法）に引続きロシア語文法を中心に学び、基本的な構文よりさらに複雑な構文を理解し、使いこなせることを目標とします。	
講義概要	ロシア語Ⅰ（文法、講読）を昨年履修した学生を対象とします。ロシア語の重要な概念のひとつである動詞の体（完了体、不完了体）を中心に、命令法、無人称文、定動詞、不定動詞などを学び、ロシア語に特徴的な表現を解説し、使いこなせるようにします。	
使用教材	テキスト	・桑野隆著『はじめてのロシア語』白水社
	参考文献	・博友社ロシア語辞典
評価方法	前後期各一回の試験及び授業への出席の度合によって決定します。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要説明を行なう。ロシア語の極めて重要な概念である動詞の体（完了体、不完了体）について解説する（教科書第11課）。
2	動詞の体（完了体、不完了体）の過去形及び未来形について更に学ぶ（教科書第11課）。
3	第2唇音変化及び歯音変化について学ぶ（教科書第11課）。
4	動詞の体（完了体、不完了体）、第2唇音変化及び歯音変化を使った文章を読む（教科書第11課）。
5	命令法について学び、命令法で書かれた文章を読む（教科書第12課）。
6	形容詞の短語尾形について学び、形容詞の短語尾形で書かれた文章を読む（教科書第12課）。
7	無人称文について学ぶ（教科書第12課）。
8	個数詞の表現について学ぶ（教科書第13課）。
9	時間の表現について学ぶ（教科書第13課）。
10	年数・年齢の表現について学ぶ（教科書第13課）。
11	前期の授業の総括を行なう。
12	前期試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	定動詞と不定動詞について学ぶ（教科書第14課）。
2	定動詞と不定動詞から派生する完了体と不完了体について学ぶ（教科書第14課）。
3	一人称命令法について学ぶ（教科書第14課）。
4	形容詞の比較級について学ぶ（教科書第15課）。
5	形容詞の最上級について学ぶ（教科書第15課）。
6	関係代名詞の用法について学ぶ（教科書第15課）。
7	仮定法について学ぶ（教科書第16課）。
8	接続詞について学ぶ（教科書第16課）。
9	形動詞について学ぶ（教科書第16課）。
10	副動詞について学ぶ（教科書第16課）。
11	後期の授業の総括を行なう。
12	後期試験を行なう。
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	青木雅明
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>①米欧の経済専門家が日本経済について書いた英文の記事や論文を読み、理解できるようになってもらう。</p> <p>②長い経済英文に対する恐怖心を払拭してもらう。</p> <p>③英和辞典を引く習慣をつけてもらう。</p> <p>④英語の経済用語と構文に慣れ親しんでもらう。</p> <p>⑤英語を通じて日本経済を理解できるようになってもらう。</p>	
講義概要	<p>下記のテキストの「第1章 日本概観」、「第2章 日本経済」の輪読を次のように指導する。</p> <p>①毎回2ページ程度進む。</p> <p>②難かしい、または重要な単語・フレーズをあらかじめ解説する。</p> <p>③受講者はこれと英和辞典により予習したうえ出席する。</p> <p>④受講者は順に読んで意味を述べ、内容についてコメントする。</p> <p>⑤講師はこれについて修正、補足説明をするとともに、内容となっている日本経済について必要な解説を行う。また、質問に答える。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ T. Pepper, M. E. Janow, and J. W. Wheeler; <i>The Competition: Dealing with Japan</i>, New York: Praeger, 1983</p>
	参考文献	<p>・ 英文経済用語辞典</p> <p>・ 経済用語辞典</p> <p>・ The JAPAN TIMES の日本経済記事</p> <p>・ MONDAY NIKKEI</p>
評価方法	<p>下記事項について総合的に評価する。</p> <p>①出席状況</p> <p>②講義における意欲と到達度</p> <p>③2回の学期末テストの得点</p>	
受講者に対する要望など	<p>①毎回出席する、②遅刻しない、③講義妨害になるおしゃべりをしない、④予習をする、⑤常に明るい心を持つ、⑥軽い運動を続ける、⑦友人をつくる。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストのあらすじ (過去40年間にわたる日本の米国に対する経済的地位の変化を分析すること)。
2	アメリカ人の視点と日本人の視点
3	同 上
4	国際貿易とその困難性
5	文化的変化と経済的变化
6	同 上
7	日本経済の先進工業国へのキャッチアップ過程
8	同 上
9	同 上
10	日本の貿易と国際金融のパターン
11	同 上
12	同 上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本の貿易と国際金融のパターン
2	同 上
3	同 上
4	同 上
5	米国経済の展望
6	同 上
7	同 上
8	同 上
9	日本経済の展望
10	同 上
11	同 上
12	同 上
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	伊藤弘人
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>本科目では、下記にあげた英語の短い文章や論文を通して、産業現場における保健医療・精神衛生を理解することを目標とする。これらの文献は歴史的にも重要なものなので、英文に親しむとともに、現在の産業現場の一側面への理解が深くなることが期待できる。</p> <p>講義は輪読形式で行う。意欲ある学生の積極的な参加を希望する。</p>	
講義概要	<p>講義の教材は、World Health Organization の概要からはじめ、Primary Health Care, Health Promotion という概念を明らかにしていく。さらに日本の産業医学や産業保健の文献を読む。余力があれば、関連資料を用意する。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席と講義への貢献度について評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

第1週：オリエンテーション

2～4週 *Constitution of the World Health Organization*, New York, U. S. A., 1946.

5～10週 *Primary Health Care*, Report of the International Conference on Primary Health Care, Alma-Ata, U. S. S. R., 1978.

11～15週 *Ottawa Charter for Health Promotion*, The first International Conference on Health Promotion, Ottawa, Canada, 1986.

30～20週 WHO, *Health Promotion for Working Populations*. WHO Technical Report Series 765, 1988.

21～24週 Reich, MR. and Frumkin H., *An Overview of Japanese Occupational Health*. American Journal of Public Health 78 (7) 809-816, 1988.

Conrad, P. and Schneider, JW., *Deviance and Medicalization: From Badness to sickness*, Temple University Press, Philadelphia, 1992.

など

科目名	外国書研究 I	担当者名	犬井 正
-----	---------	------	------

講義の目標	英文テキスト <i>Environmental Hazards</i> をテキストとして用い、世界の災害・環境問題の種類、分布、影響などについて理解をする。		
講義概要	世界の災害・環境問題に関する英文テキストを輪読し、災害・環境問題が生態・経済・文化に与えている影響を読みとる。シラバスに沿って進行させていくが、テキストの輪読に終始するのではなく、討論や作業などをまじえながら講義をすすめていく。		
使用教材	テキスト	・ Chris C. Park (1992); <i>Environmental Hazards</i> , Nelson.	
	参考文献	随時提示する。	
評価方法	試験またはレポートによる。		
受講者に対する要望など	環境・災害問題などに興味・関心を持ち、常時出席が可能な勤勉な学生に限る。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行う。
2	Hazards-concept and context (1)
3	Hazards-concept and context (2)
4	Hazards-concept and context (3)
5	Spacial variability and human persistence (1)
6	Spacial variability and human persistence (2)
7	Spacial variability and human persistence (3)
8	Project work (1)
9	Hazard forecasting and risk assessment (1)
10	Hazard forecasting and risk assessment (2)
11	Hazard forecasting and risk assessment (3)
12	Project work (2)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Perception of hazards and extreme events (1)
2	Perception of hazards and extreme events (2)
3	Experiencing hazards (1)
4	Experiencing hazards (2)
5	Adjustment to hazards (1)
6	Adjustment to hazards (2)
7	Project work (3)
8	The human impact (1)
9	The human impact (2)
10	Hazards-present and future prospects (1)
11	Hazards-present and future prospects (2)
12	Project work (4)
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	岡村 国和
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>本講義における外国書研究の目標は、諸外国（主として英米）の経済分野あるいは経営分野の専門書の講読し、その内容を理解するだけでなく周辺領域をも検討することにある。さしあたりテキストの輪読を行うが、翻訳することが主要目標ではなく、あくまで内容の検討が主要目標なので、章または節ごとにディスカッションを行い、可能であればディベートすることも予定している。従って受講希望者は、テキストのより一層の理解を深めるために講義中に紹介する関連文献（主として邦文）による予習を行うことが要求される。</p>	
講義概要	<p>テキストは未定であるが、今年度はアメリカ経済動向をその財政的側面から研究する予定である。さしあたりアメリカにおける双子の赤字問題（財政赤字と貿易赤字）を理解し、その主要原因を探ることから始める。さらに財政赤字の主要原因である社会保障給付問題を取り扱い、福祉全般にわたる理解を深める。高齢化社会の到来と共にますます肥大化する財政規模は、将来の税負担となって家計を圧迫することになり、やがては経済成長も阻害する要因となる。こうした現象はアメリカだけでなくわが国でも妥当するこなので、わが国との比較も行いたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>テキストは未定。ただしプリントして配布する。</p>
	参考文献	<p>講義中に適宜紹介するが、主として邦文献の予定。</p>
評価方法	<p>主として出席状況およびレポート・発言内容等によって評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>特になし。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定。但し、初回の講義の際に受講者と話し合いの上で決定する。さしあたり、適度な区切れのあるところ（章毎など）でディスカッションする。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	奥山正司
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>様々な社会において、人種差別や性差別と並んでエイジズム（年齢差別）がどのようなかたちで浸透しているのかを学ぶ。ほとんどの人々は、おそらく、人種差別や性差別と異なって、エイジズムということばさえ知らない。しかし、米国や日本だけでなく、数多くの国々では、高齢者に対する偏見や差別が深く浸透している。米国研究者のエイジズムに関する資料を題材にして、これらのことについて、考える力を身につける。</p>	
講義概要	<p>社会のありかたによって、高齢者の処遇は異なっているが、具体的には、高齢者の優遇策や否定的な処遇は、経済社会の動きや人口高齢化の進展といかに密接に関連しているのか。また、どのような社会において、どのようなエイジズムがみられるのかを学ぶ。授業は、エイジズムに関する分かりやすい論文を輪読しながら、討論し、講義を進めていく。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Erdman B. Palmore ; <i>Ageism : Negative and Positive</i>, (1990) ・ Springer Publishing Company, New York
	参考文献	
評価方法	<p>予習、復習、発表、出席を重視する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	エイジズムの形態
2	年齢の意味
3	個人的原因
4	社会的影響
5	文化的原因
6	エイジズムの結果
7	経済におけるエイジズム
8	政府におけるエイジズム
9	家族におけるエイジズム
10	住宅及び健康政策にみられるエイジズム
11	エイジズムの解消につけて
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	小尾 恵一郎
-----	--------	------	--------

講義の目標	単に外国語を理解、習得するだけでなく内容の理解も重視する。	
講義概要	<p>まず経済成長・発展のしくみと特長を見てゆくため、アジア途上国、とくに日本の経済発展途上にも文献の中心をおく。</p> <p>テキストは日本の成長にかんするアメリカ合衆国研究者の研究を研究事例とする。S. KUZNETZ, H. ROSOVSKY 等からとりあげる。前期は資料もとり入れ、後期では理論的課題も考慮してゆく。</p> <p>また年間週の適時には経済学用語など外国語読みの習慣の時間を考慮する。</p>	
使用教材	テキスト	テキスト、参考文献に上記のものから適時選択
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	梶山 皓
-----	---------	------	------

講義の目標	広告に関する専門英語を習得する。併せて広告理論を学ぶ。	
講義概要	授業では毎回プリントを配布し、一定時間内に学生が訳出、発表し、教員が解説を加える。授業には必ず辞書を持参する。	
使用教材	テキスト	プリントを用意する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・八巻俊雄編『広告用語辞典』東洋経済新報社。 ・『広告英語辞典』誠文堂新光社。 ・『マーケティング英和辞典』同文館。 ・Barron's: Dictionary of Advertising and Direct Mail Terms.
評価方法	授業の出席状況、授業中の発表、前期・後期の試験を総合的に評価する。 <u>欠席が5回以上の人は、原則として不可とします。</u>	
受講者に対する要望など	とくになし。	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	入門
2	広告の種類
3	ビジネス広告／企業広告とPR
4	非営利広告
5	市場細分化
6	消費者行動
7	広告ビジネス
8	広告計画
9	メディア計画
10	プリント広告の制作
11	プリント・メディアの評価
12	放送メディア
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	放送メディアの評価
2	その他のメディア：DM、屋外広告など
3	セールス・プロモーション
4	コミュニケーション・プロセス
5	コピー・ライティング
6	広告デザイン
7	広告効果測定
8	広告の法的環境
9	国際広告
10	広告計画の事例
11	ケース研究①
12	ケース研究②
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	桑原靖夫
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>専門課程で必要とされる経済学文献、資料、新聞、雑誌等の平易なものが辞書の助けを借りて、なんとか読める程度にする。</p>	
講義概要	<p>同時開講の外書 I (旧カリ) とは異なり、当初からまとまった資料、冊子の読了を予定する。</p>	
使用教材	テキスト	未定 (開講時まで指示する)
	参考文献	
評価方法	<p>通常の授業における質疑応答、年度末の筆記試験による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>教材は読んできていることを前提にして、進行するので予習は欠かさないこと。進度はかなり速い。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	通常の講義方式ではないので、受講生の理解の程度に応じて進度を調整する
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	小林 進
-----	--------	------	------

講義の目標	経済学の基本的概念を英語の外書を使用して理解することを目指す	
講義概要	最初の講義で指示する	
使用教材	テキスト	未定（最新の経済洋書を現在考慮中、決定後、各自で購入）
	参考文献	
評価方法	平常の講義の出欠と予習、及び前期と後期の二回の試験によって評価する	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	齋藤正章
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>現在、外国語で書かれた良書は、ほとんど翻訳され日本語で読むことができる。しかし、いち早く情報を入手したいときや専門性が高く日本語訳されていない文献は自分で解説する必要が生じる。本講義は、そうした事態に対応するための基礎的な技術の習得を目標とする。</p>	
講義概要	<p>文献解説の第一歩は専門用語に慣れることである。そこで、基礎的な専門用語が豊富で、なおかつ内容に親しめることを条件に下記のテキストを採用した。本書は、市場経済の働きに関して初学者に向けて平易な言葉でその本質を解説しているので、訳出するだけでなく、ぜひ内容に踏み込んで各自の理解を深めてほしい。</p> <p>1～2回の講義で1 Chapter 読了を目標とした授業を行う。したがって、毎回6ページ以上の予習を必要とするが、量を読むこともまた語学上達の秘訣である。なお、講義別のテーマについては年間講義予定を参照のこと。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ UNDERSTANDING THE MARKET ECONOMY, OXFORD UNIVERSITY PRESS, 1992.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>授業への参加姿勢と前後期の試験結果を3対7の割合で評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>辞書を引く手間を惜しまないこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Chapter 1 Introduction pp. 1-6.
2	Chapter 2 Production and Distribution pp. 11-16.
3	Chapter 3 Supply and Demand pp. 17-26.
4	Chapter 4 Economic Adjustment pp. 27-41.
5	Chapter 5 The Interplay Aggregate Supply and Demand (1) pp. 42-50.
6	Chapter 5 The Interplay Aggregate Supply and Demand (2) pp. 50-60.
7	Chapter 6 The Workings of a Planned Economy pp. 61-71.
8	Chapter 7 Prerequisites for a Market Economy pp. 77-85.
9	Chapter 8 Challenges Posed by the market (1) pp. 86-92.
10	Chapter 8 Challenges Posed by the market (2) pp. 92-98.
11	Chapter 9 Dilemmas and Problems in a Market Economy (1) pp. 99-105.
12	Chapter 9 Dilemmas and Problems in a Market Economy (2) pp. 105-110.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Chapter 10 Why the Market Nevertheless is Useful (1) pp. 111-116.
2	Chapter 10 Why the Market Nevertheless is Useful (2) pp. 116-123.
3	Chapter 11 The Political Economy of Public Finance (1) pp. 128-134.
4	Chapter 11 The Political Economy of Public Finance (2) pp. 134-139.
5	Chapter 12 The Role of Money (1) pp. 140-144.
6	Chapter 12 The Role of Money (2) pp. 144-150.
7	Chapter 13 A Closer Look at the Capital Market (1) pp. 151-157.
8	Chapter 13 A Closer Look at the Capital Market (2) pp. 157-164.
9	Chapter 14 The Labour Market in a Competitive Economy pp. 165-174.
10	Chapter 17 Elements of Accounting (1) pp. 204-213.
11	Chapter 17 Elements of Accounting (2) pp. 213-220.
12	Chapter 18 From Plan to Market: The Challenges pp. 221-234.
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	佐々木 賢 雄
-----	---------	------	---------

講義の目標	<p>GATTのウルグァイ・ラウンドや日米間の各種経済協議によって明らかにされたように、各国の国内制度、とくに規制のあり方はいまや国際的に再検討されなければならない。しかし、そのためには、国際的にコミュニケーション可能な、共通する言語によって問題の概要を認識できなければならない。</p>	
講義概要	<p>講義の目標で明記したように、この講義で外書を使うのはあくまでも学習の手段であり、けっしてそれを読むことだけが目的であるのではない。この講義は、いわゆる規制緩和の問題を、たんに時代の風潮に乗って追従するのではなく、産業組織論の枠組みにあてはめて論理的に再検討することを目的として編成されている。基本的な事柄については講義で説明するが、テキストのブラウジングを通じて、法と経済の接点にある問題群を理論的かつ実態に即して議論していきたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ Walters, Stephen J. K; <i>Enterprise, Government, and the Public</i>, McGraw-Hill, Inc., 1993.</p>
	参考文献	<p>・ 『公的規制の経済学』、植草益 (1991)、筑摩書房。 ・ 『講座・公的規制と産業』①～⑤、(1994-1995)、NTT 出版。</p>
評価方法	<p>評価は、基本的に、毎時間の理解度と各期における定期試験にもとづいておこなう。その他に、何度か自由課題のレポートを課すが、レポートは減点対象とはせず、加点対象として取り扱う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>テキストの指定箇所を必ず読んでくること。ただし、これは要望ではなく、受講者の義務である。</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス (講義の目標、講義の進め方、学習方法、参考書、レポート、評価方法等)
2	Economies of scale and scope in U. S. Industries : Some empirical evidence (p. 346)
3	Destructive competition in transportation industries? (p. 351)
4	Rationing the broadcast spectrum (p. 355)
5	Early regulation of electric utilities : Who gained? (p. 359)
6	Value-of-service pricing in the rail and trucking industries (p. 374)
7	Price caps in the telephone industry (p. 391)
8	Neither rain nor sleet nor competitors... (p. 396)
9	Franchise bidding and waterworks (p. 399)
10	Peak-Load pricing and consumer behavior (p. 409)
11	Competitive electric utilities? (p. 413)
12	The dual market for natural gas (p. 417)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	The welfare effects of a zero-price lunch (p. 430)
2	Are airline hubs anticompetitive? (p. 451)
3	Sweet deal or bitter harvest? (p. 461)
4	Constituent service or influence peddling? Congress and the S&L crisis (p. 466)
5	Capitalism, socialism, and pollution (p. 475)
6	The land of fruit and honey (p. 482)
7	The common law on pollution externalities (p. 486)
8	A labeling experiment (p. 513)
9	Bureaucratic lag and drug availability (p. 525)
10	Unintended effects of regulations : Fuel economy standards and automobile safety (p. 530)
11	To lumberjacks, OSHA is not OK (p. 543)
12	まとめ (要点整理、Q & A、今後の学習を進めるためのガイダンス等)
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	高橋 善四郎
-----	---------	------	--------

講義の目標	<p>今年度は、テキストの第一章の『道徳感情論』の検討 The Moral Psychology of the Theory of Moral Sentimentsから入る。Introductionは、以下の「講義概要」に説明してあるが、授業の中で英文に沿って解説することで終りたい。</p>		
講義概要	<p>アダム・スミス Adam Smith は、三つの主要業績、『道徳感情論』、『国富論』、そして『法学講義』を残しているが、スミス以後、これらの業績をどう読むべきか、という問題が研究者の間で問われてきた。著者、パトリシア・ヴェルハーネは、このアダム・スミス問題 the Adam Smith problem を真正面から取り組んでいる。従来、『国富論』を中心にして、「利己心」と「見えざる手」をもってスミスは市場原理を説明する、と解釈されるが、余りにも単純化し過ぎると思う。それは、スミスの業績の関連性に研究者が矛盾を感じるからであるが、著者は、主張される矛盾を否定し、スミスが目指したと思われる思想像（経済哲学）の一貫性を探究する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Patricia H. Werhane; <i>Adam Smith and His Legacy for Modern Capitalism</i>, Oxford University Press 1991.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席態度、平常点を中心にして、期末試験（未定）の成績を加えて、総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習を欠かさないことが大切。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	予定は立てられない。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	中村 泰 將
-----	---------	------	--------

講義の目標	<p>1. 英文の意味内容を的確に理解することが第一目標である。</p> <p>2. 専門用語をできるだけ身につけることが第二の目標である。</p> <p>3. 辞書は、必ず引き、アクセントおよび発音記号にも気を配ることが第三の目標である。</p>	
講義概要	<p>講義内容：私の専門は会計学であるが、必ずしも会計領域に限定しない。むしろ、社会一般、経済、政治、経営等の関係領域に関して記載している、雑誌、新聞、著書などを題材として、カレントなトピックスを取り上げ講読する。</p> <p>授業の進め方：あらかじめ受講者全員に講読のコピーを手渡します。授業では、あらかじめ講読担当者を決めておき、その人だけが授業の主役になることのないよう、全員が予習をしてきて、誰があてられてもよいように準備をしていくことが要求されます。従って、授業の主役は、受講者全員であることを承知しておいてください。</p>	
使用教材	テキスト	特定のテキストはなし。
	参考文献	
評価方法	授業の発表内容、出席、前・後期のテストの総合点によって判定いたします。	
受講者に対する要望など	辞書は、必ず毎回持参すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科 目 名	外国書研究 I	担当者名	長 吉 眞 一
-------	---------	------	---------

講義の目標	<p>現在、日本で実際に行なわれている企業会計について、その背景・根拠・概要について理解することを目標とする。特に、商法に基づく会計と証券取引に基づく会計について、その異同・開示の内容およびそれらの背景となっている立法趣旨についての理解を目指す。講義は具体的な事例を織り混ぜながら、平明に行なう予定である。</p>	
講義概要	<p>企業会計における記帳から帳簿の作成、各種報告書の作成、監査、開示の方法等や内容について幅広く学ぶ。本講でとり上げるテキストは、最新の企業会計についての詳細を学ぶというよりも、商法による会計と証券取引法による会計の基本的な考え方や現行の制度を扱うものである。履修者は生きた会計を学ぶことができる。専門用語が多数でてくるが、これらについては予め、訳語を配布し理解をうながす予定である。</p> <p>授業の進め方は、予め発表予定者を特定し輪読制によって訳していく。また、あくまでも英文を通しての企業会計の理解であるので、場合によっては文法にとらわれない、大胆な訳を行なうこともある。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ <i>Corporate Disclosure in Japan</i></p>
	参考文献	
評価方法	<p>前・後期とも試験を実施する。その他、担当した訳の行数や指示した問題点についての発表等を考慮する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開示制度の関係者／企業
2	同 ／公認会計士
3	同 ／日本における会計および監査の基準
4	同 ／監査機関
5	同 ／証券取引所
6	同 ／日本証券業協会
7	同 ／証券会社と引受業者
8	同 ／証券分析家
9	報告基準と実務／総論
10	同 ／商法における報告要件
11	同 ／証券取引法における報告要件
12	会計原則と実務
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商法における報告制度／総論
2	” ／計算書類(1)
3	” ／計算書類(2)
4	証券取引法における報告制度／ディスクロージャーの種類(1)
5	” ／ディスクロージャーの種類(2)
6	” ／有価証券届出書(1)
7	” ／有価証券届出書(2)
8	” ／有価証券報告書(1)
9	” ／有価証券報告書(2)
10	” ／半期報告書
11	” ／連結財務諸表
12	” ／最近の開示要件 一年間のまとめと今後の日本の企業会計の展望
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	西川純子
-----	---------	------	------

講義の目標	経営学や経済学の古典に接することによって、社会科学の面白さを体得することを目標とする。		
講義概要	英文を音読し、一行ずつ日本語に移しかえることを繰り返す。進度は遅いが確実に読みこなす努力を重ねることによって読解力はすすむはずである。		
使用教材	テキスト	・ John M. KEYNES; <i>The End of Laissez Faire</i>	
	参考文献	教材はプリントして配布する。	
評価方法	平常点による。		
受講者に対する要望など	欠席しないこと。予習を必ずすること。辞書を常に携帯すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	原 剛
-----	---------	------	-----

講義の目標	イギリス人実業家による東洋的経営の批評を英語を通して読む。		
講義概要	日本的経営の見直しが盛んに議論されている今だからこそ、西洋人のみた日本的経営の長所を再認識する必要がある。著者は、西洋の企業にない東洋的、とりわけ日本的経営の特徴とその長所・短所を考察して、人事管理面で、西洋的経営のなかに取り入れるべきものは何かを探っている。		
使用教材	テキスト	・ <i>21st Century Management : Keeping Ahead of The Japanese and Chinese</i> , by Dan Waters (Prentice Hall)	
	参考文献	・ 間 宏『日本的経営の系譜』文真堂 1989	
評価方法	平常点を重視し、前期試験、後期試験を加味して評価する。		
受講者に対する要望など			

科目名	外国書研究 I	担当者名	福島 寿
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>本講義の目的は、英文に慣れ、少なくとも将来、卒業論文等を執筆する際に、英語文献を自分なりに理解できる力をつけることにある。このために、内容が比較的的理解しやすいテキストを用いて授業をすすめることを計画している。</p>	
講義概要	<p>シラバスに書いたように、前期と後期とでは異なるテキストを使用します。すなわち、前期においては、米国において、医師、弁護士と並び、職業専門家として市民権の確立している公認会計士の責任問題を論じているテキストを使用します。また、後期においては、公認会計士の社会における役割を論じているテキストを使用します。</p>	
使用教材	テキスト	<p>テキスト I ・ Vincent, Murray, Philip, and Henry 著、<i>Montgomery's Auditing (11th Edition)</i> の第 4 章 “Professional Responsibility and Legal Liability”。</p> <p>テキスト II ・ The Commission on Auditor's Responsibility 著、<i>Report, Conclusion, and Recommendations</i> の第 6 章 “The Boundaries of the Auditor's Role and Their Extension”。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>評価はテスト及び授業への参加度（レポートを含む）により決定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>本講義においては、英文を逐語的に解釈するのではなく、英文で書かれている内容の理解を優先させることを希望します。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明。テキストⅠの pp. 87-89
2	テキストⅠの pp. 90-92
3	テキストⅠの pp. 93-95
4	テキストⅠの pp. 96-98
5	テキストⅠの pp. 99-101
6	テキストⅠの pp. 102-104
7	テキストⅠの pp. 105-107
8	テキストⅠの pp. 108-110
9	テキストⅠの pp. 111-113
10	テキストⅠの pp. 114-116
11	テキストⅠの pp. 117-119
12	テキストⅠの pp. 120-123
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストⅡの pp. 51-52
2	テキストⅡの pp. 52-53
3	テキストⅡの pp. 54-55
4	テキストⅡの pp. 55-56
5	テキストⅡの pp. 57-58
6	テキストⅡの pp. 58-59
7	テキストⅡの pp. 60-61
8	テキストⅡの pp. 63-64
9	テキストⅡの pp. 65-66
10	テキストⅡの pp. 67-68
11	テキストⅡの pp. 69-70
12	年度末テスト
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	本田浩邦
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>80年代以降のアメリカ経済をテーマにしたモノグラフを素材にして、経済問題の争点を研究するとともに、英語文献の基本的な読解力、テクニカル・タームを修得する。</p> <p>経済学がむずかしいと感じている人にも理解しやすいように、また英語が苦手な人でも興味を持続できるように、具体例をおりまぜて、討論形式ですすめていきたい。</p>	
講義概要	<p>アメリカのマクロ経済についての論争を3つピックアップし、それぞれ意見の対立する代表的な論文を読む。テーマは――</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) レーガノミックスは成功だったか？ 2) 財政赤字はなぜ問題か？ 3) 貯蓄投資バランスはなぜ悪くなったか？ <p>の3つである。</p> <p>輪読、解説のあと、全体でディスカッションする。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ Thomas R. Swartz and Frank J. Bonello (ed.); <i>Taking sides: Clashing Views on Controversial Economic Issues (Sixth Edition)</i>, The Dushkin Publishing Group Inc. (1993) 必要な箇所をコピーして配布する。</p>
	参考文献	<p>推薦辞書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『新英和大辞典 (第5版)』 研究社 ・ 長谷川啓之 『経済用語辞典』 富士書房 ・ 『最新英語情報辞典』 小学館
評価方法	<p>平常点、出席および試験の結果による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>できるだけ大きな辞書で予習すること。『デイリー・コンサイス』のようなポケットサイズの辞書の持ち込みは認めない。</p>	

ISSUES AND SECTIONS

Introduction

(Issue 1) Did Reaganomics Fail ?

[1] Samuel Bowles, David M. Gordon, and Thomas E. Weisskopf, "Right-Wing Economics Backfired," *Challenge* (January/February 1991)

[2] Paul Craig Roberts, "What Everyone 'Knows' About Reaganomics," *Commentary* (February 1991)

[3] Discussion

(Issue 2) Do Federal Budget Deficits Matter ?

[4] Alan Greenspan, "Deficits Do Matter," *Challenge* (January/February 1989)

[5] Robert Eisner, "Our Real Deficits," *Journal of the American Planning Association* (Spring 1991)

[6] Discussion

(Issue 3) Does the United States Save Enough ?

[7] Fred Block, "Bad Data Drive Out Good: The Decline of Personal Savings Reexamined," *Journal of Post Keynesian Economics* (Fall 1990)

[8] William D. Nordhaus, "What's Wrong with a Declining National Saving Rate ?," *Challenge* (January/February 1990)

[9] Discussion

(a few weeks for each section)

科目名	外国書研究 I	担当者名	松本正信
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>日本が経済先進国と言われるようになって久しい。外国書研究（講読）の目標はもとより外国語の専門書等を読んで理解出来る能力を養成することであるが、逆に日本の経済諸事情など日本に関する事柄が外国語で著わされた書籍や資料を読んで、これを外国人に解説して理解して貰えるような能力の養成ということを、今日では要請されてもしくはないであろう。その意味で格好の教材を見つけた。文章も平易・平明で分かり安く、直ぐ慣れるであろう。意欲ある諸君の選択を望む。</p>	
講義概要	<p>テキストを観れば一目瞭然であるが、近時はぼ20年；1970—1990年の日本経済の事情や特質を、アダム・スミスやケインズの古典を引用し、理論的ツールも駆使しながら極めて分かり安く解説していく。また明治時代からの近代化と経済成長についての歴史的概観も示され、最後には最近時の言う所のバブル発生とその余波や将来に対する課題や挑戦にも言及されていて教材としても格好、なかなか面白い内容だ。また、これからの国際人としての豊富な用語の習得にも役立つ教材だ。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ Tachi, Ryuichiro, translated by Richard Walker; <i>THE CONTEMPORARY JAPANESE ECONOMY An Overview</i>, University of Tokyo Press, 1993.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>後期定期試験を中心にして評価していきたいと考えてはいるが。</p>	
受講者に対する要望など	<p>文章は平明で分かり安いから、ともかくテキストを早目に求めて読んでみてほしい。途中所によっては簡単な解説のみで訳は省略し、年間を通じて読み切りたいので、受講者も左様心得度し。</p>	

年 間 講 義 予 定

序論、後書を合わせて10章を、年間を通じて各章2～3回の講読のペースで進めて行く積りである。

The Contemporary Japanese Economy, An Overview by Ryuichi Tachi

Introduction

1. The Growth and Development of Japan's Economy
2. Monetary Policy
3. Public Finance
4. The Social Security System
5. International Balances of Payments
6. Prices
7. Structural Changes in the Economy
8. Problems and Challenges for the Future

Afterword: The "Bubble" and Its Aftermath

科目名	外国書研究 I	担当者名	森 健
-----	---------	------	-----

講義の目標	主に、近年のアジア太平洋地域における貿易、投資、経済発展について論じた文献を読むことにより、(1) アジア太平洋地域経済と日本経済についての基本的な知識を深めると共に、英文で書かれた経済専門用語・概念についての知識と、それらの定訳を知ること、および、(2) これらの地域の経済が直面している問題について理解を深めること。	
講義概要	学術雑誌、単行本、国際機関刊行物、国際会議等に提出された論文、ビジネス誌などの文献の中で、上記の課題について、比較的最近の情報を材料にして解説・分析を行っているものを教材として、輪読する。	
使用教材	テキスト	プリントを配布する。
	参考文献	
評価方法	年2回の定期試験および普段点。	
受講者に対する要望など	授業の主眼は、英文を邦訳することにあるのではなく、経済現象を理解することにあることに留意。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の要望を参考にしながら決定したい。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	山越 徳
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>経済学や経済の状況をより広く、より多く知ること、経済の専門用語の知識を増やすことなどを、海外（英語）の文献を通して行い、より経済学や経済に取り組む意識や眼を養う一助としたい。</p>	
講義概要	<p>経済学や経済の状況および専門用語等、広く、多く知るため、経済学や経済動向に関するペーパー、時事問題に関するペーパーなどから、幾つかのペーパーを採り挙げ、読み、議論する。扱われている問題を理解するためには、ペーパーを読み切ることも必要であり、またより多くの問題や分野に触れたいとの理由から、夏休みのレポートを含めて、4～5件のペーパーを読み進める。なお関連用語、関連事項を詳しく知る必要があるものに関しては、授業中に指名し、次回までに調べてきて、報告してもらうこともある。</p>	
使用教材	テキスト	<p>現在、使用ペーパーを考慮中であり、使用するペーパーは授業時に、コピーを配布する予定である。</p>
	参考文献	<p>辞書（英和・和英）は必ず授業には携帯すること。</p>
評価方法	<p>授業の出欠、授業中の応答、夏期休暇中の課題レポートおよび期末考査の結果により評価を行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>文献の内容をより理解するには、より多くの知識が必要であり、そのためには、外書のみならず日本語の文献や書籍をも多く読むことが求められる。とくに翻訳されたものを広く、多く読むことを勧めたい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方、取組み方の説明 講義の概要にも示した様に、4～5件のペーパーを読み終えることを目指すため、1つのペーパーを4～5週で読み、議論をしていく予定である。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	山本正三
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>経済地理の基礎知識を学ぶと同時に、専門外国語の学習が可能なことを念頭において、イギリスの大学における入門テキストを選んだ。内容は簡潔で、複雑で難解な文章はほとんど含まれていないうえに、記述されている事実は多方面にわたっているので、入門者向きなテキストである。</p>	
講義概要	<p>下記テキストの第3部「商品生産の地理」と第4部「工業の地理」を分担をきめて講読していく。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ H. Robinson ; <i>Economic Geography</i>, Macdonald & Evans</p>
	参考文献	<p>・ 青野寿郎他編『地理学辞典』 二宮書店 ・ 芦刈孝 『地理学小辞典』 二宮書店 ・ 三野与吉他編『地理小辞典』 三省堂 ・ 長谷川啓之『経済用語辞典』 富士書房</p>
評価方法	<p>講読を分担して行く間に主に評価していくが、他に訳読の課題を課し、レポートを提出させる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>原則として出席すること。</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	Part 3: The Production of Commodities X. Agricultural Production Types of agriculture
2	Limiting factors
3	XI. Foodstuffs from plants Cereals
4	Maize
5	Rice
6	Sugar
7	XII. Food from animals Economic importance of animals
8	XIII. Industrial raw materials Textile fibres
9	Vegetable Oils
10	Forest products
11	XIV. Metals and minerals Mineral resources
12	Important minerals
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	XV. Fuel and power resources Resources
2	Oil and natural gas
3	Hydro-electric power
4	Nuclear power
5	Part Four: Manufacturing Industry XVI. Industry and its distribution Major industrial regions of the world
6	Features of modern industry
7	XVII. Location of Industry Factors of location
8	XVIII. The heavy industries Iron and steel industry
9	Engineering industry
10	XIX. The light industries Nature of light industry
11	XX. The major manufacturing regions Europe and America
12	Asia and the southern hemisphere
備考	

科目名	外国書研究 I	担当者名	山本美樹子
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>英字新聞、Time、News Week に代表されるような英語の経済関連のジャーナル誌には、外人のライターの眼で日本経済をどのように見るか、について有意義な記事が豊富にある。これから社会に出る人たちにとって、これらの記事を字面を追うだけでなく、経済学的な面で内容を把握できるようになれば、いろいろとプラスになると思われる。当講義では、英語の記事を短時間で、意識できるようなトレーニングを積んでいく。</p>	
講義概要	<p>英字新聞（・The Nikkei Weekly・Financial Times・Japan Times等）で国際貿易論、国際金融論、アメリカ経済事情等に関連した記事を取りあげ、毎回最近のニュースを授業時間の最初に配り、前半はそれを訳し、後半にはその記事について経済的な解説を加えていくというトレーニング形式で進める。</p>	
使用教材	テキスト	<p>特に定めない。 毎回プリントを配る。</p>
	参考文献	<p>特になし。</p>
評価方法	<p>毎回のトレーニングテスト 前期末、学年末の試験</p>	
受講者に対する要望など	<p>トレーニング形式で講義するので毎回必ず出席すること。毎回必ず英語の辞書を持参すること</p>	

年 間 講 義 予 定

毎回いくつかの記事をピックアップしたコピーを配り、これを短時間に訳していくトレーニングを積んでいく。後半は私が取り上げた記事について経済学的な解説をしていく。

前期終了時には試験をする（通常の講義のときのトレーニングとは別のもの）。

後期についても前期と同じ方法で進める。

科目名	外国書研究 I	担当者名	米山昌幸
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>国際経済にはさまざまな問題が存在し、国家間の利害対立を深めている。その中でも発展途上国の貧困問題、経済発展に関する問題は深刻である。途上国の経済発展は決して途上国だけの問題でなく、先進国も含めた地球全体として取り組んでいかなければならない問題である。</p> <p>先進国社会に生きる私達にまず必要なことは、途上国の抱える諸問題の実態を認識し、問題解決に向けて何ができるかを考えることである。この講義では、テキストの講読を通して発展途上諸国の経済開発問題への体系的なアプローチを目指す。</p>
講義概要	<p>テキストは実証的なデータ、経済理論、政策論議を通して、途上国の開発問題に体系的にアプローチしている。〈第1部〉では、第三世界における低開発の実態と意味およびそのさまざまな発現形態に焦点を当てる。〈第2・3部〉では、国内的、国際的両面から主要な開発問題と政策に焦点を当てる。トピックスは経済成長、貧困と所得分配、人口、失業、人口移動、都市化、技術、農村および地域開発、環境、教育、国際貿易および金融、海外援助、民間海外投資、そして債務危機を含む。そして〈第4部〉では、第三世界の可能性と展望を考察する。</p> <p>受講者にはテキストを分担して報告してもらいが、毎回かなりの分量を読むことになる。テキストを理解する上で必要となる基礎理論や経済開発論の知識などは、適宜参考文献を紹介したり、補足して説明する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Michael P. Todaro; <i>Economic Development, 5th edn</i>(Longman, 1994) pp. xxxii+719. 上記の文献の必要箇所をコピーして配布するが、優れたテキストであるので購入されることをお勧めする。 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡辺利夫、『開発経済学—経済学と現代アジア—』、日本評論社、1986年。 ・高木保興、『開発経済学』、有斐閣、1992年。 ・世界銀行、白鳥正喜監訳、『東アジアの奇跡』、東洋経済新報社、1994年。 ・International Monetary Fund. <i>World Economic Outlook, October 1994</i>. ・World Bank. <i>World Debt Tables 1994-1995</i>. (『世界債務白書』) ・World Bank. <i>World Development Report, 1995</i>. (『世界開発報告』)
評価方法	<p>成績評価は、前期・後期の定期試験と授業への参加・報告を考慮して行う。</p>
受講者に対する要望など	<p>報告者はレジュメを用意すること。講読の授業というよりむしろ内容理解に重点を置いたゼミ形式の授業としたいので、各自の十分な予習に基づいた主体的な参加を期待する。履修希望者は必ず第1週目の授業に出席すること。</p>

年 間 講 義 予 定

<テキストの章構成>

【第1部】 原理と概念

1. 経済学、制度、開発：グローバルな観点
2. 発展途上国の多様な構造と共通の特徴
3. 開発理論：比較分析
4. 歴史的な成長と現代の開発：教訓と論争

【第2部】 諸問題と政策：国内的

5. 成長、貧困、所得分配
6. 人口成長と経済開発：原因、結果、論争
7. 失業：問題、規模、分析
8. 都市化と農村＝都市の人口移動：理論と政策
9. 農業の変容と農村開発
10. 環境と開発
11. 教育と開発

【第3部】 諸問題と政策：国際的

12. 貿易政策と開発経験
13. 国際金融、第三世界債務、マクロ経済的安定化論争
14. 貿易政策論議：輸出促進、輸入代替、経済統合
15. 海外直接投資と対外援助：論争と機会

【第4部】 可能性と展望

16. 計画立案、市場、国家の役割
17. 金融システムと財政政策
18. 1990年代の重大な諸問題：新たな相互依存、地球規模での環境の脅威、アフリカの悪循環、東欧の経済的移行、貿易と金融のグローバリゼーション

<講義の予定>

これらテキストの18章すべてを講読したいところであるが、通年24週の講義ではおそらくそれは困難であると思われる。したがって、いくつかの章をピックアップして読むことになるが、第2・3部が中心となろう。

第1週は講義ガイダンスを行い、イントロダクションとして、テキストの紹介、授業内容、学習の仕方などを説明する。また、第2週以降の報告の順番も決める。

第2週以降はテキストの輪読、参考文献を利用した補足学習、討論を行っていく。

科目名	外国書研究 I (独語)	担当者名	御園生 眞
-----	--------------	------	-------

講義の目標	ドイツ語テキストを読みながら、ドイツ語で経済の基礎を学びます。	
講義概要		
使用教材	テキスト	・ Otto Seitzer; <i>Ein Blick in die Wirtschaft</i> , 三修社
	参考文献	
評価方法	出席および前期・後期試験の成績で評価します。	
受講者に対する要望など	原則として、ドイツ語を第一外国語として履修した諸君を対象とします。 履修希望者は、必ず第 1 回目の授業に出席してください。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（仏語）（済・営新、旧） 外国経済書研究Ⅰ（仏語）（済・営旧旧） 外国経済書研究Ⅱ（仏語）（済・営旧旧）	担当者名	千代浦 昌 道
-----	--	------	---------

講義の目標	フランスの経済関連書籍ならびに定期刊行物等の講読を通じて、フランス経済の現状を把握し、分析し、その成果を国内・国際経済の現状ならびに経済理論等の理解に役立てること。	
講義概要	前期は、テキストを使用して主にフランスの新聞、雑誌に掲載された経済・社会関連記事を講読する。 後期は、テキストを離れて、最近の Le Monde 紙の経済・社会関連記事を講読する。	
使用教材	テキスト	・小林 茂『新聞のフランス語』白水社、1984
	参考文献	・松本 正『実務に役立つ経済フランス語』第三書房、1971 ・松本 正『時事経済フランス語』第三書房、1973
評価方法	原則として、前期、後期のレポート（仏文和訳）によって評価する。毎回出欠をとり、成績評価の参考資料とする。	
受講者に対する要望など	新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(1)授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明 (2)最近のフランスの政治経済情勢についての基礎知識 (3)フランス経済の基礎データの説明
2	テキスト p. 160 "Le nombre des familles de trois enfants a augmenté en France"
3	テキスト p. 162 "Dix millions d'habitants en Ile-de-France"
4	テキスト p. 164 "Les aides au logement revalorisées"
5	テキスト p. 166 "Le prix de la santé en France"
6	テキスト p. 168 "Une cité sur des déchets toxiques"
7	テキスト p. 170 "La réforme des collèges"
8	テキスト p. 172 "La grève pour l'école"
9	テキスト p. 174 "Kronenbourg : des syndicats refusent les 35 heures"
10	テキスト p. 176 "Cinq hauts fonctionnaires impliqués dans une affaire de pots-de-vin"
11	テキスト p. 178 "90 lingots d'or et 3.000 napoléons disparaissent à Paris sans effraction ni violence"
12	テキスト p.180 "A Rueil, le courrier allait à la poubelle"
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(1)の講読
2	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(2)の講読
3	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(3)の講読
4	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(4)の講読
5	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(5)の講読
6	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(6)の講読
7	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(7)の講読
8	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(8)の講読
9	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(9)の講読
10	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(10)の講読
11	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(11)の講読
12	Le journal "Le Monde" 最新経済記事(12)の講読
備考	

科目名	外国書研究 I (外国人学生用)	担当者名	益山光央
-----	------------------	------	------

講義の目標	国際貿易に関する専門書を読み、正確に日本語で書かれた専門書を読む訓練をする。		
講義概要	毎回、受講生をランダムに指名し発表を求める。教科書の内容は大部分は抽象的な議論です。厳密に読を、理解していただきたい。講義は報告者だけでなく、全員の質疑応答ですすめる。		
使用教材	テキスト	・伊藤元重・大山道広 『国際貿易』岩波書店、1985	
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際貿易の基本的仕組(1)
2	国際貿易の基本的仕組(2)
3	国際貿易の基本的仕組(3)
4	リカード・モデルと比較優位の構造(1)
5	リカード・モデルと比較優位の構造(2)
6	リカード・モデルと比較優位の構造(3)
7	リカード・モデルと比較優位の構造(4)
8	ヘクシャーオリーの貿易理論(1)
9	ヘクシャーオリーの貿易理論(2)
10	ヘクシャーオリーの貿易理論(3)
11	ヘクシャーオリーの貿易理論(4)
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	規模の経済性・不完全競争と国際貿易(1)
2	規模の経済性・不完全競争と国際貿易(2)
3	規模の経済性・不完全競争と国際貿易(3)
4	資本移動の理論(1)
5	資本移動の理論(2)
6	資本移動の理論(3)
7	国際貿易と経済政策(1)
8	国際貿易と経済政策(2)
9	関税政策の理論(1)
10	関税政策の理論(2)
11	保護貿易と産業政策(1)
12	保護貿易と産業政策(2)
備考	

科目名	貿易英語	担当者名	山崎 静光
-----	------	------	-------

講義の目標	英語商業通信文の形式（レイアウト）と内容（構成）の最低限を身につけ、貿易に使われる特殊な用語をある程度憶えること。その過程で英語一般を使う能力も向上すること。		
講義概要	テキストに従って貿易取引の時間的順序を追って商業通信文の書きかたの説明をした後、課題を与えて手紙を書かせ提出させ、次回の講義の際その講評を行う。手紙だけではなく信用状、契約書裏面約款等の読解を課し、用語に親しませる。		
使用教材	テキスト	・物産研修センター編『ザ ビジネスレター』有斐閣刊	
	参考文献	・山崎静光著『輸出入手続ガイドブック』中央経済社刊	
評価方法	中間及び学年試験		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ビジネスレターの構成要素 テスト
2	— 〃 — テスト
3	ビジネスレターの本文
4	— 〃 — テスト
5	カバーリングレター
6	— 〃 — テスト
7	新商売の開拓
8	— 〃 — テスト
9	引合とその返事
10	— 〃 — テスト
11	オファーと見積り
12	— 〃 — テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	カウンターオファー
2	— 〃 — テスト
3	受諾と拒絶
4	受諾後の手続——契約書
5	— 〃 — テスト
6	受諾後の手続——信用状
7	— 〃 — テスト
8	— 〃 —
9	苦情とクレーム テスト
10	— 〃 —
11	クレームに対する返事 テスト
12	— 〃 —
備考	

科目名	総合講座(1) (済・営新、旧) 総合講座 (済・営旧旧)	担当者名	経済学部
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	<p>二十一世紀へ向かう世界と日本 ——「混迷と新生」の狭間の90年代を考える——</p> <p>私達の日本と日本人は、あと十年後に迫った二十一世紀に入ってから、いったいどうなっていくのだろうか。どのように生き、働き、そしてそれぞれの喜怒哀楽をいかにもって日々を暮らしていくだろうか。日本人として、人間として、恥ずかしくない生き方をしていることができるか。</p> <p>現代世界では、「南」の諸民族における貧困、窮迫、混乱、抑圧、悲惨の渦が巨大化し日常化していることを、誰もが否定できない。「北」の諸民族においても、高度文明と大量消費経済の享受の陰や裏側において、精神的かつ物質的な人間疎外現象が深刻に展開していることを軽視できないだろう。</p> <p>現在進行中の「東」側世界における「解体と新生」も、日本と世界に不可避的に連関していくだろうし、その国家社会のペレストロイカや民衆生活における信仰復活のありようも、人類史の今後に大きな意味を持つことになるに違いない。</p>	
講義概要	<p>大変に好評だった前年度の総合講座に引き続いて、本年度も、経済学部は、諸君の前に、日本経済の現状はどうか、いかに未来に向かって生き抜いて行くか、の知恵と処方箋を問題提起したい。講師陣には、前年同様第一線で活躍されている方々をお呼びしたいと考えている。</p> <p>官庁エコノミスト、文学者、ジャーナリスト、テレビCM評論家、一流経済学者や実業家、第一線の産業人、流通問題専門家、宗教家などを招いて、率直な所を講義していただきたいと計画している。とくに、三・四年生にとって、就職試験のために不可欠の学習となるに違いない。</p> <p>日本経済と、それを動かす日本人がいま世界中でぶつかっている諸困難を考えるにつけても、私達に求められている学習の質と量は、うんざりするほど膨大かつ高度なものとなるだろう。この総合講座は、それらの課題へアプローチするための、学生諸君に最適の参考意見として貴重なものとなるだろう。</p>	
使用教材	テキスト	各回とも講義担当の方々が配布したものをを使用する場合がある。
	参考文献	
評価方法	<p>前期・後期それぞれ、筆記試験を行なう。各講演担当の方々の配布した資料その他文献の持ち込みは自由である。前後期ともに、受講者が希望選択した講演者のテーマにつき、関連して論ずる形態の試験である。授業は本学部専任教員が担当して行なう。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	担当講師は基本的には毎回、異なるので、年間講義予定は、第1回講義の際に配布する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	特殊講義A	担当者名	本田稔祐
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>余暇活動として行なわれている水泳とスキーについて、事故防止のためにはどうすれば良いか、またどれくらいの技能があれば安全に楽しく泳いだり、滑ったりできるかを検討し、実技を通して個々の能力も高め将来リーダーとしても活躍できるようにする。</p>		
講義概要	<p>水泳の歴史と、レクリエーションとしての水泳について考え、泳ぎの基本と、身の安全、健康スポーツとしての水泳の実施方法について話しをするとともに、プールで3回の実技と、7月下旬に海で2泊3日の実習を行う。</p> <p>スキーの歴史と、レクリエーションとしてのスキーについて考え、滑りの基本と安全について、講義とともにビデオも見て考えていく、また技能を高めるため、12月下旬に3泊4日の実習を行う。</p> <p style="text-align: right;">(募集人数は20名)</p>		
使用教材	テキスト	特に使用しない。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本水泳連盟編『水泳指導教本』 ・大修館『水泳指導ハンドブック』他 ・全日本スキー連盟『日本スキー指導教本』 ・ " 『スキーと安全』他 	
評価方法	講義の理解度のテストと、実技の進歩、出席などで評価する。		
受講者に対する要望など	<p>実技も伴なうので、水泳については、プール代金約500円×3回。合宿費として約2万円(交通費別)、スキーは、合宿費として約3万円、(交通費、リフト代別)がかかります。用具は全て個人で用意すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義内容と計画について説明し、水泳の意義、特性、歴史などについて話しをすゝめる。
2	指導をする場合の指導法
3	各種泳法について
4	社会体育としての水泳
5	水泳の安全と保健
6	救助法、救急法、蘇生法
7	プールでの実技、1、水慣れ 2、基本泳法、 3回に分けて実施、時間は90分×3回
8	海での実習 第1日目 午後 海での水慣れと、基本動作
9	" 夜 救助法、蘇生法の講義と実技
10	第2日目 午前 各種泳法と救助法
11	" 午後 各種泳法とスキンドイビング
12	第3日目 午前 水中遊戯と距離泳
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義内容と計画について説明し、スキーの歴史、特性について話をすゝめる。
2	スキーのビデオによる知識の導入
3	準備と初心者指導
4	基本技術
5	安全とマナー
6	スキーと自然のかかわりについて
7	スキー場での実習 第1日目 午後 雪や用具に慣れ、スキー運動にも慣れる。
8	第2日目 午前 基本姿勢（かまえ）と操作
9	" 午後 同上
10	第3日目 午前 リズムとバランス感覚。
11	" 午後 同上 スピードのコントロール
12	第4日目 午前 応用技術。
備考	

科目名	特殊講義A	担当者名	和田 智
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>アウトドアスポーツ、アウトドアレクリエーションの計画と実施を授業の中心に置き、レジャーとは何か、また、レジャーの今日的意味と課題を探る。将来的には、学校教育・社会教育でさらに必要性の高まること予想される野外教育・野外活動について実践を通して学んでもらい、現場で役立つ能力を身につけてもらいたい。</p>	
講義概要	<p>年間に数回予定するアウトドア・シーズンスポーツ、レクリエーションを学内平常授業時に学生が自ら計画・立案し、週末、休日等を利用して学内、学外集中授業で実施する。今年度予定する主な種目は、「山菜（野草）狩りと料理」「レクリエーション・スポーツ」「水辺活動（スキューバダイビング、釣り、カヤックなど）」「山岳型活動（ハイキング、キャンプ、ワンダリングなど）」「雪上活動（スキー、キャンプなど）」である。使用する用具等の都合で授業の定員は20名までとする。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本野外教育研究会編『野外活動テキスト』杏林書院 ・日本野外教育研究会編『キャンプテキスト』杏林書院
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本野外教育研究会編『キャンププログラム1、2』杏林書院 ・中野孝次『清貧の思想』草思社 ・ミヒャエル・エンデ『モモ』岩波書店
評価方法	<p>授業への参加と取り組む姿勢、レポートをあわせて評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>アウトドアでの活動・教育に特に関心のある学生の受講を希望する。また、実技を中心に授業を行うため、現地への交通費、その他必要とされる実費、個人で準備すべき装備類に費用が必要となる。</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	野外活動論
3	「山菜(野草)狩り」の計画と立案
4	学内、または学外の集中にかえる
5	学内、または学外の集中にかえる
6	レクリエーションスポーツについて その1
7	学内の集中にかえる
8	「水辺活動」の計画と立案 その1
9	「水辺活動」の計画と立案 その2
10	「水辺活動」の計画と立案 その3
11	学内、または学外の集中にかえる
12	学内、または学外の集中にかえる
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	「山岳型活動」の計画と立案 その1
2	「山岳型活動」の計画と立案 その2
3	「山岳型活動」の計画と立案 その3
4	学内、または学外の集中にかえる
5	学内、または学外の集中にかえる
6	レクリエーションスポーツについて その2
7	学内の集中にかえる
8	「雪上活動」の計画と立案 その1
9	「雪上活動」の計画と立案 その2
10	「雪上活動」の計画と立案 その3
11	学内、または学外の集中にかえる
12	学内、または学外の集中にかえる
備考	

科目名	経営学総論	担当者名	富田忠義
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現代社会では、企業はわれわれの日常生活のさまざまな局面で大きな影響を及ぼしている ので、企業とその経営に対して無関心ではいられない。われわれにとって「企業」とはい ったい何か、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。 経営学科に入学してきた学生の多くが一度はこのような疑問を抱いたことがあるであろう。 本講義は、この種の疑問に、現代経営学の分野での最新の研究成果を平易に概説すること によって、正面から答えようとするものである。</p>	
講義概要	<p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の分野での最新の研究成果の紹介を通 して行う。まず経営学がいかなる学問であるかを全体的に把握するために、この学の研究対 象と研究方法について考察する。次に、企業に注目して企業の形態と企業間の関係を解明す る。この企業の運営の側面が経営および管理であるが、この分野の今日までの研究の過程を 経営管理学説史の概説を通して全体像を把握し、以下、個別のテーマに入る。</p> <p>個別のテーマとしては、経営者、企業の目的と理念、企業と環境、経営戦略、人と組織、 企業文化、計画とコントロールなどのマネジメント技法、経営と情報などについて取り上げ て、年間を通しての講義が現代企業とその経営を映し出す「現代経営学入門」としたい。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社 ・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館 ・工藤達男他編著『現代経営学』白桃書房 ・車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版 ・森本三男著『(増補版) 経営学入門』同文館 ・山城章著『増訂 経営学要論』白桃書房
評価方法	<p>後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというのではないの で、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義計画の概説
2	(経営学方法論) 経営学の対象と方法
3	(企業論) 企業形態と企業結合の種類 I 企業形態
4	II 企業体制
5	III 企業間関係
6	(現代経営者論) 現代的経営体と経営者 I 現代的経営者の理念と機能
7	II 企業家精神とイノベーション
8	(経営理念論) 現代企業の目的と理念 I 現代企業の目的と目標
9	II 経営理念と経営社会責任
10	(経営文化論) I 経営文化、企業文化
11	II 経営の国際比較と日本的経営論
12	前期講義のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(経営戦略論) 現代企業の経営戦略 I 激動する環境とマーケティング
2	II 経営戦略と競争優位
3	(経営管理学説史) 現代経営学の生成と発展 I
4	II
5	(マネジメント技法論) I マネジメント・プロセス
6	II 経営計画と経営コントロール
7	(経営組織論) 経営組織の設計と活性化 I 経営組織の編成原理
8	II 組織の能率と組織の活性化 モチベーション(動機づけ)と行動科学
9	(人間資源管理論) 人材の育成と活用 I
10	II
11	(経営情報システム論) 経営情報システムの高度化、情報技術の戦略的利用
12	年間講義のまとめ
備考	

科目名	経営学総論	担当者名	増田茂樹
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営学の基本的・基礎的知識が身につくよう努力するが、それよりも、それらの知識を通じて「考える」ことに重点を置き、経営学の考え方・原理・理論を身につけるよう心がけ、3年次以降における経営学の各専門科目を研究してゆくための基礎づくりを、この科目のねらいとする。</p>	
講義概要	<p>①経営学の生いたちをたどり、経営学の性格・経営学独自の研究方法は何かを考察し、他の学問、とくに経済学との違いについて論ずる。②経営学の研究対象である企業の主体（経営者は誰かの問題）と目的（「営利性」にとどまるのかどうかの問題）を交遷・発展的にとらえる。その上で新しい企業、21世紀における企業の経営理念・経営哲学を展望し、新しい経営者の役割り・資質について論ずる。③企業におけるマネジメントを階層的（経営と管理）に、およびプロセス的（計画・組織・統制）に分析して、その概略を理解する。④企業の各部門の管理すなわち購買管理・生産管理・販売管理・労務管理・財務管理について、それぞれの意味と内容を概観する。</p>	
使用教材	テキスト	・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版
	参考文献	<p>・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社</p> <p>・その他の参考文献は講義のつど紹介する。</p>
評価方法	<p>成績評価は前期後期の定期試験の結果による。出題形式などは前期後期それぞれの最終講義で説明する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義への出席を奨励する。そのために何らかの方法で、毎回、出席をとる予定である。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに——経営学の学び方—— ①この講義のねらいと、②体系について説明し、③経営学を学ぶ姿勢・方法について話す。
2	①経営学の研究対象と研究方法 ドイツ経営学とアメリカ経営学を、研究対象と研究方法の面から概観し、真の経営学の研究対象と研究方法を提言する。
3	②企業の定義と企業形態 ①企業の定義 経済学における定義と経営学における定義を紹介し、定義の面から企業概念の明確化をはかる。
4	②企業形態 (1)企業の法律形態・経済形態・経営形態 企業を諸形態に分類することにより企業の種類を知り、種類の面から企業概念の明確化をはかる。
5	(2)株式会社の本質 株式会社形態を他の諸形態とくに合名会社形態と比較することにより、その相違点を明確化して、人類の一大発明とも言うべき株式会社の本質を明らかにする。
6	③企業体制発展の理論と経営自主体生成の必然性 ①「資本と経営の分離」論 (1)資本と経営の分離の意味
7	(2)資本と経営の分離の必然性 どうして両者は分離するのか。分離することの必然性について述べる。上記(1)(2)を通じて、現代企業の主体(経営者)は誰であるのか、目的は何であるのかを論ずる。
8	②経営自主体の原理的特質 (1)経営自主体の主体。経営自主体でないもの、すなわち人的企業・資本的企業と比較しながら検討する。下記の(2)についても同様の方法でおこなう。
9	(2)経営自主体の目的 資本と経営の分離の結果生成してくるのは経営自主体である。上記(1)(2)を通じて経営自主体の原理的特質・本質を明確化する。
10	④新しい企業の経営理念・経営哲学と経営者の役割り・資質 ①社会的責任から社会貢献(フィランソロビー)へ 両者の本質的な違いを究明し、それらが主張される根拠について検討する。
11	②新しい時代における経営者の役割りと資質。 上記①②を通じて新しい企業、とくに21世紀における企業の経営理念・経営哲学を展望し、新しい経営者の役割り・資質について論ずる。
12	(前期講義のまとめと定期試験について)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(後期の講義をはじめるときに) ①前期試験結果の講評と前期講義の復習 ②後期講義の構想
2	⑤マネジメントの生成と発展 能率増進運動、テイラー・システム、フォード・システム、人間関係論、現代マネジメント論をたどり、マネジメントの生成と発展を理解する。
3	⑥マネジメントの階層的機能とプロセス的機能 ①マネジメントと作業 企業の機能はマネジメントと作業に分けられる。両者を比較することにより、マネジメントの本質を明らかにする。
4	②マネジメントの階層的機能 (1)マネジメントは経営と管理の2階層的機能に分けられる。おのおのの機能の内容を明らかにし、両者を比較することにより本質的相違点を明らかにする。
5	③マネジメントの階層的機能 (2)経営環境、経営戦略、ゼネラル・マネジメント機能について詳しく検討し、トップ・マネジメント機能の重要性を理解する。
6	④マネジメントのプロセス的機能 (1)マネジメントは計画・組織・統制の3プロセス的機能に分けられることを理解する。
7	⑤マネジメントのプロセス的機能 (2)上記の3プロセス的機能の内容を明らかにし、3者の密接な関連を(プロセス的関連のみならず、それらの階層的関連をも)理解する。
8	⑦マネジメントの機関 ①マネジメントの諸機関 株式会社を前提にして、マネジメントの諸機関を挙げ、それらの諸機関の関連を概観する。
9	②トップ・マネジメントの諸機関と企業監査 監査役による監査や会計監査人による監査の現状と在り方にふれ、コーポレート・ガバナンス問題に言及する。
10	⑧部門管理 ①労務管理と財務管理 それぞれの意味と現代的課題を提示する。
11	②生産管理と販売管理(マーケティング・マネジメント) それぞれの意味と現代的課題を提示する。
12	(後期講義のまとめと定期試験について)
備考	

科目名	マーケティング論	担当者名	大久保 貞 義
-----	----------	------	---------

講義の目標	<p>マーケティング活動は自由主義経済の下における企業活動の基本を示すものである。マーケティングの基本原理は“人間のニーズと欲求を充足させる事をめざす人間活動”である。人間の各種の欲求は交換過程を通じて充足される。しかし、この人間の欲求は複雑多岐にわたるものであり、また、社会の環境によっても欲求そのものが変化する。したがって欲求充足をめざす人間活動は、基本的には心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・数学のアプローチで分析されるばかりでなく、これらを総合化した隣接科学（インターディシプリナリー・サイエンス Interdisciplinary Science）的な分析の理解が必要になる。</p> <p>マーケティングは極めて現実的・実際のな学問である。</p>	
講義概要	<p>社会は刻々と変化している。交換機能を果たす市場は変化し、人間の欲求も刻々と変動する。これに対応して企業活動もダイナミックに変革をとげている。</p> <p>これらの変化を読み取り、企業活動の基本的戦略の方向を決定する上でマーケティング・サイエンスは役立つであろう。</p> <p>またマーケティングという学問領域も時代と共に発展しており、その学問水準も、またその思想体系も多様性を示すようになって来た。</p> <p>1940年以降は社会科学との関連性が重視され、1960年までこの傾向が強かったが、しだいに行動科学的概念が導入され始めた1970年代以降は“社会変化のためのきわめて効果的管理方法”としてビジネス分野以外にも新しい研究方法としてマーケティング概念が取り入れられた。</p> <p>こうした考え方は、人間を動かす政策科学への応用、さらに現実社会の企業活動のみならず、国家政策への分野にも取り入れられ始めた。</p> <p>マーケティングサイエンスの応用分野は、当初のマーケティング学者の予測を越えて、多様な分野で極めて現実的な科学として実務社会で応用されている。</p>	
使用教材	テキスト	授業で指示します
	参考文献	
評価方法	①レポートと②定期テストで評価します。	
受講者に対する要望など	①毎日、必ず新聞の経済面を読み、経済動向を追う事を特に希望したい。一つの経済問題を追うと面白味は倍になります。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1.....マーケティングとは何か(第1週) ●人間のニーズとは。人間の欲求とは ●欲求充足の市場の形成と交換の機能 ●人間は何故買うか(欲求=充足=お金) ●市場の形成過程
2	2.....マーケティング管理の変遷(第2・3週) ●企業は生産中心主義からマーケティング志向へ ●企業の利益中心から消費者の満足へ ●利益中心主義から社会貢献主義へ ●マーケティングの活用分野の拡大(ビジネス活動の分野から公共活動の分野へ) ●非営利組織(大学病院・軍隊・警察・政府の各部門)も大きな関心を持ち始めた。
3	
4	3.....社会の発展と人間欲求の変化(第4・5週) ●農業社会・工業社会・脱工業化社会 ●人間欲求の変化と価値観の変動 ●過去—現在—未来(未来予測の方法論) ●消費者動向の変化と企業の戦略形式
5	
6	4.....消費者ニーズの調査法(第6・7週) ●消費者の欲求をさぐりあてる ●デモグラフィック・アプローチ ●ライフスタイル・アプローチ
7	
8	5.....市場調査の技法(第9週) ●データの収集法 ●サンプリングとその実際的方法 ●グループインタビュー法と潜在意識調査 ●質問紙の作成法と技法 ●市場調査の分析と企業戦略
9	
10	6.....消費者行動の分析(第10週) ●文化的・社会的・及心理的な特性 ●社会階層と消費行動 ●欲求の階層化と心理的ヒエラルキー ●新製品の採用プロセス(認知から採用までの五段階)
11	7.....マーケティング・セグメンテーション(第11週) ●デモグラフィック要因とジオグラフィック要因 ●人口動態の変化 ●有望市場の発展とニューマーケット(シルバーマーケット、働く主婦層)
12	8.....製品企画とライフサイクル(第12週) ●アイディアとコンセプト開発 ●開発から衰退までのライフサイクル
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	9.....マーケティングコミュニケーション(第13週) ●企業の広告戦略 ●広告の技術と戦略 ●広告とセールスプロモーション
2	10.....マーケティング戦略と計画の作成(第14・15週) ●セールス・フォース ●セールス・プロモーション ●セールスマンの訓練と育成 ●製品の販売管理
3	
4	11.....サービス・マーケティング(第16週) ●組織のマーケティング ●人材のマーケティング ●計画作成=組織=コントロール機能
5	12.....非営利企業のマーケティング(第17・18週) ●大学のマーケティング ●軍隊・地方公共団体・市町村のマーケティング ●ハブリシティの役割
6	
7	13.....マーケティングと企業家(第19・20週) ●企業のリーダーシップとマーケティング ●リーダーのタイプと時代の変化 ●企業のマネジメントとマーケティングの応用
8	
9	14.....マーケティングと国家体制(第21・22週) ●資本主義社会と人間の欲望 ●社会構造と国家政策 ●人間の欲求と国家の政策
10	
11	15.....マーケティングの新しい応用(第23・24週) ●人を動かすマーケティング ●民主主義の理念とマーケティング ●人間とは何か(マーケティングの視点から) ●人生の将来展望(あなたの幸福とは何か?) ●まとめ
12	
備考	

科目名	企業論	担当者名	西川純子
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>企業とは何か、何を目的にどのような活動を行うのかを明らかにするのが、本講義の目標である。問題のアプローチはさまざまな角度からなされ得るが、本年度は歴史的な分析に力点を置きつつ、企業の生成・発展の過程を把握した上で、現代の企業の問題点を浮き彫りにしてみたい。</p>		
講義概要	<p>前期は欧米の企業を中心に考察し、後期は日本に焦点を当てて日本的企業の特異性を検討する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間宮陽介『法人企業と現代資本主義』岩波書店、1993 ・ 奥村宏『会社本位主義は崩れるか』岩波新書、1992 ・ 西川純子、松井和夫『アメリカ金融史』有斐閣、1989 ・ Th. Veblen, <i>The Theory of Business Enterprise</i> (1904) (小原訳『企業の理論』勁草書房) ・ A.A. Berle & G. C. Means, <i>The Modern Corporation and Private Property</i> (1932). (北島訳『近代株式会社と私有財産』文雅堂) ・ J. K. Galbraith, <i>The New Industrial State</i> (1967) (都留訳『新しい産業国家』河出書房) ・ J. M. Keynes, <i>The End of Laissez-Faire</i> (1929) (宮崎訳「自由放任主義の終焉」『ケインズ全集9』東洋経済新聞社) 	
評価方法	<p>前期、後期それぞれに筆記試験を行なう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業中の私語は堅く慎むこと。活発な質問（試験に関するものを除く）を歓迎する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	企業家、資本家、経営者／序論：三題噺
2	営業の自由／企業家精神の発露は営業の自由なしには不可能である。営業の自由はどのようにして、また誰によって獲得されたか。
3	自由と競争／自由と競争は無政府的な混乱を招来する。しかし、いずれは「見えざる神の手」によって調和が回復する。 アダム・スミスの世界
4	工業、商業、農業／産業革命は企業者活動を工業に結びつけた。
5	資本家と労働者／資本家的生産様式の展開とともに企業家は資本家に転化する。 資本家と労働者の対立の構図。 カール・マルクスの世界
6	株式会社／資本家的生産において自由競争に打ち勝つために企業は組織の改編をせまられる。 証券市場の発展、株式所有者という資本家の登場。
7	競争と独占／株式会社は巨大になることによって競争力を獲得しようとする。 独占禁止法の意味
8	ビッグビジネス形成の論理／企業戦略が組織の改革を必要とする。アルフレッド・チャンドラーの世界
9	所有と支配の分離／株式所有の分散化現象をどう考えるか。パーリー＝ミーンスの問題提起
10	経営者／「見える手」か「見えざる手」か。
11	企業と国家／企業にとっての国家の役割。
12	多国籍企業と国家／多国籍化する企業にとっての国家の意味。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本的企業と日本資本主義／日本的企業の特長性を考えることは日本資本主義の特長性を考えることである。
2	日本における企業者精神の生成／企業者精神の担い手はどのようにして輩出したか。
3	財閥の生成と発展／三井、三菱、住友を中心に。
4	新興財閥の勃興／鈴木商店、日本産業株式会社の場合。
5	財閥の解体／第二次世界大戦、敗戦、占領軍政策
6	企業集団／日本的企業集団成立の論理。
7	法人資本主義／会社本位主義の是非をめぐって。
8	下請け企業／内部生産と外部生産、トヨタ方式。
9	官民協調／規制と保護の歴史。
10	農業経営
11	企業と消費者
12	企業と環境
備考	

科目名	貿易論	担当者名	米山昌幸
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>日本は多くの資源や農産物を海外から輸入し、多くの製品を輸出している。私達の生活が外国との関係を抜きにしては成り立たないことは、改めて言うまでもないことである。このように深く国際経済に組み込まれた日本経済に生きる私達にとって、国際経済のメカニズムを理解することはますます重要となっている。</p> <p>この講義では、国際貿易のメカニズムや貿易政策などを理論的に理解し、分析する力を養成する。この国際貿易の基礎理論の修得を通して、現実の国際経済を考える上での理論的根拠を得ることが目標である。</p>		
講義概要	<p>貿易論は、財・サービスの国際取引や資本、労働、経営資源の国際移動を分析対象とする。前期は、伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。ここでは、なぜ貿易が行われるのか、貿易が行われる場合何が輸出され何が輸入されるのか、貿易パターンを決定する要因は何か、どのような貿易利益が得られるのかなどを明らかにする。</p> <p>後期は、貿易政策の理論を中心に、地域経済統合理論、直接投資の理論などを講義する。前期の伝統的な国際貿易理論では、自由貿易の利益が明らかにされるが、現実には多くの国で保護主義的な貿易政策が採用されている。ここでは、なぜ保護貿易政策が行われるのか、貿易政策の効果はどのようなものかなどを明らかにする。</p>		
使用教材	テキスト	未定。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・奥野正寛『ミクロ経済学入門（第2版）』日経文庫、1990年。 ・伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社、1992年。 ・河合正弘・伊藤元重『三日間の経済学／国際経済学・入門』JICC 出版局、1991年。 ・伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社、1989年。 ・小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部顕三『ベーシック国際経済学』有斐閣ブックス、1989年。 ・伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店（モダン・エコノミックス14）、1985年。 <p>なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p>	
評価方法	<p>学生諸君が自分自身の理解度を確認するとともに、日常的な学習姿勢を習慣付けるため、レポートおよび小テストをできるだけ多く行う。成績評価は、前期・後期の定期試験に、レポートおよび小テストの得点を加えて行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>基礎的なミクロ経済学は貿易論の修得に必要不可欠である。また、国際経済学を体系的に修得したいならば、履修科目も「国際経済論」「国際金融論」「経済開発論」「国際経営論」など関連科目に特化し、集中して履修することが必要であろう。</p>		

前 期

第1週；

イントロダクション（ガイダンス）
貿易論とは？、学習の仕方、履修の仕方など

第2～6週；

1. リカードの比較生産費説
- (1)モデルの設定（2国2財1要素モデル）
 - (2)閉鎖経済の均衡相対価格、絶対優位と比較優位
 - (3)生産フロンティア（生産可能性曲線）
 - (4)貿易開始後の両国の生産・貿易パターン
 - (5)効用と無差別曲線、無差別曲線の性質、予算制約と消費者行動、社会的無差別曲線とは？
 - (6)貿易利益の発生、大国と小国では？

第7～9週；

2. ヘクシャー・オリー理論—固定投入係数のケース—
- (1)モデルの設定（2国2財2要素モデル、生産技術は両国で同一）、資本集約財と労働集約財、資本豊富国と労働豊富国
 - (2)両国の生産フロンティアの導出
 - (3)要素賦存量と生産構造、リプチンスキー定理
 - (4)要素賦存量と貿易構造、相似拡大的な選好の仮定、閉鎖経済における均衡相対価格の決定、ヘクシャー・オリー定理（生産要素賦存説、要素賦存比率定理）
 - (5)財の相対価格と要素価格、ストルパー・サミュエルソン定理

第10～12週；

3. ヘクシャー・オリー理論—伸縮的投入係数のケース—
- (1)一次同次の生産関数、単位等量曲線、限界代替率逓減、等量曲線の基本的性質、限界生産力逓減の法則、生産技術の選択、等費用曲線と企業行動
 - (2)両部門の単位等量曲線、資本集約的な産業と労働集約的な産業
 - (3)ボックス・ダイアグラム分析、生産要素の契約曲線（効率軌跡）
 - (4)一般的な生産フロンティアの導出
 - (5)生産フロンティアの形状とヘクシャー・オリー理論

後 期

第1週；

前期試験の解説

第2～6週；

4. 貿易政策の理論
- (1)貿易政策の目的、貿易政策の手段
 - (2)部分均衡分析による貿易利益、消費者余剰と生産者余剰、交易条件と経済厚生
 - (3)関税政策の効果、部分均衡分析（小国のケースと大国のケース）
 - (4)関税と生産補助金の比較
 - (5)関税と輸入数量制限の比較、輸出自主規制と輸入数量制限

第7週；

5. 幼稚産業保護論
ミル・バスタープルの基準、ケンプの基準、根岸の基準、産業保護政策の問題点

第8～9週；

6. 経済統合
- (1)経済統合の諸形態、バラッサの分類
 - (2)経済統合（関税同盟）の理論、静態的效果（貿易創出と貿易転換）、動態的效果

第10～11週；

7. 国際要素移動の理論
- (1)国際要素移動とは？、長期資本移動の分類
 - (2)国際資本移動の効果、マクドゥーガルの分析、国際労働移動の効果
 - (3)直接投資と多国籍企業、直接投資とは？、直接投資の諸形態
 - (4)直接投資の理論、直接投資の効果

第12週；

まとめ

科目名	簿記（済旧、旧旧） 簿記原理（営）	担当者名	中村泰将
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>コンピュータの発達により、計算技術的に迅速かつ正確な計算が可能になったが、経済活動を記録・計算する原理は簿記システムを学ばなければ理解できない。企業の利益の計算、課税所得の計算を始め、すべての経済活動の結果は、簿記によって計算される。この計算構造の原理を学ぶことが本講座の目的である。</p>	
講義概要	<p>前期：企業の目的と企業のシステムを学び、そこで行われる経済活動を理解し、簿記がなぜ、そこに登場しなければならないかを考える。経済の活動の結果は、富のフローとストックで表すことが出来るから、その報告書が作成できるようにしたい。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A["(1) 経済活動"] --> B["(2) 簿記上の取引"] B --> C["(3) 分類・記録・計算"] C --> D["(4) 試算表"] D --> E["(5) 損益計算書"] D --> F["(6) 貸借対照表"] </pre> </div> <p>上の一連の行為を簿記の処理として学ぶ。（ワンサイクルの学習と呼ぶ。）</p> <p>後期：前期で学んだ一連の処理を前提として、前期よりも複雑な取引を対象としてその簿記処理を学ぶ。従って、(2)と(3)の基本的原理は同じだが、(4)から(5)と(6)を作成する過程が複雑になる。どのように複雑になるかは、授業で説明する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・会田・中村・百瀬共著『現代簿記精説』中央経済社 問題のプリントも併せて使用する。</p>
	参考文献	<p>簿記検定を受験する希望者は、つぎの問題集をすすめる。</p> <p>・『検定簿記ワークブック』3級、2級の商業簿記、中央経済社</p>
評価方法	<p>前期テスト、後期テストによって成績評価を判定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出欠は自由であるが、授業に出席することが簿記を習得するための要である。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	簿記とは何かを理解する
2	(1) 複式簿記の基本等式 (2) 複式簿記の基礎概念 (3) 複式簿記の5つの基本要素
3	(1) 簿記上の取引の意味と種類 (2) 取引の8要素 (3) 資産・負債・資本の増減変化表の作成
4	(1) 「勘定」とは何か (2) 勘定でどのように計算するか
5	(1) 「仕訳」とは何か (2) 仕訳の仕方 (3) 「仕訳」から「勘定」へ転記する
6	第5回までの一連のプロセス 取引 → 仕訳帳 → 元帳 → ?
7	試算表の作成 (1) 試算表とは何か (2) どういう目的で試算表を作成するか
8	精算表の作成 (1) 精算表とは何か (2) 精算表から損益計算書と貸借対照表を作成する
9	決算の仕方を理解する (1) 決算とは何か
10	(2) 決算の手続—予備手続と本手続 (3) 元帳の締切
11	決算の仕方を理解する (1) 費用・収益勘定を締め切る (2) 利益を資本金勘定に振り替える
12	(3) 資産、負債、資本の勘定を締め切る
備考	前期を以て簿記のワンサイクルが終了し、後期より個別の項目についてより詳しい簿記の処理（仕訳）と補助簿の作成を勉強する。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金と預金の処理
2	商品の購入・管理・販売の処理 (1) 商品の売買利益の算定の仕方 (2) 商品の3分割
3	(3) 商品有高帳の作成
4	(4) 仕入帳と売上帳の作成
5	有価証券の購入・保有・売却の処理
6	固定資産の購入・利用・修繕・処分の処理
7	債権・債務の処理(1)
8	その他の債権・債務(2)
9	資本金の処理
10	決算の修正手続(1) (1) 収益と費用の繰延 (2) 前払費用の前受収益
11	決算の修正手続(2) (1) 収益と費用の見越 (2) 未収収益と未払費用
12	決算の修正手続(3) (1) 8桁精算表の作成 (2) 損益計算書と貸借対照表の作成
備考	

科目名	簿記 (済旧、旧旧) 簿記原理 (営)	担当者名	福島 寿
-----	------------------------	------	------

講義の目標	簿記の初級すなわち、基礎から中級までを段階的に講義することによって、簿記の全仕組を平易に解説することを目的とする。		
講義概要	シラバスに記したように、まず、テキストⅠで説明的講義を行い、次にそれを応用するために、テキストⅡで演習を行うという方式で講義をすすめる予定である。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅰ 會田義雄著『簿記講義 (改訂版)』国元書房 ・Ⅱ 井上達雄・新井清光編『検定簿記ワークブック・3級商業簿記』中央経済社 	
	参考文献		
評価方法	評価はテスト及び授業への参加度 (レポートを含む) により決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明。テキストⅠの第1講及び第2講。テキストⅡの第1回
2	テキストⅡの第2回から第5回まで。
3	現金・預金・有価証券の諸勘定。テキストⅠの第3講。
4	テキストⅡの第11回及び第12回
5	仕訳帳と元帳。テキストⅠの第4講。
6	テキストⅡの第7回。
7	商品勘定とその分割。テキストⅠの第5講及び第6講。
8	テキストⅡの第13回及び第14回。
9	債権・債務の勘定、手形の勘定。テキストⅠの第7講
10	テキストⅡの第15回、第16回、第25回、及び第26回。
11	試算表と精算表。テキストⅠの第8講。
12	テキストⅡの第8回、第9回及び第10回。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	決算。テキストⅠの第9講。
2	テキストⅡの第20回及び第21回。
3	基本財務諸表の作成。テキストⅠの第10講。
4	テキストⅡの第19回、第29回及び第30回。
5	テキストⅠの第11講。伝票仕訳制。テキストⅡの第6回。
6	特殊商品取引（その一）。テキストⅠの第13講。
7	特殊商品取引（その二）。テキストⅡの第14講。
8	有形無形固定資産の諸勘定。テキストⅠ第16講。テキストⅡ第17回。
9	投資その他の資産・繰延資産の諸勘定。テキストⅠ第17講。
10	資本金の諸勘定。テキストⅠ第18講。テキストⅡ第18回。
11	本支店会計。テキストⅠ第19講。
12	年度末テスト。
備考	

科目名	簿記(済旧、旧旧) 簿記原理(営)	担当者名	細田 哲
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>前期講義は、学生諸君が簡単な精算表の作成、決算本手続きを遂行できるようにすることを目的とする。 講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 複式簿記とは ○ 取引と勘定 ○ 仕訳帳と総勘定元帳 ○ 試算表と精算表 ○ 決算(1) <p>後期講義は、学生諸君が、次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。 個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、貸借対照表、損益計算書の作成である。 講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現金・預金の記帳 ○ 掛取引の記帳 ○ 商品売買の記帳 ○ 手形取引の記帳 ○ 資金調達・返済取引の記帳 ○ 損益整理 ○ 決算(2) ○ 貸借対照表、損益計算書の作成 	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	年2回以上の試験の結果による。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	簿記(済旧、旧旧) 簿記原理(営)	担当者名	百瀬房徳
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>本講では、特に複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。複式構造は仕訳に基づき勘定システムを通じて事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織との関係で、各勘定の意義および機能と具体的な処理について理解を深めることにする。</p>	
講義概要	<p>複式簿記とは、貸方および借方の複式構造をもち、取引を仕訳帳、元帳および補助簿へ記入する簿記をいう。まず、複式簿記の基本的な勘定システムを前期に修得し、つぎに、基本的な勘定について仕訳帳の記入、元帳における勘定への転記および補助簿への記入について取引を記録する過程を具体的に修得する。</p>	
使用教材	テキスト	・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』中央経済社
	参考文献	無し
評価方法	<p>前期および後期において講義した範囲について試験する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義のあった日に必ず復習すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間における講義内容の説明。
2	複式簿記の体系の説明およびこの簿記における取引とは何か。
3	仕訳の基本原理および取引勘定への転記。
4	補助簿への記入、および試算表の作成原理。
5	精算表の作成原理損益勘定および残高勘定への転記。
6	取り引きパターン別仕訳例の説明。
7	パターン別に仕訳された例の勘定への転記。
8	例題による取引の仕訳、勘定への転記、および試算表の作成。
9	例題による精算表の作成、および帳簿締切による損益勘定および残高勘定への完成。
10	練習問題——取引の仕訳記入および仕訳帳から元帳への転記。
11	練習問題——試算表の作成および精算表の作成。
12	練習問題——元帳締切による損益勘定および残高勘定の完成。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現金勘定と現金出納帳。
2	当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳。
3	商品勘定の記入方法…単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割。
4	仕訳勘定と売上勘定…返品と値引きおよび商品の仕入価額。
5	仕入勘定と仕訳勘定および売上勘定と売上帳。
6	繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗費および商品評価損。
7	売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳。
8	受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳。
9	その他の債券・債務の諸勘定、および有価証券勘定。
10	固定資産の諸勘定…特に減価償却に関する処理。
11	決算前の諸勘定の整理について。
12	決算…勘定の締切、損益勘定および残高勘定の完成、および8桁精算表の作成。
備考	

科目名	簿記(済旧、旧旧) 簿記原理(営)	担当者名	湯田雅夫
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や経営成績を外部の利害関係者に正しく報告するうえで、欠くことのできない計算技術である。</p> <p>本講は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。</p>		
講義概要	<p>複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を平行して行なう。簿記は、技術がかなりのウェートを占めている学問であるので、単に書物を読んで学習するだけでは修得できない。各自、授業の進捗度に応じて教科書の「練習問題A」および「練習問題B」に取り組み、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷武夫『日商簿記検定3級 初級簿記演習』税務研究会出版局 ・渋谷武夫『日商簿記検定2級 中級簿記演習』税務研究会出版局 ・小川・渋谷『現代工業簿記』税務経理協会、1984 	
評価方法	<p>当該講義科目は、前期・後期の2回実施する試験によって行う。なお、出席状況を素点に加算するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私語を一切しないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション；講義概要ならびに授業の進め方
2	簿記の歴史
3	第1章 簿記の意義と目的；第2章 資産・資本と貸借対照表
4	第2章 東京商会の事例解説；第3章 収益・費用と損益計算書
5	第4章 取引；第5章 勘定
6	第6章 仕訳と転記
7	第7章 帳簿
8	第8章 簿記一巡の手続き
9	第9章 現金預金
10	第10章 商品売買
11	第10章 商品売買
12	第11章 有価証券；第12章 売掛金と買掛金
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第13章 その他の債権・債務
2	第14章 手形
3	第15章 貸倒れと貸倒引当金
4	第16章 固定資産；第17章 資本金と引出金
5	第18章 収益・費用の繰延と見越
6	第19章 決算予備手続
7	第19章 問題
8	第20章 決算本手続
9	第20章 決算本手続
10	第20章 問題
11	総合問題
12	本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘する。
備考	

科目名	会計学原理	担当者名	中村泰将
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>会計が社会に対してどのような影響を及ぼし、何を企業社会に対して変化させることができるかを講義を通じて解明する。</p>		
講義概要	<p>本テキストの構成は、第一部、第二部、第三部および第四部からなり、従来の伝統的会計の枠組みを説明・論議することだけでなく現代企業の戦略行動に至るまで、現実の企業決算のデータをまじえて論議していることが特色である。従って、講義においては、現代の企業行動を直視して、カレントな問題意識をもって講義したいと思っている。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・伊藤邦雄ゼミナール『現代会計入門』日本経済新聞社</p>	
	参考文献	<p>本テキストと同じ、経済・経営に関する「ゼミナール・シリーズ」を併せて読むと効果的である。</p>	
評価方法	<p>前期：客観テスト 後期：論理的説明を求めるテスト 前期・後期のテストを総合して判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>本講座は1年で簿記原理を修得したあと、2年で会計学の一般的知識を身につけ、3・4年生でより専門的な会計領域へ進むための講義であるので、特に、会計学に興味を持つ学生の受講を希望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第Ⅰ部 企業会計のパラダイム
2	序 章 現代の企業会計 1. 日本企業の成長を支えた会計制度
3	第2章 企業会計の本質とフレームワーク 1. 企業会計のプロセスと目的 2. 企業会計の3つの機能
4	第3章 会計制度の論理と体系 1. 会計制度の法体系
5	第4章 企業のディスクロージャー 1. 拡大するディスクロージャー
6	第Ⅱ部 資源フローの会計
7	第5章 損益計算書のパラダイム
8	1. 損益計算書の役割と基本フォーム 2. 収益・費用の認識と測定
9	第6章 経営パフォーマンスの測定と表示
10	1. 何でパフォーマンスを評価するか
11	2. 売上高
12	3. 営業外収益と営業外費用
備考	4. 特別利益と特別損失

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第Ⅲ部 資源ストックの会計
2	第7章 貸借対照表のパラダイム
3	1. 貸借対照表の基本フォーム 2. 資産の分類・評価
4	第8章 資産の会計
5	1. 有価証券の会計 2. 繰延資産の会計
6	第9章 持分の会計
7	1. 社債の会計 2. 引当金の会計
8	第Ⅳ部 現代企業の戦略行動の会計
9	第10章 企業連結の会計 1. 連結会計イントロダクション
10	第11章 グローバリゼーションの会計 1. 日本企業のグローバリゼーションと為替換算
11	第12章 リストラクチャリングの会計 1. M&Aの会計 2. 合併の会計
12	第13章 オフバランス取引の会計 1. 新金融商品とオフバランス取引
備考	終 章 戦略的企業評価に向けて 1. 財務分析ピラミッド

科目名	会計学原理	担当者名	宮澤 清
-----	-------	------	------

講義の目標	
講義概要	<p>会計書類のなかで最も重要な貸借対照表と損益計算書それ自体の意味と内容についての考察とそこに示される資産、負債、資本、剰余金、収益および費用などの言葉と用法についての考察は、会計理論を構築する際の基礎となるものである。したがって、会計の概念を厳密に分析し、それを総合するということが何よりも重要である。こうした認識のもとにおいて始めて会計に用いられる言葉の正確な意味と内容が浮き彫りにされ、実在の構造が忠実に反映され、より現実的なものとなる。そのうえ、会計学においてはすべての経済事象を数量化して資本計算を合理的、没価値的に行なうことができる複式簿記を用いることによって会計実務の内容が最も鮮やかに、かつ具体的に示されるのである。</p>
使用教材	テキスト 拙著『財務会計理論』または拙著『財務会計論』いずれも白桃書房
	参考文献
評価方法	期末テストによる。
受講者に対する要望など	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	会計の定義：会計は二つの理念型を用いて定義することができる。それは、一方では現実からの抽象という意味で具体的・現実的・歴史的であり、他方では頭脳による昇華という意味で観念的・理念的・当為的である。
2	事物と記号：会計の定義は、その対象がどのような性質をもっているかという事実についての事物説明および言葉の用法である記号説明の果たす役割に大きく依存している。それらには真偽の問題がおこるからである。
3	会計学説：現代の会計を支配しているのは意思決定説と会計責任説である。前者は財務諸表の内容やその有用性を極度に強調し、後者は財務諸表に記入される項目はすべて取引にもとづいているという点に重点をおく。
4	管理・保全：会計の基本的な機能は会計事実を適正かつ正確に記録することによって果される。その「記録と記録の照合」および「記録と事実の照合」を行なうことによって財産の管理・保全が完遂されるのである。
5	測定：測定とは、対象に数値を与えることであるが、会計において測定の対象となるのは、数える能力を意味する加法性と物を無差別に認識することを意味する外延量に限られ、内包量については測定からはずされる。
6	伝達：伝達は、ある人が言語を用いてある事柄を表現し、もう一人の人がその表現したものを理解することによって達せられる。このように、企業の経済活動は、主として、会計数値によって表現され、伝達される。
7	社会統制：サンクションとは、一定の社会的行為に対する社会の反応である。この作用・反作用が双方向性と呼ばれる統制作用なのである。この作用によって本質的に異なる情報の提供者と被提供者の利害が均衡する。
8	社会的責任：財務会計は公共的性格をもつということから、社会的要請としての適正な損益を計算し、収益力を明瞭に表示し、会計責任を明確にすると同時に環境情報の開示をも適正になさなければならないのである。
9	会計原則：会計に用いられるルールは、一般に認められた会計原則のことである。それは人間によって開発された人間の作品である。しかもそのルールは法のそれにもまして論理の所産ではなく経験の所産なのである。
10	一般原則：一般原則は会計実践に対する包括原理である。会計実践に対する共通の包括原理となりうるところに一般原則における「一般」の意味がこめられている。一般原則は七つあるが、ほかに重要性の原則もある。
11	資産の意味：資産は、将来の期間にわたって企業の経済活動に役立ち、収益を生み出す活力となるものであり、かつ貨幣で測定できるものである。その典型的なものに、貨幣性資産と費用性資産（非貨幣性資産）がある。
12	資産の評価：評価とは、対象に価値を定めることであるが、会計上、評価といえば、それ自体が評価の尺度となりうる貨幣を除く資産と負債に金額をつけることである。評価の基礎には原価と時価および低価法がある。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	当座資産：当座資産は企業の支払手段または購買力として役立つ資産であり、きわめて流動性の高い資産である。そのために、支払資産ともいわれる。容易に現金化することができるという点に当座資産の特徴がある。
2	棚卸資産の評価：棚卸資産の評価は、貸借対照表価額をどのように定めるかという意味での評価である。棚卸資産会計のなかで最も重要なのは、期中払出高と期末有高をどのような金額で評価するかということである。
3	減価償却：資産は、結局、その経済的価値を減少し廃棄される運命にある。このような運命をもつ固定資産をどのように保持し維持することができるかを会計技術的に考察を加えたのが減価償却といわれる技術である。
4	繰延資産：資産は継続企業の仮定のもとに長期に及んで企業の経済活動に役立ち、収益を生み出す活力をいうが、換金性のないのに用役潜在力の存在を根拠として資産としての市民権が与えられたのが繰延資産である。
5	引当金 1：引当金が成立する第一の要件は、将来において発生すると予測される費用または損失が特定され、かつ将来において発生する費用または損失の原因の事実が当期以前の事象に起因しているということである。
6	引当金 2：引当金成立の第二の要件は、将来の費用または損失たる事象の発生の可能性が高く、かつそれらの費用または損失の金額が合理的に見積もられ、当期の負担額が適正に算定されねばならないということである。
7	資本会計：資本会計は資本を自己資本の意味に解し、他人資本たる負債と区別して処理するとともに、資本を利益に対する概念であると考え、そこに利益の帰属主体である資本の提供者を捉える論理に支えられている。
8	剰余金：企業が資本を用いて経済活動を行なうことによって、最初に投下された価値を超える額（剰余）が生まれる。これが利益の属性をもつところの剰余金なのである。このほかに資本の要素をもつ剰余金がある。
9	損益の認識：収益・費用・利益・損失という言葉も、会計の世界についての素材から、思惟経済のもとに、会計の概念をとらえるための手段として知的に抽象したものである。これらの言葉によって収益力がわかる。
10	損益計算法：今日の会計において、損益の計算を行なう場合に、期間損益と期間外損益に関連する二つの思想、つまり計算の方法がある。それには、主たる営業活動を重視する当期業績主義とそうでない包括主義がある。
11	認識基準：収益と費用をどの段階で認識するかについては、会計上三つの基準が用いられる。古くから用いられている現金主義、主として費用の発生に用いられる発生主義、収益の実現に用いられる実現主義である。
12	財務諸表：財務諸表のうちで主要なものは、損益計算書と貸借対照表である。前者は一定期間における企業の経営成績を明らかにする書類であり、後者は一定時点における企業の財政状態を明らかにする書類である。
備考	

科目名	情報処理概論（済・営新、旧） 情報処理論 I（済・営旧旧）	担当者名	各担当教員
-----	----------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>経済学部の学生が4年間の学習・研究生活に必要な情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習を行なうものである。例えばレポート、卒論において</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章はワープロを使用 ○文献は図書館のデータベースを使用して探す ○データは統計計算等による処理を通してグラフ等に整理する <p>等々がコンピュータを通してできることを指す</p>		
講義概要	<p>講義および実習を通して上記の目標を達成するためワープロソフト・表計算ソフトの使用方法を始め、コンピュータを中心とした情報処理全般のテーマを扱う。</p> <p>講義計画が後述してあるが、各テーマの取り扱われる順序、時間配分は各教員により異なります。またこれら以外のテーマも扱われますので担当教員に確かめて下さい。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	各教員が適宜に指定する。	
評価方法	<p>原則として試験およびレポートを中心に評価する。出席も重要な考慮ポイントである。詳しくは各教員に聞くこと。</p>		
受講者に対する要望など	<p>最初のうちは“習うより慣れる”です。くり返しの勉強（復習）が必要でしょう。</p>		

年 間 講 義 予 定

	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション 情報化社会（コンピュータの歴史、情報と産業、コンピュータの将来） 情報と倫理
2	入力装置とキーボード QWERTY 配列 マウス 他
3	日本語ワードプロセッサ カナ入力、ローマ字入力 編集（複写、移動、文字サイズ等々）
4	MS-DOS ファイル管理等々
5	表計算 スプレッド・シート 統計処理 等
6	コンピュータ概説 ハードウェア・ソフトウェア コンピュータの仕組、等
7	情報の表現とコンピュータ 文字コード 等
8	ネットワーク ビットネット
9	データベース 図書検索 等
10	コンピュータ・システム オンライン、TSS、etc.
11	
12	
備考	各テーマの順序、時間配分は教員により異なる。上記以外のテーマも各教員ごと扱います。

	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	経営管理論（営新、旧） 経営管理総論（営旧旧）	担当者名	富田忠義
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>企業、官庁、学校、病院などの組織体は、経営学の分野では「経営体」とか「経営」とか呼ばれるが、この意味での経営体における管理または経営と管理を主として研究するのが経営管理論である。経営管理論はきわめて実践的な性質の強い学問分野であるから、その内容は理念、理論、技法などから構成されている。近年の経営環境の変化や経営の国際化などの刺激を受けて、この学問分野もめざましい発展を遂げているが、本講義では、主要なテーマに関する最近の研究成果について、初学者向けに易しく概説したいと思っている。</p>	
講義概要	<p>経営体は絶えず変化を続けている環境の中で活動しており、その存続と発展のためには環境との適合を常に考えながら意思決定し行動することが必要になる。こうした問題をまず、経営戦略の面から取り上げる。次に、合理的な行動が求められるとき、行動の開始に先だっ て行われる意思決定を個人的な決定と組織における決定に分けて、そのメカニズムを説明する。</p> <p>機能の面からみれば、経営管理は意思決定のほか、計画、組織、動機づけ、コントロールなどの要素機能から成るので、計画以下の機能を個別に取り上げて、実際、理念、理論、技法の面から考察する。</p> <p>最後に、テイラーの科学的管理法以降のこの分野の発展を経営管理学説として概説する。</p>	
使用教材	テキスト	・車戸實編著『現代経営管理論』八千代出版
	参考文献	・山城章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社
評価方法	後期末定期試験の結果と、平常授業への出席状況により、成績を評価する。	
受講者に対する要望など	テキストを利用するが、授業中にテキストの全文を克明に解説するというではないので、開講後できるだけ早く、テキストの全文を各自で読了しておくこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営管理の概要
2	経営戦略Ⅰ 企業と環境
3	経営戦略Ⅱ 経営戦略の基礎
4	経営戦略Ⅲ 成長戦略の策定
5	経営戦略Ⅳ ビジネス・ポートフォリオ・マネジメント
6	経営戦略Ⅴ 競争戦略と戦略経営
7	意思決定Ⅰ 問題解決と意思決定
8	意思決定Ⅱ 組織における意思決定
9	意思決定Ⅲ 日本的意思決定システムとしての稟議制度
10	経営計画Ⅰ 経営計画の基礎
11	経営計画Ⅱ 経営計画の種類と体系
12	経営計画Ⅲ 経営計画の策定過程
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営コントロールⅠ 経営コントロールの過程と種類
2	経営コントロールⅡ 全社レベルのコントロール
3	経営組織Ⅰ 経営組織の基礎
4	経営組織Ⅱ 責任と権限、ラインとスタッフ
5	経営組織Ⅲ 経営組織の基本形態
6	モチベーションⅠ モチベーションの基礎
7	モチベーションⅡ モチベーションの心理学
8	モチベーションⅢ 組織におけるモチベーションの作用
9	経営管理学説Ⅰ 科学的管理の前史とテイラーの科学的管理法
10	経営管理学説Ⅱ ファヨールの管理過程論
11	経営管理学説Ⅲ ホーソン実験と人間関係論
12	経営管理学説Ⅳ 行動科学的管理論・組織論、バーナード＝サイモン理論他
備考	

科目名	交通経済論（済旧、旧旧） 交通論（営）	担当者名	岡田 博
-----	------------------------	------	------

講義の目標	<p>交通は日常生活の足として、必要不可欠のサービスであるだけでなく、生産活動にとっても必需的なサービスである。交通の発達によって人間の行動圏は拡大し、生活パターンにも影響が及んでいる。一方、生産面における影響としては、市場の拡大がもたらされ、いまや世界市場が形成され、分業は世界的規模で進行している。</p> <p>本講義においては、交通が国民経済の中で果している機能と役割について解明することを第一義とするが、さらに交通のもたらす環境への影響、交通安全等の諸問題についても時間を裂きたい。</p>	
講義概要	<p>本講義においては、交通を研究対象とした経済分析を講じる。すなわち、交通現象を経済学の方法を用いて分析し、交通のもつ経済的機能とその役割を解明していく。</p> <p>講義の主要な内容は、交通経済論の方法について、交通の諸制度について、交通活動の実績とその分析、交通問題とその対策について、等々であって交通全般に及ぶものである。</p>	
使用教材	テキスト	未定、最初の講義のときに指示する。
	参考文献	・岡野行秀『交通の経済学』有斐閣
評価方法	学年末試験によって評価するが、ときどき出席をとり、これも評価の参考にする。	
受講者に対する要望など	欠席しないこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	交通経済論・交通論の方法について。 交通の概念、交通の機能等について。
2	国民経済と交通Ⅰ 交通の発達と経済成長、輸送量とGNP
3	国民経済と交通Ⅱ 交通と地域開発
4	国民経済と交通Ⅲ 交通の発達と生産物市場圏の変化
5	国民経済と交通Ⅳ 多頻度小量輸送の増大
6	国民経済と交通Ⅴ 交通と消費活動
7	交通需要Ⅰ 交通需要の特性、派生需要の弾力性
8	交通需要Ⅱ 交通需要の予測
9	交通サービスの供給Ⅰ 交通サービス供給の史的概観
10	交通サービスの供給Ⅱ 交通の3要素、交通基礎施設サービスの供給形態
11	交通労働
12	交通市場Ⅰ 交通市場の特色
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	交通市場Ⅱ 地域交通市場
2	運賃論 運送価値説、運送費用説、限界費用運賃等について
3	交通投資と資金調達 費用便益分析、経済効果とその分析
4	鉄道旅客輸送
5	鉄道貨物輸送
6	自動車輸送Ⅰ 旅客輸送、バス、タクシー、マイカー
7	自動車輸送Ⅱ トラック輸送
8	船舶輸送
9	航空輸送
10	交通安全対策
11	交通の環境問題
12	おわりに
備考	

科目名	財務会計論	担当者名	中村 泰 將
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>本講義は、企業、特に株式会社の会計を対象とする「企業会計」を中心に勉強します。我が国の会計制度の仕組みを理解するとともに、財務諸表の作成基準としての会計基準とそれぞれの法が要求する会計法規（商法・証券取引法・税法）の関係を理解することを目的とします。</p>				
講義概要	<p>企業の会計をどのように勉強したらよいか。これには、いくつかの段階的な勉強が必要である。第1段階は、「企業会計原則」を中心に会計学の通説を勉強する（典型的な財務会計の著書はその例である。）。第2段階は、我が国の企業会計制度の中で法的な枠組みに組み込まれた会計（これを「制度会計」と呼ぶ。）を勉強する。本講義は第1と第2を併せて講義する。第3段階は、高度な会計の個別問題である。例えば、①連結財務諸表の作成。②セグメント会計情報の問題。③リース会計の問題。④為替換算処理の問題。⑤物価変動会計の問題。⑥中間財務諸表の作成。⑦金融商品の会計処理、等々の特殊な会計領域である。特に①、②、③、④および⑥は、関連領域の中で講義する予定である。⑤と⑦は時間のある限り講義したい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている）</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている） ・飯野利夫『財務会計論〔改訂版〕』同文館（分厚いが、読み易く簿記的説明が多い） ・中村 忠『現代会计学』白桃書房（理論をかなり断定的に説明し、読みやすい） </td> </tr> </table>	テキスト	・新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている）	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている） ・飯野利夫『財務会計論〔改訂版〕』同文館（分厚いが、読み易く簿記的説明が多い） ・中村 忠『現代会计学』白桃書房（理論をかなり断定的に説明し、読みやすい）
テキスト	・新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている）				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている） ・飯野利夫『財務会計論〔改訂版〕』同文館（分厚いが、読み易く簿記的説明が多い） ・中村 忠『現代会计学』白桃書房（理論をかなり断定的に説明し、読みやすい） 				
評価方法	<p>前期試験と後期試験の総合によって評価する。</p> <p>前期・後期試験：</p> <p>①前期は、出来るだけ会計の専門用語を理解し、現行の会計の仕組みを理解する。</p> <p>②後期は、各論、特論の講義に入るので、会计学の理論的な説明を求める問題を出題する。</p>				
受講者に対する要望など	<p>①会计学に関する専門書は、書店に山とある。要はその内容を理解することにある。授業をサボルとその内容の行間が理解できないので注意されたい。</p> <p>②テキストは1冊に絞るが、参考文献も読んで、比較してみるのも勉強である。</p> <p>③会计学は、実践科学であり、その意味で理論を会計処理できることが重要である。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	会計（学）とは、どのような学問領域かを理解する。
2	企業会計の理論的構造を理解する。
3	企業会計はどのような計算構造によって、計算されるかを理解する。
4	我が国における企業会計制度の仕組みを理解する。
5	財務会計の基準あるいはルールである「企業会計原則」の構造を理解する。
6	「企業会計原則」における一般原則の意味を理解する。
7	イ. 真実性の原則とその他6つの一般原則との関係。
8	資産会計(1) イ. 資産の意義・概念 ロ. 資産の分類 ハ. 資産の評価基準
9	資産会計(2) イ. 流動資産の意義・分類・評価
10	資産会計(3) イ. 当座資産の概念・分類・評価 ロ. 有価証券の概念・分類・評価
11	資産会計(4) イ. 固定資産の概念・分類・評価
12	資産会計(5) イ. 繰延資産の概念・種類・償却
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	負債会計(1) イ. 負債の概念・分類
2	負債会計(2) イ. 引当金の意義 ロ. 引当金の設定の目的 ハ. 引当金の設定の要件
3	資本会計(1) イ. 資本会計の意義と範囲 ロ. 資本の源泉別分類と処分可能別分類
4	資本会計(2) イ. 払込資本の概念と範囲 ロ. 増資・減資の形態と会計処理
5	資本会計(3) イ. 評価替資本の会計 ロ. 受贈資本の会計
6	資本会計(4) イ. 剰得資本の概念と範囲 ロ. 商法第288条の利益準備金
7	損益会計(1) イ. 損益会計の意義と範囲 ロ. 損益計算の区分計算
8	損益会計(2) イ. 損益計算の諸原則 (1)費用収益対応の原則 (2)費用配分の原則 (3)発生主義の原則
9	損益会計(3) イ. 収益の認識基準
10	財務諸表(1) イ. 財務諸表の意義と役割 ロ. 中間財務諸表の意義と作成
11	連結財務諸表(1) イ. 連結財務諸表の意義 ロ(3). 連結貸借対照表の作成基準
12	連結財務諸表(2) イ. 連結損益計算書の作成基準 ロ. 連結剰余金計算書の作成基準
備考	

科目名	上級簿記	担当者名	細田 哲
-----	------	------	------

講義の目標	<p>「簿記原理」履習者あるいは「日商検定」3級以上の合格者が、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術を習得することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○銀行勘定調整表の作成 ○手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳 ○特殊販売取引に関する記帳 ○株式会社会計 <p>後期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本支店会計 ○連結会計 ○帳簿組織 		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	年2回以上の試験の結果による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	上級簿記	担当者名	百瀬房徳
-----	------	------	------

講義の目標	<p>本講では、商業簿記について取り扱うが、カリキュラムにおける「簿記原理」をさらに発展された領域を取り扱う。したがって、取引における簿記の処理はさらに複雑なものになる。</p>	
講義概要	<p>複式簿記の構造は「簿記原理」と異なることはない。それにさらに進んで、特殊な部分について仕訳をし、勘定へ転記し、最終的に決算を行い損益勘定および残高勘定、(英米法の場合は繰越試算表)に転記し、さらに損益計算書および貸借対照表を完成するまで修得することにする。各項目ごとに資料を配賦する。</p>	
使用教材	テキスト	無し
	参考文献	無し
評価方法	<p>前期および後期において講義した範囲について試験する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>「簿記原理」を履修した受講者であることが望ましい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義内容について説明する
2	銀行預金勘定の概説とその処理について
3	貸倒引当金等の引当勘定の概説とその処理について
4	偶発債務の概説とその処理について
5	特殊な手形取引の概説とその処理について
6	期末商品の評価とその処理について
7	固定資産とその会計処理について
8	繰延資産の概説とその処理について
9	資本金勘定の概説とその処理について
10	決算処理前の諸取引の総括
11	決算(1)
12	決算(2)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	荷為替と未着商品
2	販売委託（積送品）の概説とその処理
3	販売委託の概説とその処理
4	試用販売の概説とその処理
5	割賦販売の概説とその処理
6	会社の設立と株式について
7	利益および損失の処分について
8	合併について
9	社債の発行と償還について
10	本社間の取引について
11	会社の帳簿組織について
12	財務諸表とは何か
備考	

科目名	プログラミング論	担当者名	高柳 敏子
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、初めにコンピュータの歴史をハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p>		
講義概要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史をハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。</p> <p>続いて、CASL シミュレータを利用して、架空のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングおよび実習を通して、一般的なコンピュータの構造と動作の仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めに CASL の応用的なところをみたところで、現実の一般的なパソコンの言語としてコンパイラ言語の C を取り上げ、プログラミングの入門から、情報処理の基本的な技法までを、Turbo C++ for Windows を使用して実習しながら勉学する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>随時必要な資料を配布</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田中武二著『コンピュータと社会』サイエンス社 1993 ・ 『CASL Programming』ITEC (情報処理技術者教育センター) 1994 ・ 河西朝雄著『Turbo C 初級コンピュータ』(上) 技術評論社 1992 ・ 『岩波 情報科学辞典』岩波書店 1990 	
評価方法	<p>前・後期各1度の実習を含んだテストおよび、前・後期各2～3度程度のレポートおよび出席を加味して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論 (経済学部、法学部)、またはコンピュータ概論 (外国語学部)、または言語情報処理 I (英語学科) を既修のこと。</p> <p>実習用にフロッピー (3.5インチ 2HD) を3枚用意すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	コンピュータの歴史(1) ハードウェア：ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子
2	コンピュータの歴史(2) ソフトウェア：コンピュータ言語、オペレーティングシステム
3	コンピュータの構成：中央処理装置、制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置
4	COMET の処理装置(1) 語構成とビット構成：アドレスとアドレッシング、制御方式、命令語、プログラムカウンタ (PC)
5	COMET の処理装置(2) レジスタ：汎用レジスタ (GR)、指標レジスタ (XR)、フラグレジスタ (FR)
6	情報の表現(1) 数値の内部表現：整数と2の補数表記、16進表現
7	CASL プログラミング(1) CASL の命令：疑似命令、マクロ命令、機械語命令、命令の形式、ラベル、命令コード、オペランド、注釈
8	CASL プログラミング(2) 加減算処理：CASL プログラム、ロード命令とストア命令、加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保
9	CASL シミュレータとその実行：プログラムの入力、編集、アセンブル、1命令毎の実行、プログラムのディスクへの記憶、プログラムのディスクからの呼出し
10	CASL プログラミング(3) 乗除算処理：シフト演算命令
11	CASL プログラミング(4) 乗除算処理：比較演算命令とフラグレジスタ、分岐命令
12	CASL プログラミング(5) 繰り返し処理：指標レジスタの使用
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	CASL プログラミング(6) 情報の表現(2) 文字の内部表現：ASCII コード
2	CASL プログラミング(7) 入出力処理：コード変換と論理演算
3	CASL プログラミング(8) サブプログラム(1) 引き数の受け渡しと汎用レジスタ
4	CASL プログラミング(9) サブプログラム(2) 引き数の受け渡しとスタック：プッシュ、ポップ、スタックポインタ
5	アセンブラとコンパイラ プログラムの翻訳と実行：アルゴリズムとコンパイラ言語
6	C プログラミング入門(1) C言語とは、C言語の基本事項：例題と Turbo C++ for Windows の操作
7	C プログラミング入門(2) 最大値を求める：整数データとその宣言、入出力とその形式指定、繰り返し、条件分岐
8	C プログラミング入門(3) 量の多いデータを扱う：配列の扱い、ファイルの入出力とその宣言
9	C プログラミング入門(4) 数値データを大きさの順に並べる：ソートアルゴリズム、実数データとその宣言、入出力とその形式指定
10	C プログラミング入門(5) 文字列データの扱い：文字列データとその宣言、入出力とその形式指定
11	C プログラミング入門(6) 文字列データとポインタ
12	C プログラミング入門(7) 構造体、検索アルゴリズム
備考	

科目名	プログラミング論	担当者名	(前期)立田ルミ (後期)富澤儀一
-----	----------	------	----------------------

講義の目標	<p>現在、ワープロや表計算ソフトや財務諸表作成等のように様々なソフトウェアが開発されているが、これらの市販のソフトウェアがどのような手順で開発されているのかを理解し、どのようにプログラミングすればよいかを理解することを目的とする。また、現在どのようなソフトウェアを用いて様々なソフトウェアが開発されているかも理解することを目的としている。</p>		
講義概要	<p>現在、コンピュータがどのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアを知ってもらうために、それらをビデオまたはコンピュータを用いて紹介する。さらに、基本的な情報処理の手順について解説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、例をあげて解説する。さらに、最近話題になっているマルチメディアやネットワークについても解説する。また、オブジェクト指向言語についても解説する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・立田ルミ 『BASIC プログラミングの基礎』 ・ダグラス A. ハーガート 『Visual Basic プログラミング技法』 BNN 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・天笠美知夫編 『情報処理の基礎』 朝倉書店 	
評価方法	<p>前期、後期のレポートと試験を合わせて評価を行なう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論（情報処理論Ⅰ）又はコンピュータ概論を並行して履修する事が望ましい。 (既修でもよい。)</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業のガイダンスとコンピュータの歴史 コンピュータ誕生までの背景、第1世代、第2世代、第3世代、第4世代のコンピュータ
2	ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの利用 入出力装置、CPU、記憶装置、記憶方式、ビット、バイト、KB、MB、GB、サイクルタイム、アクセスタイム
3	ソフトウェアの歴史と概略 ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム
4	情報処理におけるコンピュータの役割 自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ
5	システム開発とプログラム開発の手順 システム開発の手順と機械化、情報処理技術者の職種、プログラム開発の手順と期間
6	詳細設計とその手法 プログラムのモジュール化設計、モジュールの論理設計、プログラム流れ図、NSチャート、本構造チャート、HIPO
7	プログラム言語の種類と利用目的とプログラム例 機械向き言語、問題向き言語、オブジェクト指向言語、システム開発用言語、人工知能言語、シミュレーション言語
8	第4世代言語とCASEツール 現代開発されている第4世代言語、ソフトウェアの生産性と信頼性
9	各種プログラム言語の使用推移とパソコンのソフトウェア 各種言語の推移、パッケージソフトの概要、出荷実績
10	簡単なプログラムの作成 購入金額計算、支払いと釣り銭計算、売上げ平均、利息計算
11	選択のあるプログラムの作成 所持金で購入できるかどうかの判定、業態の判定
12	繰り返しのあるプログラムの作成 売上げ一覧表、ラストデータ処理、借金の返済
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	選択と繰り返しを組み合わせたプログラムの作成 ネスティング、平均以上の売上げ一覧表作成
2	配列と構造体の概念 一次元配列、二次元配列、構造体
3	配列と構造体、ポインタを用いたプログラムの作成 売上げ合計とその比率、売上げ地域別合計
4	シークエンシャルファイルの作成 ファイルの概念、種類、レコード、フィールド、小売業調査ファイルの作成とファイルの利用
5	ランダムファイルの作成 項目の割り振り、数値をストリングに変換、データをバッファに移動、レコードの読み書き
6	シークエンシャルファイルとランダムファイルを用いたプログラムの作成 シークエンシャル索引ファイルを用いてランダムファイルのレコードを更新
7	図形とグラフの作成 直線、曲線、色を塗る、棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ
8	音声の入出力 音声入力装置とソフトウェア、音階と音の長さ、休符、音色
9	図形と音の組み合わせ ピアノの鍵盤の作成、アニメーションを用いたカラオケ
10	プログラムのモジュール化 主プログラムと副プログラム、モジュール化の必要性、サブルーチン作成
11	プログラミング技法 最大、最小、ソート、マージ、検索、データベース
12	CAIシステムとコースウェア マルチメディア、コースウェア、CD-ROM、エディメント、ネットワークと教育 (MOSAIC)
備考	

科目名	情報処理論 (済新) 情報処理論(1) (済旧) (営新、旧) 情報処理論Ⅱ (済・営旧旧)	担当者名	高柳敏子
-----	--	------	------

講義の目標	<p>本講義では、データベースの基礎知識を理解するために、先ず初めにデータベースの前段階としてのファイル処理をプログラミングを通して学習し、ファイル処理の基本を理解する。</p> <p>続いてファイルを高度化した情報処理システムとしてのデータベースについて、ファイルとの違いを含め基礎的な知識を学ぶとともに、データベースの作成およびその取扱いをコンピュータで実習しながら勉学する。</p>	
講義概要	<p>前期は、Turbo C++ for Windows を使ってC言語によるファイル処理の基礎を実習しながら学ぶ。後期は、まずMS-Excelのデータベース機能を使って、データベースの持つデータ管理機能を概観する。続いて、データベースの特徴についてを学ぶ。特にデータ構造の中では、汎用機からパソコンまで多くのソフトが開発されたリレーショナル・データベースについてその取り扱い言語のSQLを学ぶ。さらに、リレーショナル・データベースソフトを使った実習も試みたい。また、本学で利用できるデータベースは、図書館検索やCD-ROM検索を含めてできるだけ講義のなかで使用していく。課題の出題や資料の配布、レポートの提出にはBITNETを利用する。</p>	
使用教材	テキスト	未定、随時資料を配布
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・河西朝雄著『TURBO C 初級プログラミング』(上) 技術評論社 1993 ・植田一広著『C言語とISAM』 工学図書 1989 ・川村一樹著『SQL 言語活用入門』 日刊工業新聞社 1990 ・『データベース標準用語辞典』 オーム社 1991 ・『岩波 情報科学辞典』 岩波書店 1990
評価方法	前・後期各3～4度程度のレポートおよび出席を加味して評価する。	
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論 (経済学部、法学部)、またはコンピュータ概論 (外国語学部)、または言語情報処理Ⅰ (英語学科) を既修のこと。</p> <p>実習用にフロッピー (3.5インチ2HD) を3枚用意すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	BITNET 操作(1) CMS の取り扱い：mail の送信と受信
2	BITNET 操作(2) file の送信と受信：ファイルのアップロードとダウンロード
3	ファイル処理(1) ファイルの基本概念：ファイル、レコード、アイテム、フィールド、キー
4	ファイル処理(2) C言語(1) ファイルから入力
5	ファイル処理(3) C言語(2) Turbo C++ for Windows の操作
6	ファイル処理(4) C言語(3) ファイルへ出力
7	ファイル処理(5) C言語(4) メイン関数とサブ関数
8	ファイル処理(6) C言語(5) 基本的な技法(1) 最大値、最小値
9	ファイル処理(7) C言語(6) 基本的な技法(2) ソート(1)
10	ファイル処理(8) C言語(7) 基本的な技法(3) ソート(2)
11	ファイル処理(9) C言語(8) 基本的な技法(4) マージ
12	ファイル処理(10) C言語(9) 基本的な技法(5) 検索
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	MS-Excel のデータベース機能(1) レコードの並べ替え：条件によるレコード抽出
2	MS-Excel のデータベース機能(2) データベース関数の利用：最大値、最小値、平均、標準偏差
3	MS-Excel のデータベース機能(3) クロス集計：条件付きのクロス集計
4	データベースの検索利用(1) 個人資料を作成する(1) 図書館の検索
5	データベースの検索利用(2) 個人資料を作成する(2) CD-ROM 検索
6	データベースの基礎知識(1) 論理データと物理データ：データ構造（階層型、ネットワーク型、リレーショナル型）
7	データベースの基礎知識(2) データベース言語：データベース管理システム (DBMS)
8	データベースの基礎知識(3) リレーショナル・データベース：集合とその演算、関係とその演算
9	データベースの基礎知識(4) SQL 言語(1) データベース定義と作成
10	データベースの基礎知識(5) SQL 言語(2) データベースの検索
11	リレーショナル・データベースの利用(1) データベースの定義：データベースの作成
12	リレーショナル・データベースの利用(2) データベースの操作
備考	

科目名	情報処理論 (済新) 情報処理論(2) (済旧) (営新、旧) 情報処理論Ⅱ (済・営旧旧)	担当者名	富田幸弘
-----	--	------	------

講義の目標	<p>情報処理の応用コースとして開設されており、経営科学を学ぶための基本的な考え方と分析方法を学ぶ。また、コンピュータを利用した具体的なプログラムについても学び、より高度な利用法についても体験学習することを目標としている。</p>		
講義概要	<p>出来るだけ具体的な例を示しながら解説し、同時に、情報処理のためのコンピュータの利用法についても講義する。その内容は以下のようなものである。</p> <p>(1)基礎的な統計 (2)在庫管理 (3)線形計画法 (4)日程計画 (5)待ち行列問題 (6)シミュレーション</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・池田貞雄・松井敬・富田幸弘・馬場善久共著『統計学—データから現実をさぐる』内田老鶴園 ・宮川公男・野々山隆幸・佐藤修共著『経営科学と情報処理』実教出版 ・高橋三雄・藤森洋志共著『ビジネス・ゲーム入門』日本経済新聞社 	
評価方法	<p>前期と後期の2回のレポート提出により評価する。また、毎回の出席状況も考慮する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論(旧旧カリの情報処理論Ⅰ)の既修者を対象にしています。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今年度の講義について
2	情報処理とコンピュータ 〈パソコン、オペレーティング・システム、コンピュータ言語、周辺装置、利用例〉
3	情報処理と経営科学 〈企業経営、統計分析、需要予測、企業モデル、利用例〉
4	基礎的な統計(1) 〈度数分布表、ヒストグラム、算術平均、幾可平均、メディアン〉
5	基礎的な統計(2) 〈分散、標準偏差、2項分布、正規分布、一様分布〉
6	基礎的な統計(3) 〈母集団と標本、中心極限定理、区間推定、仮説検定、乱数〉
7	変動と時系列分析 〈傾向変動、季節変動、景気変動、移動平均法、指数平滑法〉
8	回帰分析と需要予測 〈相関係数、最小二乗法、正規方程式、回帰直線、決定係数〉
9	在庫管理(1) 〈移動在庫、組織在庫、調達費用、在庫維持費用、在庫不足費用〉
10	在庫管理(2) 〈最適発注量、ペイオフ表、機会損失表、定量発注システム、定期発注システム〉
11	在庫管理(3) 〈パレート図、ABC分析、資材在庫、製品在庫、在庫管理ゲーム〉
12	前期のまとめ
備考	※〈 〉内はキーワードです。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	線形計画法(1) 〈制約条件式、実行可能領域、目的関数〉
2	線形計画法(2) 〈シンプレックス法、はき出し計算、LPゲーム〉
3	日程計画(1) 〈ガント・チャート、工程流れ図、3点見積り〉
4	日程計画(2) 〈PERT、クリティカル・パス、日程管理ゲーム〉
5	待ち行列(1) 〈待ち行列の例、お客の到着、サービス時間〉
6	待ち行列(2) 〈待ち行列の長さ、平均遊休時間、待ち行列ゲーム〉
7	決定理論 〈期待値原理、ラプラスの原理、ミニマックス・リグレット原理〉
8	シミュレーション(1) 〈販売管理ゲーム〉
9	シミュレーション(2) 〈株式投資ゲーム〉
10	シミュレーション(3) 〈生産管理ゲーム〉
11	シミュレーション(4) 〈ビジネス・ゲーム〉
12	後期のまとめ
備考	※〈 〉内はキーワードです。

科目名	情報処理論 (済新) 情報処理論(3) (済旧) (営新、旧) 情報処理論Ⅱ (済・営旧旧)	担当者名	(前期)立田ルミ (後期)井上 洋
-----	--	------	----------------------

講義の目標	<p>コンピュータがビジネスでどのように使われているかを理解し、それらのデータを実際にどのように処理するかを理解することを目標とする。現在企業で一番多く使用されている(約7割) COBOL言語を用いて実際のデータを処理する。一応COBOLを用いるが、他のソフトウェア(表計算ソフト、データベースソフト)についても理解することを目標とする。また、メインフレームのコンピュータの利用も同時にマスターすることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>ビジネスにおけるコンピュータの利用の例をいくつかとり上げ、その中で基本的な情報処理の手順およびプログラミングについて講義する。90分の授業のうち、前半は講義を行ない、後半は各自ホストコンピュータ (IBM 9121) を用いてプログラミング演習を行なう。前期、後期を通じて、いくつかの課題についてプログラミングを行ない、レポートを提出してもらう予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・関根常夫『COBOL プログラミングの基礎』朝倉書店</p>	
	参考文献	<p>・天笠美知夫編『情報処理の基礎』朝倉書店</p>	
評価方法	<p>前期、後期のレポート点と試験と出席状態を合わせて評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論(情報処理論Ⅰ)を既修のこと。 コンピュータの操作およびキーボードに慣れていること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンスとホストコンピュータの概略 ホストコンピュータ、端末装置、LAN、ネットワーク
2	ビジネスにおけるコンピュータの利用例と情報処理 銀行、コンビニエンス・ストア、新聞社等
3	CMS の概略とエディタの利用 ログオン、ログオフ、CMS コマンド、エディタコマンド
4	COBOL 言語の概要と特長、ファイルの概要 COBOL の歴史、言語の特長、ファイルの利用と作成方法
5	ファイル処理 ENVIRONMENT DIVISION, DATA DIVISION
6	ファイルの内容の印刷 処理概要と領域、PROCEDURE DIVISION
7	プログラムの作成と実行方法 ファイルの定義、データファイル作成、プログラム入力、コンパイル、EXEC プログラムの作成、デバッグ
8	ファイル変換 処理内容と領域、ファイル構造、レコード記述、レベル番号と階層構造
9	ファイル変換プログラム作成 ファイル定義、データファイル作成、プログラム入力、コンパイル、EXEC プログラムの作成、デバッグ
10	ファイル変換演習問題 ファイル変換演習問題プログラム解説、演習
11	ソートプログラム 処理内容、ソート処理の効果、入力と出力の関連、ファイル構造、プログラムの概要、ソート命令
12	ソート演習問題 ファイル変換、プログラムの概要
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マスタファイルとトランザクションファイル 事務処理の概要、売上げ処理、マスタファイル、トランザクションファイル
2	ファイルのマッチング 処理内容の概要、売上げ伝票ファイル、商品マスタファイル、マッチング処理、入力と出力の関係
3	マッチングプログラム ファイルソートプログラム、ファイルの定義、データファイル作成、プログラム作成
4	ファイルの更新 処理の概要、台帳更新ファイル、旧商品マスタファイル、新商品マスタファイル
5	ファイル更新プログラム ファイルの定義、データファイル作成、プログラム作成
6	売上げ日計表 処理の概要、ラインプリンタ用紙の設計、ファイル構造、入力と出力の関係、見出し印刷
7	ファイルの編集と印刷 文字の編集、数字の編集、印刷スタイル、ページング
8	売上げ日計表作成 ファイルの定義、データファイル作成、プログラム作成、ラインプリンタの使用法
9	商品マスタファイルの印刷 ファイルの作成、データファイルの作成、プログラム作成
10	データキー入力プログラム 処理の概要、ファイルの形式、データの確認
11	総合問題 学生名簿、成績処理、名簿検索
12	総合問題作成 ファイル定義、データファイル作成、プログラム作成
備考	

科目名	老年社会学	担当者名	奥山正司
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢という現象を通して、経済・社会にどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。なお、老年社会学は、老年学 (gerontology) の一領域であるとともに、社会学 (sociology) の一領域として位置づけられる。また、老年学とは「高齢化や加齢現象に関する科学的研究」を意味し、社会学とは「社会現象を人間生活の共同という視角から研究する社会科学」である。</p>	
講義概要	<p>年間を通して、人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。前半では、人口高齢化、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について、後半では、老人福祉、老後保障などの側面から講義し、高齢 (化) 社会の全体像をあきらかにする。</p>	
使用教材	テキスト	教科書は特に使用しない。また、参考書等は授業中にその都度指示する。
	参考文献	
評価方法	レポート、出席、試験等の総合的な評価によって行う。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

<p>第1～2週 老年社会学とその周辺科学</p> <p>社会学及び社会福祉学など社会科学的視点から高齢者をとらえていく老年社会学とはどのような学問か。それは、医学的観点とはどのように異なるのか。また、老年社会学の代表的理論といわれる離脱理論、活動理論とは高齢者と社会のありかたをどうみているのか。</p>
<p>第3～4週 人口高齢化と高齢化社会</p> <p>エイジング（加齢）とはどういう現象か。また、わが国の人口高齢化の現象とその要因とは何か。人口高齢化の地域的偏在とそこに生起する問題とは何か。</p>
<p>第5～6週 高齢者と家族、老親子の居住形態</p> <p>戦後、イニ制度の廃止により、これまで社会的に承認されてきた子が老親を扶養するという規範が弱体化し、老親と既婚子との生活の結合が徐々に分離してきている。その具体的様相はどのような状況なのか。</p>
<p>第7～8週 ライフ・サイクル、家族周期と老年期</p> <p>人間一人ひとりの一生は生物学的な加齢によって規定されるとともに、年齢に結びついた役割と出来事によってつくられる。出生から死亡に至るライフ・サイクルの過程は、戦前と戦後でどのように変化し、それが高齢者の生きかたにどのように影響しているのだろうか。</p>
<p>第9～10週 高齢者と生計</p> <p>高齢者の生計をとりまく経済状況はどのような状況か。高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯の消費水準、高齢者世帯の消費構造、高齢者の資産・負債などについて。</p>
<p>第11～12週 高齢者と就業・雇用、定年退職</p> <p>人口の高齢化に伴い、労働力人口も急速に高齢化し、わが国の経済社会の動向にも大きな影響を及ぼしている。高齢者の就業意向とその現実、高年齢雇用対策やシルバー人材センターの状況などについて。</p>
<p>第13～14週 高齢者と住宅環境</p> <p>住宅は高齢者にとって安全で健康な生活を支える道具として機能しなければならない。住宅水準の状況、特に首都圏の状況と高齢者の住宅対策、居住環境、福祉のまちづくりなどについて。</p>
<p>第15～16週 高齢者と生涯学習、社会参加</p> <p>高齢期を快活に生きるためには、趣味や生きがいをもち、仲間づくりや地域社会における役割分担ができるという状況が必要である。これらの能力や資質は、若・中年期からの学習や社会参加によって身につくものであるが、その実状と対応策について。</p>
<p>第17～18週 高齢者と保健・医療</p> <p>死亡率、有病者率、受療率、国民医療費の動向はどのような状況なのか。また、健やかに老いるために、従来、老人福祉対策等の一環として行われてきた老人保健医療対策と成人保健対策を一元化した老人保健法とはどのような対策なのか。</p>
<p>第19～20週 高齢者と在宅福祉</p> <p>本格的な高齢化社会を向かえ、みじかな市区町村による福祉サービスの時代が到来しつつある。平成2年にスタートし在宅福祉10箇年計画をかかげたゴールドプランはどのような計画か。また、ホームヘルパー、ショートステイサービス、デイサービスの現在の水準と将来の達成度などについて。</p>
<p>第21～22週 高齢者と施設福祉</p> <p>在宅福祉とならんで施設福祉は、高齢者保健福祉推進10箇年戦略により、飛躍的に発展している。特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、ケア付き集合住宅などの整備状況とその推移などについて。</p>
<p>第23～24週 高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出</p> <p>老後生活を送るうえで、経済的基盤の中心となるのは年金である。年金は大別すると公的年金、企業年金、個人年金に分けられる。そのうち、老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。</p>
<p>第25週～ 諸外国の高齢者対策</p> <p>福祉先進国といわれるスウェーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。</p>

科目名	経済原論	担当者名	高橋 房二
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>本講においては経済原論としてオーソドックスな現代理論におけるマイクロ経済学の基礎の体系的な講義を行なう。ここで取り扱われる授業内容は経営学科の学生にとっていずれも重要であり、不可欠のものである。この講義は徹視的経済理論に関する大学専門課程の学生としての学力の育成と充実を目標とする。</p>		
講義概要	<p>本年はマイクロ経済理論に統一して講義を行なう。経済主体として消費者と企業者のそれぞれの合理的経済行動が対象とされる。その場合、いずれの経済主体もある条件のもとで最適化行動を行なうものとして議論される。まず、家計、あるいは消費者の行動に関する分析として消費における重要な基本概念や無差別曲線理論が講述され、そしてその応用が種々展開される。ついで、需要に関連する概念と需要理論が上記の議論の延長として取り扱われる。つぎの段階として、企業者行動の理論分析のため、生産と費用に関する必須の事項が講義される。その基礎のうえに立って、完全競争、独占における短期と長期の均衡を取り扱う。さらに、独占的競争や複占に関する問題がとりあげられる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴァリアン『マイクロ経済分析』勁草書房 ・マランポー『マイクロ経済理論講義』創文社 ・Gould & Lazear, Microeconomic Theory, Irvin. ・西村和雄『マイクロ経済学』東洋経済新報社 <p>他</p>	
評価方法	定期試験、ミニテスト、および出席状況		
受講者に対する要望など	出席を十分留意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の主な内容と授業展開の概要と学習上の留意点の説明。 消費者行動の理論 (I) 効用、効用指標、選好、効用曲面、限界効用、無差別曲線とその性質
2	消費者行動の理論 (I) 限界代替率 (MRS)、商品空間、予算空間、効用極大化、消費の均衡
3	需要の理論 (I) 価格変化、価格消費曲線、需要曲線、需要法則、需要の価格弾力性
4	需要の理論 (II) 貨幣所得の変化、正常財と劣等財、所得消費曲線、需要の所得弾力性
5	消費者需要の問題 (I) 代替効果、所得効果、全部効果 (正常財と劣等財の各ケース)
6	消費者需要の問題 (II) 代替と補完、代替財、補完財、価格交差弾力性等
7	無差別曲線理論の応用 所得と余暇のトレードオフ、消費者・雇用者均衡、異時点間における消費と貯蓄の決定、オーバータイムの問題等
8	市場需要 (I) 需要の決定因、個別需要から市場需要、需要の価格弾力性、点弾力性
9	市場需要 (II) 総収入、限界収入、需要の価格弾力性と総収入
10	生産の理論 (I) 固定的投入と可変的投入、短期と長期の概念、生産関数 (1要素の場合)、総生産物、平均生産物、限界生産物、限界生産物逡減の法則
11	生産の理論 (II) 固定比率と可変比率、生産関数 (2要素の場合)、規模に関する収益不変、収益逡増、および収益逡減、生産曲面、生産物等量曲線。
12	生産の理論 (III) 生産物等量曲線の性質、技術的限界代替率、生産物空間と費用空間
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	生産の理論 (IV) 所与の費用のもので産出を極大にする最適投入結合、生産設備の長期的適応過程、拡張経路、産出効果と代替効果
2	費用の理論 (I) 費用、機会費用、短期の総費用、可変費用、平均費用、および限界費用、短期の総費用曲線、平均費用曲線、および限界費用曲線
3	費用の理論 (II) 長期の総費用、平均費用、および限界費用、費用からみた工場規模の選択、長期平均費用曲線、長期限界費用曲線、規模の経済と不経済
4	完全競争市場における価格理論 (I) 完全競争、完全競争のもとにおける企業の短期均衡、短期における生産の停止等
5	完全競争市場における価格理論 (II) 短期の供給曲線、既存企業の長期均衡、産業の長期的調整過程
6	純粋独占下における均衡 (I) 独占、独占の要因、総収入、限界収入、総費用、限界費用、独占下における短期均衡、(1)総収入と総費用による接近
7	純粋独占下における均衡 (II) 前週につづいて、(2)限界収入と限界費用による接近、独占価格、独占利潤、多工場独占、短期の独占供給
8	純粋独占下における均衡 (III) 独占下における長期均衡、単一工場独占における長期的調整
9	独占理論の特殊問題 価格差別化、双方独占
10	独占的競争の理論 生産物差別化、独占的競争下の短期均衡と長期均衡
11	寡占の理論 (I) 寡占、寡占市場、複占
12	寡占の理論 (II) 複占についての若干のモデル、寡占市場の安定性
備考	

科目名	経済原論	担当者名	西村 允克
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>市場経済は1つの組織である。それゆえ経済学は市場経済という組織を理解することを目的とする。組織が永続的に機能するのは、そこになんらかの秩序原理が存在するからである。経済学はこの秩序を市場均衡理論によって把握説明する。それゆえ、市場均衡のメカニズムを学習することが前期の目標となる。しかし現実経済は市場均衡状態にあるわけではない。現実経済が市場均衡乖離しているとき、現実経済はどう進むか、すなわち変動と成長の過程が後期の主要目標となる。</p>	
講義概要	<p>予定の1～2は、経済学を学ぶための基礎となることを集中的に学習する。以下の講義はこれに基づいて進行するから、常に講義の進行にともなって参照する必要がある。</p> <p>3～4はGDP（国内総生産）の定義をもとにマクロ経済変数の関係を述べる。5～7は具体的な関数を説明することによって、関数の意味とその利用方法を完全に学習する。</p> <p>8～12では、経済理論の中心となる市場均衡理論を学習することによって、主要な経済問題を考える論理システムを学習する。13～24は市場均衡理論を財市場から貨幣市場へ拡大し、より現実的な経済問題理解のための基礎を整えることにある。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・中谷 巖著 『入門マクロ経済学』 日本評論社</p>
	参考文献	<p>・幸村千佳良著 『経済学事始』 多賀出版</p> <p>・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多賀出版</p>
評価方法	<p>前期と後期の2回の定期試験の結果による。試験は講義をいかに理解したかをテストするのであるから、講義中に注意した点を必ず答案に反映することが必要である。</p>	
受講者に対する要望など	<p>学習効果を上げるには、日々の学修が必要である。講義はそれまでの講義を基礎に展開されるから、絶えずそれまでの講義内容を反復学習することを望む。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学を学ぶための基礎 (I) 経済主体、経済活動、経済資源、財と用役 (サービス)、資産 (実物資産と金融資産)
2	経済学を学ぶための基礎 (II) 分析ツール 関数と曲線、図の読み方、市場 (完全競争市場、独占的競争市場)
3	国民経済計算 (I) 付加価値額、国内総生産、国内総支出、国民所得、内需と外需、グロストネット
4	国民経済計算 物価指数 (デフレーター)、名目値と実質値、経済成長率
5	生産関数 産出量と投入量、限界生産力、規模の経済
6	消費関数 (I) 限界消費性向と限界貯蓄性向、両者の関係、平均消費性向と平均貯蓄性向、両者の関係
7	消費関数 (II) 長期消費関数
8	価格決定理論 (I) 価格の決定と変動の理論、完全競争市場における価格決定、独占市場における価格決定
9	価格決定理論 (II) 消費税率を上げると価格はどうかなど価格決定理論の応用問題
10	国民所得決定理論 (I) 貿易がない場合の国民所得決定理論
11	国民所得決定理論 (II) 乗数理論、財政々策の効果
12	前期のまとめ 前期の講義内容を体系的にまとめ、それぞれの相互関係を明らかにする
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	貨幣市場について マネー・サプライとその決定因、金融政策——公定割引歩合、公開市場操作、予金準備率
2	貨幣需要量について 所得動機による貨幣需要、投機的動機による貨幣需要
3	IS=LM 分析 (I) IS 曲線の導出、LM 曲線の導出、国民所得と利子率の同時決定のメカニズム
4	IS=LM 分析 (II) 財政々策と金融政策の効果の分析
5	失業とインフレーション 自然失業率、スィリップス曲線
6	景気変動 キッチン波動、ジュグラール波動、コンドラチェフ波動
7	経済学成長論 (I) 経済成長率、限界資本係数と貯蓄性向の関係
8	経済学成長論 (II)
9	国際マクロ経済理論 (I) 外国貿易乗数、外国為替相場 (固定相場と変動相場制)、国際収支 (貿易収支、経常収支、資本収支)
10	国際マクロ経済理論 (II)
11	総供給・総需要分析 総供給曲線の導出、総需要曲線の導出
12	まとめ 経済学理論のより高度な学習にむけての注意と一年間の講義内容のまとめ
備考	

科目名	経営英語	担当者名	本田浩邦
-----	------	------	------

講義の目標	現代企業にかかわるいくつかの話題をとりあげ、比較的短い論文、雑誌記事をできるだけ多く輪読し、全体でディスカッションする。英語文献の基本的な読解力と、基礎的なテクニカル・タームの修得を目標とする。		
講義概要	企業行動、労資関係、消費者行動の3つの領域にかんする話題を、論文、雑誌記事を読みながらみんなで考える。 受講者全体が興味をもてるように内容を組み立てていきたい。		
使用教材	テキスト	右の Reading List にしたがって必要箇所をコピーし、適宜配布する。	
	参考文献	<p>推薦辞書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『新英和大辞典（第5版）』研究社 ・長谷川啓之『経済用語辞典』富士書房 ・『最新英語情報辞典』小学館 	
評価方法	平常点、出席および試験の結果による。		
受講者に対する要望など	基礎知識がある方が望ましいが、それ以上に意欲的に参加することを希望する。無断欠席をするものや欠席の頻繁なものには単位を認めない。		

年 間 講 義 予 定

READING LIST

- [1] Milton Friedman, "The Social Responsibility of Business Is to Increase Its Profits," *The New York Times Magazine* (September 13, 1970)
- [2] Christopher D. Stone, "Corporate Accountability in Law and Morals," in Oliver F. Williams and John W. Houck ed., *The Judeo-Christian Vision and the Modern Corporation* (University of Notre Dame Press, 1982)
- [3] Several Articles from Philip Arestis and Malcolm Sawyer ed., *The Elgar Companion to Radical Political Economy*, Edward Elgar Publishing Limited, 1994)

科目名	近代経済学 (済旧) 理論経済学 (済旧旧)	担当者名	小林 進
-----	---------------------------	------	------

講義の目標	<p>受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のレベルにはかなりのばらつきがあるので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れて多くの受講者が理解できるようにする。参考書については（原則として本学図書館にあるものを）必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。</p>		
講義概要	<p>経済学（必修）及び経済原論Ⅰをすでに学習した受講生を対象にしてミクロ経済学を中心に講義し、最後にマクロ経済学の特にオープンモデルへの展開についても触れる。最初の講義でアダム・スミスからケインズまでの簡単な経済学の歴史について述べ、市場経済の歴史的役割を簡潔に説明する。</p>		
使用教材	テキスト	テキストなし	
	参考文献	講義中に指示する	
評価方法	前期と後期の二回の試験によって評価する		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

1. ミクロ経済学

消費者は効用関数を最大にするように行動する。

効用関数 $U = U(X, Y)$ の定義とその性質

(辞書的順序の場合には効用関数が存在しないことに触れる)

無差別曲線と予算線の接点 $\rightarrow MRS = P_x/P_y$

予算線 \rightarrow 所得はすべて消費する、もし貯蓄を経済的合理性から説明するならば二期間モデルが必要である。

所得効果と代替効果

(この概念の理解が重要であることを強調する)

労働の供給曲線の導出、代替効果が支配的となきの賃金率と供給量の関係

不労所得がある場合の労働供給曲線

失業保険と労働供給曲線

二期間モデルと貯蓄、現在割引価値の概念、利子率と貯蓄の関係

効率賃金理論

需要の価格弾力性 e と支出額 Z の関係

$$\frac{dZ}{dP} = x(1-e) \quad (x \text{ は数量を示す})$$

この関係のJカーブ効果への応用

競争市場の企業の最適化行動 $P = MC$

完全競争の成立条件

ワルラス的安定条件

総余剰分析 (消費者余剰 + 生産者余剰) と完全競争の最適性

応用として生鮮米米価の問題

パレート最適

ボックスダイアグラムと契約曲線

生産可能性曲線

供給独占者の最適化行動 $MR = MC$

$$MR = P \left[1 - \frac{1}{e} \right]$$

ラーナーの独占度 $1/e$

二つの分離した市場に直面した独占者 $MR_1 = MR_2$ より $e_1 > e_2$ ならば $P_1 < P_2$ (需要の価格弾力性の高い市場のほうに低い価格をつける)

その応用として映画の学生割引の経済的意味

カルテル (価格協定)

独占と余剰分析

独占の規制 \rightarrow 上限価格の設定

寡占と屈折需要曲線

ゲームの理論、ミニマックス原理、ゼロサムゲームの解

囚人のディレンマ、ナッシュ均衡

市場の失敗、①収獲過増 ②外部性 ③公共財 ④不確実性

マクロ経済学

市場の不完全性とケインズ経済学、有効需要の原理

$$Y = C + I + G + X - Q$$

限界消費性向 c 、限界租税性向 t 、限界輸入性向 m

$$\text{そのときの乗数} = \frac{1}{1 - c(1-t) + m}$$

$$\text{貯蓄と投資の関係式: } (X - Q) = (S - I) + (T - G)$$

IS・LM分析と国際経済学

経常収支は為替レート π と国民所得 Y に依存

資本収支は国際間の利子率格差に依存

国際収支の均衡 \rightarrow 経常収支 + 資本収支 = 0

これが不均衡のとき、たとえば赤字ならばドルの流出 (貨幣量の減少)。

資本移動が完全ならば、世界的に利子率は一価となる (このときの経済政策は、金融政策が有効で財政政策は無効)。

科目名	計量経済学	担当者名	小尾 恵一郎
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>計量経済学は経済の法則を数量的にとらえようとする実証科学である。経済法則とは何か、それはなぜ大切か。実証するとはどういうことか。それがなぜ大切か。経済法則をどうやってとらえるのか。法則には大切な真の法則と、一見法則のようにみえながらそうではないみせかけの法則が区別される。そのちがいはどういう点にあるか。真の法則をどうやってとらえるか。そのためにはどういう注意が必要か。経済法則をとらえることは、経済政策にどう大切なことか。法則は確率的にとらえることが大切だが、まず統計的方法についての基本的準備を学んでおく。</p>		
講義概要	<p>計量経済学やその方法は、おぼえるだけでなく、考えることがもっとも大切。経済の法則についてそれを実証する基本的な方法や考え方、その大切な理由を考えることが必要である。数学や計算結果そのものになれるのではなく、計量的経済研究の意義など考えることが一層大切である。</p>		
使用教材	テキスト	小尾『計量経済学入門』叢書・現代経済学入門10（日本評論社）	
	参考文献	適時必要に応じてコピーを配布することもある。	
評価方法	<p>経済の法則をただ技術的におぼえるというのではなく、実証とはどういうものかをよく考えること。実証が大切である理由を考えていること。これらの点が学習成果の評価のうえで重視される。</p>		
受講者に対する要望など	上記目標、概要にのべた通り。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済法則を掘りおこすこと
2	みせかけの法則
3	真の法則
4	法則をとらえる手続き
5	実証するとはどういうことか
6	データの発生するしくみを考える
7	確率的な法則をとらえることが大切である理由
8	法則が安定しているとはどういうことか
9	確率的なモデル（経済現象・その他の諸現象の生まれるしくみ）
10	確率的なモデルに三種あることを学ぶ
11	統計的な分析方法について補足して学ぶ
12	上のつづき。週の配分はさらにくわしくは適宜調整することがある。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	経済変動論	担当者名	松本正信
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形式学派・新古典派などの諸説を年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみると、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第2の目標としたい。</p>		
講義概要	<p>詳しくは年間講義予定（後述）を御覧あれ。</p> <p>はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。</p>		
使用教材	テキスト	私の「講義ノート」による。	
	参考文献	講義の都度、指示する。	
評価方法	後期定期試験によって評価する		
受講者に対する要望など	<p>最近の景気変動にも言及するし、また諸説の理論を聴講する上にも大事なことであるから、このところの現実の経済の動きにも日頃関心をもつことを要望します。</p>		

年 間 講 義 予 定

以下の講義内容を年間を通じて行なう。

「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説を中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。

序論 経済変動論の現代的課題

- 1 はじめに——現代の経済成長と景気循環
 - 2 経済変動の歴史的素描
産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題
 - 3 経済変動の諸要因：その学説史的素描
資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動態的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞論
 - 4 ケインズ経済思想とニュー・デール、The Great Depression, New-Deal; New-Economics、修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理貨幣制へ、WTO体制と自由貿易
 - 5 経済変動要因の理論的類別
 - 6 有効需要拡大の「拡大」解釈——グローバル化——
- I 均衡成長とその不安定性論
- 1 経済成長の不可避的要素と必要性
古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミスの市民社会の定常状態、シュンペーター的動態経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意義
 - 2 ハロッド・ドマーの均衡成長理論
 - 3 独立投資と誘発投資
 - 4 外生要因と内生要因
- II 景気循環のメカニズム
- 1 定常状態の経済
 - 2 新投資の循環（更新投資循環）
 - 3 在庫投資の循環
 - 4 ヒックスの景気循環モデル
 - 5 カレッキーの景気循環論
 - 6 カルドアの景気循環論
 - 7 景気変動への安定化要因
 - 8 景気循環論の類型と循環の局面
 - 9 景気循環と経済諸変量
 - 10 景気の転換点と景気動向指数
- III 経済成長と景気循環
- 1 成長経済における「定型化された事実」
 - 2 新古典派成長理論の登場
 - 3 新古典派の経済成長理論
 - 4 技術進歩と資本蓄積（技術移転と資本移動）
- IV 現代景気循環論（付論）
- 1 現代ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派
 - 2 経済成長軌道は安定か不安定か
 - 3 現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題
 - 4 これからの景気循環への展望

科目名	経済学史	担当者名	鈴木 勇
-----	------	------	------

講義の目標・概要	<p>この講義では、「価値論の史的考察」を中心テーマに、労働価値論と効用価値論の二大思潮を、古代および中世の経済理論にまで遡って考察する。講義の目標は、マルクス労働価値論の批判とその再検討にある。したがって講義では、一先ず、19世紀後半の資本主義の拡大発展期までの時期を研究の対象範囲として限定し、この期間に成立した主要な経済理論を取り上げて考察する予定である。過去の知的努力がどのように受け継がれ、そのときどきの経済的現象をどう解釈し、どのようにそれと係わり合い、影響してきたかを知ることは現在を知るうえで重要な意味をもつ。特に、社会主義の崩壊という歴史的な転換期に立つ現代世界を洞察し、未来社会を展望するためには、原点に立ち返り歴史の大きな流れの中で現代を促える必要がある。その意味では、この講義で取り扱う対象は古くても受講者の知的関心は現代の問題にも向けられねばならない。講義では、このような観点から経済学史を考えていきたいと思っている。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・（前期）鈴木勇『経済学前史と価値論的要素』学文社、1991年 ・（後期）鈴木勇『資本主義の発展と経済理論』新評論、1977年 	
	参考文献	その都度指示する。	
評価方法	評価は定期試験の成績をもって行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の目標と概要について
2	アリストテレスの経済学
3	聖トマス・アキナスの経済学とスコラ学者の価値論
4	近世への転換：資本主義の興隆と宗教改革
5	ヘイルズの王室重商主義論
6	マンの貿易差額論と国富増進論
7	ベティの財政論と価値論
8	ロックの所有論と利子論
9	16-17世紀の効用説……自然法哲学者と経験主義者
10	カンティロンの経済学と価値論
11	ステュアートの重商主義論
12	ケネーの重農主義論
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イギリス産業革命と経済社会の変化
2	スミスの道徳哲学体系
3	スミスの経済学と価値論
4	産業革命期の経済学(1)
5	同 上 (2)
6	ヘーゲルとマルクスの市民社会観(1)
7	同 上 (2)
8	マルクスの労働価値論と資本主義崩壊の論理(1)
9	同 上 (2)
10	同 上 (3)
11	メンガーの限界効用説
12	まとめ
備考	

科 目 名	経済社会学 (済旧) 経済原論Ⅱ (済旧旧)	担当者名	高 橋 善四郎
-------	---------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>経済社会学は、経済学と社会学の両サイドから乗り入れた、学際的学問である。経済学はもともと、古典学派において「政治経済学」と呼ばれていたように、今日の純粹に経済的側面を学問の対象としたものではない。貨幣的現象の背後に社会を問う、経済社会学の視点は、法社会学、体制論、経済哲学、社会と経済（近代化論を含む）、経済文化論、福祉社会論、女性論などから、雑々であり、統一された視点というものはない。ただ、漠然としているが、『近代』とその限界の認識を問うことにおいて、共通した心情を見出せるように思う。</p>	
講 義 概 要	<p>——ウェーバーとマルクス——この講義は、経済原論から移行したことごとくもあって、しばらくはそのまま体制思想の形を継承するつもりである。二人の偉大な近代資本主義の認識は、二つの明確なそして対立する方法論と資本主義観を提示することにおいて、それぞれの、政治、思想、諸科学に及ぼしている、影響は極めて大きい。前期では、初期マルクスの文献を通じて唯物史観と『資本論』第一巻の資本主義観とを講義する。後期では、マックス・ウェーバーの社会科学論と経済倫理（「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」など）を講義する。</p> <p>講義は、原典解説を通じて、一つの思想像を形成することを目指す。</p>	
使 用 教 材	テキスト	講義資料を配布する。
	参 考 文 献	
評 価 方 法	<p>期末試験と出席を評価する。</p>	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のガイダンス
2	カール・マルクス
3	ヘーゲル批判と「ドイツイデオロギー」
4	
5	
6	「経済学哲学草稿」
7	
8	
9	「経済学批判」序論
10	「資本論」 (商品、貨幣、資本、そして剰余価値)
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マックス・ウェーバー
2	「職業としての学問」
3	
4	「社会科学の価値自由性の意味」
5	
6	「社会科学的認識における『客観性』」
7	
8	「職業としての政治」
9	経済倫理——「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」
10	
11	試験について——予備
12	試験について——予備
備考	

科目名	社会科学概論（済旧） 社会科学方法論（済旧旧）	担当者名	宮澤 清
-----	----------------------------	------	------

講義の目標		
講義概要	<p>誕生期経済学の思想的基盤となったのは、「自然法理論」と「自然秩序」の思想である。ここでは、存在と当為が、現実と価値が直接にかつ論証も経ないで同一視された。19世紀末葉の「限界革命」と呼ばれる経済学は、経済現象を専ら個人の主観的な行為にまで遡って分析する。そこでは、現実と価値、事実と当為が峻別されるという論理が働いている。ケインズの『一般理論』は現実に直面している経済現象を病理現象であるとみなし、その病気についての診断と治療を提示した点にその特徴がある。人間の経済学は、経済学に人間性を賦与し、人間の優位を確立し、人間らしく生きるための批判的精神と何ごとも論議によって解決することを基本信条とする批判的経験主義を保持するということである。</p>	
使用教材	テキスト	・拙著『社会科学方法論』白桃書房
	参考文献	
評価方法	期末テストによる。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	序論：社会科学としての経済学成立の基盤となったのは、近代自然法論と近代自然科学理論であるが、それにもまして重要なのは、それまでの自然法哲学である。それは歴史のなかで永劫回帰するものだからである。
2	ピュシスとノモス：自然法の観念はギリシャ哲学に溯るが、ピュシスとノモスとの最初の理論上の対置は、ギリシャ自然学に見出される。その対置はソフィストに用いられ、プロタゴラスによって実践的に唱えられた。
3	形相理論：プラトンにおいては、ピュシスは「イデア」と同じ意味で用いられ、事物そのものの本質を意味した。その本質基準にもとづいて真と偽との、実在と現象との、エピステーメとドクサとの対立が明示された。
4	目的原理：アリストテレスにおいても、形相は事物の本質であるが、個物に対して超越的ではなく内在的である点でプラトンと異なる。その形相は、質料と結びついて事物に内在し、潜在態から顕在態へと展開する。
5	ロゴス：自然法を最初に理論化したのはストア学派である。創始者ゼノンは、万有を貫く旋は「ロゴス（理性、理法）またはピュシス（自然）に従って生きよ」ということであると唱え、感覚に対して理性を重視した。
6	ストア的理性：キケロやセネカは、法の基礎はドクサ（臆見）ではなくピュシス（自然）であり、理性によって認識されるという。ここに、理性によって平和を保持するというストアの自我を重んずる精神がみられる。
7	純粹形相：トマス自然法論は、アリストテレスの目的論的自然観をその哲学的支柱として、宇宙の目的論的秩序の頂点に自ら動くこともなく、一切の世界生起の元となる純粹形相としての不動の神が存在すると説く。
8	形相→質料：近代になると、ガリレオやデカルトによって自然の概念は一変し、形相が質料にとってかえられ、新たな自然認識の方法が確立された。なかでも、数理的手法を認識のモデルとしたのはニュートンであった。
9	自然権：ホッブズの哲学は機械論的社会観である。そこでは各人が己の欲するままにその力を用いる自由が自然権と規定され、それをコントロールするために理性によって人為的に作り出された戒律が自然法とされた。
10	自然的自由：ロックは、この世に地上のんびとを裁く絶対的な権威をもつ者がたとえいなくとも、理性によって、人びとの生活が互いに自由であり、平等であり、人びとの生命や財産も尊重される権利を自然権とする。
11	コンベンション：ヒュームは、ホッブズにならって「人間の本性は利己心である」とし、この利己心を抑える便宜的な取決めをコンベンションと呼び、これによって成立する社会の基本的ルールが自然法であるとした。
12	自然的秩序：誕生期における経済学の思想的基盤は自然法哲学である。この概念にもとづいてケナーが経済学に援用したのは、重農学派の哲学的基礎としての自然法であり、普遍の法則概念としての自然的秩序である。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	自然的自由：アダム・スミスが経済学の基礎に据えたのは、自然的秩序と自然的自由の概念であり、利益の自然調和の理論である。この理論で看過しえないのは、ニュートン力学とライプニッツの神の予定調和である。
2	自然価格：スミスが重視したのは、価値の最善の尺度としての労働と規範としての自然価格である。労働はピューリタンの禁欲主義的なエートスの反映であり、自然価格はその属性が自然法思想の一つの顕在態である。
3	限界革命：19世紀後半における経済学近代化の動きは「限界革命」と呼ばれる。その理論は、古典派になかった限界分析や一般均衡の分析という二つの新しい理論を生み出したという思想上の革命であったからである。
4	目的と手段：ワルラスの一般均衡理論とパレートの無差別曲線の理論は、ともにマックス・ウェーバーの没価値性の理論と同じように目的と手段との関係の論理によって規定される合理的行動の論理によって貫かれている。
5	関数概念：19世紀後半以降の経済学は、マッハの「要素一元論」とカントラーの「実体概念と機能概念」において端的に示される。彼らが試みたのは、実体（因果）から機能（関数）への移行の重視ということである。
6	名目論：新古典派経済学は方法論的個体主義である。そこでは「経済人」の仮定が本質的なものから名目論的なものにとってかえられたからである。ジェヴォンズ、メンガー、ワルラスの理論がそれを巧みに論証している。
7	ケインズ革命：ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』がケインズ革命と呼ばれるのは、アダム・スミスの「見えざる手」の論理にもとづいて展開された経済学を排して不況を克服する理論であったからである。
8	自然と人間：カール・ポランニーが提起したのは、人間の経済学を主題としての、「経済的」という言葉の形式的な意味から実質的な意味への再認識ということであった。その意味とは、自然と人間との共存のことである。
9	人間の経済学：現実のさまざまな「危機」を克服し、経済学および社会科学に人間性を賦与するには、経済学および社会科学が人間を出発点とする方法論、つまり方法論的人間主義にもとづくものでなければならない。
10	認識の客観性：この講義で最も重要なのは、社会科学における認識の客観性についての問題である。そこでのポイント、科学は認識の作用であり、その任務は、支配ではなく説明であり、世界を記述することである。
11	方法：社会科学でいう「方法」とは、社会ないし歴史における技法ではなく、科学的知識が知識として受け入れられるための論理的根拠を問うという意味であるから、いかなる科学も、その方法は、原理上同じである。
12	同質性：社会科学と自然科学を質的な違いとしてではなく程度の違いとして連続的にとらえることによって、自然科学と同じ範疇の客観性（論理による批判と経験による批判）が社会科学においても可能となるのである。
備考	

科目名	経済哲学	担当者名	高橋善四郎
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>経済哲学の学問的動機は、社会科学としての経済学の世界像の根底にある人間存在の基盤を哲学的に問い直そうとするところから生まれてくる。またその時代の経済社会、経済体制の中で生きる人間の人生の意味を問う姿勢からも与えられるであろう。そこから、その時代の思想的状況の中で、経済哲学は、人間的限界状況の認識に迫ろうとするであろう。従って、人間存在の基盤を問う認識論は避け難い課題であるが、経済学説史、経済政策論、体制論へも浸透していくことにもなる。さらに、自然環境、生活環境も思惟の射程の中に捉えてよい筈である。</p>	
講義概要	<p>この講義は、経済哲学を『自由の哲学』として主張する。19世紀から20世紀におよぶ思想的脅威を、「理性の倨傲」として咎めながら、「理性のinfallibility（誤り得ないこと）の否定」に立脚した、自由の思想を探究する。J・S・ミルの自由と功利、F・A・ハイエクの自由論、カール・ヤスパースの実存哲学を自由の哲学として証明しようとするのが、研究（従って、講義）の目的であるが、今は、ミルの講義を終えた後で、ヤスパースの『哲学入門』を利用して、実存哲学を語ることにする。ハイエクはしばらく見合せたい。J・S・ミルは、最近欧米で読み直されており、ここでは彼の人生の最後の二つの文献、「自由論」と「功利主義」を目標として、一つの思想像として探究しようとする。</p>	
使用教材	テキスト	講義資料を配布する。
	参考文献	<p><J・S・ミル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朱牟田夏雄訳『ミル自伝』岩波文庫 ・塩尻公明、木村健康訳『自由論』岩波文庫 ・世界の名著 38 「ベンサムとJ・S・ミル」 中央公論社 <p><K・ヤスパース></p> <ul style="list-style-type: none"> ・林田新二訳『哲学とは何か』白水社
評価方法	<p>期末試験と出席を評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のガイダンス
2	J・S・ミル
3	「自伝」より
4	
5	
6	「経済学原理」より
7	
8	「自由論」(1～4章)
9	
10	
11	(5章)
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「功利主義」(1～4章)
2	
3	(5章)
4	
5	カール・ヤスパース
6	「哲学入門」
7	
8	
9	
10	
11	試験について——予備
12	試験について——予備
備考	

科目名	日本社会史 (済田)	担当者名	新井孝重
-----	------------	------	------

講義の目標	11・12世紀から16世紀にいたる中世の全時代を通して、日本社会の基本構造、とくに土地をめぐる経済システムを観察する。		
講義概要	<p>平安時代の後期の土地制度の構造に決定的な影響を与えたのは、この時期にみられた広汎な耕地開発、あるいは荒廃田の再開発であった。この開発が前提となって、「土地所有」をめぐる諸関係は、荘園制的な社会編成をおしすすめる。それは、「職」の重層構造と、地方的世界と都市的世界をつなぐ交通体系となってあらわれる。当然鎌倉期社会には、武士がいにも、農民ならびに分業・交通従事の諸階層のすがたが大きくクローズアップされることになる。14世紀後半以降の中世後期の時代、民衆の政治的力量的増大は、在地における自治団体＝惣村をうみ出す。この団体の結合原理を核とする農民の一揆運動は、国内統治を固めようとする戦国大名と矛盾する。大名は一揆を克服するなかで封建国家をつくる。</p>		
使用教材	テキスト	・戸田芳実『日本中世の民衆と領主』 校倉書房	
	参考文献		
評価方法	評価は、後期試験の成績をもっておこなう。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	律令制農村における富豪層の活動
2	平安時代の農村景観 河川の氾濫、自然堤防、畠作、堀内、片荒し農法
3	開墾と寄進、浪人招据え、労働編成、鹿子木荘
4	領主権の重層性、散在性、皇室領荘園、八条院領荘園群
5	「職」の秩序と百姓名編成、「職」とはなにか、「職」の秩序の特質、名主職なるもの
6	荘園領主経済の構造、都市貴族の経済生活を支える荘園制の交通・支配の体系
7	鎌倉幕府の成立と地頭設置
8	承久の乱と新補地頭
9	荘園農村の人びとの生活、非農業部門の生業、河川漁業、山の仕事、荘園の管理役人
10	百姓名の経営と負担Ⅰ、名の発生、名の本質
11	百姓名の経営と負担Ⅱ、黒田荘の66名体制、名体制の破たん
12	職人的武士と領主的武士、武士の存在形態、イエ、所領、武器
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	百姓の結合と在地領主の運動、阿氏川荘、百姓申状、太良荘
2	在地領主制の発展と封建制、辺境の領主、所領、在家、堀ノ内、惣領制、主従制
3	悪党と惣百姓Ⅰ、黒田荘、大江清定、観俊、金王兵衛盛俊
4	悪党と惣百姓Ⅱ、矢野荘、寺田法念、実長、起請文
5	南北朝内乱と農民生活、軍勢の通る村、美濃国大井荘、野伏、刈田、路次狼藉、北陸地方の事例
6	守護、国人と半済令、畿内国人の土地給与、戦争遂行の条件、兵糧確保
7	東寺領荘園群の消長、永原慶二の業績、網野善彦の業績、二人の見解の相違、内乱期理解のちがひ
8	中世の一揆Ⅰ（正長の士一揆）比叡山山徒と大津馬借の関係
9	中世の一揆Ⅱ（伊賀惣国一揆）地侍、農民、共同体、織田信長
10	中世の一揆Ⅲ（一向一揆、石山戦争）
11	大名領国制の展開、後北条氏の関東支配、支城、道路、常備軍
12	太閤検地、荘園制の終焉、石盛、石高、身分編成
備考	

科目名	西洋経済史	担当者名	御園生 眞
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>西ヨーロッパ（ロシアを含む）および北アメリカを対象地域として、資本主義経済の成立と発展の要因を考察する。これを基に、19世紀後半以降の資本主義世界体制の構造を解明する。必要に応じて非ヨーロッパ地域も対象地域に含めて分析をおこなう。</p>	
講義概要	<p>前期：イギリス資本主義の成長発展を中心に、資本主義経済の古典的モデルの特徴を考察する。具体的には、資本主義農業の成立、農村工業の発展、商業革命、絶対王政と市民革命、重商主義政策などをとりあげる。</p> <p>後期：イギリス産業革命を出発点として、その前提条件、特質、問題点などを分析する。同時に各国の対抗的産業革命（工業化）の特徴を考察する。これらを前提に、世界市場の成立、「大不況」期と資本主義の変容、資本主義世界体制の構造について講義する。</p>	
使用教材	テキスト	・石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田 實『新版 西洋経済史』有斐閣、1986年
	参考文献	最初の講義の時に指示する。
評価方法	出席および定期試験（前期後期の2回）の成績を基に評価する。	
受講者に対する要望など	事情により講義内容の予定が変更される場合がある。	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション。参考文献の紹介。
2	1. 資本主義経済の起点。(1)農業土地制度の変容。
3	1. 資本主義経済の起点。(1)農業土地制度の変容。(続)
4	1. 資本主義経済の起点。(2)大航海時代と商業革命。
5	1. 資本主義経済の起点。(2)大航海時代と商業革命。(続)
6	2. 資本主義経済の成立。(1)産業資本の形成。①農村工業の展開。
7	2. 資本主義経済の成立。(1)産業資本の形成。②イギリス毛織物工業の展開。
8	2. 資本主義経済の成立。(2)絶対王政と市民革命。
9	2. 資本主義経済の成立。(2)絶対王政と市民革命。(続)
10	2. 資本主義経済の成立。(3)重商主義政策。
11	2. 資本主義経済の成立。(3)重商主義政策。(続)
12	3. 産業革命と工業化社会。(1)産業革命前夜のイギリス経済。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	3. 産業革命と工業化社会。(2)イギリス産業革命。
2	3. 産業革命と工業化社会。(2)イギリス産業革命。(続)
3	3. 産業革命と工業化社会。(2)イギリス産業革命。(続)
4	3. 産業革命と工業化社会。(3)フランス産業革命。
5	3. 産業革命と工業化社会。(3)フランス産業革命。(続)
6	3. 産業革命と工業化社会。(4)ドイツ産業革命。
7	3. 産業革命と工業化社会。(4)ドイツ産業革命。(続)
8	3. 産業革命と工業化社会。(5)ロシアの工業化。
9	3. 産業革命と工業化社会。(6)アメリカ産業革命。
10	4. 世界市場の成立と構造。
11	5. 19世紀末の「大不況」と資本主義の変容。
12	6. 資本主義世界体制の構造。
備考	

科目名	東洋経済史	担当者名	田中正俊
-----	-------	------	------

講義の目標	中国における経済的社会構成体の歴史的継起の過程を、古代より近代にわたり、通史的に考察する。この考察を通じて、しばしば「アジア的停滞社会」といわれた中国社会に見られる、主体的な歴史発展の特殊・具体的な様相について明かにしたい。		
講義概要	講義においては、近代以前の中国経済の基本的産業である農業に即して、生産関係、土地所有関係、農村共同体、農村工業、商人資本、農民闘争、また列強資本主義の侵入と中国の《近代化》との関係などの諸問題が考察の対象となる。講義中のキーワードは、モンスーン地帯、旱地農法、氏族共同体、鑄鉄製農具、専制皇帝支配（デスポティズム）、国家的土地所有、均田制、律令制、藩鎮、荘園、兩税法、地主一佃戸制、水田開発、零細過小農的経営、農村共同体、里甲制、商品作物、一条鞭法、一田兩主制、郷紳地主、農村家内工業、客商資本（前期的商人資本）、問屋制前貸生産、抗租運動、西洋の衝撃、西欧資本主義、外商資本、半植民地的経済、民族資本、土地改革、などである。		
使用教材	テキスト	プリント（田中正俊『東アジアの経済発展—中国—』〔『経済学大辞典』第3巻、東洋経済新報社、1980年、所収〕）	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・田中正俊『中国近代経済史研究序説』東京大学出版会、1973年。 ・今井駿・久保田文次・田中正俊・野沢豊『中国現代史』山川出版社、1984年。 ・坂野正高・田中正俊・衛藤藩吉編『近代中国研究入門』東京大学出版会、1974年。 	
評価方法	評価は、前後期各1回の試験と授業への出席状況によって決定する。		
受講者に対する要望など	授業の前に、あらかじめテキストを予習しておくこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	東アジア・モンスーン地域の風土とアジア的農業社会について。
2	氏族共同体の構造とその解体について。
3	専制皇帝の登場とその中央集権的農民支配について。
4	東アジア古代帝国の成立と均田・律令体制について。
5	均田農民範疇の解体について。
6	封建的地主-佃戸制の成立について。
7	江南における水田稲作の開発と零細過小農経営および農村共同体について。
8	14世紀末以降の里甲制農村について。
9	郷紳的大土地所有とその社会的構造について。
10	農家家内工業の展開と農村手工業の成立について。
11	商人高利貸資本の利潤抽出構造について。
12	抗租奴変・民変について。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	啓蒙思想以降の西欧が見た中国社会経済論について。
2	イギリス東印度会社と広東貿易システムについて。
3	近代資本主義の世界経済循環構造と中国市場問題について。
4	「アジア社会停滞論」の発生について。
5	不平等条約体制下における中国経済の半植民地化について。
6	近代世界史のなかにおける日本の《近代化》と東アジアについて。
7	日清戦争=下関条約の世界史的意義について。
8	近代世界史のなかにおける中国社会経済の《近代化》について。
9	日中戦争-日中紡績戦争-について。
10	中国における土地改革について。
11	「アジア社会停滞論」のイデオロギー的崩壊について。
12	21世紀の東アジア経済発展への展望について。
備考	

科目名	産業組織論（済旧、旧旧）	担当者名	青木雅明
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>①現実の個別の産業を基礎統計、文章、実感によって認識できるようになってもらう。</p> <p>②現実の産業に基いて産業組織論の基本的考え方を理解してもらう。</p> <p>③産業組織論の視点から個別産業を評価し、必要な政策を考えられるようになってもらう。</p> <p>④現実の政策について産業組織論の視点から論評できるようになってもらう。</p> <p>⑤産業組織論のレポートをまとめられるようになってもらう。</p>				
講義概要	<p>産業組織論は産業に関する経済学の一つであるが、個別の産業を対象としてその内部を企業活動によって構成されたものとして分析する。その最終目的は、資源配分効率、生産効率、技術進歩などの各種の基準により、産業および企業活動を評価すること、また、それによって、改善の方策を提言することである。</p> <p>現在の産業組織は市場のはたらきを基本としているので、市場経済論を個々の産業に即して具体的に把握することが上記の中心テーマであると言い換えてもよい。</p> <p>前半は基本的、伝統的な考え方や分析手法を日本産業の実情に沿って講じ、後半は最近の発展分野について講ずる方針である。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房（予定） 各種の資料を必要に応じて配布する。 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・植草益『産業組織論』筑摩書房 ・西山稔・片山誠一編『現代産業組織論』有斐閣 その他については必要に応じて提示する。 </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房（予定） 各種の資料を必要に応じて配布する。 	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・植草益『産業組織論』筑摩書房 ・西山稔・片山誠一編『現代産業組織論』有斐閣 その他については必要に応じて提示する。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房（予定） 各種の資料を必要に応じて配布する。 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・植草益『産業組織論』筑摩書房 ・西山稔・片山誠一編『現代産業組織論』有斐閣 その他については必要に応じて提示する。 				
評価方法	<p>評価の前提は出席回数15回以上である（開始時刻20分以内到着）。基本的事項についての理解度テスト（筆記試験）の得点および選択テーマにおけるレポートの評点による。</p>				
受講者に対する要望など	<p>静かに講義を聞くこと。開始時刻に遅れないこと。現実の産業に関心を持つこと。常に明るい心を持つこと。軽い運動を続けること。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現実の産業のプロフィール①
2	現実の産業のプロフィール②
3	産業分類、商品分類、産業別生産額
4	市場、市場機構、市場経済
5	産業組織論の課題と方法
6	市場構造と市場集中①
7	市場構造と市場集中②
8	市場構造と製品差別
9	市場構造と参入障壁
10	市場行動としての価格設定
11	プライス・リーダーシップ、管理価格
12	市場行動としてのカルテル
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	企業統合と企業系列
2	資源配分効率からみた市場成果
3	日本における産業組織政策
4	産業組織論の発展型——①コンテストタビリティ
5	産業組織論の発展型——②市場支配力と動態的競争
6	産業組織論の発展型——③多角化
7	政府規制
8	規制緩和①
9	規制緩和②
10	技術革新と産業組織
11	技術革新と産業組織
12	結び
備考	

科目名	産業構造論	担当者名	山越 徳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化すること、またその変化がより一層の発展を促すことはよく知られた事実である。本講義ではそれら構造変化の主たる産業構造の変化を注視し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、これらを支える様々な経済構造、相互依存関係を考察し、かつての高度経済成長や重工業化の意味を考える。そして石油危機以降の構造変化、サービス化、ソフト化、情報化、国際化などの分析を通して、これまでの産業構造の捉え方や分析指標の意味とそれにとってかわるべき捉え方、指標を考察していく。</p>		
講義概要	<p>経済発展、経済成長に伴う産業構造および最近の経済の構造変化の実態とそこでの議論を一層身近なものにするため、各国の経済成長や産業構造の変化に関する実証分析や、短期間に後進国からトップクラスの先進工業国へと成長した、戦後の日本経済の事例を扱いながら、構造変化の意味を考察していく。またその際、産業構造および相互依存関係、技術構造等を分析する上で有効な手段の一つである投入-産出表についてその基本的考え方、内容、利用の仕方、実際の分析例など、実際の統計表を用いながらみていくことにする。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・宮沢健一著『産業の経済学（第2版）』東洋経済新報社 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・篠原三代平著『産業構造論』筑摩書房 第二版 経済学全集18 ・W. レオンチェフ著／新飯田宏訳『産業連関分析』東京大学出版会 <p>この他の参考書および各項目の参考書はその都度、講義の中で紹介する。</p>	
評価方法	<p>現実の経済発展、経済成長に伴う経済構造の変化への理解がどの程度深めたか、あるいは実際のデータからそれらをどの程度読みとることができるかなどについて、レポートならびに試験答案を通して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>経済成長、産業構造、各国の経済状況とくに日本経済の最近の動向や課題に関して、関心を持つとともにそれらについての文献等にできるだけ触れてほしい。</p>		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	産業および経済構造 産業の概念、生産構造、技術、商品、産業分類、産業社会、産業革命、経済構造の変化、工業化
2	経済発展、経済成長 経済成長とは、近代的経済発展、1人当り国民所得、労働生産性、産出規模、進歩と変化、高度化、多様化、進歩の指標
3	経済発展の構造 経済進歩の歴史過程、三部門分類、ペティの法則、AMS分類 産業と職業、農業の位置、労働力構成と所得構成、所得弾性 成長の弾定性、時系列とクロスセクション
4	
5	経済成長と産業構造の変化 経済成長と製造業、経済発展段階説、製造業内部の発展・構造変化 迂回生産、消費財と投資財、最終財と中間財、工業用原材料 生産規模と経済効率、雁行形態、輸入代替、重化学工業化 加工度、生産過程、分業構造
6	
7	
8	分析用具としての投入—産出表 投入—産出表とは、フローとストック、中間投入、中間需要 最終需要、付加価値、投入係数、産出係数、逆行列、逆行列係数 直接および間接波及、投入係数の固定性、中間投入構造と生産技術 U表とV表、商品ベースと企業ベース 感応度係数と影響度係数、前方連関と後方連関、相互依存関係 輸入と輸出、スカイライン分析
9	
10	
11	
12	投入—産出表による分析Ⅰ 構造変化の要因分析、投入係数変化の意味、技術変化
備考	

後期

週	主要テーマ
1	投入—産出表による分析Ⅱ 生産過程と素原材料系統、ブロック化、三角形化、経済の基本構造 資本マトリックス、雇用および産業職業マトリックス、 規模別I—O表、地域I—O表、国際I—O表、 公害I—O表、情報I—O表
2	
3	
4	産業構造の新しい方向 サービス化、ソフト化、情報化、国際化、多様化、高度化、複合化 財とサービス、有形財と無形財、家計内サービスの外部化、 構造変化の流れ、豊かさと進歩、構造変化の指標
5	
6	産業内部の構造変化——ケース・スタディ 3つのオートメーション、ロボットとコンピュータ、FAとOA 高度経済成長期の生産技術と'80年代の生産技術 生産技術とインフラストラクチャー、リストラクチャリング 事例：鉄鋼、電気、工作機、自動車、時計、印刷、銀行、商社など
7	
8	
9	構造変化と就業構造 労働力の需要と供給、人口構造、基幹労働力と縁辺労働力、 日本の労働市場、新規学卒労働力、雇用制度、雇用慣行、 労働力の属性（性、年齢、学歴、技能）、産業と職業、 構造変化と労働力移動、経済動向と雇用調整
10	
11	
12	日本の産業政策 経済政策、産業政策、労働政策の流れと結びつき
備考	

科目名	流通経済論	担当者名	西村 允克
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>流通とは、財・サービスが生産者から消費者へ移転する過程で、この移転過程を分析するための論理システムの理解と現実の流通経済の理解が、本講義の目的である。流通経済論は従来流通システムとして把握され、その視点から分析がなされているが、本講義では、流通は経済システムの中心的部分を占めるから、経済学的視点から流通を把握し、経済理論との関連において流通を理解することが、本講義の最も重要な目的である。</p>		
講義概要	<p>指定したテキストは「流通」に関する基本的資料であって、講義は資料集を土台として進められる。講義内容と資料集を照合することによって、講義内容の理解が進められる。出席には、資料集の持参が必要である。</p> <p>概要の詳細は「年間講義予定」を参照されたい。1～5は流通経済論を理解するための基礎的キーワードと基礎的論理システムの説明であり、6～9は経済理論が提供する流通経済分析のための分析ツールの説明である。10～21はそれまでの学習成果に基づいて、日本の流通業の変化発展の歴史的説明であり、22～24.全体としてのまとめと今後の展望である。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 鈴木安昭 関根孝 矢作敏行編『マテリアル 流通と商業』 有斐閣 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 日経流通新聞社編 『流通現代史』 日本経済新聞社 日経流通新聞社編 『流通経済の手引 95』 日本経済新聞社 (本書には、各年版があり、それぞれの年の流通問題、流通統計が説明されている) マクネア・メイ著 清水猛訳『小売の輪は廻る』 有斐閣 林 周二著 『流通』 日経文庫 	
評価方法	<p>前期はレポート、後期は試験</p>		
受講者に対する要望など	<p>流通現象は日々受講者の周囲で生起している現象であるから、講義内容を生活を通して追体験して理解を深められたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに 流通経済とは。その学び方。流通主体、流通費用と流通マージン。
2	流通の社会的役割と流通機構 (I) 流通の国民経済に占める地位。市場構造と流通チャネル。卸売業と小売業の国際比較、内外価格差
3	流通の社会的役割と流通機構 (II) さまざまな財の流通経路 (家電製品、アイスクリーム、清酒、ビール、化粧品、婦人服、米、青果物、食肉、家具)
4	市場と商流 商品取引所、決済手段。
5	物流と情報流 POS システム、JAN (バーコード)
6	消費者と流通 (I) 消費理論 (効用関数、限界効用、限界代替率、所得効果、代替効果。)
7	消費者と流通 (II) 家計の消費支出の構成とその変化。
8	生産者と流通 (I) プロダクト・ライフサイクル (PLC)、リポート、流通系列化。
9	生産者と流通 (II) 価格決定の問題
10	戦後流通史 (I) 戦後復興期の流通業 (経路統制と統制解除)
11	戦後流通史 (II) 高度成長期の流通業 (流通革命論)
12	戦後流通史 (III) 1970年代以後の流通業。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	小売業の構造 規模別、業態別、業種別、地域別、売上高ランキング。
2	小売業の諸形態 (I) 小売業はその業態をどのように変化してきたか。商店街
3	小売業の諸形態 (II) 百貨店、スーパー (GMS) スーパーマーケット
4	小売業の諸形態 (III) チェーンストア (ボランタリー、フランチャイズ)
5	卸売業 小売業の変化と卸売業。生産者の変化と卸売業 規模別卸売業の構造、卸売業の分類
6	流通に対する規制 (I) 大店舗法を中心として
7	流通に対する規制 (II) 消費者保護政策 独禁法と流通、不公正取引
8	資本・貿易の自由化と流通 (I) 資本と貿易の自由化がいかに日本の流通に変化を与えたか。
9	資本・貿易の自由化と流通 (II) 前回のつづき。
10	流通の新しい展開 1995年における流通の問題点と今後
11	流通と経済理論 (I) 以上の講義内容を経済理論の視点からまとめ
12	流通と経済理論 (II) 前回のつづき。
備考	

科 目 名	経済開発論	担当者名	千代浦 昌 道
-------	-------	------	---------

講義の目標	<p>経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるのかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p>		
講義概要	<p>前期は、経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。後期には、経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・W. エルカン（渡辺利夫、高梨和紘、小島 真、高橋 宏訳）『開発経済学（改訂5版）』1988年、文眞堂</p>	
	参考文献	<p>・総務庁統計局編『1995世界の統計』1995、大蔵省印刷局 ・西垣 昭、下村恭民『開発援助の経済学』1993、有斐閣 ・E.F. シューマッハー（小島慶三、酒井 懋訳）『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫、1986 ・早稲田大学世界経済研究会編『ポケット世界経済辞典』有斐閣新書、1989</p>	
評価方法	<p>前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済開発論の基礎的概念（経済開発の意味、経済開発論の学問的位置づけ、経済開発は望ましいか、絶対的貧困と相対的貧困、経済開発の尺度）
2	発展途上国の基本問題（発展途上国の分類、経済開発の自然条件、歴史的背景、貧困と所得分配、人口問題と扶養負担、失業と低雇用、産業構造、貿易構造と対外依存）
3	発展の非経済的側面 1（経済開発の政治的側面、経済開発の社会文化的要因、発展の社会学的把握）
4	発展の非経済的側面 2（家族単位と経済開発、階級構造、民族・人種と経済開発、宗教と経済開発）
5	発展の非経済的側面 3（開発と女性の役割、発展途上国の環境問題）
6	先進工業国経済開発の教訓 1（先進工業国の工業化とその波及、イギリスの工業化、フランスの工業化）
7	先進工業国経済開発の教訓 2（ドイツの工業化、アメリカの工業化、ロシアの工業化、日本の工業化）
8	人口と経済開発（人口問題への接近、人口増加と経済開発、人口問題論争、人口政策）
9	雇用と失業（発展途上国の雇用問題、失業と低雇用、失業とインフォーマル部門、雇用と生産性、ルイス・モデルと雇用）
10	教育と発展 1（教育と人的資源、発展途上国の教育水準、教育と経済開発、教育機会と貧困）
11	教育と発展 2（教育と国内移住・出生率、教育と頭脳流出・知的従属、教育と農村開発）
12	都市と農村（発展途上国の都市と農村、農村―都市間移住問題、都市への人口集中に起因する問題、都市のインフォーマル部門）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済開発のモデル 1（古典派の成長モデル、マルクスの発展段階モデル、ハロッド＝ドマーの成長モデルとロストウの発展段階説）
2	経済開発のモデル 2（新古典派の成長モデル、チエネリーの経験的発展モデル、プレビッシュ＝シンガー・テーゼと従属理論、経済開発と構造調整）
3	農業と開発（農業と経済開発、先進工業国の工業化と農業、発展途上国農業の停滞、農地改革と農業の発展、農業の規模と生産性、農業開発と農村開発）
4	工業化と開発戦略（均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果、輸入代替工業と輸出促進工業化）
5	貿易と発展 1（絶対生産費の理論と比較生産費の理論、輸入代替工業化と輸出指向工業化）
6	貿易と発展 2（南北問題とプレビッシュ＝シンガー・テーゼ、従属理論と新国際経済秩序）
7	貿易と発展 3（自由貿易と NIES の発展、南々貿易と地域経済統合、関税効果と実効保護、為替レートと経済発展）
8	多国籍企業と発展途上国（直接投資の利益、多国籍企業についての利害得失、新国際経済秩序と多国籍企業）
9	国際収支と債務問題（国際収支構造と経済開発、累積債務問題の原因と実態）
10	発展途上国債務問題への国際的対応（世銀・IMF の融資、債務＝環境スワップ）
11	国際援助と経済開発 1（途上国援助の歴史と現状、プロジェクト援助から基本的ニーズの充足へ、参加型援助と民主化の波、構造調整融資と持続可能な発展）
12	国際援助と経済開発 2（草の根援助と NGO の役割、援助の功罪、これからの国際援助）
備考	

科目名	地域産業政策論（済旧）	担当者名	伊藤正昭
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>これまで、産業政策と地域政策は別々の研究分野として発展してきた。もともと、産業は地域に立地し、地域経済は産業なくして存立できないことを考えると、産業と地域の経済政策として統合されなければならない。</p> <p>こうした観点から、産業と地域のかかわりを研究しながら、その政策の理論とあり方について学ぶことをねらいとしたい。</p> <p>とくに、わが国の例を参考にしながら、産業政策の理論と現実、地域政策の実際とめざすべき方向性を明らかにすることを努めたい。</p>	
講義概要	<p>わが国では産業政策（industrial policy）という言葉がよく使われる。しかし、産業政策は、経済政策のなかでも位置づけが曖昧で、理論的な基礎も確立していない。わが国ではなじみの深い産業政策は、先進各国では最近になって注目するようになったものである。</p> <p>講義では、わが国の産業政策の実態を分析しながら、産業政策の体系的な理解に努める。これによって産業構造政策の特異性が明らかになるであろう。ついで、産業組織政策（独占禁止政策）の意義と内容に触れ、産業構造政策との関係を明らかにする。</p> <p>さらに、地方分権化、地域の自立、地域産業をキーワードにしながら、地域経済のあり方を多面的に検討してみたい。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤正昭『産業と地域の経済政策』学文社、1989年
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・小宮隆太郎・奥野正寛他編『日本の産業政策』東大出版会、1984年 ・伊藤元重・清野一治他著『産業政策の経済分析』東大出版会、1988年 ・今井賢一・小宮隆太郎編『日本の企業』東大出版会、1989年 ・三輪芳郎『日本の企業と産業組織』東大出版会、1990年 ・チャーマーズ・ジョンソン／矢野監訳『通産省と日本の奇跡』TBSブリタニカ ・マイケル・ダートウズス他／依田直也訳『Made in America』草思社、1990年 ・O. E. ウィリアムソン／浅沼・岩崎訳『市場と企業組織』日本評論社、1980年
評価方法	<p>前期末および学年末に筆記試験を行って、成績の評価を行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>関連科目：経済政策</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済政策と産業政策の関係—産業政策はセミ・マクロの経済政策—
2	産業政策の意義と問題点(1)—産業政策の3つの領域—
3	産業政策の意義と問題点(2)—現代の自由主義と保護主義—
4	日本の産業政策の特徴と変貌—旧産業政策から新産業政策へ—
5	戦後における産業政策の展開—政府主導の産業育成政策の実態と評価—
6	諸外国の産業政策—イギリス、EU、アメリカ、ASEAN、中国—
7	産業調整の意義と問題点—構造的不況業種の撤退と縮小—
8	積極的調整政策の構造—衰退産業の活性化、OECDの戦略—
9	産業構造の高度化と産業調整—日本の経験からなにが学べるか—
10	産業政策の変質—規制緩和、行政指導の制限、PL法、官僚の役割—
11	産業組織と政策(1)—産業組織論（ハーバード学派とシカゴ学派）
12	産業組織と政策(2)—規制緩和によって産業組織はどう変わるか—
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	産業政策としての中小企業政策—産業政策との連動性—
2	中小企業政策の成立根拠—諸外国の中小企業政策の比較から学ぶ—
3	産業構造政策からみた中小企業—中小企業基本法と近代化政策の役割—
4	産業組織政策からみた中小企業—下請分業システムの取引コスト分析—
5	中小企業政策の透明性と国際性—産業政策としての有効性の検討—
6	地域政策の理念と現実—市場原理による地域間分業構造と地域格差—
7	地域政策における課題—地域経済への政府介入はなにをもたらしたか—
8	地域構造の調整と政策—日本の地域開発政策における問題点—
9	地域の自立と地域主義—地方分権の必要性和条件、地域の主体性とは—
10	地域の活性化と地域産業—地域の論理と産業の論理のずれと政策—
11	地域産業起こしと地場産業—産業活性化と地域活性化の事例考察—
12	まとめ
備考	

科目名	地域精神衛生論（済旧） —暮らしの中の精神衛生—	担当者名	佐々木 雄 司
-----	-----------------------------	------	---------

講義の目標	<p>「地域精神衛生」とは、コミュニティメンタルヘルス（CMH）の日本語訳である。私は精神科医で、我国のCMHのパイオニアの1人である。</p> <p>CMHの基本思想は、メンタルヘルス活動の輪を、「医療の場」の専門スタッフから、「生活の場」の一般社会人にまでひろげることである。私自身、日頃の実践の中で、あらゆる生活の場（地域、職場、学校）に、精神衛生の基礎知識をもった仲間が1人でもいてくれたら……と思うことの連続である。産業精神衛生は、すでに現代の企業の重大問題の1つ。</p> <p>本授業を、そのよき社会人モデルを育てる基礎訓練の場としたい。</p>	
講義概要	<p>「暮らしの中の精神衛生学概論」と集約できるかもしれない。身近に起こっているありふれた出来事あるいは特異な出来事などをとりあげる。</p> <p>授業は精神科医としての30数年間の私自身の実践や研究やフィールドワークの体験を縦軸とし、学生サンの討論などを横軸として進める。ビデオや新聞記事などを最初に使用し、それをもとにした「グループ討論」をできるだけ頻回にとり入れる。</p> <p>我国は、急速な都市化・現代化のみでなく、高齢化の問題も加わり、高度のストレス社会に突入している。こうした現在、本授業は、人間・家庭・地域社会・学校・企業・社会福祉・行政・信仰・日本文化などを考える緒の1つとなる。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木 雄司『宗教から精神衛生へ』金剛出版、1986年 ・厚生省精神保健課『我が国の精神保健』厚健出版（最新版）
評価方法	<p>2回の期末テストだけでなく、頻回のミニテスト、グループ討議、出欠や発言などの参加姿勢を、平常点として重視する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>「精神衛生学」は人間関係の学であり、約束を重んずることと、参加することが基本要件である。従って、先にも述べた講義形態とも相まって、約束の授業開始時刻に遅れることは厳禁で、ドアに鍵をかけることもある。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション
2	グループ討論「最近の新聞記事など」をとりあげる
3	そこで起こっている現象の捉え方、考え方 (1) Video、グループ討論
4	(1) まとめ
5	信仰と精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
6	" (2) スライド
7	" (3) Video、まとめ
8	精神医学の知識 (1) 具体例、グループ討論
9	" (2) スライド
10	" (3) Video、まとめ
11	新しい精神医学、コミュニティ・メンタルヘルス (1) 具体例、グループ討論
12	" " (2) スライド
備考	

後期

週	主要テーマ
1	新しい精神医学、コミュニティ・メンタルヘルス (3) Video、まとめ
2	家庭の精神衛生
3	学校の精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
4	" (2) まとめ
5	職場の精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
6	" (2) まとめ
7	加齢と精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
8	" (2) まとめ
9	日本の医療の現状
10	医師、医療機関の選び方
11	総括 (1) 新聞記事、グループ討論
12	" (2) Video、まとめ
備考	

科目名	社会政策	担当者名	桑原靖夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>社会政策 (Social Policy) とは一体いかなる学問なのか。講義名を聞いて直ちにその内容を類推することができる人はきわめて少ないだろう。元来、社会政策という学問は明治期にドイツから輸入された政治経済学であり、資本主義の発展に伴い、展開してきた様々な労働問題を対象とする政策科学として成立・発展してきた。今日では、社会政策が対象とする領域も大きく変わり、多くのチャレンジングな問題が提起されている。講義では新しい視点から広く労働（働くこと）にかかわる現代の様々な政策課題を検討する。</p>				
講義概要	<p>今日、世界の労働の分野では、きわめて多くの注目すべき変化が展開している。雇用機会の空洞化現象、国際労働力移動（外国人労働者）、開発途上国の低賃金、技術革新の雇用に与える衝撃、高齢化、女子労働者の増加、労働時間短縮、サービス経済化など、枚挙にいとまがない。人生において、労働（雇用）の次元はしばしば最も重要な時期を占めている。21世紀に向けて我々の社会における労働のあり方はいかなる変貌をとげるのだろうか。</p> <p>講義では、いまやきわめて広範な領域にまで拡大した労働に関する諸問題を整理し、新たな実証分析の成果を加えて解説する。並行して開設される「労働経済学」が理論的・実証的アプローチを主とするのに対して、「社会政策」ではより幅広く問題の政策的アプローチを主とすることにしたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>本講義では特定のテキストを使用しないが、毎年6月頃に刊行される労働省編『労働白書』（日本労働研究機構）の内容にしばしば言及するので、準備することが望ましい。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに文献リストを配布する。比較的広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑原靖夫・G.バンバー、R.ランズベリー編『新版 先進諸国の労使関係』日本労働研究機構、1994年 ・桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』日本放送出版協会、1995年 </td> </tr> </table>	テキスト	本講義では特定のテキストを使用しないが、毎年6月頃に刊行される労働省編『労働白書』（日本労働研究機構）の内容にしばしば言及するので、準備することが望ましい。	参考文献	<p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに文献リストを配布する。比較的広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑原靖夫・G.バンバー、R.ランズベリー編『新版 先進諸国の労使関係』日本労働研究機構、1994年 ・桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』日本放送出版協会、1995年
テキスト	本講義では特定のテキストを使用しないが、毎年6月頃に刊行される労働省編『労働白書』（日本労働研究機構）の内容にしばしば言及するので、準備することが望ましい。				
参考文献	<p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに文献リストを配布する。比較的広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑原靖夫・G.バンバー、R.ランズベリー編『新版 先進諸国の労使関係』日本労働研究機構、1994年 ・桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』日本放送出版協会、1995年 				
評価方法	原則として年1回ないし2回のテストによる。				
受講者に対する要望など	講義で取り上げる課題は多くの点で、受講生諸君の今後の人生のあり方、設計に関連する重要な意味を内包している。受け身で授業に出るのではなく、積極的に問題を発見する意欲を持って出席してほしい。				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会政策とはいかなる学問か 社会政策学の歴史、産業の発展と社会政策の対象とする内容の変遷を取り上げる。
2	第二次大戦前の社会政策（2回） 戦前日本の工業化と社社会政策の課題について説明する。あわせて、戦後の一時期、学会の中心的テーマであった社会政策論争といわれる論争の評価を行う。
3	現代の社会政策の展望 高度な段階にまで到達した工業化社会における労働の特徴、ポスト工業化時代の到来と社会政策が対象とする課題の変容について検討する。
4	国家の盛衰と労使関係（2回） 第二次大戦後の極貧の時代から「世界の先端モデル」とまで言われ、いまや頂点へ立つことになった日本経済の発展過程における労使関係の役割について評価を行う。
5	日本的労使関係：歴史の変遷（2回） 労働問題の中心的課題のひとつである労使の関係は、戦後の「労使対決」の時代から「労使協置」の時代へと変容した。この変化の過程を新たな視点から解剖してみたい。
6	変化する雇用・労働の世界（展望） 現代日本の労働市場では、サービス化・情報化、高齢化、女性化など、雇用の仕組みの再編が進行している。これらの構造的変化と労働市場への影響を展望する。
7	雇用機会としての企業（2回） 企業は労働者がそこに雇用され、賃金・俸給を得る場所以上の意味を持っている。生き甲斐発見の場、スキル蓄積の場としての企業の意味、日本人が企業に期待するものはなにかを考察する。
8	現代日本の経営構造と労使（2回） 働く場としての日本の企業は、経営の構造・編成という点でいかなる特徴を持っているのか。日本的雇用慣行といわれる大企業に特有な制度、慣行の実態を新しい角度から分析する。
9	中小企業の労使関係 日本の雇用機会の大部分を構成するのは、中小企業である。この領域における雇用についての通念と現実の差異、雇用労働の特徴を分析する。
10	採用と配置・昇進 企業における採用、配置、昇進のあり方は、労働者の勤労意欲、報酬、効率などに重要な意味を持つ。今日求められている公正な採用、配置、昇進とはいかなる内容のものか。
11	変わり行く労働組合：新しい労使関係の枠組み 伝統的労使関係は、労働組合と使用者(団体)の関係を意味してきた。しかし、今日では組織率の低下など、労使の関係は実態および概念の双方において再編を迫られている。
12	景気循環と賃金・雇用調整 資本主義経済においては景気循環は避けがたい現象である。企業が実施す賃金・雇用調整の仕組みを分析し、日本の特徴を明らかにする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	技術革新と変貌する職場 1970年代以降、マイクロエレクトロニクスなどの技術革新の展開で、日本の職場は大きく変貌した。これらの技術変化が雇用や仕事の内容に与える影響を考える。
2	サービス・情報化と労働のあり方 サービス化の進展はホワイトカラーの増加、労働の質的・量的変化、労働時間の弾力化など、多くの変化を雇用の場にもたらした。今日の国民的課題ともいえる時間短縮についても考察する。
3	高齢化時代の経営と労働 21世紀初頭には世界有数の高齢国となる日本では、従来の雇用慣行にも様々な修正が迫られている。高齢者に適した職場の再編・処遇、生き甲斐などについて考える。
4	国際化と労使関係 日本企業の海外直接投資の拡大にともない、日系企業に働く現地従業員の数も増加した。この新しい環境における日本的経営・労使関係を検討する。
5	外国人労働者と日本（2回） 1980年代から急速に増加した外国人労働者は日本社会に大きな衝撃をもたらした。その実態と政策のあり方について考察する。
6	新しい働き方を求めて 21世紀に向けて、真に人間らしい仕事と生活の両方を求めて、「新しい働き方」の模索が始まっている。その現状と方向性について展望を試みたい。
7	講義の進度は受講生の理解度を見て調整する。
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	財政学	担当者名	大島通義
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>政府は年々予算を編成し、税を企業や家計から徴収し、これを外交や軍事、社会福祉や教育、公共投資、さらには対外援助などにあてている。「財政学」とは、このような公共部門の経済活動を対象とする学問である。公共部門の「経済活動」を対象とする学問である以上、これを理解するには経済学の基礎的な知識を備えているのと同時に、政府の意思決定にかかわる制度のうえでの問題にも目を向けることが必要である。このような観点から、家計、企業、国際経済に大きな影響を及ぼしつつある現代財政についての理解を深めることを、この講義は目的とする。</p>		
講義概要	<p>I 財政論の歴史——政府論の二つの流れ、最近の政府論の諸潮流 II 公共財政の制度とその収支——政府活動の経済計画としての予算、そのバランス・シート、国および地方公共団体の予算の構成、国民経済計算における政府部門の構成とその収支 III 政府の役割——現代における政府の役割、「公共財」の性格、その供給のメカニズム、社会の高齢化と財政の役割、経済の国際化のもとでの財政 IV 租税論——租税とは何か、租税の歴史とその体系、課税ベースから見た租税（所得税、法人税、消費税、資産税など） V 地方財政論——国と地方の財政関係、財政調整制度、最近の動向</p>		
使用教材	テキスト	<p>教科書は指定しない。講義の進行に応じて、主な論点と資料等を記載したレジュメを配布する。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・能勢哲也『現代財政学』有斐閣ブックス ・井堀利宏他『基本テキスト 財政』 ・林健久・今井勝人編『日本財政要覧』（第四版）東大出版会 ・本間正明編『ゼミナール現代財政入門』日本経済新聞社 	
評価方法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。ほかに、前・後期にそれぞれ3回程度、それまでの講義内容についての短いレポートの提出を求める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>経済学についての基礎的な理解を前提として講義をおこなうので、これを欠いている場合は、各自でこれを補うようにつとめること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	I 財政とは何か：政府論の二つの流れ——古典派以来の政府論の系譜
2	I 財政とは何か：同上——契約論的政府観と権威主義的政府観
3	I 財政とは何か：「大きな政府」論と「小さな政府」論、または「市場の失敗」と「政府の失敗」
4	II 財政の制度：公共財政の制度的構成——予算と国民経済計算、国の財政と地方公共団体の財政
5	II 財政の制度：日本の財政システム——支出、租税、公債収入、財政投融资計画
6	II 財政の制度：予算政策決定の制度的仕組みとその過程——予算の一生
7	III 財政の役割：公共財とは何か——「私的財」との相違、「公共財」は誰が供給するのか
8	III 財政の役割：公共財の供給決定——「公共財」の最適供給水準は如何にして決まるのか、政府と議会の役割
9	III 財政の役割：政府支出の効率化を目指して——「効率化」とは何か、費用便益分析、「効率化」のための予算改革
10	III 財政の役割：財政統制の制度と論理——議会による予算の統制、会計検査院による統制の仕組み
11	III 財政の役割：政府支出の長期的な発展——今世紀初頭以来の趨勢の分析、今世紀後半期におけるその発展の特徴
12	(予備日)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	IV 租税論：序論——租税とは何か、租税政策がよるべき原則
2	IV 租税論：租税制度の概要——複雑な租税を分類する視点、租税体系の構成
3	IV 租税論：同上
4	IV 租税論：所得を課税ベースとする租税——個人所得税、法人税
5	IV 租税論：同上
6	IV 租税論：消費を課税ベースとする租税——支出税、個別消費税、一般消費税
7	IV 租税論：資産を課税ベースとする租税——資産保有税、資産移転税、資産増価税
8	IV 租税論：課税の作用についての経済学的分析
9	IV 租税論：課税の作用についての社会学的分析
10	V 地方財政論：財政の集権と分権
11	V 地方財政論：財政調整制度の構成と役割
12	V 地方財政論：地方財政の最近の動向
備考	

科目名	公共経済学	担当者名	伊藤 為一郎
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>今日、われわれの経済組織において、公共部門のはたす役割は極めて大きくなり、その規模、内容等において重要度を一層増しつつある。国民経済の4割を占める巨大な現代公共部門の機能と範囲、課題についての基礎的な材料を提供するものである。</p>	
講義概要	<p>公共部門分析の基礎的な理論からはじめて公共部門の収入と支出活動の内容について理解を促す。統計資料など多数配布するので、その持っている意義をよく考察してほしい。</p>	
使用教材	テキスト	教科書および参考書は講義のはじめに紹介する。
	参考文献	
評価方法	<p>講義最終日にテストを行いそれによって評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに 公共部門の範囲 文献紹介
2	公共部門存在の理論的根拠 (1)市場の失敗 (2)資源配分 (3)所得再配分 (4)経済成長・経済安定
3	
4	
5	公共財の定義と理論的特徴 (1)純粋公共財 (3)混合財と補助政策 (3)メリットワウンド
6	
7	
8	社会資本と公共サービスの供給 (1)社会資本と経済発展 (2)高度成長と社会資本充実政策
9	
10	公共サービスの供給と財源調達 (1)なぜ租税が必要か (2)公平な課税制度 (3)各種課税様式 (4)一般消費税 (6)規制の緩和
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	公債政策 (1)赤字を抱えた財政 (2)公債の累積 (3)公債管理政策
2	
3	地方政府 (1)地域公共財の供給 (2)地方財政の拡大 (3)地方分権
4	
5	
6	都市問題 一局集中問題 (1)土地と住宅 (2)交通問題 (3)ゴミ問題 (4)混雑現象について
7	
8	環境問題と財政 (1)市場の失敗と環境政策 (2)課徴金か補助金か (3)PPPから環境税
9	
10	高齢化社会と財政 (1)高齢化の進展 (2)年金財政 高福祉・高負担 まとめ
11	
12	テスト
備考	

科目名	国際金融論	担当者名	山本美樹子
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>金融とはお金を融通しあうことである。これは国内であっても、国際的であっても同じであるが、国際間では通貨が異なるために国内金融はなかった様々な問題が生じる。</p> <p>本講義では国際金融にスペシフィックな事柄に焦点をあてて説明し、これから社会に出ていく諸君が日々や新聞、ニュース等をにぎわしている国際金融に関連した記事を読みこなすことができるようになるようにしたいと考えている。</p>	
講義概要	<p>これから国際金融論を学ぶ上で最低限覚えておいて欲しい事柄について、例えば為替レートはどのように決まるのか、政府の介入とは？、投機行為とは？といった点についてある程度詳しく理論的にひとつひとつのテーマを説明した上で応用編にはいっていく。</p> <p>応用編としては、現在の国際金融制度が設立されるまでのいきさつ、経過といった歴史的な問題と、世界的に注目を浴びている国際マクロ経済政策協調、国際的な資本移動、発展途上国の累積債務問題といったテーマを説明していく。</p>	
使用教材	テキスト	とくに定めない。
	参考文献	<p>標準・渡辺福太郎編『エレメンタル国際経済学』英創社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日経新聞社 ・高木信二『入門国際金融論』日本評論社 ・須田美矢子『国際マクロ経済学』日経新聞社 <p>上級・イーシア 大田博史他訳『現代国際経済学 国際マクロ』多賀出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーハンス 天野訳『国際金融のマクロ経済学』東大出版
評価方法	<p>後期の期末試験と出席</p> <p>前期末には夏休みの課題を出す。後期試験に失敗したものについてはこのレポートも加味して評価を出す。</p>	
受講者に対する要望など	出席をきちんとすること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

講義をはじめるとにあたって	(1週)
第1部 外国為替取引と為替レート 第一章 外国為替市場と為替レート 第1節 外国為替、為替レートとは何か 第2節 為替リスクとヘッジング 第3節 為替投機 第4節 外国為替市場への介入	(第2週～第7週)
第2章 為替レートの決定と変動のメカニズム 第1節 購買力平價説 第2節 フローアプローチ対アセットアプローチ	(第8、9週)
第3章 固定相場制とは何か 第1節 固定相場制とは何か 第2節 IMFとブレトン・ウッズ体制 第3節 固定相場制のメカニズム 第4節 固定相場制はなぜ崩壊したのか 第5節 世界の通貨制度	(第10、11週)
前期のまとめ	(第12週)

後 期

第2部 国際収支と開放マクロ経済学 第4章 国際収支とはなにか 第1節 国際収支表 第2節 経常収支とは 第3節 経常収支の金融的側面 第4節 経常収支の変動メカニズム	(1、2週)
第5章 開放マクロ経済学(経済政策) 第1節 外国貿易乗数の理論 第2節 固定相場制の開放マクロ経済学 第3節 変動相場制の開放マクロ経済学	(3～5週)
第3部 国際資本移動の拡大 第6章 国際金融取引拡大の背景 第1節 国際金融取引とはなにか 第2節 国際資本移動とはなにか 第3節 国際投資と為替レート 第4節 外国為替のスワップ取引の具体的形態 第5節 オプション取引	(6、7、8週)
第7章 ユーロ取引 第1節 ユーロ市場、ユーロ取引とは何か 第2節 ユーロ市場の始まり 第3節 ユーロドルの信用メカニズム 第4節 ユーロドルの発展	(9、10週)
第8章 発展途上国の累積債務問題 第1節 途上国の累積債務問題はなぜ顕在化してきたのか 第2節 途上国が先進国から資金を借りる際の問題点 第3節 ソブリンデフォルトとはなにか 第4節 デフォルトに対する対応方法 第5節 債務国、債権国に今後求められる課題	(11週)
講義をしめくくるにあたって	(12週)

科目名	会計学	担当者名	宮澤 清
-----	-----	------	------

講義の目標			
講義概要	<p>会計情報の利用者にとって自らの経済的意思決定に役立つ情報とは、どのようなものであるかについては、常に経験的実在の認識の観点に立って考察しなければならないが、その場合、財務情報の利用者が切実に希求するのは、その意思決定に役立つ情報なのである。それをみたすには、経験的実在としてのどのような経済資源、債務および出資者持分ならびにそれらの変動の認識・測定をいかに決定すべきであるかという目的に対する手段を合理的に選択するということが、つまり合理的行動の基礎が必要となってくる。結局、そこに要請されるのは幾つかの情報の属性である。この合理的行動の基礎としての情報の属性を確認することによってのみ会計情報の有用性が高められ、保持されるのである。</p>		
使用教材	テキスト	拙著『財務会計基礎理論』または『財務会計論』いずれも白桃書房	
	参考文献		
評価方法	期末テストによる。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	会計：会計はその時代を支配する理念によって規定されるが、その会計の世界において、基本的に異なった二つの考え方がある。その一つは経験的・事実的な考え方であり、もう一つは当為的・規範的な考え方である。
2	測定：会計測定とは、経済主体が会計理論にもとづいた一定のルールに従い、自己の営む経済活動という対象に数をあてがうことによって、外部の情報利用者に役立つ財務情報に加工を施して仕上げる作業のことである。
3	伝達：伝達とは、言語を用いてある事柄を表現し、これを第三者に伝える行為である。言語が社会的行為の手段であるといわれるのは、人間がひとたび社会関係のなかにはいるとそれが必要となってくるからである。
4	会計主体：会計主体の公準は、会計行為の究極的な帰属点、つまり、価値判断の究極の担い手として会計の対象としての客体を規定するものであるが、その主体によって規定されるところの客体が会計単位といわれる。
5	継続企業：会計において、一つの期間を人為的に区切って資本計算を行なうには、その前提として企業活動が継続して営まれていなければならない。継続企業の公準は、このような趣旨のもとに定立されたものである。
6	貨幣価値安定：企業の経済活動を記録し計算するには、すべて貨幣額が用いられるが、物価の騰落や貨幣価値の変動があっても、それが軽微であれば、一応、安定しているものと仮定して会計処理がなされるのである。
7	真実性：企業会計の一般原則のうち、企業の財政状態および経営成績について真実な報告をするという会計の最高規範が真実性の原則と呼ばれる。この原則は他のすべての一般原則を規定するところの根本原則である。
8	剰余金原則：資本取引と損益取引とを峻別するという原則が、資本と利益の区別に関する原則と呼ばれる。特に資本剰余金と利益剰余金の区別は重要である。それらが立脚する法の理念による利益が相反するからである。
9	明瞭性：財務諸表のうで利害関係者に必要な会計事実をはっきりと表示することによって、企業の状況についての判断を誤らせないようにするという表示における形式の側面を重視するのが明瞭性の原則と呼ばれる。
10	継続性：継続性とは、選択した測定方法を首尾一貫して適用することをいう。首尾一貫という言葉は、もともと「相互に矛盾がないこと」を意味する。この趣旨を生かしたのが一般原則第五の継続性の原則である。
11	保守主義：保守主義の原則は、「いかなる利益も見積もりによるものは計上しないが、損失はできうるかぎり計上する」というイギリスにおける企業会計の実践において用いられてきた格言によって端的に示される。
12	単一性：「単一」という言葉のなかに形式と内容の関係がある。この関係において重要なことは、「概念（形式）のない直観（内容）は盲目であり、直観（内容）のない概念（形式）は空虚である」ということである。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財務報告：財務報告は、報告すること自体が目的ではなく、経済的意思決定を行なうのに有用な情報を提供することが目的なのである。その目的は、情報の受け手と目される人びとのニーズから生まれるものである。
2	情報の利用者：財務情報を利用する者のなかで、最も重要で注目される利用者は投資者と債務者である。しかしながら、彼らには、自己の欲する財務情報を企業に要求するいかなる権限も与えられてはいないのである。
3	情報の質：目的適合性と信頼性という属性を備えているか否かによって「より優れている情報」と「より劣っている情報」とに分かれる。この二つを生かすことが、情報の利用者に対する真の保証となるのである。
4	比較可能性：目的適合性と信頼性は、単独で語ることができるが、比較的可能性は単独では語ることができない性質のものである。なぜなら、比較可能性は、常に複数のあいだにおいてのみ成り立つものだからである。
5	コストとベネフィット：情報によってもたらされるベネフィットが、それを入手するのに要したコストを上回っていれば、その情報は有用であり、提供するに値する。要するに、この二つは常に比較される言葉である。
6	資産：時間の相の下にたえず変動するところのすべての資産および経済資源に共通に認められる特徴は、それらを利用する企業に用役または効益をもたらす用役潜在力あるいは経済的効益をもっているという点にある。
7	負債：負債の本質は、義務を発生させることによって現金が受け取られるか否かにあるというよりは、むしろ将来において経済的効益を犠牲にするところの法的債務、衡平法上の債務または推定上の債務のなかにある。
8	持分：資産も負債も、発生の可能性が高い将来の経済的効益またはその犠牲として定義されるが、持分は両者の差額として示され、必然的に蓋然性の強い性格のものとなり、単独で存立しえない宿命をもつのである。
9	包括利益：包括利益は、出資者による投資および出資者への分配から生ずるものを除いた源泉にかかわる取引や、その他の事象または環境要因によって生み出される一会計期間における企業の持分の変動のことである。
10	認識基準：認識基準は資産、負債または持分に与える影響の観点から、ある項目を財務諸表に計上すべきかどうか、もし計上するとすれば、いかなる金額で、いつ正式に計上するのかということを示す判定基準である。
11	真理：われわれは真理というものについて、完全に到達することができるものとは考えていない。その意味で、われわれは真理への探求者となりうることはできても、真理の保有者となることは永遠にできないのである。
12	認識：企業の経済活動という経験的・個性的な実在に関する認識は、単なる事実の集合によって得られるのではなく、研究者の抱く認識関心（関心方向）つまり研究者の目的観を前提とすることによってのみ可能となる。
備考	

科目名	民法（済・営旧）	担当者名	門 廣 乃 里 子
-----	----------	------	-----------

講義の目標	民法の基本的理解を得ることを目的とする。		
講義概要	民法は生活関係を規律する法である。生活関係は、大別すれば、財産関係と身分関係（家族関係）に分けることができる。財産関係に関しては、まず財産権にはどのようなものがあるのか、とりわけ物権と債権の相違、各財産権の内容を理解することが必要である。そして、財産権の得喪・移転をもたらす事由は、人の意思に基づく行為（法律行為）とそうでない行為ないし事実（時効・事務管理・不当利得・不法行為など）に分けることができる。契約は法律行為の代表的なものであり、取引の中樞をなす。民法は13の契約（典型契約）を規定しているが、それに限られるわけではなく、それ以外の契約（非典型契約）も多く存在する。		
使用教材	テキスト	・半田正夫・竹内俊雄編『民法要説』文真堂	
	参考文献	・川井健・西原道雄編『逐条判例民法』法学書院	
評価方法	前期と後期に筆記試験を行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	民法とはどのような法か——市民生活の法、私法の一般法、民事実体法である、民法の法源、民法の基本原則——。
2	私権の種類と主体と客体——自然人の権利能力、胎児の法的地位、失踪宣告、物の概念——。
3	財産権——物権と債権の相違、貸借権の物権化——。
4	財産権——物権の種類、各物権の内容——。
5	財産権——債権の目的と種類——。
6	財産取引の一般法理——法律行為（意思表示、無効と取消）——。
7	財産取引の一般法理——法律行為（代理、条件・期限、行為無能力者制度）——。
8	財産取引の一般法理——契約の一般法理（契約の種類、成立、効力）——。
9	財産取引の一般法理——財産権の変動と対抗要件——。
10	各種の契約の特殊事項——売買、主として売主の担保責任について——。
11	各種の契約の特殊事項——賃貸借、借地・借家法——。
12	各種の契約の特殊事項——金銭消費貸借と債権の担保（物的担保と人的担保）および債権の保全——。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	各種契約の特殊事項——請負、主として完成物の所有権の帰属、請負人の責任について——。
2	各種契約の特殊事項——請負以外の労務供給型契約、その他の典型契約および非典型契約——。
3	各種契約の特殊事項——無償契約（贈与、使用貸借、無償の委任）——。
4	法律行為によらない権利の得喪——時効——
5	法律行為によらない権利の得喪——事務管理と不当利得——。
6	法律行為によらない権利の得喪——不法行為——
7	法律行為によらない権利の得喪——不法行為——
8	団体法——法人の意義と種類、法人格なき社団・財団、民法上の組合、法人の権利能力他——。
9	家族法——戦前の「家」制度と戦後の家族法の理念——。
10	夫婦関係の法——婚姻の成立と効果——。
11	親子関係の法——嫡出子と嫡出でない子、普通養子と特別養子、親権——。
12	相続法——家督相続と財産相続、遺言相続と法定相続——。
備考	

科目名	民法Ⅰ・民法Ⅱ（済・管旧旧）	担当者名	椿 久美子
-----	----------------	------	-------

講義の目標	取引社会において重要な意義をもち、必要性も大きい民法の財産法につきその基礎的知識に関する概要を理解してもらう。		
講義概要	<p>理解しやすくするために、民法典の編別にこだわらずに講義を進めていく。具体的には、交通事故によりケガをした場合における不法行為による損害賠償、被用者の不法行為により使用者が賠償責任を負う使用者責任、その他特殊の不法行為などの説明から始まる。次いで、契約および法律行為、代理、債務不履行、保証、抵当権その他について、順次言及する。</p> <p>講義では、なるべく具体例を挙げて、できる限りわかりやすい授業にしていきたいと考えている。</p>		
使用教材	テキスト	・椿寿夫『民法（財産法）25講』 有斐閣（必ず第2版第6刷を買うこと）	
	参考文献	授業の時に指示する。	
評価方法	後期試験により評価する。授業内容の理解度・出席度・受講態度によっては、前期試験を行うこともありうる。		
受講者に対する要望など	民法は、初めて学ぶ者にとってはその理解が大変だと思うが、めげないで一年間頑張ってもらいたい。予習は必ずしてきてほしい。授業の時には、六法と教科書を持参すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	民法とは何か、民法の組立て、信義則と権利濫用の禁止
2	不法行為とは何か、不法行為の成立要件とその効果
3	使用者責任と土地工作物責任
4	契約および法律行為（上）（契約・法律行為とは何か、契約自由の原則とその制限）
5	契約および法律行為（下）（契約の成立、契約・法律行為の無効と取消、契約の効力）
6	売買（売買契約の成立、売主および買主の義務）
7	売買（売主の担保責任、特殊な売買）
8	賃貸借（賃貸借のあらまし、賃貸借の存続期間、貸主と借主のあいだでの権利義務）
9	賃貸借（不動産賃貸借権の対抗力と妨害排除力、賃借権の譲渡と転貸）
10	その他の契約（消費貸借および利息、請負、典型契約の残りと非典型契約）
11	契約・法律行為の代理（代理とはどういう制度か、代理権に関する諸問題、代理人および代理行為に関する問題）
12	表見代理と無権代理
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	債務の決済（弁済ないし履行、弁済の提供および弁済の充当、相殺）
2	債務不履行（債務の強制履行、履行遅滞、履行不能、不完全履行）
3	債務不履行（債務不履行による損害賠償、債務不履行による契約解除）
4	債権者代位権と債権者取消権
5	保証と連帯（保証の成立と効力、保証人の求償権と弁済者代位、連帯債務）
6	抵当・根抵当（物的担保・担保物権とは、抵当権の特色と種類、抵当権の設定と順位、抵当権の効力）
7	抵当・根抵当（法定地上権および一括競売、抵当不動産の第三者取得者と賃借人）
8	その他の物的担保（質権、譲渡担保）
9	所有権と占有権（所有権、共同所有、占有および占有権）
10	物権変動および債権移転（不動産物権の変動と登記）
11	物権変動および債権移転（登記を信頼した第三者の保護、動産物権の変動と対抗要件、動産の即時取得）
12	期間および時効（期間、時効一般について、取得時効、消滅時効）
備考	

科目名	商法(済・営旧) 商法Ⅰ(済・営旧旧)	担当者名	明田川昌幸
-----	------------------------	------	-------

講義の目標	株式会社に対する法規制を理解する。		
講義概要	株式会社に対する法規制を、判例や学説をまじえながら解説する。		
使用教材	テキスト	・落合誠一・近藤光男・神田秀樹著『商法Ⅱ—会社(第2版)』有斐閣Sシリーズ	
	参考文献	・鴻常夫・竹内昭夫・江頭憲治郎編『別冊ジュリスト no.116 会社判例百選(第5版)』有斐閣	
評価方法	前期及び後期に筆記試験を行い、その結果により評価する。		
受講者に対する要望など	六法持参(コンパクト六法、ポケット六法等の小型六法でよい)。		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	会社の経済的機能と法的規整
2	会社の概念
3	株式会社の特色
4	株式会社の設立
5	発起人
6	株式会社の実体形成
7	設立の無効
8	株式
9	出資単位規制
10	株式の流通
11	株主名簿
12	予備またはまとめ
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	所有と経営の分離
2	株式会社の運営機構
3	株主総会
4	総会決議の瑕疵
5	取締役と取締役会
6	取締役と会社との間の利害関係の調節
7	取締役の責任と経営判断の法則
8	対外的業務執行と取引の相手方保護
9	監査役による監査
10	決算の手続
11	計算書類の内容
12	予備またはまとめ
備考	

科目名	商法Ⅱ(済・営旧)	担当者名	明田川 昌 幸
-----	-----------	------	---------

講義の目標	手形法・小切手法の基礎的な制度・理論を理解する。	
講義概要	手形法・小切手法の基本的な制度を判例や学説をまじえながら解説する。	
使用教材	テキスト	・『手形・小切手の法律入門(新版)』田村諒之輔・前田重行・大塚龍児・倉沢康一郎 著 有斐閣新書
	参考文献	・別冊ジュリスト No.108『手形小切手判例百選(第四版)』鴻常夫・竹内昭夫・江頭憲治郎編 有斐閣
評価方法	前期及び後期に試験を行ない、その結果により評価する。	
受講者に対する要望など	六法持参	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	手形・小切手の経済的機能
2	手形・小切手と銀行取引
3	手形行為とは
4	手形行為の成立要件
5	手形関係と原因関係
6	約束手形の記載事項
7	手形の署名
8	白地手形
9	他人による手形の振出
10	自己取引
11	約束手形の振出の効果
12	予備またはまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	約束手形の裏書
2	裏書の連続
3	善意者の保護
4	特殊の裏書
5	支払呈示
6	支払免責
7	遡求
8	為替手形
9	小切手
10	線引小切手
11	手形・小切手に共通する制度
12	予備またはまとめ
備考	

科目名	労働法（済・営旧旧）	担当者名	土田道夫
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>具体的事例や資料を駆使し、外国法との比較も交えながら、変革期にある労働法の全体像を解明する。</p>	
講義概要	<p>労働法は、人が働く上で発生する様々な問題の法的解決を図ることを目的とする法領域である。近年、残業による長時間労働、単身赴任や出向、過労死、雇用における男女差別、外国人労働者問題等々、雇用労働をめぐる様々な問題が生じている。それらは日本の社会の現状や今後のあり方に直結しており、法的にも速やかな解決を要請するものが多い。現状を直視し、今後のあり方を探りながら、こうした問題を法的に解決するシステムとしての労働法について講義する。テキストは大変わかりやすいもので、これをベースに進めるが、そのつど具体的事例や資料を配布して一歩進んだ内容にしたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>中窪裕也＝野田進＝和田肇『労働法の世界』有斐閣</p>
	参考文献	<p>開講時に紹介するが、特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅野和夫『労働法（第三版）』弘文堂 ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第五版）』有斐閣 ・別冊ジュリスト『労働法の争点（新版）』有斐閣 ・安枝英『労働の法と政策』有斐閣
評価方法	<p>前期・後期共に試験を行う（六法参照可）。</p>	
受講者に対する要望など	<p>知的好奇心にあふれた学生諸君の受講を期待する。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	労働法の概要説明；憲法27条・28条、民法623条以下、労働基準法、労働組合法、男女雇用機会均等法 etc.
2	日本の雇用制度・企業社会と法；外国と比較しながら、法と社会の現実との交錯を探る。
3	労働条件決定の法的システム(1)；概要
4	賃金；賃金額の決定・支払方法等に関する法規制を概観する。
5	労働時間・休日・休暇(1)；改正労基法の解説や外国法の紹介を通して、「時短」の現状と法の課題を考える。
6	労働時間・休日・休暇(2)；時間外・休日労働。
7	労働時間・休日・休暇(3)；フレックスタイム制・年次有給休暇法。
8	労働時間・休日・休暇(4)；年次有給休暇の取得促進に向けた解釈・立法の課題を探る。
9	労働契約の締結；採用内定・試用期間など。
10	男女の雇用平等(1)；雇用機会均等法を中心に、「平等」と「保護」のあり方を考える。
11	男女の雇用平等(2)；同上。
12	男女の雇用平等(3)；引き続き雇用平等法の課題を探ると共に、セクシュアル・ハラスメント問題などを考える。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	配転・転勤；単身赴任問題を法的側面から考える。
2	出向；特に企業グループ内の出向について説明する。
3	労働条件決定の法的システム(2)；就業規則と労働条件—就業規則の法的性質、拘束力の根拠。
4	労働条件決定の法的システム(2)；就業規則と労働条件—就業規則の不利益変更。
5	労働条件決定の法的システム(4)；就業規則と労働条件—規範的効力（労組法16条）の限界。
6	労働災害(1)；過労死問題と法—労災保険法の解釈を中心に、過労死を生み出す社会のあり方にも目を向ける。
7	労働災害(2)；過労死問題と法—労災保険法の解釈を中心に、過労死を生み出す社会のあり方にも目を向ける。
8	労働災害(3)；使用者の安全配慮義務について概説する。
9	外国人労働者問題(1)；いわゆる不法就労者問題について、今後の法制度のあり方を考える。
10	外国人労働者問題(2)；いわゆる不法就労者問題について、今後の法制度のあり方を考える。
11	労働契約の終了；解雇の法規制、高齢化社会における定年延長問題など。
12	労働組合法の概要；団体交渉、不当労働行為などを簡潔に解説する。
備考	

科目名	経済法(済・営旧)	担当者名	古沢 博
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>経済法の総論と各論の主要な部分(独占禁止法、中小企業保護法制、需給・価格安定法制、対外経済法、不況対策法制)の理解を目標とする。各論では、とくに独占禁止法に重点を置く。</p>	
講義概要	<p>1. 経済法は、経済に関する法一般ではなく、資本主義社会における経済に対する国家の干渉に関する特殊な法である。近代の自由主義経済の社会では、自由放任が経済の基本原則とされ、このような自由主義的経済秩序を確保するため、民法、商法等の近代市民法が存在する。しかし、資本主義経済の発展、高度化に伴い、多くの矛盾ないし困難が発生し、その解決のため、経済に対する国家の干渉が必要となってきた。その法的手段が経済法である。</p> <p>2. 経済法の内容は極めて多岐にわたるが、本講では、経済法の本質等に関する総論と独占禁止法を中心として講義する。</p>	
使用教材	テキスト	・松下満雄『経済法概説』東京大学出版会
	参考文献	・金沢良雄『経済法〔新版〕』有斐閣 その他、テキストに記載のもの。
評価方法	試験(前期・後期ともに行う)	
受講者に対する要望など	基本的に毎回、出席をとる。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	全体のイントロダクション。「序章」——経済法及び経済法学の発生の事情について。
2	「序章」——経済法と市民法の関係、資本主義経済の発展・高度化と経済法との関係について。
3	同上——まとめ。我が国の経済法の沿革。
4	我が国の経済法の沿革。
5	「第一章」——独占禁止法の沿革。
6	「第二章」——独占禁止法の基礎概念。——「目的」、「事業者」、「事業者団体」について。
7	同上——「一定の取引分野」、「競争の実質的制限」について。
8	同上——同上。「公共の利益」について。
9	「第三章」——私的独占の禁止、とくに「排除」による私的独占について。
10	同上——とくに「支配」による私的独占について。
11	同上——集中規則、会社合併の規制、独占的状态の規制について。
12	「第四章」——不当な取引制限（カルテル）の禁止、とくに「縦の協定」と「横の協定」、「相互拘束性」、「立証」について。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「第四章」——不当な取引制限の禁止、とくに行政指導とカルテルについて。
2	同上——事業者団体の規制、価格の同調的引上げについて。
3	「第五章」——不公正な取引方法の禁止についての概説。
4	同上——不公正な取引方法の一般指定と特殊指定について。
5	同上——一般指定の説明。
6	同上——同上。
7	「第六章」——国際取引の規制について。
8	「第七章」——独占禁止法違反に対する排除措置について。 「第八章」——適用除外について。
9	「第十章」——中小企業保護法制について。
10	「第十一章」——需給・価格安定法制について。
11	「第十二章」——対外経済法について。
12	「第十三章」——不況対策法制について。
備考	

科目名	国際法(済・営旧)	担当者名	廣部 和也
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>国際法という国際社会の法を通して、国際社会における諸現象をみることができ、国際社会も一定の法(規律)に基づいて諸活動が成り立っていることを知ってもらうこと。</p>		
講義概要	<p>国際社会において、法的規律がどのように行なわれているか、国際法の形成・発展をはじめとして、その基本的事項、特に、国家の活動との関係で国際法の基本的事項を扱う。時には、実際に生じた事件を取り上げ、生きた国際法についても解説する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・寺沢 一他編著『標準 国際法(新版)』 青林書院 ・石本泰雄 他編『解説 条約集(第5版)』 三省堂 	
	参考文献		
評価方法	<p>筆記試験による。日常点(例えば、出席など)も考える。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明と勉強する場合に心がけておくこと、及び、授業態度などについて述べる。
2	近代国際社会の構造と国際法の出現及び発展について述べる。(教科書、Ⅰ、pp.3-23)
3	国際法がどのような形式で存在するかについて述べ、特に、国際慣習法を取り上げる。(教科書、Ⅱ、pp.29-51)
4	前回到引き続き国際法の存在形式について述べ、特に条約を取り上げる。(教科書、Ⅶ、pp.337-345)
5	前回到続き、条約を取り上げる。(教科書、Ⅶ、pp.356-373)
6	国際法と国内法の関係(教科書、Ⅱ、pp.58-73)
7	国家とは何か。国家はどのようにして成立するのか。(教科書、Ⅲ、pp.74-92)
8	国家の権利義務について、特に、国家主権、管轄権などについて。(教科書、Ⅳ、pp.105-112)
9	前回到続き、不干渉義務について。(教科書、Ⅳ、pp.113-116)
10	国家の領域について、領土とは何か、国境とは何か、また、領域権の性質などについて。(教科書、Ⅶ、pp.201-217)
11	海洋の国際法について、領海、経済水域、大陸棚など。(教科書、Ⅷ、pp.229-253)
12	海洋の国際法の続き、公海、深海底などを中心に。(教科書、Ⅷ、pp.225-228、254-278)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	空の国際法について、航空機の地位、宇宙と人工衛星など。(教科書、Ⅶ、pp.222-224、279-283)
2	人の国際的移動と国際法の関連について。国籍、出入国、難民などの問題。(教科書、Ⅹ、pp.288-298)
3	人権の国際的保護の問題。(教科書、Ⅹ、pp.306-311)
4	国際犯罪について。
5	外交使節と領事。(教科書、ⅩⅠ、pp.317-331)
6	国際組織の構造と活動、その国際的地位について。(教科書、Ⅴ、pp.129-156)
7	国際責任の問題、国際違法行為があれば、責任をとらなければならない。(教科書、ⅩⅢ、pp.373-389)
8	国際環境の保護と国際法。(教科書、ⅩⅣ、pp.395-420)
9	国際紛争の解決はどのようになされるか。(教科書、ⅩⅤ、pp.421-431)
10	国際裁判について。(教科書、ⅩⅤ、pp.432-450)
11	戦争と国際法について、戦争の法的性質、その違法化の問題。(教科書、ⅩⅥ、pp.451-466)
12	国際連合と集団安全保障。(教科書、ⅩⅥ、pp.477-510)
備考	

科目名	政治学総論（済・菅旧、旧旧）	担当者名	深澤民司
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>本講義は、無限に多様な政治をヴィヴィッドに感じとり、それを批判的に理解できる能力を身につけることをめざして、政治学の基本的な概念、論理、視点、問題意識、考え方を習得することを目標にします。したがって、講義の重点は全体的ないし包括的なレベルにおかれますが、それが机上の理解に終わらないようにするためにも、つねに具体的事象との連関に配慮しつつ講義するつもりです。</p>	
講義概要	<p>以下の順で講義を進めていく予定です。第一に、政治・権力・国家といった政治学の基礎概念を解説します。第二に、現代の社会と国家が形成された歴史過程を、政治・経済・文化などの点から多角的に照射することに努めます。第三に、民主主義と自由主義という政治原理の論理と問題を話します。第四に現代の政治機構、第五に政治過程の一般的な理論を解説し、それを踏まえたうえで、第六に、現代日本の政治的特質を他の諸地域との比較を通して論じます。第七に国際政治の歴史的展開を辿りながら、現在の国際政治の動きを把握する視点を抽出するつもりです。なお、年に4回ほど、直前の講義に関連した時事問題ないし具体的な政治的事例を解説する予定ですが、それ以外にも重要な政治的問題が生じた場合は、予定を変更して論じるつもりです。</p>	
使用 用 教 材	テキスト	使用しません
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・高島通敏『政治学への道案内』（三一書房） ・有賀弘他『政治——個人と統合』（東京大学出版会） ・小笠原弘親他『政治思想史』有斐閣 ・黒川貢三郎他『現代政治過程論』北樹出版 ・松本三郎『テキストブック国際政治』有斐閣ブックス <p>その他は講義のなかで紹介します。</p>
評価方法	後期定期試験のときに試験を行いません。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス：1年間の講義内容の説明、政治学の特性について
2	I. 政治学の基礎概念－1. 政治とは何か－(1)政治の意味、(2)政治の所在
3	I. 政治学の基礎概念－2. 権力と権威－(1)権力
4	I. 政治学の基礎概念－2. 権力と権威－(1)権力 [続き]
5	I. 政治学の基礎概念－2. 権力と権威－(2)権威と支配
6	I. 政治学の基礎概念－3. 国家－(1)国家の意味、(2)主権
7	特別講義：I. に関連した時事問題ないし具体的事例の解説
8	II. 社会と国家の歴史的展開－1. 前近代－(1)前近代社会、(2)前近代国家
9	II. 社会と国家の歴史的展開－2. 近代－(1)近代社会、(2)近代精神
10	II. 社会と国家の歴史的展開－2. 近代－(2)近代精神 [続き]、(3)近代国家
11	II. 社会と国家の歴史的展開－3. 現代－(1)現代社会、(2)現代国家
12	特別講義：II. に関連した時事問題ないし具体的事例の解説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	III. 近代政治原理－1. 民主主義－(1)J. J. ルソー、(2)民主主義の論理と問題
2	III. 近代政治原理－2. 自由主義－(1)J. ロック、(2)自由主義の論理と史的展開
3	III. 近代政治原理－3. 近代政治思想の展開
4	IV. 現代政治機構－1. 政治機構の諸形態、2. 議会－(1)議会の歴史、(2)近代議会主義、(3)二院制
5	V. 現代政治過程－1. 政治過程の概念、2. 選挙－(1)選挙の機能
6	V. 現代政治過程－2. 選挙－(2)選挙制度
7	V. 現代政治過程－2. 政党－(1)政党の機能、(2)政党制の諸類型
8	特別講義：III. ～V. に関連した時事問題ないし具体的事例の解説
9	VI. 現代日本の政治－1. 権力構造、2. 金権政治
10	VII. 国際政治の歴史的展開－1. パワー・ポリティクス of 成立と展開－(1)絶対主義時代、(2)市民革命時代、(3)帝国主義時代、(4)2つの世界大戦
11	VII. 国際政治の歴史的展開－2. 冷戦とその後－(1)冷戦体制の成立、(2)デタントと多極化、(3)新冷戦から協調へ、(4)ポスト冷戦の世界
12	特別講義：VI. ～VII. に関連した時事問題ないし具体的事例の解説
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経済書研究Ⅰ）	担当者名	安藤 登
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>経済学部学生として知っておかなければならない経済用語や経済理論を英文テキストによって学び、自分の知識として蓄積することに努め、さらに、必要に応じてその知識を英語で表現し活用できるようになることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>講義予定にしたがって、各テーマごとに適切な部分をテキストから選び出し、各学生に読ませ、意味内容を発表させる。それに対して、各種の質問（たとえばその用語の定訳、反対語、類似語、あるいは、定義、理論の内容、キーワードなど）を発して答えさせ、説明する。</p> <p>1対1の形での対話の進行による授業が主となるが、アト・ランダムに他の学生の発言も求めつつ、教室の全員が参加する形の学習にする。</p> <p>プリントを各回ごとに配布し、予習を義務とする。効果的な授業と出欠の記録のため、席を指定する。テキストの配布もあり、第1回の授業に必ず出席すること。</p>		
使用教材	テキスト	選定中。	
	参考文献	<p>・ Jae. K. Shim and Joe G. Siegel; <i>Macroeconomics</i>, Barronsを準テキストとして使用することも考慮する。</p>	
評価方法	<p>学習態度（出欠を含む）および前・後期定期試験の成績を総合して評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ミクロ経済学対マクロ経済学 (Microeconomics vs. macroeconomics)
2	経済政策 (Economic policy)
3	同上
4	需要と供給 (Supply and demand)
5	同上
6	市場均衡 (Market equilibrium)
7	同上
8	所得循環の流れ (Circular flow)
9	同上
10	景気循環 (Business cycle)
11	国民総生産 (Gross National Product)
12	その他の国民所得系列 (Other national income measures)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	消費と限界消費性向 (Consumption and marginal propensity to consume)
2	投資 (Investment)
3	均衡所得・生産の決定—2部門モデル (Determination of equilibrium output and income—A two sector model)
4	乗数 (The multiplier)
5	課税と消費関数 (Taxation and consumption function)
6	財政政策 (Fiscal policy)
7	同上
8	銀行の信用創造 (How banks create money)
9	中央銀行とマネーサプライ (FRS and money supply)
10	ケインズ主義 (Keynesianism)
11	マネタリズム (Monetarism)
12	同上
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経済書研究Ⅰ）	担当者名	伊藤正昭
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>一年間という短い期間で成果を上げるのはなかなかむずかしいが、使用予定のテキストにみられるような経済学関連の初歩的な部分をとりあげて訳しながら、「経済学を英語をとおりて学ぶ」姿勢を身につけることをおもな目標としたい。</p>		
講義概要	<p>テキストの" <i>Economics</i> " および" <i>Business Studies</i> " とともに、English for Academic Purposes Seriesとして出版されているもので、それぞれ2本のテープが付属している。そのいずれのテープにも大学の教室で行うような講義風の箇所があり、それを聞いた後で、講義の内容に関する質問がだされて、それに答えながら議論をするというつくりかたになっている。</p> <p>この講義では、2つのテキストのなかから" Understanding a Lecture " の部分だけをとりだして輪読する。該当するところのtapescriptを聞き、前期は経済学、後期はビジネス関連の部分を訳すというかたちをとっていきたい。必要に応じて、該当する部分の教材（ハード・コピー）を配ります。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・前期：Christopher St John Yates; " <i>Economics</i> ", Cassel Publishers ltd., 1989. ・後期：C. Vaughan James; " <i>Business Studies</i> ", Prentice-Hall, 1992. 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・長谷川啓之編『英和・和英 経済用語辞典』富士書房 ・長谷川啓之編『英和経済用語辞典』富士書房 	
評価方法	<p>前期および後期に試験を行う。出席もポイントに加えることもありうる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回、英和辞書を持参してください。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Three Economic Issues
2	The Production Possibility Frontier
3	Markets
4	Microeconomics and Macroeconomics
5	Economic Analysis(1)
6	Economic Analysis(2)
7	Supply and Demand(1)
8	Supply and Demand(2)
9	Price, Income and Demand
10	Consumer Choice
11	Output Supply
12	Money and Banking
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Starting a Business
2	The Problem of Cash Flow
3	The Paper Chase
4	Lies and Statistics
5	Dealing with People
6	Managing the Paperworks
7	Illustrating the Point
8	Catching the Eye
9	It Pays to Advise
10	Planning the Attack
11	Using Computers
12	まとめ
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経済書研究Ⅰ）	担当者名	岡田 博
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>ウィルフレッド オーエン著 『Transportation and World Development』をテキストとして、訳を主にして読み進んでいきたい。</p> <p>講義の目標としては、英文の読みと訳に重点を置く。</p>	
講義概要	<p>マイカーの増大と社会的機会の増大について、研究していく。内容としては、移動性と教育について、旅客輸送と経済発展について、工業国と発展途上国それぞれにおける旅客輸送について、電気通信の役割について等々。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ Wilfred Owen; <i>Transportation and World Development</i>, The Johns Hopkins Univ. Press, Baltimore.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>授業中の発表と、定期試験の成績とで評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>当日の授業で進む範囲のところを予め指示するので、指示された範囲のところを訳して、ノートに書いて提出してもらう。欠席の多い人には単位を与えない。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Mobility and Education の講読
2	Mobility and Education の講読
3	Travel and Development の講読
4	Travel and Development の講読
5	Travel and Development の講読
6	Travel in Industrial Country の講読
7	Travel in Industrial Country の講読
8	Travel in Industrial Country の講読
9	Travel in Developing Country の講読
10	Travel in Developing Country の講読
11	Travel in Developing Country の講読
12	Travel in Developing Country の講読
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	The Role of Telecommunication の講読
2	The Role of Telecommunication の講読
3	The Role of Telecommunication の講読
4	Marshaling The Necessary Resources の講読
5	Marshaling The Necessary Resources の講読
6	User Charges for Transportation の講読
7	User Charges for Transportation の講読
8	User Charges for Transportation の講読
9	The Situation in Third World Country の講読
10	The Situation in Third World Country の講読
11	International Financing Assistance の講読
12	International Financing Assistance の講読
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	岡村 国和
-----	------------------	------	-------

講義の目標	<p>本講義における外国書研究の目標は、諸外国（主として英米）の経済分野あるいは経営分野の専門書の講読し、その内容を理解するだけでなく周辺領域をも検討することにある。さしあたりテキストの輪読を行うが、翻訳することが主要目標ではなく、あくまで内容の検討が主要目標なので、章または節ごとにディスカッションを行い、可能であればディベートすることも予定している。従って受講希望者は、テキストのより一層の理解を深めるために講義中に紹介する関連文献（主として邦文）による予習を行うことが要求される。</p>	
講義概要	<p>保険現象に関し、保険経済論・保険経営論に関するテキストの輪読と討議を中心として講義を進めて行き、ある程度進展した段階で翻訳した文書を清書の上、個別的に提出することを全員に義務付ける。保険経済現象に関するテーマとしては、保険のミクロ経済分析に関する文献や、実証的な分析に関する基礎的文献をも講読する予定である。さしあたり雑誌・論文・著書・統計資料などを輪読するが、とくに雑誌などの場合は理論面よりいかにすばやく情報を取り入れるかが重視されることもあるので、速読だけでなく世界の動きなどにも常に注意し興味を持ち続けることが要求される。</p>	
使用教材	テキスト	テキストは未定。ただしプリントして配布する。
	参考文献	講義中に適宜紹介するが、主として邦文献の予定。
評価方法	主として出席状況およびレポート・発言内容等によって評価する。	
受講者に対する要望など	本講義は経済数学もしくは確率・統計に関する数学を用いた文献を利用する予定であるので、予習に労を惜しまない者の参加を希望する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定。但し、初回の講義の際に受講者と話し合いの上で決定する。さしあたり、適度な区切れのあるところ（章毎など）でディスカッションする。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究 I (外国経済書研究 I)	担当者名	奥山正司
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>人口高齢化や加齢 (aging) という現象を通して、社会の諸側面にどのような変化が生じているのかを学ぶことをねらいとする。特に、日本では、産業化や加齢の過程で、高齢者が仕事、退職、収入、家族扶養、保健・医療などの生活面においてどのような変化がみられるのか。米国研究者の資料を題材にして、考える力を身につける。</p>		
講義概要	<p>高齢化が社会や経済の動きといかに密接に関連しているかを学ぶ。特に、日本の社会の特質は、近代化の過程においても残存してきたのか、それとも西欧化することによって消滅したのか (一時的な文化遅滞だったのか) などについて、米国社会と比較しながら考えることに主眼をおく。授業は、日本の人口高齢化と加齢に関わる平易な社会・経済学的な論文を輪読し、討論をしながら、講義を進めていく。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Erdman B. Palmore ; <i>The Honorable Elders Revisited : A Revised Cross-Cultural Analysis of Aging in Japan</i>, Duke University Press, Durham, NC, 1985</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>予習、復習、発表、出席を重視する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	近代化と高齢者 近代化によって日本の高齢者の地位は低下し、社会的統合は弱まったのか。それともその地位は一般に高くなったと仮定しうるのか。
2	祖先崇拜と敬老精神 日本の伝統宗教である祖先崇拜は、敬老精神の基盤となっているのか。また、単一民族である日本人の特質は、親孝行に作用しているのであろうか。
3	健康・医療 日本の高齢者の健康状態は、他の産業諸国と変わらないのか、また、医療制度はどのような状態なのか。
4	家族と居住形態 日本の高齢者の家族関係、特に子どもとの関係はどのような状態か。同居率、子供と孫とのつきあい方、同居・別居のつきあい方、同居のなかでの高齢者の役割は何か。
5	仕事と退職 日本の高齢者の就業率は高い。その理由は、経済的な理由と文化的な要因の2つが考えられる。その理由とは何か。
6	収入と扶養 高齢者の収入と子供からの扶養及び子供への相続などはどのような関係にあるのか。年金による収入は、他の近代諸国と比較するとどのように位置づけられるのか。
7	敬老精神と高齢者 敬老精神は家族の中や他の社会の中ではどのように反映されているのか。また、公的な側面である制度の中ではどのように認められているのか。
8	高齢者の社会的活動と満足度 高齢者の様々な社会的活動と生活に対する満足度や不満はどのような関連があるのか。さらには、「活動理論」と「離脱理論」の論争とは、どのような論争なのか。
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究 I (外国経済書研究 I)	担当者名	佐々木 實 雄
-----	---------------------	------	---------

講義の目標	<p>GATTのウルグァイ・ラウンドや日米間の各種経済協議によって明らかになったように、各国の国内制度、とくに規制のあり方はいまや国際的に再検討されなければならない。しかし、そのためには、国際的にコミュニケーション可能な、共通する言語によって問題の概要を認識できなければならない。</p>	
講義概要	<p>講義の目標で明記したように、この講義で外書を使うのはあくまでも学習の手段であり、けっしてそれを読むことだけが目的であるのではない。この講義は、いわゆる規制緩和の問題を、たんに時代の風潮に乗って追従するのではなく、産業組織論の枠組みにあてはめて論理的に再検討することを目的として編成されている。基本的な事柄については講義で説明するが、テキストのブラウジングを通じて、法と経済の接点にある問題群を理論的かつ実態に即して議論していきたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ Walters, Stephen J.K; <i>Enterprise, Government, and the Public</i>, McGraw-Hill, Inc., 1993.</p>
	参考文献	<p>・ 植草益『公的規制の経済学』1991 筑摩書房 ・ 『講座・公的規制と産業』①～⑤、(1994-1995)、NTT 出版。</p>
評価方法	<p>評価は、基本的に、毎時間の理解度と各期における定期試験にもとづいておこなう。その他に、何度か自由課題のレポートを課すが、レポートは減点対象とはせず、加点対象として取り扱う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>テキストの指定箇所を必ず読んでくること。ただし、これは要望ではなく、受講者の義務である。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	ガイダンス (講義の目標、講義の進め方、学習方法、参考書、レポート、評価方法等)
2	Economies of scale and scope in U. S. Industries: Some empirical evidence (p. 346)
3	Destructive competition in transportation industries? (p. 351)
4	Rationing the broadcast spectrum (p. 355)
5	Early regulation of electric utilities: Who gained? (p. 359)
6	Value-of-service pricing in the rail and trucking industries (p. 374)
7	Price caps in the telephone industry (p. 391)
8	Neither rain nor sleet nor competitors... (p. 396)
9	Franchise bidding and waterworks (p. 399)
10	Peak-Load pricing and consumer behavior (p. 409)
11	Competitive electric utilities? (p. 413)
12	The dual market for natural gas (p. 417)
備考	

後期

週	主要テーマ
1	The welfare effects of a zero-price lunch (p. 430)
2	Are airline hubs anticompetitive? (p. 451)
3	Sweet deal or bitter harvest? (p. 461)
4	Constituent service or influence peddling? Congress and the S&L crisis (p. 466)
5	Capitalism, socialism, and pollution (p. 475)
6	The land of fruit and honey (p. 482)
7	The common law on pollution externalities (p. 486)
8	A labeling experiment (p. 513)
9	Bureaucratic lag and drug availability (p. 525)
10	Unintended effects of regulations: Fuel economy standards and automobile safety (p. 530)
11	To lumberjacks, OSHA is not OK (p. 543)
12	まとめ (要点整理、Q & A、今後の学習を進めるためのガイダンス等)
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	栗村英二
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>国際化、情報化の潮流は、日々早まっている。日本語だけに依ってはいられなくなってきた。少なくとも広く一般化している英語による情報の収集も必要度を増している。ビジネスの世界にあっても文書や著書をできるだけ早く耳目を通して頭に入れなければ意思決定もおくれてしまう。この授業では、ビジネスの上で必要とする単語や用語を豊富にし、英字新聞や雑誌の速読を可能ならしめるように考えている。</p>	
講義概要	<p>現代のビジネスの歴史の概説書のテキストを使ってみようと思っている。</p>	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	
評価方法	<p>決っていない</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経済書研究Ⅰ）	担当者名	桑原靖夫
-----	------------------	------	------

講義の目標	専門課程で必要とされる経済学文献、資料、新聞、雑誌等のきわめて平易なものが辞書の助けを借りて、なんとか読める程度にする。	
講義概要	外国語の基礎学力、社会科学的基础が不十分な学生が多いので、当初は文意の把握しやすい比較的短い新聞論説、雑誌などから出発し、それらを材料に経済学を学ぶに必要な諸概念、文献の読み方、技法などを説明する。	
使用教材	テキスト	開講時にコピーなどの形で配布する。
	参考文献	
評価方法	通常の授業における質疑応答、年度末の筆記試験による。	
受講者に対する要望など	教材は読んできていることを前提にして、進行するので予習は欠かせないこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	通常の講義方式ではないので、受講生の理解の程度に応じて進度を調整する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経済書研究Ⅰ）	担当者名	小林 進
-----	------------------	------	------

講義の目標	経済学の基本的概念を英語の外書を使用して理解することを目指す	
講義概要	最初の講義で指示する。	
使用教材	テキスト	未定（最新の経済洋書を現在考慮中、決定後、各自で購入）
	参考文献	
評価方法	平常の講義の出欠と予習、及び前期と後期の二回の試験によって評価する	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	齋藤正章
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>現在、外国語で書かれた良書は、ほとんど翻訳され日本語で読むことができる。しかし、いち早く情報を入手したいときや専門性が高く日本語訳されていない文献は自分で解説する必要が生じる。本講義は、そうした事態に対応するための実践的な技術の習得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>英文雑誌 <i>HARVARD BUSINESS REVIEW</i> から抜粋した記事を読解する。本誌は産業界・学界から選出された各界のリーディング・パーソン (leading person) から寄せられた記事で構成されており、内容的にも時宜的にもその質の高さは有名である。そのため表面的に訳出するのではなく、内容に踏み込んだ訳ができるように必要に応じて記事の補足説明を行いながら授業を進行する。活字の大きさにも依るが、毎回4～5ページ読む予定でいる。受講者全員の予習を大前提としているので訳出者の指名はランダムに行う。題材は年間講義予定を参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ <i>HARVARD BUSINESS REVIEW</i> の1993～1994年の間に掲載された記事から選出したもの。受講者にはコピーを配布する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業への参加姿勢と前後期の試験結果を3対7の割合で評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>辞書を引く手間を惜しまないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	The Theory of the Business (1) by P. F. Drucker
3	The Theory of the Business (2)
4	Dedicated Assets : Japan's Manufacturing Edge by J. H. Dyer
5	The Fall and Rise of Strategic Planning (1) by H. Mintzberg
6	The Fall and Rise of Strategic Planning (2)
7	Competing for the Future (1) by G. Hamel & C. K. Prahalad
8	Competing for the Future (2)
9	Made in U. S. A. : A Renaissance in Quality (1) by J. M. Juran
10	Made in U. S. A. : A Renaissance in Quality (2)
11	Why Incentive Plans Cannot Work (1) by A. Kohn
12	Why Incentive Plans Cannot Work (2)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Making Mass Customization Work (1) by B. J. Pine II, B. Victor & A. C. Boynton
2	Making Mass Customization Work (2)
3	Making Mass Customization Work (3)
4	How to Integrate Work and Deepen Expertise (1) by D. L-Barron et al.
5	How to Integrate Work and Deepen Expertise (2)
6	How to Integrate Work and Deepen Expertise (3)
7	Putting the Balanced Scorecard to Work (1) by R. S. Kaplan & D. P. Norton
8	Putting the Balanced Scorecard to Work (2)
9	Putting the Balanced Scorecard to Work (3)
10	The Reinvention Roller Coaster : Risking the Present for a Powerful Future (1) by T. Goss et. al.
11	The Reinvention Roller Coaster (2)
12	The Reinvention Roller Coaster (3)
備考	

科目名	外国書研究 I (外国経済書研究 I)	担当者名	高橋 善四郎
-----	---------------------	------	--------

講義の目標	<p>今年度は、テキストの第一章の『道徳感情論』の検討 The Moral Psychology of the Theory of Moral Sentimentsから入る。Introductionは、以下の「講義概要」に説明してあるが、授業の中で英文に沿って解説することで終りたい。</p>		
講義概要	<p>アダム・スミス Adam Smith は、三つの主要業績、『道徳感情論』、『国富論』、そして『法学講義』を残しているが、スミス以後、これらの業績をどう読むべきか、という問題が研究者の間で問われてきた。著者、パトリシア・ヴェルハーネは、このアダム・スミス問題 the Adam Smith problem を真正面から取り組んでいる。従来、『国富論』を中心に、「利己心」と「見えざる手」をもってスミスは市場原理を説明する、と解釈されるが、余りにも単純化し過ぎると思う。それは、スミスの業績の関連性に研究者が矛盾を感じるからであるが、著者は、主張される矛盾を否定し、スミスが目指したと思われる思想像（経済哲学）の一貫性を探究する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Patricia H. Werhane; <i>Adam Smith and His Legacy for Modern Capitalism</i>, Oxford University press 1991.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席態度、平常点を中心にして、期末試験（未定）の成績を加えて、総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習を欠かさないことが大切。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	予定は立てられない。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究 I (外国経済書研究 I)	担当者名	田村申一(A・B)
-----	---------------------	------	-----------

講義の目標	<p>この授業では、英文で書かれた経済書の講読を通じて、アメリカの銀行・金融に関する理解を深め、日本の金融を考える手掛りをつくりたいと思います。テキストは、金融の分野において、アメリカで最も話題となった本のひとつです。この本は、専門的な学術書ですが、類書とくらべ説明が明快で分りやすい啓蒙書であり、しかも大胆な改革案をアメリカ議会・政府に示した提案書でもあります。著書は300頁を超える分量ですが、重要な章・節について原文を読み、ほかの箇所は要点を説明し、講読と解説をつなぎながら1年間で1冊全部を読みきるつもりです。</p>	
講義概要	<p>アメリカでは、いま金融機関のリストラクチャリングが進んでいますが、そのひとつの方法として金融制度改革と絡んで注目されている新しい提案がコア・バンク論、ナロー・バンク論です。著者ブライアンは、前者の代表的主張者です。授業では、テキストに沿って、まずアメリカの金融機関、金融システムがどのような危機的状況におかれていたかについて、歴史的に多角的に分析します。つぎに、金融システム全体に現在大きな影響を与えている経済の基本的潮流は何かについて、概観します。最後に、金融業の健全性・収益性を回復し、金融システムを再生するにはどうすればよいかについて、彼の提案を検討します。関連して、日本の金融システム、銀行の不良債権問題などに言及します。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・LOWELL L. BRYAN; <i>Bankrupt, Restoring the Health and Profitability of Our Banking System</i>, Harper Business, 1991</p>
	参考文献	<p>・JAMES L. PIERCE; <i>The Future of Banking</i>, Yale University Press, 1991</p>
評価方法	<p>成績評価は、前期のレポートと後期の試験との平均点を基準とし、これに出席状況、講読分担個所の報告状況を加えて、総合的に決定します。授業の目標、性格からいって、出席状況や報告状況を重視します。なお、前期レポートの提出期限は9月末日(教務課)です。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業での講読は、受講学生が分担して輪読する形をとります。大事なことは邦訳の暗記ではなく、内容の理解ですから、欠席すると大変です。テキストは、プリントして4～5回に分けて配布する予定です。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	この講義の狙い、年間授業プログラム、受講上の注意、成績評価の方法などについてガイダンスしたあと、著者と著書についてイントロダクションとして説明し、早速 Contents を解説します。必ず出席して下さい。
2	<u>Part I. The Bankrupt Social Contract</u> <u>1. Rethinking the Social Contract</u> Preface ; (講読)
3	Banks and Society ; Public Sector Domination ; (講読)
4	Uncontainable Market Forces ; (講読)
5	Free the Markets ; Financial Markets Are Different ; (講読)
6	Market Flaws ; (講読)
7	Making the Market Work Better ; (講読)
8	<u>1. 全体のまとめ</u> (解説)
9	<u>2. The Theory of a Bank: Postwar Model</u> <u>3. Breakdown of the Social Contract</u> <u>4. The Savings and Loan Debacle</u> <u>5. Unleashing Bank Competition</u> <u>6. Bad Lending</u> <u>7. The Costs of a Bankrupt Regulatory Structure</u> 全般の解説
10	<u>Part II. Irresistible Economic Forces</u> <u>8. Securitization</u> Preface ; What is Securitization? Advantages of Securities over Banking ; (講読)
11	Mortgages and other Loans ; (講読) 以下の節の解説
12	<u>9. Globalization</u> Preface ; The Birth of the Global Market ; A Sure Thing ; (講読)
備考	

後期

週	主要テーマ
1	If It Can Be Globalized, It Will Be ; (講読)
2	以下の節の解説 <u>10. Consolidation and Disaggregation</u> 全体の解説
3	<u>Part III. Restoring the Health and Profitability of the Banking Industry</u> <u>11. Core Banking</u> Preface ; What's a Core Bank? Safe Lending ; (講読)
4	Safe Deposits ; (講読)
5	What Would a Core Bank Look Like? (講読)
6	Protecting You and Me ; (講読)
7	What to Do with the FDIC? (講読) <u>11. 全体のまとめ</u> (解説)
8	<u>12. Liberating Economic Forces</u> Preface ; New Holding Company Model ; Segregating the Core Bank ; (講読)
9	Money Market Investment Bank ; Finance Companies ; (講読)
10	Changes in Holding Company Law ; Move to National Regulation ; (講読)
11	Liberating Market, Competitive, and Economic Forces ; (講読) <u>12. 全体のまとめ</u> (解説)
12	<u>13. Transition to a Profitable, Healthy Banking System</u> <u>14. Building a Better Banking System</u> 全般の解説
備考	

科目名	外国書研究 I (外国経済書研究 I)	担当者名	本田浩邦
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>80年代以降のアメリカ経済をテーマにしたモノグラフを素材にして、経済問題の争点を研究するとともに、英語文献の基本的な読解力、テクニカル・タームを修得する。</p> <p>経済学がむずかしいと感じている人にも理解しやすいように、また英語が苦手な人でも興味を持続できるように、具体例をおりまぜて、討論形式ですすめていきたい。</p>	
講義概要	<p>アメリカのマクロ経済についての論争を3つピックアップし、それぞれ意見の対立する代表的な論文を読む。テーマは――</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) レーガノミックスは成功だったか？ 2) 財政赤字はなぜ問題か？ 3) 貯蓄投資バランスはなぜ悪くなったか？ <p>の3つである。</p> <p>輪読、解説のあと、全体でディスカッションする。</p>	
使用教材	テキスト	<p>Thomas R. Swartz and Frank J. Bonello (ed.); <i>Taking sides: Clashing Views on Controversial Economic Issues (Sixth Edition)</i>, The Dushkin Publishing Group Inc. (1993) 必要な箇所をコピーして配布する。</p>
	参考文献	<p>推薦辞書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『新英和大辞典(第5版)』研究社 ・長谷川啓之『経済用語辞典』富士書房 ・『最新英語情報辞典』小学館
評価方法	<p>平常点、出席および試験の結果による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>できるだけ大きな辞書で予習すること。『デイリー・コンサイス』のようなポケットサイズの辞書の持ち込みは認めない。</p>	

年 間 講 義 予 定

ISSUES AND SECTIONS

Introduction

(Issue 1) Did Reaganomics Fail ?

[1] Samuel Bowles, David M. Gordon, and Thomas E. Weisskopf, "Right-Wing Economics Backfired," *Challenge* (January/February 1991)

[2] Paul Craig Roberts, "What Everyone 'Knows' About Reaganomics," *Commentary* (February 1991)

[3] Discussion

(Issue 2) Do Federal Budget Deficits Matter ?

[4] Alan Greenspan, "Deficits Do Matter," *Challenge* (January/February 1989)

[5] Robert Eisner, "Our Real Deficits," *Journal of the American Planning Association* (Spring 1991)

[6] Discussion

(Issue 3) Does the United States Save Enough ?

[7] Fred Block, "Bad Data Drive Out Good: The Decline of Personal Savings Reexamined," *Journal of Post Keynesian Economics* (Fall 1990)

[8] William D. Nordhaus, "What's Wrong with a Declining National Saving Rate?," *Challenge* (January/February 1990)

[9] Discussion

(a few weeks for each section)

科目名	外国書研究 I (外国経営書研究 I)	担当者名	西川純子
-----	---------------------	------	------

講義の目標	経営学の古典的な文献に接して直接にその魅力を体得することを目標とする。	
講義概要	英文を音読し、一行ずつ日本語に移しかえることを繰り返す。進度は遅いが確実に読みこなす努力を重ねることによって読解力はすすむはずである。	
使用教材	テキスト	・ Alfred CHANDLER; <i>Essentials of Alfred CHANDLER</i>
	参考文献	教材はプリントして配布する。
評価方法	平常点による。	
受講者に対する要望など	欠席しないこと。予習を必ずすること。辞書を必ず携行すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	原 亨
-----	------------------	------	-----

講義の目標	この外書Ⅰは、英語で経済の理論や現状分析を学ぶ。語学を勉強するのではない。もっとも英語が読めなくては、それどころではない。それにも十分留意はするが、経済学を学ぶ方に重点がある。本年は、アメリカ経済の現状に関する文献、論文を抜粋して、理論や現状分析の方法を吸収する。		
講義概要	<p>94年以降、アメリカ経済は、拡大傾向を示している。そこまでにいたるマクロ、ミクロの経済過程と主要な経済ファクターについて、現状の把握につとめる。ただ文章だけではなく、表や図による分析方法も学ぶ。その中から学術用語やベーシックな理論も、できるかぎり摘出して解説していくようにする。</p> <p>まず、経済成長とその陰に潜む財政赤字、なおも不十分な公共投資、低生産性、所得不平等とその対策、経済成長戦略、対外貿易政策についての外観をみる。その後、とくに雇用の造出と労働力政策を取り上げる。さらに規制と競争促進策についても、具体的にどのように行われたか、みておきたい。</p>		
使用教材	テキスト	テーマに沿った英文を用意し、配布する。	
	参考文献	参考文献は、講義の中で適宜指示する。	
評価方法	評価は、下訳とその清書（いずれもレポート用紙を使用）の提出。前期、後期の試験、授業への参加度などによって決定する。		
受講者に対する要望など	予めテキストを読んで、受講すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストのコピーを配布し、1年間の講義概要を説明する。
2	最近、アメリカ経済は、不十分な形で景気回復した。その不十分な経済というのは、どういうことかを概観する。
3	不十分さの第1点は、生産性の向上であり、第2は、所得分配の不平等性である。
4	第3は、財政赤字がさらに悪化し、債務が累積したことである。第4は、公共投資が不十分であったことである。2回にわたって、アメリカ経済の問題点を探る。
5	これに対し、アメリカの経済成長と変化の戦略は、いかなるものであったか。投資を中心にみていく。資本形成の促進と赤字削減というテーマが、どのように追及されたか、を強い問題意識をもって読む。
6	投資活動について。ここでは労働力への投資をかなり詳細にみていく。アメリカの労働力の質的低下が問われていることを問題にする。さらに、それに関連して教育投資についても言及する。
7	次に、公共インフラストラクチャーへの投資について。その不十分さと今後の対策について考える。
8	そして、生産性向上のためのテクノロジー投資の問題をとりあげる。特にR&D投資は、どう進めなければならないか、を考察する。
9	最終的に総括として通商政策、つまりアメリカの輸出需要の増大策をとり上げる。特に「北米自由貿易協定」の内容とその意義について理解を深めておく。
10	第2に、「関税貿易一般協定 ウルグアイ・ラウンド」についても考えておく。
11	こうしたアメリカ経済の中でも、大きな焦点は医療保険制度の改革であるが、財政、給与所得との関係がどうなるのか、みておきたい。
12	以上の諸問題の要約と総括を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期には、冷戦以降のアメリカ経済の成長戦略と外国経済との関連を、もっと詳細に、具体的に取り上げていく。とりわけ、アメリカ経済の負債の削減についてみておく。
2	さらに非住宅構築物の過剰供給、クレジット・クラッチについて。
3	そして、企業のダウンサイジングの問題を取り上げる。それらの諸問題が、次第に縮小されている状態をみていく。
4	特に1993年のアメリカ経済について、個々のファクターを取り上げ、概観していく。消費支出から始める。
5	企業の固定資本投資と在庫投資について。
6	住宅投資と輸出について。
7	雇用と生産性、所得について。
8	インフレーションと金融政策について。
9	財政及び租税政策について。
10	財政の赤字削減と実質金利の関係について。
11	所得税増税と経済的反応について。
12	これからのアメリカ経済の見通し。
備考	

科目名	外国書研究 I (外国経営書研究 I)	担当者名	福島 寿
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>本講義の目的は、英文に慣れ、少なくとも将来、卒業論文等を執筆する際に、英語文献を自分なりに理解できる力をつけることにある。このために、内容が比較的的理解しやすいテキストを用いて授業をすすめることを計画している。</p>		
講義概要	<p>シラバスに書いたように、前期と後期とでは異なるテキストを使用します。すなわち、前期においては、米国において、医師、弁護士と並び、職業専門家として市民権の確立している公認会計士の責任問題を論じているテキストを使用します。また、後期においては、公認会計士の社会における役割を論じているテキストを使用します。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・テキスト I Vincent, Murray, Philip, and Henry 著; <i>Montgomery's Auditing (11th Edition)</i> の第 4 章 "Professional Responsibility and Liability".</p>	
	参考文献	<p>・テキスト II The Commission on Auditor's Responsibility 著; <i>Report, Conclusions, and Recommendations</i> の第 6 章 "The Boundaries of the Auditor's Role and Their Extension".</p>	
評価方法	<p>評価はテスト及び授業への参加度 (レポートを含む) により決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>本講義においては、英文を逐語的に解釈するのではなく、英文で書かれている内容の理解を優先させることを希望します。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明。テキストⅠの pp. 87-89
2	テキストⅠの pp. 90-92
3	テキストⅠの pp. 93-95
4	テキストⅠの pp. 96-98
5	テキストⅠの pp. 99-101
6	テキストⅠの pp. 102-104
7	テキストⅠの pp. 105-107
8	テキストⅠの pp. 108-110
9	テキストⅠの pp. 111-113
10	テキストⅠの pp. 114-116
11	テキストⅠの pp. 117-119
12	テキストⅠの pp. 120-123
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストⅡの pp. 51-52
2	テキストⅡの pp. 52-53
3	テキストⅡの pp. 54-55
4	テキストⅡの pp. 55-56
5	テキストⅡの pp. 57-58
6	テキストⅡの pp. 58-59
7	テキストⅡの pp. 60-61
8	テキストⅡの pp. 63-64
9	テキストⅡの pp. 65-66
10	テキストⅡの pp. 67-68
11	テキストⅡの pp. 69-70
12	年度末テスト
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	細田 哲
-----	------------------	------	------

講義の目標	下記の文献を題材として、日本の会計基準および会計実務と世界各国のそれとの比較を試み、日本の会計基準・会計実務の諸特徴を分析する。それら諸特徴が、日本のどのような社会・経済的な背景のもとで生成してきたのか、また特色ある日本の会計基準・実務は、現実にどのような機能を果しているのか検討する。IAS（国際会計基準）の日本への導入問題の是非についても検討する。	
講義概要		
使用教材	テキスト	・ F. D. S. Choi & R. M. Levich; <i>The Capital Market Effects of International Accounting Diversity</i> , Stern, 1990.
	参考文献	
評価方法	年2回以上の試験の結果による。	
受講者に対する要望など	会計学および財務論関係のゼミに在籍しているか、これら学問分野に特に関心を抱いている学生諸君の受講が望ましい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	各国資本市場の多様性 (1)
2	各国資本市場の多様性 (2)
3	各国の会計、財務報告および監査実務の多様性 (1)
4	各国の会計、財務報告および監査実務の多様性 (2)
5	各国の会計、財務報告および監査実務の多様性 (3)
6	各国の会計、財務報告および監査実務の多様性 (4)
7	証券価格と市場の効率性 (1)
8	証券価格と市場の効率性 (2)
9	資本市場の多様性、会計情報および投資家の意思決定間の関係 (1)
10	資本市場の多様性、会計情報および投資家の意思決定間の関係 (2)
11	資本市場の多様性、会計情報および投資家の意思決定間の関係 (3)
12	資本市場の多様性、会計情報および投資家の意思決定間の関係 (4)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	会計上の多様性に対する解決策 (1)
2	会計上の多様性に対する解決策 (2)
3	会計上の多様性に対する解決策 (3)
4	会計上の多様性に対する解決策 (4)
5	研究設計および研究方法 (1)
6	研究設計および研究方法 (2)
7	研究結果の概要 (1)
8	研究結果の概要 (2)
9	特定の会計政策の勧告 (1)
10	特定の会計政策の勧告 (2)
11	特定の会計政策の勧告 (3)
12	将来の研究に対する提言
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経済書研究Ⅰ）	担当者名	益山光央
-----	------------------	------	------

講義の目標	英文の国際経済学のテキストを用いて国際経済に関する理解を深める。	
講義概要	毎回、受講生をランダムに指名し発表を求める。各自分担の箇所はレポートとして提出し、年度の終わりにはまとまった文集としたい。	
使用教材	テキスト	・ Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Comparative Advantage and the Gains from Trade
2	Economic Efficiency and Comparative Advantage
3	Factor Endowments and Comparative Advantage
4	Factor Substitution and Modified Ricardian Model
5	Factor Substitution and the Heckscher-Ohlin Model
6	Imperfect Competition and International Trade
7	Trade and Factor Movement
8	Instruments and Uses of Trade Policy
9	The Evolution of trade Policy
10	The Future of the Trading System
11	The Balance of Payments and the Foreign-Exchange Market
12	Incomes and the Current Account
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Exchange Rates and the Current Account
2	Interest Rates and the Current Account
3	Expectations, Exchange Rates, and the Capital Account
4	Stocks, Flows and Monetary Equilibrium
5	Asset Markets, Exchange Rates, and Economic Policy
6	The Evolution of the Monetary System
7	The future of Monetary System
8	Mathematical Note on Trade Theory and Policy
9	Mathematical Note on Monetary Theory and Policy
10	Selected Problems
11	Selected Problems
12	Selected Problems
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	宮城浩祐
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>人びとは、自分たちの価値観を反映した経営慣行や経営組織を開発するものであり、社会は、その文化のもつドミナントな価値観を反映した慣行や組織から構成されていると見てよい。これが文化的相対主義の立場である。経営理論にしても同じで、それが開発された社会のドミナントな価値観を反映するものである。このように、経営理論にしても、経営慣行にしても、それを生んだ文化のドミナントな価値観を反映したものであって、どこの文化にも通用する普遍的なものではないことを深く認識してもらうことが、ここでの目標である。</p>	
講義概要	<p>以上の目標を達成するために、G.Hofstedeが開発した「仕事に関連する四つの価値観」を使って、経営慣行や経営理論を国際的な観点から比較検討することにする。ちなみに、「仕事に関連する四つの価値観」とは、(1)個人主義/集団主義、(2)権力格差、(3)不確実性回避、(4)男性化/女性化である。この四つの文化的モノサシを使って国際比較してみると、なぜアングロサクソン型の経営慣行が日本にはないのか、反対になぜ日本型の経営慣行がアングロサクソン社会には存在しないのかが見えてくる。またアメリカで開発された経営理論が必ずしも他の国の企業経営にはあてはまらないことも納得できる。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ G. Hofstede; "Cultural dimensions in management and planning", Asia Pacific Journal of Management, January 1984.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>総合評価による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>まえもって予習してくることを望みます。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	宮澤 清
-----	------------------	------	------

講義の目標			
講義概要	<p>本講読は、19世紀後半に詩人として、また批評家として活躍したマッシュ・アーノルド（1822～1888）の <i>Culture and Anarchy</i> の中で示されている意味と内容を吟味する。それは次のように要約される。自由は、それ自体において価値があるのではなく、またそれ自体が目的なのでもない。自由は、その背後にある大いなる価値を表わすところの文化に役立って、はじめて意味をもつのである。人は自由の名のもとに、己の欲するままに行動するが、その自由は文化の手段として役立つとき、はじめて光を増す。なぜなら、自由は文化によって発せられる光の反映として光るだけだからである。その意味で、自由は、プラトンの「洞窟の比喩」にもあたるともいえるのである。</p>		
使用教材	テキスト	Arnold, Matthew ; <i>Culture & Anarchy</i> : AMS Press : New York	
	参考文献		
評価方法	期末テストによる。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	文化主義思想：自由至上主義ではなく、単に文化に役立つ手段としての価値にすぎないとするアーノルドの「文化主義思想」は、「文化とは何か。文化は何の役に立つのか。なぜそれが必要なのか」を問うものである。
2	文化：文化がキュアリオステに淵源をもつというのは誤謬である。その文化は、完全を求める崇高な心にその源を発する。なぜなら、文化は、完全なるもの、真なるもの、美なるものを追求する言葉だからである。
3	宗教：人間の最も深刻な経験から生み出され、かつ人間の切なる願いである自己の完成を目指す努力のなかで光を与えてくれるのは、宗教である。宗教は、文化を目指す「完全とは何か」という問いと軌を一にする。
4	宗教と文化：宗教は「神の国は汝らの中にある」と教えるが、文化もまた人間の完成がわれわれの内的状態、すなわちわれわれが動物とは区別されたところの他に誇りうる卓越性のなかに見出されるものなのである。
5	文化：文化は、人間が物を考え、思いをめぐらす能力を限りなくのぼし、それらが円満かつ調和のうちに円熟して、おのずと垂れる果実となって完成され、そこに品位と威厳と高貴さが生まれることを教えてくれる。
6	文化の特質：文化は、われわれの魂を無限にひろげ、その力を無限にのぼし、英知と美を限りなく豊かに成長させたり発達させていくところに息吹くのであって、所有したり休息するところには創造されないものである。
7	文化の機能：文化は、あくまでも調和的な完全を目指すものである。それは、文化が、何かをもつことにおいても、何かになることにおいても、外面的な意味での完全ではなく、心や魂といった内面的な意味での完全を求めることなのである。
8	文明：近代世界におけるすべての文明は、ギリシャやローマの文明よりもはるかにメカニカルに外面的であり、しかもたえずメカニカルに外面的なものになろうとしている。それだけに文化のもつ意義は深く大きい。
9	詩と宗教：文化は優美と明知を完全なものと考えている点では詩と同じであり、詩と同じ法則に従う。しかるに、人間性の表現については、宗教は詩を超えている。なぜなら、宗教は詩以上に完全を求めるからである。
10	芸術と宗教：ギリシャの最も優れた美術や詩歌は、常に宗教と合一しているばかりでなく、美や人間性についての観念も、宗教上の敬虔的なものと合体して生み出される。ギリシャの芸術が卓越しているゆえである。
11	観照：ギリシャ人が美といい、調和といい、全き人間性という観念を、明白かつ至上のものとして考える背景には、人間にまつわる具体的な利害得失から離れて幻影でない真理を悠然と「観照」という態度があった。
12	イギリス民族の特質：イギリス民族ほど、倫理の確立（完成）を目指して努力した国民はいない。「悪魔に立ち向かえ」とか「悪しき者に勝て」という命令が文字通りの意味において生かされた国は、ほかにないものである。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	文化：文化はすべてが全からんことを求め、道理と神の意思をひたすらおしひろめ、すべてのものが調和のなかにあることを願う。文化はこのような事態を直観しようとする人びとに安らぎを与えてくれるのである。
2	文化：文化が掲げる理念は、魂の働きのなかにあってはじめて完全なものとなる。言葉をかえていえば、文化が常に内面的な魂との共生によって、より大なる優美と明知、より豊かな生命と共感を人びとに与える。
3	優美と明知：完全を追求することは、優美と明知を求めることに通じる。このことのために働くのは、理性と神の意思をひろめるのと同じである。しかし手段や憎悪のために働くのは、秩序の破壊に役立つだけである。
4	文化と目的：文化はいつも手段の彼方にある目的をみる。文化は憎悪と背中合わせにある。文化は、優美と明知をあまねくひろめるといふ一つの大きな意欲をもっているが、そこにおいては憎悪は死滅するだけである。
5	文化の役割：文化は、なべてが全き人となるまでは寸陰も休息することはない。文化は蒙昧な大衆に優美と明知が与えられるまでは全きことをたえず求め続ける。人が優美と明知を求めて働かざるをえないゆえである。
6	文化と自由：文化は常に世の中で思考され、生み出された最善のかつ最良のものをあまねくおしひろめ、そうすることによって万人が優美と明知の雰囲気の中で自由闊達に生きてゆくことができるように努めるのである。
7	文化人：文化人が、真に平和の使徒であるといわれるのは、彼らこそがその時代における最高の知識と思想を社会におしひろげようとする強烈な意欲をもつ人達だからである。文化はこの環境の中で息吹くのである。
8	青年と大衆：アリストテレスは、思想や事物の理法をあくまで追求し、高邁な精神と完全を目指すという心を持ち続けることができるのは、青年を措いてほかにないという。大衆は、これらをすべてのがしてしまう。
9	文化主義者：文化主義者は今なお己の啓蒙と教育とにかかわっているから、あえて人を教育するようなことはしない。結局、事物の理法を究めようとするのでなければ、真の意味での教育者にはなりえないのである。
10	ヘレニズム：ヘレニズムとは、無心に事態に肉迫し、その事態をありのままにみることによって、事物は真にそのありのままの姿（真・善・美）において顕れる、という古代ギリシャの生活理念を意味したのである。
11	美と真理：ギリシャ人の“Beauty is truth and truth beauty”という理念のなかに、優美と明知を願う精神と真理を求める精神の息吹きが感じられる。ギリシャ人はこの理念を心（魂）の住処としたのである。
12	永久の前進者：真理は成長するから、人間にとって最終的な真理はありえない。ヘレニズムは、既成の概念、制度、慣習、芸術を洗い直して、さらによき理念、真理を求め続けていく「永久の不満者」の思想なのである。
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	百瀬 房徳
-----	------------------	------	-------

講義の目標	<p>ヨーロッパ経済共同体が1993年より形成され、現在では欧州連合になろうとしています。この形成の為には種々の制度が統一されてきました。そのうちの付加価値税を通じて統一過程を眺めてみようと思う。</p>		
講義概要	<p>付加価値税は導入以来ほぼ100年になろうとしている。ヨーロッパ経済共同体の財源となつて以来、非常に大きな役割を果たすようになって来た。付加価値税の歴史、付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について文献を通じて理解する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・Ernst & Young; <i>VAT in Europe</i></p>	
	参考文献	<p>無し</p>	
評価方法	<p>前期および後期に試験を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>無し</p>		

年 間 講 義 予 定

下記の項目にしたがって一年間の授業を進める：

The European Economic Community

The Aims of the European Community

The White Paper

The Community's Institutions

The Financial Means of the Community

The Value Added Tax

Hamonisation of VAT Regislation within the European Community

The Proposals for Further Hamonisation

科目名	外国書研究 I (外国経済書研究 I)	担当者名	山越 徳
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>海外（英語）の文献を通して、経済学や経済の状況をより広く、より多く知ること、専門用語の知識を増やすことにより、経済学や経済の情報、海外の情報、外国語の文献に対して、少しでも身近に感じ、自ら進んでそれらに触れる 1つのキッカケになればと考える。また、社会や立場、地域が異なれば、考え方、捉え方も違ってくることなども、いっしょに考え、議論する。</p>	
講義概要	<p>経済学や経済の状況さらには専門用語等、より広く、より多く知するため、国際労働力移動、外国人労働力問題、NIE Sの現状、貿易摩擦、技術変化などの中から最近のペーパーを採り挙げ、読み、議論する。問題を理解するためには、ペーパーを読み切ることも必要であり、またより多くの問題を扱いたいとの理由から、夏休みのレポートも含めて、ペーパーを4～5件は読み進める。なお関連事項に関して詳しく知る必要があるものは、授業中に指名し、次回までに調べ、報告してもらうこともある。</p>	
使用教材	テキスト	上記ペーパー（現在選択中）のコピーを授業に配布する。
	参考文献	英和・和英の辞書は必ず授業には携帯すること。
評価方法	<p>授業の出欠、授業の中での応答、夏休み期間中の課題レポートおよび、期末考査の結果により評価を行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>文献の内容をより深く理解するには、より多くの知識が必要であり、そのため、外国語、日本語を問わず、多くの文献、書籍を読むことを勧める。とくに翻訳されたものを広く読むことを勧めたい。</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方、取組み方の説明 講義の概要にも示した様に、4～5件のペーパーを読み終えることを目指して授業を進めるため、1つのペーパーを4～5週で読み、議論をする予定である。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	山田浩一
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>財務会計に関する英語版のテキストを通じて、簿記及び会計学に関する基本的理解を得ることを目標とする。</p> <p>外国語の専門書を利用するためには、一般的な英語力の他に、専門領域そのものの知識や Technical terms and expressions を把握しておく必要がある。本講義においては、このような観点から、将来英語の文献を利用する基礎となるべく、専門書読解のトレーニング及び知識の蓄積を行いたいと思う。</p>				
講義概要	<p>テキストにおいて取り扱われている内容は、簿記・会計学の基礎ともいえるべきものである。すなわち、意思決定の補助手段としての会計の機能、貸借対照表の構成要素、一般に公正妥当と認められた会計原則と基礎概念、財務諸表の信頼性と監査、職業会計人といった内容から始め、利益測定方法としての発生主義、損益計算書、資金収支計算書、会計記録過程、複式簿記、仕訳帳と総勘定元帳、試算表、決算調整などの内容に進んでいくこととなる。</p> <p>講義の進め方としては、学生諸君に英文を和訳していただいた後、その内容について解説・ディスカッションを加えていきたいと思う。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 『Introduction to Financial Accounting -Fifth edition』 Horngren, Sundem, Elliott (Prentice-Hall International Editions) (プリントにて配付の予定) </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>簿記、会計学等に関するテキスト等が参考となると思われる。参考となるものをいくつか例示すれば次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若杉明『精説財務諸表論』中央経済社 ・黒沢清『近代会計学』春秋社 ・飯野利夫『財務会計論』同文館 ・染谷恭次郎『全訂 現代財務会計』中央経済社 ・沼田嘉穂『簿記教科書』同文館 </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『Introduction to Financial Accounting -Fifth edition』 Horngren, Sundem, Elliott (Prentice-Hall International Editions) (プリントにて配付の予定) 	参考文献	<p>簿記、会計学等に関するテキスト等が参考となると思われる。参考となるものをいくつか例示すれば次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若杉明『精説財務諸表論』中央経済社 ・黒沢清『近代会計学』春秋社 ・飯野利夫『財務会計論』同文館 ・染谷恭次郎『全訂 現代財務会計』中央経済社 ・沼田嘉穂『簿記教科書』同文館
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『Introduction to Financial Accounting -Fifth edition』 Horngren, Sundem, Elliott (Prentice-Hall International Editions) (プリントにて配付の予定) 				
参考文献	<p>簿記、会計学等に関するテキスト等が参考となると思われる。参考となるものをいくつか例示すれば次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若杉明『精説財務諸表論』中央経済社 ・黒沢清『近代会計学』春秋社 ・飯野利夫『財務会計論』同文館 ・染谷恭次郎『全訂 現代財務会計』中央経済社 ・沼田嘉穂『簿記教科書』同文館 				
評価方法	<p>成績は、平常の授業における出席、報告、発言の状況によって評価する。期末の定期試験は実施しない予定である。単に英語力のみではなく、内容の理解を重視していきたいと考えているので、和訳を通じて会計学的意味を考えてもらいたい。</p>				
受講者に対する要望など	<p>講義への出席者は事前に講義予定箇所を予習しておくことが重要である。また、関連科目である簿記論、会計学原理、財務会計論はあわせて受講してほしい。</p>				

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	テキストの紹介と年間講義概要の説明、受講者の要望などの確認をする予定である。Chapter 1 Entities and Balance Sheets
2	・ The Nature of Accounting (s) ・ The Balance Sheet (s) ・ Generally Accepted Accounting Principles and Basic Concepts
3	・ Balance Sheet Transactions (s) ・ Types of Ownership (s) ・ Credibility and the Role of Auditing
4	・ The Accounting Profession (s) ・ Summary Problems for Your Review (s) ・ Highlights to Remember
5	・ Accounting Vocabulary (s) ・ Assignment Material (s) ・ Chapter 2 Income Measurement: The Accrual Basis
6	・ Introduction to Income Measurement (s) ・ Methods for Measuring Income (s) ・ The Income Statement
7	・ Statement of Cash Flows (s) ・ Summary Problem for Your Review (s) ・ Accounting for Dividends and Retained Income
8	・ Summary Problem for Your Review (s) ・ The Language of Accounting in the Real World (s) ・ More on Nonprofit Organizations
9	・ More on Generally Accepted Accounting Principles (GAAP) (s) ・ Highlights to Remember (s) ・ Appendix 2; Four Popular Financial Ratios
10	・ Accounting Vocabulary (s) ・ Assignment Material (s) ・ Chapter 3 The Recording Process: Journals and Ledgers
11	・ The Double-entry Accounting System (s) ・ The Debit-Credit Language (s) ・ Recording Transactions: Journals and Ledgers
12	・ Analyzing Transactions for the Journal and Ledger (s) ・ Recording Transactions in the Journal and Ledger ・ Preparing the Trial Balance
備考	

後期

週	主要テーマ
1	・ Data Processing and Computers (s) ・ More on Generally Accepted Accounting Principles (s) ・ Summary Problems for Your Review
2	・ Highlights to Remember (s) ・ Accounting Vocabulary (s) ・ Assignment Material
3	・ Chapter 4 Accounting Adjustments and Financial Statement Preparation (s) ・ Adjustment to the Accounts
4	・ I. Expiration of Unexpired Costs (s) ・ II. Earning of Unearned Revenues (s) ・ III. Accrual of Unrecorded Expenses
5	・ IV. Accrual of Unrecorded Revenues (s) ・ The Adjustment Process in Perspective (s) ・ Summary Problem for Your Review
6	・ Classified Balance Sheet (s) ・ Income Statement (s) ・ Profitability Evaluation Ratios
7	・ Summary Problem for Your Review (s) ・ Highlights to Remember (s) ・ Accounting Vocabulary
8	・ Assignment Materials (s) ・ Chapter 5 Accounting Cycle: Recording and Formal Presentation (s) ・ The Accounting Cycle
9	・ Statement of Cash Flows (s) ・ Closing the Accounts (s) ・ Auditing the Financial Statements
10	・ Effects of Errors (s) ・ Incomplete Records (s) ・ Summary Problems for Your Review
11	・ Highlights to Remember (s) ・ Appendix 5A: The Work Sheet (s) ・ Appendix 5B: Variety in Data Processing Journalizing
12	・ Appendix 5C: Processing Data Using Special Journals (s) ・ Accounting Vocabulary (s) ・ Assignment Material
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	山本 栄
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>原書（本授業では英語）を通して「本の読み方」を勉強します。「本の読み方」というと何を今さらと思う人も多いと思います。そこに実は重大な落とし穴があるのです。日本語だと斜め読みをして読んだ気になりますが実の所中身がわかっていないということが多い。原書では何が書いてあるのか、著者は何を言おうとしているのかを考えながら読みます。一字一句おろそかには出来ないでしょう。それが本の中身を理解することであり、「本の読み方」なのです。原書を通して勉強の仕方を覚えるといっても良いでしょう。</p>		
講義概要	<p>テキストはアメリカの大学で使う標準的なものです。人間—機械系（Man-Machine System または Man-Computer System）における基礎的な事項が書かれています。本書は790ページで、アメリカでは1年間で読み終えますが、本講義では3～4章位読めれば良いと思います。授業では2～3ページを全員が読んできて内容を訳し、各自がその意味するところを解説していきます。特に分担はせず当日あてていきます。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Sanders and McCormick; <i>Human Factors in Engineering and Design</i>, 7th ed. ・ McGraw-Hill ・ テキストは授業中に配布します。 	
	参考文献		
評価方法	<p>出席点と2回の期末テストで評価していきます。出席点とは当てられたところができると0点、できないと-1点、良くできると1点以上とし年間でマイナスをとらなければ合格とします。良くできるとは内容について自分で色々調べ、解説ができることです。</p>		
受講者に対する要望など	<p>1回の分量はそれほど多くしませんから、まず声を出して5～10回読み、最低何が述べられているかを説明できるように予習してください。ただ 単語の訳を調べるだけではだめです。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期は Chapt. 1 Human Factors and Systems (p3~22)
2	Chapt. 2 Human Factors Research Methodologies (p23~43) を予定している。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期は Chapt. 3 Information input and processing (p47~89)
2	Chapt. 4 Text, Graphics, Symbols, and Codes (p91~129) を予定している。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経済書研究Ⅰ）	担当者名	山本美樹子
-----	------------------	------	-------

講義の目標	<p>英字新聞、Time、News Weekに代表されるような英語の経済関連のジャーナル誌には、外人のライターの眼で日本経済をどのように見るか、について有意義な記事が豊富にある。これから社会に出る人たちにとって、これらの記事を字面を追うだけでなく、経済学的な面で内容を把握できるようになれば、いろいろとプラスになると思われる。当講義では、英語の記事を短時間で、意識できるようなトレーニングを積んでいく。</p>		
講義概要	<p>英字新聞（・The Nikkei Weekly・Financial Times・Japan Times等）で国際貿易論、国際金融論、アメリカ経済事情等に関連した記事を取りあげ、毎回最近のニュースを授業時間の最初に配り、前半はそれを訳し、後半にはその記事について経済的な解説を加えていくというトレーニング形式で進める。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に定めない。 毎回プリントを配る。</p>	
	参考文献	<p>特になし。</p>	
評価方法	<p>毎回のトレーニングテスト 前期末、学年末の試験</p>		
受講者に対する要望など	<p>トレーニング形式で講義するので毎回必ず出席すること。毎回必ず英語の辞書を持参すること</p>		

年 間 講 義 予 定

毎回いくつかの記事をピックアップしたコピーを配り、これを短時間に訳していくトレーニングを積んでいく。後半は私が取り上げた記事について経済学的な解説をしていく。

前期終了時には試験をする（通常の講義のときのトレーニングとは別のもの）。

後期についても前期と同じ方法で進める。

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経営書研究Ⅰ）	担当者名	湯田雅夫
-----	------------------	------	------

講義の目標	環境管理または環境監査に関する論文、企業報告書をテキストとして使用する。英文による専門知識の習得を目ざす。		
講義概要	近年、地球的規模で環境問題が討議されるに伴い、欧米日の企業では環境管理ないし環境監査が実施されている。スイス・エア社、クーネルト社はその代表的企業である。本講では、多くの論文、企業報告書のなかで、比較的内容のまとまった英文のものを選び、適宜とりあげていく。		
使用教材	テキスト	未定。プリントを配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・小川洵、鎌田信夫編『現代英和会計用語辞典』同文館 ・東京商工会議所・産業政策部『誰にでもわかる企業の環境管理・監査』（なお、当該文献は、近日中に市販される予定である。） 	
評価方法	評価は授業への貢献度、担当箇所の訳（ワープロで作成し、提出）、および後期試験によって行なう。		
受講者に対する要望など	授業は予め予習していることを前提に、輪読形式で進める。受講者は、十分に予習をし、出席することが求められる。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	教材の配布。担当者の決定。
3	環境管理・環境監査はいったいどういうものか？（講義）
4	担当者による内容の報告（1）
5	" (2)
6	" (3)
7	" (4)
8	" (5)
9	" (6)
10	" (7)
11	" (8)
12	前期まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	担当者による内容の報告（1）
2	" (2)
3	" (3)
4	" (4)
5	" (5)
6	" (6)
7	" (7)
8	" (8)
9	" (9)
10	" (10)
11	" (11)
12	後期まとめ
備考	

科目名	外国書研究 I (外国経営書研究 I)	担当者名	米山昌幸
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>国際経済にはさまざまな問題が存在し、国家間の利害対立を深めている。その中でも発展途上国の貧困問題、経済発展に関する問題は深刻である。途上国の経済発展は決して途上国だけの問題でなく、先進国も含めた地球全体として取り組んでいかなければならない問題である。</p> <p>先進国社会に生きる私達にまず必要なことは、途上国の抱える諸問題の実態を認識し、問題解決に向けて何ができるかを考えることである。この講義では、テキストの講読を通して発展途上諸国の経済開発問題への体系的なアプローチを目指す。</p>				
講義概要	<p>テキストは実証的なデータ、経済理論、政策論議を通して、途上国の開発問題に体系的にアプローチしている。〈第1部〉では、第三世界における低開発の実態と意味およびそのさまざまな発現形態に焦点を当てる。〈第2・3部〉では、国内的、国際的両面から主要な開発問題と政策に焦点を当てる。トピックスは経済成長、貧困と所得分配、人口、失業、人口移動、都市化、技術、農村および地域開発、環境、教育、国際貿易および金融、海外援助、民間海外投資、そして債務危機を含む。そして〈第4部〉では、第三世界の可能性と展望を考察する。</p> <p>受講者にはテキストを分担して報告してもらうが、毎回かなりの分量を読むことになる。テキストを理解する上で必要となる基礎理論や経済開発論の知識などは、適宜参考文献を紹介したり、補足して説明する。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ Michael P. Todaro; <i>Economic Development, 5th edn</i>(Longman, 1994) pp. xxxii+719. 上記の文献の必要箇所をコピーして配布するが、優れたテキストであるので購入されることをお勧めする。 </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡辺利夫、『開発経済学—経済学と現代アジア—』、日本評論社、1986年。 ・ 高木保興、『開発経済学』、有斐閣、1992年。 ・ 世界銀行、白鳥正喜監訳、『東アジアの奇跡』、東洋経済新報社、1994年。 ・ International Monetary Fund; <i>World Economic Outlook, October 1994</i>. ・ World Bank; <i>World Debt Tables 1994-1995</i>. (『世界債務白書』) ・ World Bank; <i>World Development Report, 1995</i>. (『世界開発報告』) </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Michael P. Todaro; <i>Economic Development, 5th edn</i>(Longman, 1994) pp. xxxii+719. 上記の文献の必要箇所をコピーして配布するが、優れたテキストであるので購入されることをお勧めする。 	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡辺利夫、『開発経済学—経済学と現代アジア—』、日本評論社、1986年。 ・ 高木保興、『開発経済学』、有斐閣、1992年。 ・ 世界銀行、白鳥正喜監訳、『東アジアの奇跡』、東洋経済新報社、1994年。 ・ International Monetary Fund; <i>World Economic Outlook, October 1994</i>. ・ World Bank; <i>World Debt Tables 1994-1995</i>. (『世界債務白書』) ・ World Bank; <i>World Development Report, 1995</i>. (『世界開発報告』)
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Michael P. Todaro; <i>Economic Development, 5th edn</i>(Longman, 1994) pp. xxxii+719. 上記の文献の必要箇所をコピーして配布するが、優れたテキストであるので購入されることをお勧めする。 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡辺利夫、『開発経済学—経済学と現代アジア—』、日本評論社、1986年。 ・ 高木保興、『開発経済学』、有斐閣、1992年。 ・ 世界銀行、白鳥正喜監訳、『東アジアの奇跡』、東洋経済新報社、1994年。 ・ International Monetary Fund; <i>World Economic Outlook, October 1994</i>. ・ World Bank; <i>World Debt Tables 1994-1995</i>. (『世界債務白書』) ・ World Bank; <i>World Development Report, 1995</i>. (『世界開発報告』) 				
評価方法	<p>成績評価は、前期・後期の定期試験と授業への参加・報告を考慮して行う。</p>				
受講者に対する要望など	<p>報告者はレジュメを用意すること。講読の授業というよりむしろ内容理解に重点を置いたゼミ形式の授業としたいので、各自の十分な予習に基づいた主体的な参加を期待する。履修希望者は必ず第1週目の授業に出席すること。</p>				

<テキストの章構成>

【第1部】 原理と概念

1. 経済学、制度、開発：グローバルな視点
2. 発展途上国の多様な構造と共通の特徴
3. 開発理論：比較分析
4. 歴史的な成長と現代の開発：教訓と論争

【第2部】 諸問題と政策：国内的

5. 成長、貧困、所得分配
6. 人口成長と経済開発：原因、結果、論争
7. 失業：問題、規模、分析
8. 都市化と農村＝都市の人口移動：理論と政策
9. 農業の変容と農村開発
10. 環境と開発
11. 教育と開発

【第3部】 諸問題と政策：国際的

12. 貿易政策と開発経験
13. 国際金融、第三世界債務、マクロ経済的安定化論争
14. 貿易政策論議：輸出促進、輸入代替、経済統合
15. 海外直接投資と対外援助：論争と機会

【第4部】 可能性と展望

16. 計画立案、市場、国家の役割
17. 金融システムと財政政策
18. 1990年代の重大な諸問題：新たな相互依存、地球規模での環境の脅威、アフリカの悪循環、東欧の経済的移行、貿易と金融のグローバル化

<講義の予定>

これらテキストの18章すべてを講読したいところであるが、通年24週の講義ではおそらくそれは困難であると思われる。したがって、いくつかの章をピックアップして読むことになるが、第2・3部が中心となろう。

第1週は講義ガイダンスを行い、イントロダクションとして、テキストの紹介、授業内容、学習の仕方などを説明する。また、第2週以降の報告の順番も決める。

第2週以降はテキストの輪読、参考文献を利用した補足学習、討論を行っていく。

科目名	外国書研究Ⅰ（外国経済書研究Ⅰ）（独語）	担当者名	御園生 眞
-----	----------------------	------	-------

講義の目標	ドイツ語テキストを読みながら、ドイツ語で経済学の基礎を学びます。	
講義概要		
使用教材	テキスト	・ Otto Seitzer ; <i>Ein Blick in die Wirtschaft</i> 、三修社
	参考文献	
評価方法	出席および前期・後期試験の成績で評価します。	
受講者に対する要望など	原則として、ドイツ語を第一外国語として履修した諸君を対象としますが、意欲ある諸君の参加も歓迎します。 履修希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国経営書研究Ⅱ（済・管旧旧）	担当者名	岡村 国和
-----	-----------------	------	-------

講義の目標	<p>本講義における外国書研究の目標は、諸外国（主として英米）の経済分野あるいは経営分野の専門書の講読し、その内容を理解するだけでなく周辺領域をも検討することにある。さしあたりテキストの輪読を行うが、翻訳することが主要目標ではなく、あくまで内容の検討が主要目標なので、章または節ごとにディスカッションを行い、可能であればディベートすることも予定している。従って受講希望者は、テキストのより一層の理解を深めるために講義中に紹介する関連文献（主として邦文）による予習を行うことが要求される。</p>	
講義概要	<p>テキストは未定であるが、今年度は欧米の保険市場の構造がどのように変化し、また保険企業の行動がどう戦略変更されたかを研究し、さらに保険業の規制とその緩和につき研究する。その方法としては、まず規制の経済理論を検討し、次いで市場調査や保険企業の経営者に対するアンケート調査などの統計資料の分析を含めたできる限り他面的な分析を行う予定である。</p> <p>さしあたり資料の輪読と討議を中心として講義を進めて行き、ある程度進展した段階で翻訳した文書を清書の上、各個人の分析結果を個別に提出することを全員に義務付ける。</p>	
使用教材	テキスト	テキストは未定。ただしプリントして配布する。
	参考文献	講義中に適宜紹介する。
評価方法	主として出席状況およびレポート・発言内容等によって評価する。	
受講者に対する要望など	ある程度進展した段階で翻訳した文書を清書の上、各個人の分析結果を個別に提出することを全員に義務付ける。出席を重視するので、熱意のある者の参加を希望する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定。但し、初回の講義の際に受講者と話し合いの上で決定する。さしあたり、適度な区切れのあるところ（章毎など）でディスカッションする。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国経済書研究Ⅱ（済・管旧旧）	担当者名	小林 進
-----	-----------------	------	------

講義の目標	外書Ⅰを修得した人がより高いレベルの経済書を理解することを目指す	
講義概要	マクロ経済学の中級レベル	
使用教材	テキスト	
	参考文献	Dornbusch and Fischer; <i>MACROECONOMICS</i> (最新版)
評価方法	平常の講義の出欠を重視する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国経済書研究Ⅱ（済・営旧旧）	担当者名	本田浩邦
-----	-----------------	------	------

講義の目標	マクロ経済学の現代的な課題を、英語文献の講読をつうじて考える。基本的に、基礎的な語学力および経済学の基礎知識を前提にして行うので、受講生はそのつもりで出席されたい。		
講義概要	Paul Klugman の <i>Peddling Prosperity</i> (1994) を読む。 報告担当者があらかじめ各章の詳細な要約を発表した上で、輪読をおこなう。必要な解説を加え、それらをふまえて全体で討論する。		
使用教材	テキスト	・ Paul Klugman ; <i>Peddling Prosperity : Economic Sence and Nonsense in the Age of Diminished Expectations</i> , W. W. Norton and Company Inc., 1994 テキストは、各自で必ず購入すること。	
	参考文献		
評価方法	平常点および出席による。無断欠席をするものや欠席の頻繁なものには単位を認めない。		
受講者に対する要望など			

1 Introduction

Part 1 The Rise of Conservative Economics

- 2 The Attack on Keynes I
- 3 The Attack on Keynes II
- 4 Taxes, Regulation, and Growth I
- 5 Taxes, Regulation, and Growth II
- 6 The Supply-Siders I
- 7 The Supply-Siders II
- 8 Discussion

Part 2 Conservatives in Power

- 9 Growth I
- 10 Growth II
- 11 Income Distribution I
- 12 Income Distribution II
- 13 The Budget Deficit I
- 14 The Budget Deficit II
- 15 Conservatives Abroad I
- 16 Conservatives Abroad II
- 17 Discussion

Part 3 The Pendulum Swings

- 18 In the Long Run Keynes Is Still Alive I
- 19 In the Long Run Keynes Is Still Alive II
- 20 The Economics of QWERTY I
- 21 The Economics of QWERTY II
- 22 The Strategic Traders I
- 23 The Strategic Traders II
- 24 Discussion

科 目 名	外国経済書研究Ⅱ（済・管旧旧）	担当者名	益 山 光 央
-------	-----------------	------	---------

講 義 の 目 標	英文の国際貿易理論に関する専門書を読む。かなり高度な文献なので難しいと思うが、実力はつくと思う。	
講 義 概 要	毎回、受講生をランダムに指名し発表を求める。各自分担の箇所はレポートとして提出し、年度の終わりにはまとまった文集としたい。	
使 用 教 材	テキスト	・ J. R. Markusen & J. R. Melvin; <i>The Theory of International, Trade</i> , Harper & Row, 1988
	参 考 文 献	
評 価 方 法		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	まじめに勉強してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	The Production Possibility Curve
3	Community Indifference Curve
4	The Offer curve
5	The Gains from Trade
6	The Causes of International Trade
7	The Classical Model
8	The Endowment Model
9	The Specific Factor Model
10	Imperfect Competition and Government Policies as Determinants of Trade
11	Increasing Returns of Scale
12	Taste and Per Capita Income as Determinants of Trade
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Empirical Tests of Trade Model
2	Tariffs
3	Quotas and Other Nontariff Barriers
4	Imperfect Competition, Increasing Returns of Scale, and Strategic Trade Policy
5	Effective Protection
6	Customs Unions
7	Factor Movements
8	Direct Foreign Investment
9	Growth and Dynamic Trade
10	Selected Problems
11	Selected Problems
12	Selected Problems
備考	

科目名	外国経営書研究Ⅱ（済・営旧旧）	担当者名	宮城浩祐
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>企業経営の方法は世界的に類似したものになるのだろうか、それとも文化的な相違を維持し続けるのだろうか。世界のビジネス経営の方向は単一の方向に収斂するのか、それとも、文化的に固有の独自の方法を維持するのか。このように「収斂」か「拡散」かという問題は、永年比較経営論の領域で議論の対象となってきた。ここでは、「拡散」の立場にたって、Andre Laurent（フランスの研究者）の論文を講読する。</p>	
講義概要	<p>Laurent の代表的論文はつぎの二つである。</p> <p>(1) Matrix organizations and Latin cultures, <i>International studies of management and organization</i>, 10(4), 1981.</p> <p>(2) The cultural diversity of Western conceptions of management, <i>International studies of management and organization</i>, 13(1), 1983.</p> <p>両論文とも、文章はかなりむずかしい。幸い、平易な解説があるので、これをテキストに使用する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・ F. Luthans; <i>Organizational behavior</i>, New York, McGraw-Hill, 1992, pp. 582-605.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>総合評価による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出来るかぎり下調べしてくることがのぞましい。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国経済書研究Ⅱ（済・営旧旧）（独語）	担当者名	御園生 眞
-----	---------------------	------	-------

講義の目標	現在のドイツ経済に関連するドイツ語テキストを読みながら、ドイツ経済の理解を深めることを目的とします。	
講義概要		
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	
評価方法	未定	
受講者に対する要望など	原則として、ドイツ語の外書Ⅰを履修した諸君を対象とします。 履修希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	未定
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	外国経済書研究Ⅱ（済・営旧旧）（外国人学生用）	担当者名	山本美樹子
-----	-------------------------	------	-------

講義の目標	<p>将来母国へ戻る留学生の皆さんが、母国（東、東南アジア等）の経済を客観的によりよく理解することができよう、日本語だけでなく英語の経済関連の新聞記事にも目を通すことができるようになったら……と考えている。</p>	
講義概要	<p>受講者と相談しながら教材を決めていきたいが、東、東南アジア関連の記事を取り上げ、この記事について各自どう思うかの意見を述べてもらうというゼミナール形式で講義を進める。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。
	参考文献	特になし。
評価方法	<p>講義中の発表態度 前、後期のレポート</p>	
受講者に対する要望など	<p>各自積極的に自分の意見を述べて欲しい。 出席を重視するので必ず出席すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

アジア経済関連の本のコピー、新聞等の教材を、受講者の希望を聞きながら決め、毎回その記事、あるいは本の抜粋部について、日本語としてわかりにくかったことを含めて各自自分の意見を述べてもらう。前期末にはテーマを決めたレポートを提出してもらう。

後期も前期と同じ方針で進めていくが、できればであるが、英字新聞のアジア関連の記事を、ゆっくりでいいから、読めたら……と考えている。後期にもレポートを提出してもらう。

科目名	経営労務論	担当者名	宮城浩祐
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営労務論は、人的資源の管理の諸問題を取り扱う領域である。その目的は、企業には効率、従業員には満足をもたらすものであるということはいうまでもない。労務政策には普遍的妥当性をもった政策はない。種々の環境要因に規制されて、個有の政策がうまれるのであるが、ここでは環境要因のうち、文化に着目して、文化と労務政策との関係を考察する。そして、むしろ文化にフィットした労務政策こそすぐれた政策であることを明らかにする。そこで当然のことながら、比較経営的な観点から、各国との比較において、日本の企業の労務政策を明らかにすることになる。</p>		
講義概要	<p>各週別に明らかにする（次頁の各週別の講義概要を見られたい）。</p>		
使用教材	テキスト	<p>その都度、10枚程度の教材を配布する。期末にはかなりの枚数になるので、適宜整理しておかないと、どれが何回目の資料であるか、わからなくなってしまうことがあるので注意して下さい。また英文資料を配布することもあります。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・経済企画庁編『経済白書』（平成4年版） ・同庁編『経済白書』（平成6年版） ・R. Dore 著『日本型資本主義なくしてなんの日本か』光文社 1993年 ・G. Hofstede 著『経営文化の国際比較』産能大出版部 1988年 	
評価方法	<p>総合評価による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義順位・内容等に若干の変更もあるかも知れませんが御了承下さい。</p>		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	“your company” と “our company” 「会社は誰のものか」と問われた場合、日本人は「株主のもの」と答えず、「従業員のもの」と答えることが多く、ここに日本人の企業観が示される。ここで stakeholder について考える。
2	配当政策の国際比較 日米の配当政策のちがいを明らかにする。これは直接的には企業と株主との関係の日米のちがいを考察するものであるが、この考察によって株主主権型企業と従業員主権型企業の差異を示す。
3	企業の政治的側面 企業は stakeholder の連合体である。これらの構成員は、意思決定への影響力、情報報の共有度において同一ではなく、階層関係にある。中核集団と衛星集団に二分して、これらを考察する。
4	生産性と成果配分 「生産性」の概念を明らかにするとともに、生産性の向上の成果が stakeholder にどのように配分されるかを考察する。どのように配分されるかは、市場要因、stakeholder の影響、文化で決まる。
5	労働時間の短縮と弾力性 時短のメカニズムを明らかにするとともに、もう一つの潮流である労働時間の弾力化について考える。後者は、自己決定化の世界的潮流を反映する。
6	雇用調整の国際比較 雇用調整政策は、文化によって差異がある。ここでは雇用関係を primary model と relational perspective にわけて考察する。日本企業は後者、米国企業は前者に属する。
7	労働市場の内部化と従業員の志向 労働市場の流動化がつねに叫ばれながら、日本企業は労働市場の内部化を人事・労務の基本戦略としてきた。従業員の志向も上昇志向である。この政策の merit/demerit を考察する。
8	賃金政策と交換理論 文化人類学や社会学の諸領域で開発された交換理論を使って賃金政策を分析する。
9	賃金政策と分配公正理論 分配公正理論では、どのような資源配分が公正と構成員のあいだで認識されるかは、文化によって決まることがわかっている。ここでは、この観点から賃金政策を分析する。
10	付加給付政策と paternalism 付加給無政策は、その企業のおかれた経済的、社会的、文化的要因によって決まる。ここではパターナリズムとの関係も考察の対象としたい。
11	定年制の諸問題 定年制の機能、定年延長の阻害要因を検討するとともに、定年制運用は今後一層フレキシブルにならざるを得ないだろうと示す。これには、労働時間の弾力化と共通の論理がはたらく。
12	盛田論文をどう読むか ソニー会長盛田昭夫「日本型経営が危ない」(文芸春秋、1992年2月号)は、労務政策に影響を及ぼす重要な提案を起している。これをどう読むべきかを検討する。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	職務概念と組織設計 A. Brown の組織論は、組織設計において、個人の責任の明確化を貫徹すべきであることを強調する点で、アングロサクソン系組織論の典型である。これに対して日本企業のそれは弾力的である。
2	equifinality について 「講義の目標」を参照のこと。equifinality とは、同一の目標を達成するには、種々の手段があることを示す英語。
3	計量的関与と道徳的関与 A. Etzioni の示した組織への関与の型。この二分法と個人主義/集団主義との関係を考える。
4	合理的経済人と科学的管理法 A. Smith はいうに及ばず、伝統的な経済経営理論は、この人間モデルを前提にしている。労務政策でも同じである。この人間観の上に、管理戦略がたてられた。両者の関係を明かにする。
5	社会人モデルと Hawthorne 実験の意味 ホーソン実験の成果が、新しい人間観の形成に、どのように寄与したかをみる。と同時に、そこで生れた人事・労務政策をみる。
6	自己実現人モデルと Maslow の欲求階層理論 彼の仮説が、新しい人間観の形成に、どのように寄与したかをみる。また彼の仮説は、米国以外の国で、つぎつぎと検証されたが、それらの結果を紹介する。
7	McClelland の達成動機論と経済成長 M. Weber は、宗教と経済成長との関連を考山したことでよく知られる。McClelland の理論は、この系譜に属し、経済成長には達成動機が寄与していることを証明しようとした。
8	「Made-in America」の動機づけ理論は普遍的妥当性をもつか Maslow の理論といい、McClelland の理論といい、それらはみんな「米国製」の理論である。はたして、それらは他の文化に移転できるか。
9	Herzberg の二要因理論と職務充実 職務設計の人間工学的技術において、職務充実が有名である。Herzberg の理論は、この技術の構築にどのように寄与したかを考える。
10	「仕事の人間化」——もう一つの道 ボルボのカルマール工場では、仕事の人間化のために、ベルトコンベアを廃止して「半自律的作業集団」を導入した。これは職務充実とは別の道である。その文化的背景をさぐる。
11	海外要員政策の諸問題 R. Tung による日米欧の多国籍企業の海外派遣要員政策の比較結果を紹介し、これを文化の観点から考察する。
12	比較経営論と労務政策 G. Hofstede の比較経営論の観点から労務政策を総括的に考察し、終講とする。
備考	

科目名	財務管理論	担当者名	細田 哲
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>会計データに基づく損益（利益）を中心とする財務計画の設定と財務統制・分析という伝統的手法について説明する。</p> <p>また、我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を下さねばならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点についても検討する。</p>	
講義概要	<p>前期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 企業の財務活動とは ○ 利益計画と損益分岐点分析 ○ 財務計画と予算管理 ○ 資金管理 ○ 財務分析 <p>後期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 投資決定 ○ 資本調達 ○ 資本調達と金融システム ○ 資本コストと資本構成 ○ 配当政策 ○ 国際財務 ○ 日本企業の財務政策の特色と問題点 	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	年2回の試験の結果による。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業時に指示する
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	行動科学論（営旧） 行動科学概論（営旧旧）	担当者名	大久保 貞 義
-----	--------------------------	------	---------

講義の目標	<p>行動科学論という学問は、比較的新しい学問である。その学問的方法論は、心理学、社会学、文化人類学などの学問的成果を応用し、社会の問題を分析し、研究する学問である。</p> <p>一般には、既成の科学（Established Science）である自然科学や社会科学の成果を応用する学問であるから、これらの学問の基礎を知った上で、行動科学を学ぶ事が望ましいのであるが、行動科学の一端を学部時代に学ぶ年も意義があるかもしれない。</p>	
講義概要	<p>まず始めに、心理学、社会学、文化人類学の基礎用語を学び、各学問のコンセプトを理解する。その上で、学問間の特性を理解して、どのように総合化するかを学ぶ。したがって各学問を暗記するのではなく、あくまでも各学問の成果を素材として、実際の社会問題をどう分析し、解決するかという事を考える事が大切である。そこには、人間だけが持つ創造性（Creativity）をいかに発揮するかという事が重要になる。</p> <p>従来の既成概念にとらわれる事なく、新しい考え方、新しい行動様式を形成する事が大切である。このレベルまで達すると、大学院の水準にまで達する事になるが、若い時から、新しい概念、新しい考え方に接触する事は、長期的にみて役に立つであろう。</p>	
使用教材	テキスト	授業の時に指示する
	参考文献	
評価方法	①レポートと②定期テストの成績で表評します。	
受講者に対する要望など	従来の惰性的思考様式からいかにぬけだすか、頭のトレーニングを積む事を要望する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	○学問の発展段階=先頭を切る数学の重要性。発展の順序はどうなっているか
2	○学問の法則性とは何か=理論の美しさ、力強さはどうして生まれるか。それは数式で表現される
3	○ニュートンの力学のポイント=見方を変えれば……何を表現しようとしているのか
4	○=科学の目標は何か=すべての物質の素粒子から生きている人間まで——そして宇宙まですべての万物の動を統一する理論・規則性はあるか。
5	○社会学の基礎用語、文化人類学の用語、心理学、社会心理学の用語
6	○集団規範の実験=実験可能な法則と不可能な法則
7	○人間=この不思議なもの
8	○人間社会の発展=農耕社会、工業化社会、脱工業化社会、社会を進歩させるものは……神さま？仏さま？
9	○伝統的社会と近代的社会の対比
10	○それぞれの社会の時間の概念=人間と時間の関係の仕方 時間の価値は、社会によって相違して来る。
11	○社会の変化に伴う価値観の変動→人間行動の規則性
12	○経済の発展と人間行動のパターン分析 ①経済中心の産業主義：
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	②巨大組織への参加：組織の中の人間、技術中心のイデオロギー
2	③脱工業化社会の生きる選択権の拡大：組織の中の金銭、財力、尊敬心、忠誠心、とそれに対立する人間の中の誠実さ、人間味、自己実現への願望。
3	○コミュニケーションの理論 マス・コミュニケーションとパーソナルコミュニケーションの特性
4	○コミュニケーションの二段の流れ その構造と機能。メッセージの特性と内容と伝播の速度
5	○オピニオンリーダーの役割とその特性
6	○創造性とは何か= 二つの既知の要素の組み合わせ。その本質は“反送”である
7	○思考のプロセス
8	○創造性開発の技法=ブレインストーミングのやり方とチェックポイント その他の開発法
9	○思考とパーソナリティ=創造的人間と非創造的人間
10	○未来予測の技術 物理的現象の予測と社会的現象の予測の相違
11	○予測の面白さは、未確定要素にあり。 高令化社会、脱工業化社会、情報化社会におきる現象分析
12	予測の正確さは、未来を形成する力にあり。 予測したら、その方向に人間の意志の力で状況を変化させる。行動科学は、戦略の学問でもある。
備考	

科目名	一般経営史	担当者名	原 剛
-----	-------	------	-----

講義の目標	経営史を経済的業務の営みの歴史ととらえ、古代より現在にいたる西洋の諸時代における特徴的産業の営業のありかたの歴史をさぐる。		
講義概要	古代ヨーロッパの農業投資と利潤、古代都市の商工業から出発し、中世ヨーロッパの農業のありかた、都市の手工業職人と商人の営業、近代ヨーロッパにおける大規模経営の出現と株式会社の発展、小売商業の展開の歴史を概観した後に、工業化と世界貿易の成立について触れ、さらに19世紀以降の先進資本主義工業国であるイギリス、アメリカ合衆国、フランスの経営史の比較を試みる。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	米川伸一『経営史学——生誕・現状・展望』（東洋経済新報社 1974）；R. Duncan-Jones, <i>The Economy of the Roman Empire</i> (Cambridge 1975)；ホルスト・クレンゲル著、江上・五味訳『古代オリエント商人の世界』（山川出版社 1983）クーリシエル著、伊藤・諸田訳『ヨーロッパ中世経済史』（東洋経済新報社 1975）；大河内暁男『産業革命期経営史研究』（岩波書店 1978）；チャンドラー著、安倍悦雄他訳『スケール アンド スコープ経営力発展の国際比較』（有斐閣 1993）	
評価方法	前期試験および学年末試験で評価する。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	経営史とは何か；company history でなく busfness or insustrial history
2	古代世界の産業：古代ローマの農業投資と利潤
3	同：古代都市の商工業
4	同：貨幣の登場
5	中世ヨーロッパの産業：農民の収入
6	同：都市の手工業職人：ギルド
7	同：都市の商人；遠隔地間貿易と前貸問屋制度
8	近代ヨーロッパの産業：大規模経営の出現：イングランドの早期産業革命
9	同：産業革命期英国の産業発展（製鉄工業）
10	同：産業革命期英国の産業発展（木綿業）
11	同：産業革命期英国の産業発展（製陶業）
12	同：株式会社の発展
備考	

後期

週	主要テーマ
1	近代ヨーロッパの産業（続）：小売業の発展
2	工業化と世界貿易：工業化と世界貿易の成立；ヨーロッパの輸出入
3	同：金本位制の成立
4	19世紀以降の先進資本主義国の産業発展：イギリス企業の経営力(1)
5	同：イギリス企業の経営力(2)
6	同：アメリカ企業の経営力(1)
7	同：アメリカ企業の経営力(2)
8	同：ドイツ企業の経営力(1)
9	同：ドイツ企業の経営力(2)
10	イギリス経済衰退に関する論争：文化的接近
11	同：経済的接近
12	講義の総括と質疑応答
備考	

科目名	日本経営史	担当者名	齊藤 博
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>「日本および日本人」のあり方を探究する大きな筋道の一つとして、「日本的経営理念」の歴史的な形成と展開をあとづけ、現代経済の態様に対する反省の材料とし、かつは21世紀に向う日本および日本人の生き方の参考としたい。したがって国民精神史、民衆的マインド、経済思想、文学作品に現われた経済精神、社会倫理と個人道徳などが研究対象となってくる。経済と道徳合一の東洋的精神世界の中へ入っていききたい。</p>	
講義概要	<p>講義のキーワードは以下の通りである。</p> <p>1. 企業家精神 2. 近代化の背景（政治的安定、中産階級の広範な存在、国民の高度な教育水準、宗教・信仰の近代化） 3. 近代化の環境（大量・大衆市場、経済活動の自由、利潤追求の自由、近代的な経済金融財政政策） 4. 「人」、「個人」の問題 5. 土屋喬雄 6. 日本的経営理念 7. 通俗道徳 8. 日本精神</p> <p>西鶴文学に現われた近世商人の商業道徳や経営理念を探求するなど、具体的な日本人のマインドの原点から出発しつつ、近世封建時代の経済思想専門家（いわゆる経世家）や近代日本の農本主義者や日本的経営理念家（二宮尊徳、渋沢栄一、金原明善、山崎延吉、藤原銀次郎など）の言動を通じて、日本的経営の特徴とスタイルを歴史描写していききたい。軍人勅諭や教育勅語の内在的研究を展開しながら、日本人の原点に迫りたい。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤博『民衆史の構造』新評論 ・齊藤博『民衆精神の原像』新評論
	参考文献	
評価方法	<p>前期および後期に、それぞれ筆記試験を行なう。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義内容と課題は「反現代」的で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。数冊のテキストや参考文献は、必らず直接手にして熟読することを要請する。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
2	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
3	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
4	① 経営史学とはなにか …指導者（リーダーシップ） 経済史学と経営史学の連関性と分離展開
5	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
6	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
7	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
8	② 日本に於ける経営史学の成立と展開 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
9	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
10	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
11	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
12	③ 近代化と企業家精神 近代化の背景と環境
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
2	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
3	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
4	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
5	④ 日本的経営理念の形成と確立 …封建経済の展開と「民富」の形成・確立、および「家訓」の世界
6	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
7	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
8	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
9	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
10	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
11	⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人のマインド 軍人勅諭、教育勅語の世界を規準線として
12	⑦ 日本精神と日本的経営理念 日本人のたましいを探る
備考	

科目名	企業形態論	担当者名	栗村英二
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>「企業」とは、経済活動の中核であり、時代とともに主要目標は変わってきている。今日では、「メセナ」（文化芸術の支援活動）とは何かの問題を問われている。企業メセナ協議会が設立されたのは1990年である。企業の社会貢献活動のうち営利主義のイメージを大きく変えるものとしてもてはやされた。メセナを企業活動の中でどう位置づけるのかは、企業と社会のかかわり方に関する根源的問題である。長い不況の試練から得た教訓を生かして、それぞれの企業でもう一度見直してみる必要がある。</p>	
講義概要	<p>「企業」の形態には、国家体制によって大きくわかる。日本のごとき自由主義体制を枠としている社会での形態をみる。それは私企業と公企業である。公企業は政府又は地方自治体が出資することが中心で、多様な形態があり、公団、事業団、公庫、営団などと呼ばれている。私企業の形態には個人商人、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社、協同組合、等があり、それぞれについて概略を講ずる。さらにそれらの結合形態としての、カルテル、トラスト等々についても講ずる。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『企業形態論』八千代出版
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・植竹晃久『企業形態論』 ・大島国雄『企業形態論』等を使う。
評価方法	<p>期末試験による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>会社人間、会社大国と言われる戦後の風潮を再考してほしい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	資本主義会社の企業について「モノ」あるいは「サービス」を商品として生産し供給する組織体を話す。
2	狭義の企業としての私企業の形態とは、出資のあり方、資本の所有のあり様、資本の自己増殖運動や企業の発展と経済社会の発展について話す。
3	ドイツ、フランス、アメリカや日本のような後進国の株式会社制度やイギリスのような先進国の漸進的な企業形態の展開について述べる。
4	企業は、国家と家族・家計という社会の基礎単位との中間にあって、社家と成員の存続と発展に必要なものの生産や配分についての経済的組織について述べる。
5	「現代の企業」とは、産業社会の今日的発展段階をリードし、中核をなしていることを述べる。
6	企業は利潤の追求を目的に経済は生産各動を行っている。各企業者から出資された自己資本と債権者から出資され資本を供給し、資本の収益性の原則に従って経営活動を行うことについて述べる。
7	企業の形態について法律上の形態がある①個人企業②合名、合資、有限の会社形態と株式会社について述べる。
8	株式会社の経済構造を明らかにし、本質的な制度としての①証券制度、②重役制度、③有限責任制度をあげ、説明する。
9	株式会社は譲渡自由な等額採券を発行することによって、あらゆる遊体資金を会社のすみずみから自己資本として調達することを可能ならしめたことを述べる。
10	資本集義の急速な発展は、高い利潤の追求をめざして、生産方法の拡大や進展などの要求が高まり、企業規模の拡大を迫られ、相互に結合して企業集中がなされたことを説明する。
11	企業集中は、多くの企業を集中させ、その結果、競争を制限し、市場を統制することになる。企業集中の形態に連合と合併の形態があるが、市場を統制する目的があるため、独占に対する対策の理解につとめる。
12	自由競争市場を前提しているわれわれの経済体制において、企業集中の行動の弊害を理解させる。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本の典型的な企業集団は、財閥コンツェルンにはじまる。戦後には形を一変して部分復活し、六大企業集団と言われている。現代の企業集団化、企業系列化の時代といわれる。
2	多くの目的、種類、形態をもつ企業集団が形成されるとともに企業グループとか企業ネットワークという新しい用語も使われるようになってきている現実の姿を理解するべく位置づけを試みる。
3	資本主義国における経済は混合経済体制とよばれ、公共部門と民間部門の2つから成り立っている。
4	公企業の実態を踏まえながら、公企業の種類、機能、役割、問題点などを概観する。
5	公企業には4つの要件を満たさなければならない。①政府によって所有されている。②公的規制がなされている。③供給される財が有料である。④独立採算制を原則としている。
6	公企業の設置する理由はいろいろあるが、政治的、経済的、社会的環境の歴史的産物として把握すべきである。
7	公企業は一定の社会的役割を果たしてきたのであるが、さまざまな問題をかかえ、国民の批判の対象となっている。
8	赤字体質の改善や本来的な存在理由が希薄化されたものの存在。ヤミ給与、カラ出張などの内部規律の乱れや「天下り」の受け皿となっている点。
9	民営化の潮流について述べる。
10	日本の産業社会は、かつて経験したことのない大きな転換点を迎えている。
11	世界経済のなかで、日本は一つの極を形成し、アジアの先進国役割を果たしつつも、世界をリードする産業システム、産業社会を築く過程にある。
12	産業の成熟化と企業の海外進出についても述べる。
備考	

科目名	協同組合論	担当者名	栗村英二
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>日本で長い活動の歴史をもつのは、現在のコープこうべである。70余年の歴史と組合員百万人を超えるまでに巨大な生協となり、世界から注目されている。統合の歴史や事業活動や、社会活動とは何か、また目指す生協活動とは何か、生活文化、福祉活動は、食品の安全性は、組織体制とは……高度に発展した経済社会にあつて、危機的状況下にある農協や漁協をみながら、生活協同組合企業の反会社企業の長所を協同組合原則を検討しながら、民主主義会社の経済のあり方に協同組合企業のポジションを見つけ出したい。</p>	
講義概要	<p>第一次オイルショックによって、現代文明に警鐘が乱打されて以来、現在の生産、生活の様式では未来はないと気付いた人々は多様な創造を試みている。協同組合が誕生して100余年、初期のロッチデールの経営原則も、今日の経済社会のあり様から、今日の協同組合の六つの原則として、世界の協同組合運動の共通の原則として発展を促している。</p> <p>それらを学びながら、自立した人間の生き方の中に協同組合による生産者の姿を具現化し、生活文化とは何か、福祉活動とは何か、消費財の協同購入から安全、安心の砦としての生協を考えたい。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	激烈な競争社会のなか、今日の協同組合はどうあるべきか、協同組合の基本的な価値をテーマに、1992年国際協同組合同盟の東京大会が開かれ、協同組合のアイデンティティをどこに求めるか、を問われた。
2	「協同組合の基本的価値」について、第30回のICA東京大会の基本テーマとして、協同組合運動の再生を図る大大会と意義づけた。
3	ICAの動向と日本 ストックホルム大会から4年、東京大会が開かれた。模索するICA、苦悩するICAをみる。
4	「協同組合の基本的価値」の概念 マルクス報告にみる ①組織のあり方、②事業・経営のあり方
5	イギリスの生産者協同組合運動 19世紀の素描
6	ICA大会における協同組合の資本に関する議論 協同組合の金融問題、レイドロー報告における協同組合の資本本問題
7	先進国生協運動から学ぶこと
8	同上
9	協同組合の組織・経営維持と再編方向
10	同上
11	同上
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	協同組合における役職員のあり方
3	同上
4	同上
5	地域協同組合からの提言
6	同上
7	生活者の協同組合
8	同上
9	現代社会の危機と協同組合 五つの危機 ①核兵器による人類絶滅の危機、②もうけ本位の経済が生み出す変動経済の危機 ③ 環境破壊、生態系破壊の危機 ④ 資源枯渇の危機 ⑤ 人間性の危機があげられている。
10	労働者協同組合の果すべき役割の展望
11	
12	
備考	

科目名	証券市場論	担当者名	原 亨
-----	-------	------	-----

講義の目標	現代は、貨幣経済社会だといわれる。これは、現実には実物資産を上回って金融資産が累積されていて、「カネ」の方から「モノ」の世界をみるような社会をいうのである。従って、この講義は、金融や証券といった視角から、現代の資本主義社会の枠組み、仕組みを解剖して、いこうというところにねらいがある。先達が組み立てたいろいろな理論を手がかりに、現実の諸問題を解き明かし、その中から仮説をも組み立てていければよいと思っている。
講義概要	証券市場論は、金融論がなくては成り立たない。証券市場は、同じく金融といっても、貨幣の貸借とは違って、債権や株主権を表わす有価証券という商品の売買を通して、資金を融通する市場である。従って、証券を貨幣で買い、証券を売って貨幣を入手するために、資金の融通は、証券の流通として現象する。貨幣＝金融市場を基礎にして、証券市場は成立し、両市場は相互に連動している。しかし、金融市場は単なる資金の融通であるが、証券市場は証券商品の売買市場であるから、「相場」が立つ。ここが、金融論とは決定的に違うところである。証券市場論の中心は、証券価格の形成と変動やその売買技術にある。その最先端に先物取引、デリバティブが突出している。本講義は、このような主旨に沿って進める。
使用教材	テキスト 毎時間、講義主旨をコピーして配布する。 参考文献 ・川合一郎他編 『証券市場論』 有斐閣双書 1981年 ・杉江雅彦他著 『新・証券論』 晃洋書房 1994年 ・津村英文編 『証券市場論入門』 有斐閣双書 1991年 ・矢島保男他著 『金融と経済』 成文堂 1993年
評価方法	講義への出席度。学年末試験によって決定する。 答案。問題に対して、正しく解答されているか。その論旨に整合性があり、論旨が一貫しているか、を採点の基準にする。
受講者に対する要望など	毎日、「日本経済新聞」を読むこと。特に金融、証券の記事は熟読すること。講義には「日本経済新聞」を持参すること。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	シラバス授業。証券市場論は、どういう学問か、そして、この1年間どういうことが、どういう順序で講義されるか、が話される。
2	貨幣・証券経済社会。現代資本主義経済は、貨幣や証券におおわれた社会である。金融資産が実物資産を上回っている。どうして、そうなったのか。それは、人間生活とどうかかわっているのか。
3	証券の商品化。商品は、人間の生活資料である。証券もそうであるが、その役立ち方は大分違う。証券は、形状も、素材もない。それがどうして商品になって、人間社会に大量に存在するのか。
4	有価証券制度。証券は、いわば知的財産である。これは、約束事であるから、きずがつきやすいし、こわれやすい。しっかりした商品にするために、社会的技術や社会的制度が必要になる。それなりに強い規制を受ける。
5	証券の多様化。証券は、債権・債務、権利・義務を表象している。これをベースに、それぞれの経済主体が、いろいろな証券を発行する。どんな種類の証券があるか（大きくわけて貨幣証券と資本証券）。
6	債券発行の大物。今、最も注目されているのが、国債である。ただたんに量が多いというだけではない。なぜ最近こんなに多くの国債が発行されたのであろうか。それを経済の仕組みの変化から考えてみよう。
7	株式会社の出現。株式会社制度は、どのようにして生まれたか。「信用制度を基礎とする株式会社」を論じよう。その中で企業形態の発展過程も、資本の集中機構という観点から論じられる。
8	現代の株式会社。近代的な株式会社の仕組みが説明される。「所有と経営の分離」が「有限責任制」にもとづく出資とその回収を、出資証券たる株券の売買に置き換えた。株式流通市場は、その社会的システムである。
9	市場論。市場は、もともと商品の市場であった。貨幣が生まれて様子が変わった。貨幣の市場が生まれ、その信用から各種の証券市場が生まれた。それだけではない。それら各市場は、相互に連なっている。
10	証券発行市場と流通市場。特に、証券市場が、どのような仕組みになっているのか、を説明する。手形は裏書によって流通し、債券に譲渡性が付けられたり、株券は出資・回収を容易にするためにはじめから売買される。
11	証券会社の経営。証券の売買の仲介機能を果たすが、証券仲買人（証券会社）である。どんな業務でその機能を果たしているのか。
12	証券会社経営の諸問題。現代の証券会社は、いろいろな業務を兼営する総合証券会社が独占化し、これがどのように市場に影響を与えるのか。そして、市場はどう変わっているのか。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	証券取引所。証券の売買は、証券会社を取り次いで、すべて証券取引所に持ち込まれる。取引所は、具体的市場として存在する。その形成過程と取引所の機能、価格形成のやり方など、取引所の市場機能について論じる。
2	売買仕法。取引所に上場された証券は、どのように取引されるのか。その取引形態と決済システムを解説する。普通取引と板よせ、ザラバ売買は、その核になる技術である。証券の保管・集中振替決済制度についても説明する。
3	価格の形成。資本主義経済における市場で、価格は一般にどのように形成されるのか。価格とは何なのか。貨幣は、そこでどのような役割をするのか。価格と貨幣の経済的関連は？
4	証券の価格。証券の価格形成は、価格一般の形成とは違う。特殊な価格、擬制資本価格を形成する。貨幣資本運動を擬制して形成される擬制資本とは、どんな資本で、どのようにして価格が形成されるのか（債券価格の形成）。
5	株式の価格。擬制資本価格の形成一般から、さらに株式の価格は違った形成をする。元来、株式は擬制資本や価格を形成しない。配当は利子ではないからである。それが、どうして債券価格と同じように価格を形成するのか。
6	投機信用と信用取引。普通取引に外部から信用が供与されると、信用取引が生まれる。信用取引の仕組みと、それが投機取引化するプロセスを説明する。
7	投機一般。投機は、価格が変動するところには、どこにでも寄着する。商品投機、為替投機、株式投機など。まず、投機とはどんなものなんだろう。それを賭博と比較して、投機の経済学を講義する。
8	株式投機。今日、投機といえば、株式投機だと誰もがいう。投機の中でも、なぜ株式投機が典型的な投機になったのであろうか。
9	先物投機の時代。70年代にはいって先進資本主義諸国では、先物投機が盛行している。今や、それは、現物取引を上回っている。いまや先物投機の時代の到来である。どうしてそうなったのか、経済的背景をさぐる。
10	相場の見方。相場は、普通、株価指標をみて語る。「日本経済新聞」相場欄の主要な株価指標を解説する。単純平均株価、日経ダウ平均株価、TOPIXを解説し、その他の指標やその読み方を解説する。
11	証券投資決定論。昔は「利回り採算」だったが、それは不可能になった。ケイ線やドル平均法、科学的投資法、チャートリーディングから、今やポートフォリオの時代に入った。ポートフォリオ理論とは、どんなものか。
12	金融・証券のグローバル化。金融・証券の国際化は、金融・証券の自由化によるところが大きい。しかも、先物取引が盛行して、数値が商品化された。世界商品の誕生である。これは、どこの国でも取引される。
備考	

科目名	広告論	担当者名	梶山 皓
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>広告とは何か、広告の社会的機能、マスメディアと広告、企業経営における広告の役割などについて、マーケティングやコミュニケーションの視点から解説します。また日本とアメリカの広告事例を取り上げ、日米の広告観や広告表現の違いについて考えます。</p>		
講義概要	<p>広告は「広告主」「広告会社」「広告メディア」の3つの機関から成り立っています。講義では、企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように広告を計画し実施するか、そしてメディアをどのように活用するかについて説明します。広告は、これに接する人の行動に影響を与えます。このため、消費者や事業所など、広告の受け手の認知過程や購買行動についても検討を加えます。広告は社会的に大きな影響を与えるために、広告倫理や法的な面からも取り上げます。広告と社会風俗や価値観の関連なども考えます。なお世界の広告費の半分はアメリカで支出されています。アメリカと日本のCMをVTRで紹介しながら、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探りたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・梶山皓著『広告入門（新版）』日経文庫 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所 ・千場英男『アメリカの広告・風と土』電通 ・八巻俊雄編『広告用語辞典』、東洋経済新報社 ・P. コトラー『マーケティング原理』（村田昭治訳）ダイヤモンド社 ・S. W. Dunn : Advertising, Dryden Press. 1994. ・E. Jerome McCarthy : Basic Marketing, Irwin. 1987. ・Barron's : Dictionary of Advertising and Direct Mail Terms. 	
評価方法	<p>通例、前期・後期に試験をします。他に数回の出席をとります。問題は講義内容とテキストから出し、2～3題の論述形式です。教科書やノート類の持込みはありません。</p>		
受講者に対する要望など	<p>とくになし。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	広告をなぜ学ぶか (Introduction) : 広告を学ぶと、社会の未来が見えてくる。また物事をポジティブに考える習慣が身に付く。
2	広告の定義 (Ad. Defined) ① : 日本語の広告には、広告活動と広告物という2つの違った意味が含まれている。英語ではそれを分けて使っている。
3	広告の定義 (Ad. Defined) ② : 広告という言葉は、しばしば世間で誤って使われている。宣伝、PR、広報、SPなどと広告とは別の事柄である。
4	広告の機能 (Role of Ad.) : 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。
5	広告の種類 (Ad. Classification) ① : 広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のような商業目的に使われる広告である。
6	広告の種類 (Ad. Classification) ② : 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使うものがある。
7	広告主 (Advertisers) ① : アメリカの広告費は邦貨で年間約15兆円で、世界の半分を一国で占める。日本は世界2位で約5兆円である。
8	広告主 (Advertisers) ② : 広告主は、広告活動を効果的に行うために、広告計画を策定して実施する。また様々な組織を編成する。
9	広告会社 (Ad. Agency) ① : 広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門家集団である。日米ではビジネスの進め方が異なる。
10	広告会社 (Ad. Agency) ② : 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源は、媒体手数料という古い習慣に基づいている。
11	広告メディア (Ad. Media) ① : 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。
12	広告メディア (Ad. Media) ② : マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向CATVなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	広告とマーケティング (Marketing Principles) : マーケティングの基本理念は、消費者志向である。受け手のニーズから出発する。
2	戦略企業計画 (Strategic Planning) : 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業の全体計画である。
3	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ① : 製品とは、効能の側面だけではなく、パッケージ、色、デザイン、保証を含む広い概念である。
4	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ② : 価格の心理的側面、流通チャンネルと物流、プロモーション・ミクスについて説明する。
5	広告コミュニケーション (Communication) ① : 広告は社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。
6	広告コミュニケーション (Communication) ② : 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。
7	DAGMARの理論 (DAGMAR) : 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという理論で、論争を引き起こした。
8	広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) : 人々は製品を調べてから買うのか、買った後に調べるのか。衝動買いはなぜ起きるかなどを考える。
9	広告計画 (Ad. Planning) ① : 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。
10	広告計画 (Ad. Planning) ② : 広告計画の中でも、広告表現の方針を決めることと、メディアを選ぶことがとくに重要である。
11	広告規制 (Ad. Regulation) : 広告規制には、広告を倫理や公序良俗からチェックする自主規制と、法律で取り締まる法規制がある。
12	広告の将来 (Ad. Future) : 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。
備考	

科目名	保険論	担当者名	岡村 国和
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>本講義の目標は、従来の保険理論では理解しにくかった新たな保険現象を新しい理論的枠組みで解釈し、加えて金融環境の変化と保険業に対する規制の基本的枠組を視座においた総合的な問題の解釈を行なうことにある。前期は、危険論及び保険原論の理解を深めるが、応用ミクロ経済学や統計学の知識が若干必要となる。後期はその応用編で、複雑多様な保険現象や保険企業の行動原理、保険市場の特殊性などを検討した上で、金融規制緩和の現状に鑑み、保険業に対する規制の特殊性やその変化について理解することを目標とする。</p> <p>なお、各週毎の講義内容の詳細については、受講者にのみ別途配布する。</p>		
講義概要	<p>保険界では「危険なければ保険なし」という文言が使用されるが、全ての危険が保険でカバーされるとは限らない。ここに保険の限界の一端がある。保険の発展はこの限界を縮小し付保可能領域を拡張することから始まったのである。ところが、生命保険の分野では「死亡」「生存」及び「生・死混合」のいずれかに基本的な保障形態や企業の活動領域が制限されている。他方、損害保険の分野においても、世界にも類のない「金融商品」の登場により「保障」と「金融」をめぐる諸問題が顕在化し、その経営戦略は大きく転換した。このように、保険分類上の理論的問題を含め、保険現象・理論は本質的部分において従来の把握方法では捉えきれない大きな変化が現われているのである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・庭田範秋編『保険学』成文堂、1991年</p>	
	参考文献	<p>参考文献の詳細は、受講者に別途配布する。</p>	
評価方法	<p>原則として後期試験のみで評価する。但し、前期・後期ともにレポートの提出を許可する。このレポートは強制ではなく任意であるので、未提出者にペナルティを課すことはない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>以下の主要キーワードを最低限理解すること。①保険均衡式、②保険における価値循環の転倒性、③保険企業の行動原理、④被保険利益、⑤キャッシュフロー・アンダーライティング、⑥ギャランティ・ファンド、⑦カルテル料率、⑧資産・負債管理(ALM)、⑨保障と金融。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の範囲、講義の進め方、保険学の学問的位置づけについて。
2	「保険現象の分析」：保険現象を考究するための目的、対象、分析用具の吟味を行う。
3	「リスクの基礎理論（１）」：日常生活をめぐるリスクの性格や対応につき検討する。
4	「リスクの基礎理論（２）」：リスクの源泉の把握とリスクの分類をおこなう。
5	「リスクと保険」：保険可能リスク、ダウンサイド・リスクについて論じ、付保決定基準について考察する。
6	「保険の理論構造（１）」：情報経済学との関連から、保険現象のモデル化を試みる。
7	「保険の理論構造（２）」：保険の理論体系を構築する諸原理・原則の概説を行う。
8	「保険の理論構造（３）」：保険は経済学的には「条件付き請求権」として扱われるが、現実の保険行為は「法的契約」であるので、この点につき若干の解説を行う。
9	「保険の理論構造（４）」：危機負担の一般原則についての諸問題を講義する。
10	「保険の理論構造（５）」：「損害補填の一般原則についての講義を行う。
11	「保険の理論構造（６）」：保険における情報の非対称性につき講義する。
12	「前期のまとめ」
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「保険各論（１）」：保険各論の手始めとして保険の分類につき講義する。
2	「保険各論（２）」：生命保険の仕組みや機能、経済効果などについて講義する。
3	「保険各論（３）」：伝統的な損害保険種目と新種保険のうちでも自動車保険・自動車損害賠償責任保険、自賠責保険および傷害保険について講義する。
4	「保険各論（４）」：高齢化社会における社会保障の財政赤字の原因について保険との関係につき講義する。
5	「保険経営（１）」：保険経営の特殊性と保険商品の「価値循環の転倒性」につき講義する。
6	「保険経営（２）」：保険マーケティング、保険料率の算定・決定とアンダーライティング、保険企業の資産運用とキャッシュ・フロー・アンダーライティングなどにつき講義する。
7	「保険市場論（１）」：応用ミクロ経済学の立場から保険市場を分析する。
8	「保険市場論（２）」：保険市場が寡占市場であることを検証し、完全競争理論、不完全競争理論を概観した上で保険業における価格競争及び非価格競争を取り扱う。
9	「保険の限界とその拡張」：保険過程のダイナミズムの中で生ずる保険の限界とその拡張について講義する。
10	「保険政策論」：保険の公共性の検討と保険政策・保険規制について講義する。
11	「保険業の規制」：金融自由化に伴う規制緩和と新しい保険行政のあり方を考える。
12	「1年間の講義の結び」
備考	

科目名	原価計算論	担当者名	齋藤正章
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>原価計算は、現代の産業社会において、種々の目的に応える計数的手段としてさまざまな機能を遂行している。そしてそれは従来からの基本的な構造を踏襲しながらも、所与の目的の分化や新しい役割の提唱に応じて複雑な枝分れを繰り返し、新しい展開を示している。本講義では原価計算に与えられる諸目的のうち、とりわけ財務諸表作成目的の原価計算の習得を中心目標とする。それは、財務会計目的の制度としての製品原価計算であり、多様に枝分れしている原価計算の基幹となるものである。</p>	
講義概要	<p>最初に原価計算の学習を支える土台の構築を目指す。そこでは原価計算の目的、原価概念、原価計算の基礎手続をめぐって、原価計算の学習にとって不可欠なキー・コンセプトやキー・タームが提示される。続いて実際原価計算制度に焦点を合わせ、「原価計算基準」に依拠して展開される制度としての製品原価計算を解説する。費目別計算、部門別計算、総合原価計算、個別原価計算に関する議論がそれである。次に標準原価計算と直接原価計算を取りあげる。そこでは経営管理目的に対する適用の態様についても論及するが、その計算手続の構造を明らかにすることに主眼をおく。最後に現代における原価計算の特徴を析出するとともに、これまでの議論に対する部分的な復習をおこなう。</p>	
使用教材	テキスト	開講時に指示する。
	参考文献	・岡本 清『原価計算』（5訂版）、国元書房、1994年
評価方法	<p>定期試験の結果を重視する。但し、必要と思われるときに課題を提出させるが、その結果も加味する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受講者は簿記の基礎知識があることが望ましい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	原価計算総説
2	原価とは何か
3	原価計算の基礎手続
4	原価の費目別計算
5	原価の部門別計算(1)
6	原価の部門別計算(2)
7	総合原価計算(1)
8	総合原価計算(2)
9	総合原価計算(3)
10	個別原価計算(1)
11	個別原価計算(2)
12	個別原価計算(3)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	標準原価計算(1)
2	標準原価計算(2)
3	標準原価計算(3)
4	直接原価計算(1)
5	直接原価計算(2)
6	直接原価計算(3)
7	特殊原価調査
8	差額原価収益分析
9	原価計算における問題点
10	原価計算の新展開(1)
11	原価計算の新展開(2)
12	原価計算と管理会計
備考	

科目名	会計監査論	担当者名	長吉眞一
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>会計監査について、その構造やあり方と我が国における制度面の理解をめざす。また具体的な監査手続については、後期において3コマを割り当て、注意すべき事項や盲点となりがちな事項について説明し、これらの理解をうながす。</p> <p>授業は、会計監査論の理論的理解と、具体的な監査手続の理解の二本建てになるが、相互の関連性について、常に注意を喚起していきたい。</p>	
講義概要	<p>会計監査に関する基本的な知識と具体的な監査手続について学ぶ。本講義で用いるテキストは、要点だけ羅列したものであるため、それらの細かい点については、講義にて行なう。また、監査は実務と密着し、理論と実務が相互に相俟って発展してきた新しい科学であるため、実務を抜きにしては考えられない。この点で、講義のあい間に講義に関連する実務上のトピックス等も必要に応じて説明するつもりである。</p> <p>講義は平明に行なうが、周辺科目を履習していることが望ましい。</p>	
使用教材	テキスト	財務諸表監査の基礎
	参考文献	必要に応じてコピーを配布する。
評価方法	<p>前期はレポート提出による。提出期限：8月31日</p> <p>後期は試験を実施する。</p> <p>成績評価はレポートと試験を総合的に考慮して行なう。</p>	
受講者に対する要望など	<p>簿記原理、会計学原理、財務会計論などを履修していることが、望ましい。特に簿記原理は履修していないと、用語についても理解できないおそれがある。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明と会計監査論の周辺、すなわち財務会計論や簿記、原価計算論との関連について考える。
2	財務諸表監査の意義について論じる。特に最近の経営者による不正問題と財務諸表監査のあり方について考える。
3	財務諸表監査の意義について、証券取引法と商法および商法特例法について論じる。
4	財務諸表監査の限界について、情報の陳腐化や企業会計の特色との関連で論じる。
5	監査基準について、その意義、構成内容、設定理由等について概括的に論じる。
6	会計監査人の条件について、専門的能力、独立性の保持、特別の利害関係の意味について論じる。
7	会計監査人の条件の続きとして、独立性の阻害要因、公正不偏の態度について考え、公認会計士および監査法人の制度について論じる
8	監査人が業務上守るべき規範として、正当な注意の説明とそれに違反した場合の責任について考え、秘密保持の意味および免責条件について論じる。
9	監査証拠について、その意義・証拠の分類と強弱、合理的基礎との関係について論じ、合理的基礎の決定要因について考える。
10	監査計画について、その意義、その種類、監査計画設定の要件、監査計画の修正について論じる。さらに最近の監査計画設定時における分析的手続のあり方について考える。
11	内部統制について、その意義、財務諸表監査との関連、試査範囲の決定について論じる。
12	通常実施すべき監査手続について、その意義、監査要点、種類等について論じる。さらに前期講義の総括を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個別監査手続（実査、立会および確認）について、その意義、実施上の注意、結果の解釈等について論じる。
2	監査業務の品質管理について、その意義、組織的な監査の意味合い、補助者の指導監査、審査機能、経営者の確認書について論じる。
3	監査調書について、その意義、内容、作成方法、効果および監査調書の保管と守秘義務との関連について論じる。
4	主な貸借対照表項目の監査要点(1)として、現金預金の監査、売掛金の監査について、それぞれ取引記録の監査と財務諸表項目の監査について論じる。
5	主な貸借対照表項目の監査要点(2)として、有価証券の監査、たな卸資産の監査について、それぞれ取引記録の監査と財務諸表項目の監査について論じる。
6	主な貸借対照表項目の監査要点(3)として、有形固定資産の監査、買掛金の監査について、それぞれ取引記録の監査と財務諸表項目の監査について論じる。
7	監査報告書について、その意義、範囲区分、意見区分（特に総合意見と個別意見）について論じる。
8	監査報告書の続きとして、総合意見の種類、個別意見と総合意見との関連、意見差控、特記事項等について論じる。
9	監査報告書のまとめとして、最近の具体的事例（特殊なケースやトピックス的な事例等）を取り上げ、ケース・スタディ的に考えていく。
10	連結財務諸表について、その意義、作成方法、他の監査人の監査結果の利用、監査意見について論じる。
11	中間財務諸表について、その意義、有用性、特有の処理、監査意見について論じる。
12	一年間のまとめとして、会計監査への取り組み方、あるべき姿や、将来の展望等について考える。
備考	

科目名	税務会計論	担当者名	山田浩一
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現実の企業会計実践において必要な、法人税を中心とする企業課税の概要に関する理解を形成することを出発点とし、税務と企業会計の相互依存構造、法人税等の規制が企業会計に与えている影響を国際的観点等から検討していきたい。すなわち、授業の主な焦点は次のとおりとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法人税法の理念と計算構造 2. 会計的思考と税務的思考の相違 3. 法人税法等の会計に与えるインパクト 4. 諸外国の税務会計制度等との比較検討 				
講義概要	<p>税務会計論の進め方としては、法人税の課税所得及び税額計算の技術的理解に終始する傾向が生じがちである。しかし、本講義では、個々の経済事象に対する理解を十分にふまえた上で、会計及び税務上どのような取扱いがなされていくのかを追及していく方法を採用したい。</p> <p>そして、さらに確定決算主義、損金経理要件といった税務理念が、企業会計実践に少なからぬ影響を与え、本来の真実公正な会計処理の実現を阻害している面があるということを説明していきたい。それは、基本的に国家単位の税務規制と、ますます国際的視点に基づく充実が要求される会計基準の調整の問題としてとらえる必要がある。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・中田信正著『税務会計要論』 同文館</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・『会計法規集』 中央経済社他 ・『法人税法規集』 中央経済社他 ・『法人税取扱通達集』 中央経済社他 ・鈴木明男・鈴木豊共著『総説税務会計』 税務経理協会 ・井上久彌著『税務会計論』 中央経済社 ・武田隆二著『法人税法精説』 森山書店 他に法人税関係書籍多数が参考となろう。 </td> </tr> </table>	テキスト	・中田信正著『税務会計要論』 同文館	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『会計法規集』 中央経済社他 ・『法人税法規集』 中央経済社他 ・『法人税取扱通達集』 中央経済社他 ・鈴木明男・鈴木豊共著『総説税務会計』 税務経理協会 ・井上久彌著『税務会計論』 中央経済社 ・武田隆二著『法人税法精説』 森山書店 他に法人税関係書籍多数が参考となろう。
テキスト	・中田信正著『税務会計要論』 同文館				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『会計法規集』 中央経済社他 ・『法人税法規集』 中央経済社他 ・『法人税取扱通達集』 中央経済社他 ・鈴木明男・鈴木豊共著『総説税務会計』 税務経理協会 ・井上久彌著『税務会計論』 中央経済社 ・武田隆二著『法人税法精説』 森山書店 他に法人税関係書籍多数が参考となろう。				
評価方法	主に定期試験における成績を基礎として評価する予定である。また、授業時間内の積極的な発言（問題提起、質問、意見等）を重視して評価を行いたい。				
受講者に対する要望など	本講義の履修とともに、簿記原理、会计学、財政学等の関連科目の履修が有用であろう。出席にあたっては、テキストの授業予習箇所について、予め通読しておくことが望まれる。				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔税務会計論の対象と方法〕年間講義概要の説明を行い、税務会計論の対象及び税務会計論研究のアプローチ方法を取り扱う。
2	〔租税制度〕租税の意義、租税制度の沿革、租税の根拠、租税の目的、租税の分類、法規制の体系、租税原則といった項目について概括的にふれる。
3	〔制度会計の構造〕制度会計の意義、制度会計におけるいわゆるトライアングル体制、そして税務会計の位置づけをみる。
4	〔法人税法上の課税所得の計算〕企業利益と課税所得の関係、その構成要素である収益と益金、費用と損金との関係を把握する。
5	〔公正会計処理基準〕法人税法第22条4項にいう公正会計処理基準の意義を考え、会計理論のGAAP等との関連を考えていく。
6	〔税務会計判断の特性〕税務判断の特徴的な考え方を実質主義原理、確定決算主義、債務確定主義、同族会社規定等を通じてみていく。
7	〔売上収益と金銭債権〕販売収益計上の一般原則、特殊販売の収益計上、債権の計上とその評価といった項目を扱う。
8	〔有価証券と受取配当〕有価証券の意義、分類、認識と測定、評価にふれた後、受取配当の益金不算入についてふれたい。
9	〔売上原価と棚卸資産〕売上原価と棚卸資産評価の関係、棚卸し資産の取得から期末評価までの一連の考え方をみていく。
10	〔有形固定資産・減価償却・リース〕有形固定資産の意義、取得原価の決定、資本的支出と修繕費の関係、減価償却の意義と方法、固定資産の除売却、リース取引等を扱う。
11	〔圧縮記帳〕圧縮記帳の考え方、処理の態様、圧縮記帳処理の会計上の問題点等を扱う。
12	〔無形固定資産・借地権〕無形固定資産の意義、種類、借地権の考え方と税務上の取扱いといった項目を扱う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔繰延資産〕繰延資産の意義、商法上の繰延資産とその他の繰延資産の内容・償却方法等に対する税務上の扱いを概観する。
2	〔引当金・準備金〕会計上の引当金、税法上の引当金を概観する。準備金と引当金の相違点等を解明する。
3	〔給与・報酬・源泉徴収〕役員と従業員とにおける人件費用の取扱の相違、及び源泉所得税等の控除項目の取扱いをみる。
4	〔交際費・寄付金〕交際費課税の趣旨、交際費損金不算入の計算、寄付金の制限の趣旨、寄付金の損金不算入の計算等にふれる。
5	〔租税公課〕企業をめぐる租税公課の種類を概観するとともに、会計上の取扱いと、税法上の取扱いの相違点をみていく。
6	〔自己資本〕資本等取引における税務上の取扱いを中心とし、欠損金の繰越控除制度を概観する。
7	〔合併・分割・解散〕企業活動のうち、特殊な取引内容であるといえる、合併・分割・解散等の意義、会計上税務上の考え方を扱う。
8	〔国際課税〕企業の国際活動にともなって派生する、外国税額控除、タックスヘイブン、移転価格税制といった問題を取り扱う。
9	〔申告・納税制度の概要・連結納税制度〕税務会計上の実務的な流れとしての各種申告制度の概要、及び研究対象としての連結納税制度についてみる。
10	〔消費税と経理方法〕消費税の性格、非課税取引と課税取引、税額計算、経理方式とその評価といった項目を扱う。
11	〔非営利法人の税務〕公益法人、学校法人等の非営利法人における法人税その他租税の取扱いをみていく。
12	〔税効果会計〕税効果会計の意義、個別財務諸表及び連結財務諸表における税効果、国際会計基準、アメリカの会計実務における税効果等を概観する。
備考	

科目名	経営分析論	担当者名	百瀬 房徳
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>経営分析は財務諸表分析として発展してきた。このためには統一した財務諸表の作成方法の発展を促進させてきた。これによって作成された財務諸表分析の始まりは金融機関が貸付金の返済能力を判定したところにある。その後証券市場では収益性の分析を発展させた。現在では特定の実体（たとえば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展してきている。本講ではこの全体像の理解を深めることにある。</p>		
講義概要	<p>前期においては歴史的発展過程をふまえたかたちで、経済環境と技法の二面より考察し、後期においては代表的な企業の財務諸表を資料とし、体系的に分析しながら、分析値が何を意味するかを考察する。この分析はテーマごとにレポートを完成させて、提出してもらうことにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・松尾・前林著編『入門経営分析』</p>	
	参考文献	<p>無し</p>	
評価方法	<p>テーマごとにレポートを完成させて提出してもらう。このレポートを中心に評価する。後期にはレポートが理解されているかテストする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>レポートを完成させるには簿記の知識が必要である。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義内容の説明
2	米国における経済環境における手形市場の形成過程
3	手形市場、特に卸売商人の銀行での手形の割引における銀行からみた信用分析の形成過程
4	信用分析の側面からみた財務諸表、特に貸借対照表を中心に
5	信用分析における2対1の原則から体系的な分析への過程
6	信用分析のケース・スタディ ケース①—ウォール、ケース②—ブリス、ケース③—シュルター
7	信用分析のケース・スタディ ケース④—ギルマン、ケース⑤—ウォール、ケース⑥—シュマルツ
8	収益性の分析およびその他の分析への発展
9	経営分析の意義とその限界
10	経営分析の主体と目的
11	経営分析の種類
12	経営分析の体系
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	安全性の分析(1)…比率分析 ①新日鉄の有価証券総覧を用いて分析をし、レポート提出
2	安全性の分析(2)…資金運用表の作成 ②レポート提出
3	安全性の分析(3)…資金移動表の作成 ③レポート提出
4	収益性の分析(1)…各種資本利益率
5	収益性の分析(2)…売上高利益率と資本回転率 ④収益性の分析(1)と(2)をまとめてレポート提出
6	収益性の分析(3)…利益増・減原因分析 ⑤レポート提出
7	生産性の分析(1)…付加価値の意義
8	生産性の分析(2)…付加価値の計算と数値の意味
9	生産性の分析(3)…付加価値の計算 ⑥レポート提出
10	損益分岐点分析(1)…損益分岐点の意義
11	損益分岐点分析(2)…損益分岐点の計算と数値の意味
12	損益分岐点分析(3)…損益分岐点の計算 ⑦レポート提出
備考	

科目名	管理会計論	担当者名	香取 徹
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>企業の経営者や管理者およびこれ助ける人々が、合理的な計画管理活動を展開するためには、企業会計についての基礎知識をもって、目的にあった会計情報をうまく使いこなせる素養を身につけることが近年ますます重要になっています。この講義では、マネジメントの諸分野で生じる意思決定問題を採算性の観点から分析するための基礎的な考え方と、その分析に役立てるための会計情報の使い方を講義します。</p>		
講義概要	<p>コスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるために会計情報の計数的な分析を講義します。</p> <p>前半は、意思決定に役立つコストの考え方、利益の測り方などを整理し、改善管理に役立つ分析の仕方や生産及び販売計画への応用について、教科書を中心にして講義し、練習問題やケーススタディのプリントを配布して全員で解いていきます。</p> <p>後半は、設備投資計画とキャッシュフロー利益の考え方、戦略計画における収益性の尺度の問題や会計情報のあり方などをとりあげます。実際にコンピューターを使ってシミュレーションモデルを作成して、キャッシュフロー情報と財務諸表情報とを分析します。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・伏見・柴田・福川著、『経営工学シリーズ7 経営管理会計』（改定版）日本規格協会</p>	
	参考文献	<p>・車戸 實編『基本経営学全集11 管理会計論』（改定版） 八千代出版</p> <p>・千住鎮雄・伏見多美雄『経済性工学の基礎』 日本能率協会</p> <p>・千住鎮雄、『やさしい経済性工学のはなし』 日本能率協会マネジメントセンター</p> <p>・千住鎮雄・中村善太郎『やさしい経済性分析』 日本規格協会</p>	
評価方法	<p>基本的には定期試験の成績で評価しますが、レポートの提出や出席状況も考慮します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>2年修了時までには授業で簿記原理を修得しているか、日商3級程度の実力のある者が望ましい。コンピューターについての知識は、初めから教えるので特別必要とはしません。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

第1回～第4回：採算計画のためのコスト・利益分析

- ①経済性計算と財務会計方式
- ②経済性の比較の原則とコスト概念
- ③全部原価計算と貢献利益計算
- ④状況に応じたコスト・利益のとらえ方
- ⑤埋没費用の考え方と会計情報

第5回～第8回：生産・販売計画と会計情報

- ①有利な製品の判断尺度
- ②生産ラインの選択と可変的費用・収益
- ③設備能力の変更を含む生産・販売計画、価格政策とコスト情報

第9回～第12回：オペレーションの改善計画と会計情報

- ①時間コスト
- ②停止時間削減の経済的効果
- ③不良率低減の経済的効果
- ④生産スピード改善の経済的効果
- ⑤材料費や売価の改善

後 期

第13回～第16回：投資分析とキャッシュフロー利益

- ①資金の時間的価値
- ②時間換算の公式とその応用
- ③投資収益率と回収期間
- ④複数の投資案の優劣の判定

第17回～：コンピューターを使つての長期計画の収益性と会計情報

- ①減価償却費と支払利息
- ②税引後キャッシュフロー利益と財務会計上の利益
- ③経営の戦略計画と収益性の尺度

科目名	社会会計論	担当者名	湯田雅夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>'70年代の2度の石油危機を契機として、工業社会の成長にともなうコストが先進工業国の市民の間で意識されるようになり、新たな社会に適合した会計情報が求められるようになった。伝統的な企業会計から得られる会計情報だけで企業の真の実像を把握することは、もはや不可能になったのである。</p> <p>このような時代の変化を踏まえて、本講義では、真の企業像を把握するために、緊急に取り組むべき最先端のテーマの一つである環境監査（環境管理）情報および従業員関連情報の内容と最近の動向を解説する。</p>	
講義概要	<p>社会会計の領域は、経済学の分野から生まれたマクロ社会会計と会計学の分野から生まれたミクロ社会会計学に識別することができる。この両者の歴史的経過を概観した後、本講義では、主として、後者のミクロ社会会計＝社会関連会計を中心に考察していく。</p> <p>社会関連会計は、'80年代後半に至り、とくに環境保護の観点からエコビランツ（環境監査、環境管理；Ökobilanz＝Environmental Audit）の領域で新たな展開をみせている。EUの動向を踏えつつ、ドイツ、スイスおよびわが国の最新の事例を概観しながら環境監査について考察したい。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・湯田雅夫『ゾチアルビランツ研究序説』学文社、1989
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・小池 清『IBMの環境対応』ダイヤモンド社、1993 ・藤森敬三『地球を守る企業戦略』日本電気文化センター、1992 ・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向—ドイツ語圏諸国を中心として—』『国際会計研究学会'93年報』平成6年2月、83頁～98頁。
評価方法	<p>当該講義科目の成績評価は、後期試験期間中に実施する論述式の試験による。</p> <p>なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>履修条件は、とくに定めない。将来、証券アナリスト、公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門職を志望する者ならびに企業経営を志す者は、履修することが望ましい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	: イントロダクション; 講義概要ならびに問題提起
2	"
3	: 社会会計の名称の由来; 社会会計における二つの研究領域
4	: マクロ社会会計の概要=マクロ社会会計の概念規定、目的及び体系、計算領域を明らかにして、情報内容とその限界に言及。
5	"
6	: 社会のなかの企業; 企業の社会的責任
7	"
8	: ミクロ社会会計の生成: シュテアク社、ベルテルスマン社、ザールベルク鉱山会社等の事例を解説。
9	"
10	: ミクロ社会会計の展開: BASF社、ドイツ・シェル社等の事例を解説。
11	"
12	"
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	: ミクロ社会会計の新展開: ドイツ、スイス、オーストリアを中心に、'80年代半ばから急速に実践されつつあるエコビランツ (環境監査) について概観。
2	"
3	: 環境監査の事例: スイス・エア社、クーネルト社のエコビランツを解説。
4	"
5	"
6	: EU の動向
7	"
8	: 環境監査の事例: 日本電気、日立製作所等の日本企業における環境監査の実状を解説。
9	"
10	: 日本の動向
11	"
12	"
備考	

科目名	管理工学	担当者名	山本 栄
-----	------	------	------

講義の目標	<p>企業を始め組織は人および物により構成されている。この組織をうまく運営するためには、人と物の管理が必要になってくる。本講義ではこの管理に必要な知識および管理技術（手法）の修得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>管理手法全般にわたり講義する。さらに組織内における人間に視点をあててヒューマン・インタフェースに関する基礎も講義する。ここでいうヒューマン・インタフェースとは人間と道具、人間と機械、人間と組織との相性をさす。</p> <p>近年コンピュータが普及してきたが、このインパクトが組織に与えた影響は大きい。従って管理もコンピュータ抜きには考えられたい。特に最近の技術革新の中で管理をどうやっていけば良いかについても触れる予定である。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・秋庭雅夫他著『経営工学概論』 朝倉書店 ・野呂影勇編『図説エルゴノミクス』 日本規格協会 レポートの書き方 ・木下是雄『理科系の作文技術』 中公新書 	
評価方法	<p>年2回の期末テストを実施します。あと何回かレポートの提出を求めます。出来の良いレポートについてはテストを免除します。レポートの書き方は参考文献を良く読んで下さい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>積極的な参加、すなわち質問したり、自分の考えを述べたりできるようにして欲しい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	管理工学とは 管理工学を考える学問分野、管理技術とは。
2	システムズ・アプローチ システムとは、モデル、ブラックボックス フィードバックシステムー1
3	システムズ・アプローチ フィードバック・システムー2 マン・マシン・システム
4	生産管理論 工程管理、日程管理、在庫管理
5	作業計測と分析法ー1 身体計測と作業姿勢 パーセントイル値
6	作業計測と分析法ー2 行動分析 バーバルプロトコル法
7	インダストリアル・エンジニアリング (I.E.) 動作研究 時間研究
8	ヒューマン・インタフェースとは 機能分担
9	ヒューマン・インタフェースとは 人間工学適用の原則
10	ユーザビリティ エルゴデザインと使いやすさ メタファ、訓練
11	生理的反応ー1 視覚系
12	生理的反応ー2 聴覚・循環器 神経系
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	心理的反応ー1 アンケートの取り方 一対比較法
2	心理的反応ー2 一対比較法(続) SD法
3	経済性工学 コスト 代替案の選択基準
4	OA・VDT作業 ME化 メンタル・ストレス
5	ソフトウェア・エルゴノミクス 情報の標準化 認知情報処理
6	FA・ロボット 無人化システム FMS
7	最近の管理技術の動向 トヨタシステム CIM
8	作業環境管理 作業環境とは
9	安全管理ー1 FTA分析の入門
10	安全管理ー2 FTA分析の応用
11	テクニカルコミュニケーション
12	まとめ
備考	

科目名	経営数学	担当者名	前田 功雄
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>経済・経営に広範囲に応用されている線形代数の基本的事項をコンピュータを利用しながら解説する。目標としては線形計画問題のコンピュータ・アルゴリズムの理解と応用までとする。</p>	
講義概要	<p>本講義では線形代数の基礎的事項を解説するが、授業を進めるに当たって基本概念の視覚化を計るためコンピュータを利用する。BASICによる簡単なプログラムを組むことが要求されるが、必要な事項は講義中に補う。先ず、前期では、n次元ユークリッド空間の基本概念の導入とそれらの視覚的理解の為にコンピュータ・グラフィックスを利用する。最後の数週間で、経営科学で広く応用をもつ線形計画法の理論と Dantzig によるシンプレックス法の紹介とプログラム実習を行う。</p> <p>キー・ワード：ベクトル空間、内積、写像、線形変換、行列、行列式、基行列、基本操作、連立方程式、逆行列、ピボティング、シンプレックス法</p>	
使用教材	テキスト	必要に応じてプリント配布。
	参考文献	授業中に推薦する。
評価方法	授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。	
受講者に対する要望など	コンピュータ概論又は情報処理概論既修が望ましい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	数学における空間の概念 数学では空間はどのように扱われているか。空間の構成要素は何か？ キー・ワード：空間、点
2	n 次元ベクトル空間 n 次元ベクトル空間の定義を述べる。 キー・ワード：点、ベクトル、実数、座標、零ベクトル、ベクトル空間
3	ベクトルの幾何学的意味 2次元空間を例にとってベクトルの矢線表示による視覚化を導入する。 キー・ワード：始点、終点、位置ベクトル、和ベクトル、実数倍ベクトル
4	ベクトルのノルム ベクトルの長さ（ノルム）の概念を導入し重要な公式について解説。 キー・ワード：ノルム、コーシーの不等式、 n 次元ユークリッド空間
5	ベクトルの内積 2つのベクトルの内積を定義することによって交角を求める。 キー・ワード：内積、交角、直交、射影、一般化されたピタゴラスの定理
6	演習 ベクトル計算、ベクトルの交角の計算、コンピュータのスクリーン上に矢線ベクトルを表示するプログラム。
7	線形変換 任意のベクトルを原点の回りに α だけ回転したベクトルの座標を求める。 キー・ワード：写像、変換、線形変換、行列
8	行列と線形変換 行列によって引き起こられる様々な線形変換についての解説。 キー・ワード：恒等変換、伸縮変換、射影変換、変換の積
9	演習 上の各変換に対応する行列のみ使って平面上の与えられた図形を変換するプログラムを作れ。
10	行列計算 行列の和、差、実数倍および積を定義する。 キー・ワード：行列の和、差、実数倍、積、逆行列、行列式
11	n 元連立一次方程式の行列ベクトル表示と解表示 行列ベクトルを使っての連立方程式とその解の表示法。 キー・ワード： n 元連立一次方程式、行列ベクトル表示
12	前期レポート解説 レポート課題と提出方法（コンピュータ通信）について説明する
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	連立方程式の解法（ガウスの消去法） ガウスの消去法のアルゴリズムの数値例による解説。 キー・ワード：ガウスの消去法、アルゴリズム、基本行列、基本操作
2	ガウスの消去法の一般解法のフロー・チャートにより表現とプログラム キー・ワード：フロー・チャート、プログラム、乱数
3	ガウス・ザイデルの反復法 ガウス・ザイデルの反復法の数値例による解説。 キー・ワード：ガウス・ザイデルの反復法
4	ガウス・ザイデルの一般解法のフロー・チャートにより表現とプログラム キー・ワード：ストップングルール
5	演習 ガウス・ザイデルの一般解法のプログラミング
6	逆行列の数値解法 数値例により解法の説明。 キー・ワード：基本操作のサブルーチン化
7	逆行列の一般的解法 一般的解法のフロー・チャートにより表現。 キー・ワード：正則性
8	表計算ソフトを使っての行列計算について紹介。 キー・ワード：表計算、Exel、Lotus 1-2-3
9	線形計画問題について キー・ワード：モデル化、線形計画問題、基底解、実行可能解、最適解
10	数値的解法の一つである罰金法について数値例で解説。 キー・ワード：シンプレックス法、モストネガティブ、ピポティング
11	罰金法のフロー・チャート フロー・チャートに従って各自の好きな言語によるプログラミング実習
12	後期レポート作成 後期レポート課題と作成法について。
備考	

科目名	応用統計学	担当者名	本田 勝
-----	-------	------	------

講義の目標	この講義では「統計学」で学んだ1変量統計学の知識をベースにして、多変量統計解析の考え方を習得することを目的とする。	
講義概要	多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを要約し、その背後にある総合特性を探し出し、判断あるいは評価の道見に利用することである。この分析ではコンピュータを抜きにしては考えられないので、本講義では併行してコンピュータによる分析も実際に行なう。	
使用教材	テキスト	・田中豊、脇本和昌著『多変量統計解析法』 現代数学社
	参考文献	
評価方法	各テーマ毎に頻繁に課すレポートと、毎回の出席調査による総合評価を行なう。定期試験は行なわない。	
受講者に対する要望など	「統計学」および「情報処理概論」を既修であることが好ましい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	多変量解析とは何かについての概観を行なう。
2	統計学の基本事項についての復習をする。(平均、分散、共分散、相関係数、散布図)
3	統計学の基本事項についての復習をする。(確率の分布、正規分布、標準化)
4	行列および行列式についての復習をする。(行列、行列式、連立方程式の解法)
5	行列および行列式についての復習をする。(固有値、固有ベクトル)
6	単回帰分析について述べる。(説明変数、従属変数、最小2乗法)
7	単回帰係数の評価方法について述べる。(残差、標準回帰係数、重相関係数)
8	実例データを各自用意し、分析プログラムを用いて演習を行なう。(分散分析表の見方、決定係数)
9	重回帰分析への拡張を行なう。(係数の推定と検定)
10	実例データを用いて重回帰分析の演習を行なう。(データの収集)
11	重回帰分析演習(結果の解釈)
12	回帰分析における変数選択の方針について述べる。(変数増加法、変数減少法)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	2変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行なう。(幾可学的解釈、係数の重み、主成分)
2	P変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行なう。(ラグランジュ未定係数法、固有値、固有ベクトル)
3	実例データを用いて主成分分析にかける。主成分の解釈のし方について述べる。(寄与率、累積寄与率)
4	各自データを収集し、主成分分析の演習を行なう。(データの収集と入力)
5	分析結果の解釈および検討。
6	2変量判別分析の考え方とその数式化を行なう。(線形判別関数、マハラノビスの汎距離、誤判別率)
7	実例データを用いて2変量判別分析の演習を行なう。
8	P変量判別分析の数式化を行なう。
9	実例データを用いてP変量判別分析の演習を行ない、分析結果の解釈をする。
10	各自データを収集し、判別分析の演習を行なう。(データの収集と入力)
11	分析結果の解釈および検討。
12	クラスター分析とはどのような方法かについて、分析の考え方を述べる。(クラスター、デンドログラム、類似度の尺度)
備考	

科目名	オペレーションズ・リサーチ	担当者名	本田 勝
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>オペレーションズ・リサーチの技法とは、組織（システム）を運営していく際に遭遇する様々な意思決定の問題を、科学的方法によってアプローチし、その解を求め、運用していく技術である。システムと名の付くものは我々の周りには多岐にわたって存在するから、ORの応用される分野も幅広い。この講義ではこれらの手法を習得し、経済や経営の問題へどのように適用していくかを、実例を通して理解することを目的とする。</p>		
講義概要	<p>オペレーションズ・リサーチ（OR）の基本的な手法について述べていく。線形計画法や輸送問題などの数理計画法の部類に属するものについて述べたあと、ゲーム理論や在庫管理の問題など確率モデルに関するものを統いて述べていきたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・小和田 正他著『OR 入門』 実教出版</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>各テーマごとに課すレポートと、毎回の出席調査による総合評価を行なう。定期試験は行なわない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>コンピュータを用いた演習も行なうので、「情報処理概論」が既修か、簡単なパソコン操作の知識は既知であるほうが好ましい。また確率モデルの構成では「統計学」の基本事項について既知であるほうがよい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	OR とは何かについての概観を行なう。
2	線形計画法 (LP) の定式化と幾可学的解法について述べる。(決定変数、目的変数、制約条件式、目的関数)
3	シンプレックス法 (単体法) の考え方について述べる。(スラック変数、基底解、実行可能解)
4	単体表による変換のアルゴリズムについて述べる。(ピボット、人工変数、2段階シンプレックス法)
5	パソコンによる演習を行なう。
6	LP の双対性、双対問題について述べる。(双対定理)
7	パソコンによる演習を行なう。 双対問題の経済学的解釈について述べる。
8	LP の感度分析について述べ、パソコンによる演習を行なう。
9	輸送問題と LP との関連について述べる。
10	輸送問題の解法について述べる。(ポテンシャル法、解の退化、 ϵ -摂動法)
11	輸送問題のパソコンによる演習を行なう。
12	LP および輸送問題について総合的演習を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	動的計画 (DP) の考え方について述べる。(多段階決定法、最適性の原理)
2	DP のいろいろの応用例を述べる。(資源配分問題、最短経路問題、Knapsack 問題)
3	DP のパソコンによる演習を行なう。
4	PERT について述べる。(ネットワーク、クリティカル・パス)
5	PERT と CPM の違いについて述べ、パソコンによる演習を行なう。PERT の統計的評価について述べる。(3点推定)
6	ゲームの理論について述べる。(純粋戦略、混合戦略、2人ゼロ和ゲーム)
7	ゲーム理論のグラフ解法について述べ、演習を行なう。
8	ゲームの理論と LP との問題について述べる。
9	在庫管理の考え方について述べる。(発注点、発注量、調達期間、安全在庫)
10	在庫管理の考え方について述べる。(定期発注法、定量発注法)
11	在庫管理のパソコン・モデルによる演習を行なう。
12	一年間の総括を行なう。
備考	

科目名	システムズ・エンジニアリング	担当者名	天 笠 美知夫
-----	----------------	------	---------

講義の目標	<p>経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ曖昧性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり、主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割とその具体的な方法論について理解と意識を深めることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>本講義は4部から構成される。第1部ではシステムズ・エンジニアリングの基礎として、システムズ・エンジニアリングの基本概念とシステムズ・エンジニアリングの工学的方法論の概要について述べる。第2部では問題の発見と種々のシステムの構造化法について述べる。第3部では評価と意思決定について述べる。第4部ではシステムズ・エンジニアリングのいろいろな手法とその信頼性について述べる。</p> <p>尚、後期には数時間をかけて、理論に従い事例演習を行い、その報告書を作成させるとともに発表会を行う。本講義を受講するために前提となる必修科目はない。</p>		
使用教材	テキスト	<p>授業時間にプリント資料を配布する。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・天笠美知夫『システム構成論』 森山書店 1986 ・寺野寿郎『システム工学入門』 共立出版 1985 ・Wayne C. Turner, et. al.; <i>Introduction to Industrial and Systems Engineering</i>, Prentice-Hall 1978 	
評価方法	<p>成績評価は、事例演習、レポートおよび出席を考慮して総合的に決定する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1部 システム工学の基礎 第1章 システム工学の基本概念：システム工学の発達とその背景、システムの定義と特徴、システム思考
2	システム環境、サブシステム、システムの巨視的特性
3	自然システムと人工システム、需要の定義、計画の定義、創造のプロセス
4	第2章 システム工学方法論の概要：システム開発の手順と組織（その1）（問題の設定、目標の設定、システム合成、システム解析、システムの評価と選定）
5	システム開発の手順と組織（その2）、システム工学方法論
6	第2部 問題の発見とシステムの構造化： 第3章 構造モデルとグラフ理論、ISM法、FSM法とKJ法（その1）
7	ISM法、FSM法とKJ法（その2）
8	ISM法、FSM法とKJ法（その3）
9	構造モデルの分割
10	第4章 統計的手法による構造化（その1）
11	統計的手法による構造化（その2）
12	事例演習1：具体的な問題についてシステム構造化の演習を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第3部 評価と意思決定：第5章 評価の基礎、価値と評価、効用理論（その1）
2	価値と評価、効用理論（その2）
3	第6章 統計的手法による数量化、数量化理論（その1）
4	統計的手法による数量化、数量化理論（その2）
5	第4部 いろいろなシステムの手法と信頼性：第7章 スケジューリング、PERT、CPM（その1）
6	PERT、CPM（その2）
7	第8章 システムの信頼性
8	事例演習2：4～5人からなるグループごとに、身近な問題をテーマとして設定し、これまでに学習した理論にしたがいながらシステム構造化を行い、問題解決を図る。
9	事例演習
10	事例演習
11	報告書の作成とグループ発表、質疑応答（1）
12	報告書の作成とグループ発表、質疑応答（2）
備考	

科目名	情報システム論	担当者名	前田 功雄
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>情報および情報量の概念を明らかにするとともに、パソコン通信やコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について解説する。</p>	
講義概要	<p>上記目標のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用をしながら講義を進める。電子掲示板、電子メール、ファイル転送などが最初に説明されると同時に、それらの利活用をとうして情報伝達の効率や信頼性の問題が述べられる。特に、レポートの提出等に学内のコンピュータ・ネットワークを使うこと。そのために最初の2～3回ぐらいはコンピュータ・ネットワークのデモンストレーションを行なう。</p> <p>キー・ワード：パソコン通信、獨協大学BBS、コンピュータ・ネットワーク、BITNET、LAN、Internet、プロトコル、電子メール、電子掲示板、ファイル転送、エントロピー、誤り検出符号、誤り訂正符号、情報の圧縮、高信頼性情報システム、獨協大学学籍番号システム</p>	
使用教材	テキスト	<p>必要な都度プリント配布。</p>
	参考文献	<p>授業中に述べる。</p>
評価方法	<p>評価は授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンピュータ概論あるいは情報処理概論あるいはC言語を含むプログラミング論を既修または平行履修のこと。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	パソコン通信とは パソコン通信とは？どんなことができるのか？どんな機械が必要か？ キー・ワード：パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度
2	パソコン通信のデモンストレーション 具体的な幾つかのBBS局（含獨協大学BBS局）に接続して実演。 キー・ワード：BBS局、サインオン、ログオン、ログオフ、電子メール
3	コンピュータ・ネットワークとは コンピュータ・ネットワークの種類と仕組み。 キー・ワード：ホスト-端末、LAN、コンピュータ間通信、BITNET、Internet
4	BITNETの仕組みと実演 コンピュータ間通信の代表であるBITNETの仕組みと実演。 キー・ワード：ノード、ユーザID、パスワード、電子メールの送受信
5	BITNETの実習 ログオン、ログオフ、電子メールの送受信等の実習。
6	BITNETによるファイル転送 ユーザ間でのテキスト・ファイルやバイナリー・ファイルの転送法の解説。 キー・ワード：TEXT FILE、BINARY FILE
7	パソコン上のファイルのBITNET上での転送 FDのファイルをBITNET経由で転送する方法を解説。 キー・ワード：アップロード、ダウンロード
8	前期中間レポート パソコンによるファイルのアップロードを含むレポート提出。課題は授業中に説明。
9	情報管理とデータベース（ファイルとディレクトリ） 情報を管理する場合のファイルの扱い方法。 キー・ワード：ファイル、（ルート、サブ）ディレクトリ、ツリー
10	情報管理とデータベース（情報検索と抽出） データベースから必要な情報の検索・抽出の方法について解説。 キー・ワード：データベース、レコード、フィールド、検索・抽出条件
11	情報管理とデータベース（データベースの作り方） パソコン通信やネットワークによるデータベースの構築。 キー・ワード：ダウンロード、エディター
12	前期レポート パソコン通信やコンピュータ・ネットワークによるデータベースの構築に関するレポート課題の説明。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	自然言語と情報理論 自然言語（英語）の生成メカニズムと確率モデル。 キー・ワード：文字の出現頻度、単語長の分布、文章長の分布、文章発機
2	情報の種類 情報の種類とそれらを伝達する媒体について解説。 キー・ワード：アナログ情報、デジタル情報、標本化、量子化、マルチメディア
3	情報量の測りかた（確率入門1） 情報量の定義とその尺度について解説するために、確率論の初歩を学習。 キー・ワード：確率、基本公式、独立な確率変数
4	情報量の測り方（確率入門2） 情報理論によく出てくる確率概念の解説。 キー・ワード：条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率
5	情報量の測りかた（エントロピーの導入） 情報量の定義とその尺度の導入。 キー・ワード：不確かさ、自己情報量、相互情報量、条件付情報量、エントロピー
6	エントロピーの社会科学的解釈 エントロピー概念の経済学上の問題への応用。 キー・ワード：所得の均衡とエントロピー
7	情報伝達システム（誤りの無い場合） 効率のよい伝達システムと符号化について解説。 キー・ワード：情報源、通信経路、受信点、符号器、復号器、符号化
8	情報伝達システム（誤りのある場合） 情報伝達システムはどこまで信頼性を高められるか。 キー・ワード：雑音、誤り訂正符号、パリティチェック方式
9	Hamming符号とHuffman符号 代表的な誤り訂正符号の紹介と情報圧縮への応用について解説。 キー・ワード：誤り訂正符号、情報圧縮
10	10進系符号における誤り検出符号 10進系での誤り検出符号について解説。 キー・ワード：誤り検出符号、パリティチェック方程式
11	獨協大学学籍番号システム 本学の学籍番号システムは誤り検出符号を採用している。 キー・ワード：置換、パリティチェック方程式
12	後期最終レポートについて 後期最終レポートの課題と作成要領について述べる。
備考	

科目名	標本調査論	担当者名	松井 敬
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>新聞、TVなどのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。そして多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われている。実際にある個人が調査の対象となることは極めて少ないにもかかわらずである。この点に違和感を持つ人は多いのではないだろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査における問題点を整理してゆきたい。</p>	
講義概要	<p>本講義は目標のところで述べたことを念頭において出発する。調査の歴史の中には数多くの失敗があり、そんな中から調査の理論が確立されてきている。そこで、まず標本調査とはどんなことかを考えたい。次に、現在行われている様々な抽出法について、その由来、推定の方法、誤差の評価、抽出法相互間の比較などを取り扱ってゆく。応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果をできるだけ取り入れ、理解の助けとしたい。</p> <p>なお、模擬母集団からの手作業による抽出作業を通して、色々な抽出法の意味と違いが分かるようにしてゆきたい。数値計算の作業を厭わないことが必要である。</p>	
使用教材	テキスト	・松井敬 『標本調査論』 内田老鶴圃
	参考文献	抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran "Sampling Techniques", Wiley & Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott "Elementary Survey Sampling", PWS-Kent Pub. Co. が分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては、浅井晃『調査の技術』、日科技連；林、多賀『調査とサンプリング』、同文書院など。
評価方法	<p>前・後期二回のレポート、抽出法毎に行なう演習への貢献度、講義への出席によって評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>統計的な基本概念もあわせ補充するが、統計学を既習ないし並履修が望ましい。上で述べたように演習などのこともあり、出席は厳しく評価したい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	標本調査とは—1：(1)標本調査とはどんなことか—幾つかの具体例を通し、調査の意味や方法、問題点などについて考えてみる。(2)本講義をどう進めるか—方針と受講生への要請。
2	標本調査とは—2：(1)標本調査とはどういうことか、良いサンプルとは何か、良いサンプルを得るための試み。(2)有意抽出法—典型法、割当法など調査法とその歴史。無作為抽出法。
3	標本（サンプル）、母集団：(1)良いサンプルの条件、それを得るための方法。母集団と標本（サンプル）。(2)母集団特性値—平均、統計、比率。母集団の分散、標本との関係。
4	単純無作為抽出法—1：(1)復元抽出法、非復元抽出法—意味と方法。(2)乱数—性質と使い方。(3)単純無作為標本のつくり方。
5	単純無作為抽出法—2、標本分布：(1)単純無作為抽出法の例、推定量。(2)標本分布の概念—標本平均、標本中央値などの分布。(3)推定量の特性。
6	標準誤差—1：(1)推定量の分散、標準誤差。(2)母平均と母集団総計の推定量としての標本平均と標本総計。(3)標本平均と標本総計の分散とその意味、その推定量。(4)有限母集団補正。
7	標準誤差—2：(1)標準誤差の意味。(2)推定量の精度（誤差）、推定量の相互比較（効率）。(3)母集団比率の推定。
8	標本の大きさ：単純無作為抽出法で標本の大きさを決めるにはどうするか。
9	層化無作為抽出法—1：どんな抽出法か、層化抽出法における要点（どんな点が問題となるか）。構造模型。
10	層化無作為抽出法—2：(1)サンプルの配分、推定量とその分散。(2)比例配分と最適配分。(3)単純無作為抽出法との比較。
11	層化無作為抽出法—3：層の作り方、層の数
12	層化無作為抽出法—4：(1)調査項目が複数個の場合の取り扱い。(2)サンプルの大きさの決定。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	系統抽出法—1：意味と方法。推定量、その分散。
2	系統抽出法—2：系統抽出法が有効な場合。抽出法の例。
3	1 段集落（クラスター）抽出法—1：(1)なぜ集落抽出法を考えるか—その方法と理由。(2)抽出単位を選出する確率が等しくない場合の標本抽出とその効果。
4	1 段集落（クラスター）抽出法—2：(1)1 段目を等確率抽出した場合。(2)幾つかの推定量—それぞれの特徴と比較。(3)抽出法の例。
5	1 段集落（クラスター）抽出法—3：(1)例を通して問題点の整理。(2)1 段目を確率比例抽出などで抽出した場合。(3)比率の場合。
6	2 段集落（クラスター）抽出法—1：クラスターの大きさが等しい場合。2 段集落抽出法の考え方、推定量その他この抽出法にかかわる問題点の整理。
7	2 段集落（クラスター）抽出法—2：構造模型。クラスターの大きさが異なる場合。サンプルの大きさ $n = 1$ の場合についての考察。推定量と抽出法との関係を調べる。
8	2 段集落（クラスター）抽出法—3：一般の場合の説明。1 段目の抽出が等確率の場合。抽出法の例。
9	2 段集落（クラスター）抽出法—4：一般の場合、第 2 段目の抽出が確率比例抽出などによる場合。抽出法の例。
10	抽出法再考：講義で扱った様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。
11	標本調査における問題：標本調査の実際に関わる諸問題。実際の場で起こりうる問題を整理し、例を通して解説。
12	標本調査：まとめ
備考	

科目名	情報検索論(旧)	担当者名	小田光宏
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>コンピュータを用いた情報の検索に関する基礎的な知識と理論、ならびに、こうした技術が発展した社会的な背景について理解することを目標とする。また、情報と文献のコントロールの理論と技術を学ぶことも目標とする。とりわけ、近年ユーザー・フレンドリーな仕組とともに普及しつつある CD-ROM 検索に焦点を合わせ、検索デモンストレーションを行なって、その技術の習熟につとめる。さらに、情報ネットワークとの関係を考慮しながら、オンライン検索やインターネットなどの技能を理解する。</p>	
講義概要	<p>授業は四部から構成される。すなわち、「情報検索の基礎」、「CD-ROM 検索の実際」、「情報と文献のコントロール」、「オンライン検索の実際」である。「情報検索の基礎」では、現代社会と情報検索の可能性、データベース、索引言語、検索式、検索評価の問題を扱う。「CD-ROM 検索の実際」では、いくつかの CD-ROM ソフトのデモンストレーションを実施し、実習を交えて技術に習熟する。「オンライン検索の実際」では、NACSIS-IR、DIALOG などの検索、ならびにインターネットを用いた情報検索の広がりについて、やはりデモンストレーションによって紹介する。「情報と文献のコントロール」では、標準化と規格、メディアとユーティリティの問題を検討する。</p>	
使用 用 教 材	テキスト	使用しない
	参考文献	・戸田慎一ほか『インターネットで情報探索』日外アソシエーツ 1994
評価方法	<p>試験を実施する。また、毎回の授業の積み重ねによってはじめて理解が可能な技術を扱うので、平常点(遅刻をしない出席と授業への参加)を重視する。具体的には、前期ならびに後期の試験を各30%、平常点を40%の割合とし、総合して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業ではきわめて実際的な知識と技術を扱う。したがって、出席して作業に参加することが重要である。なんらかの事情で欠席した場合には、次回までに補っておくことが不可欠である。受講希望者は初回授業に必ず出席すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：年間予定、授業方法、評価基準などの注意事項について説明する。
2	情報検索の基本概念：情報検索の定義と種類、歴史と現状について解説する。また、情報検索システムの構成要素について説明する。
3	データベース（1）：データベースの定義と種類、流通と組織について、事例を紹介しながら解説する。また、ビデオ「データベース検索入門」に基づいて整理を行う。
4	データベース（2）：データベースの構造について、コンピュータ化されていない情報源の構造と比較しながら、理解を深める。
5	情報検索理論（1）：索引言語に関して、事前結合方式と事後結合方式、自然語と統制語、シソーラスの役割について説明する。
6	情報検索理論（2）：検索式に関して、各種の演算子の特徴と使い分けについて説明する。また、部分文字列一致に基づく検索式も検討する。
7	CD-ROM 検索（1）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
8	CD-ROM 検索（2）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
9	CD-ROM 検索（3）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
10	CD-ROM 検索（4）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
11	CD-ROM 検索（5）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
12	CD-ROM 検索（6）：CD-ROM を用いた検索実習を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	メディアの比較（1）：冊子体の情報源と、CD-ROM、オンライン・データベースを比較して、それぞれの特徴を明らかにする。
2	メディアの比較（2）：上記の三つのメディアの使い分けの問題と実状について検討する。
3	書誌コントロール（1）：書誌コントロールの基本概念について検討するとともに、発展の経緯について解説する。また、ネットワークについても論じる。
4	書誌コントロール（2）：書誌ユーティリティの事例を紹介しながら、標準化と規格の問題について検討する。また、オンライン検索との関係を説明する。
5	オンライン検索（1）：デモンストレーション形式で、書誌データベースの検索技術について検討する。
6	オンライン検索（2）：デモンストレーション形式で、書誌データベースの検索技術について検討する。
7	オンライン検索（3）：デモンストレーション形式で、非書誌データベースの検索技術について検討する。
8	オンライン検索（4）：デモンストレーション形式で、非書誌データベースの検索技術について検討する。
9	インターネット（1）：インターネットを用いた情報検索の可能性について、デモンストレーション形式で検討する。
10	インターネット（2）：インターネットを用いた情報検索の可能性について、デモンストレーション形式で検討する。
11	情報検索の評価：検索結果の評価について、適合性と適切性、再現率と精度、検索費用の諸問題を検討する。
12	
備考	

科目名	高齢者エルゴノミクス（営旧）	担当者名	山本 栄
-----	----------------	------	------

講義の目標	エルゴノミクス（人間工学）の考え方が身につき、その上で実社会で高齢者を始め弱者に対し“やさしさ”を考えたモノ（ハード、ソフト）を提供できる。	
講義概要	<p>駅でお年よりが行先地図を見ながら目的の駅までの運賃がわからずうろろしている光景を目にしたことがあるでしょう。松原の駅でもエスカレーターの工事をしていますが、多くの駅に設置されているエスカレータは多分上りが多い（？）と思います。ところが高齢者にとって階段を下ることは結構きついし、また危険なのです。このようなことが我々の回りにはたくさんあります。我々ユーザーにとってどういうモノ（ハード、ソフトまたは製品、設備、施設）が快適で安全なのでしょう。この点を本講義ではつっこんで行いたい。そしてかしこい消費者、ユーザーになるための方法を学習します。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<p>授業中指示します。</p> <p>レポートについては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木下是雄著『理科系の作文技術』 中公新書
評価方法	年2回の学期末テストを行います。それとレポートを何回が提出してもらいます。ただし出来の良いレポートについてはテストの免除があります。	
受講者に対する要望など	受身の授業でなく、積極的な参加、すなわち質問および自分の考えを述べられるようにすることを求めます。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1. イントロダクション 高齢者とは
2	2. 高齢者を取りまく環境
3	3. 高齢者の特徴 3. 1 加齢効果
4	3. 2 生理的变化 視覚、聴覚、触覚
5	3. 3 精神的变化
6	4. 人間工学の原則 4. 1 エルゴノミクス入門
7	4. 2 ISO 6385
8	5. 高齢者とユーザビリティ
9	6. 高齢者の機能測定法 6. 1 身体計測法
10	6. 2 生理的計測法
11	6. 3 心理的計測法
12	7. 前期まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	8. 高齢者と情報処理 8. 1 情報処理能力と加齢
2	8. 2 高齢者用 O.A. 作業— 1
3	" " " — 2
4	9. 高齢者用住環境 9. 1 家庭内災害
5	9. 2 高齢者用住宅
6	10. 高齢者と安全— 1 生産現場での問題点
7	" — 2 現状の対策とその改善
8	" — 3 未来指向アプローチ— 4
9	11. 高齢化社会と社会システム 11. 1 社会システムとしての見方
10	11. 2 現実の対応とのギャップ
11	11. 3 望ましい方向とは 地方自治体の取り組み方
12	12. まとめ
備考	

科目名	宗教学	担当者名	鈴木康治
-----	-----	------	------

講義の目標	宗教とは何かという問いに答えるべく、東西の宗教の現実をみつめ宗教に関わる知識を学ぶにある。	
講義概要	講義予定を参考にされたい。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	授業時に提示する。
評価方法	年一回の、ノート持ちこみのテストによる。	
受講者に対する要望など	出席をとるので出席に努められたい。私語は問題外。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要の説明
2	宗教とは何か 1、
3	同上 2、
4	宗教学の諸問題 1、
5	同上 2、
6	日本の宗教事情 1、
7	同上 2、
8	年中行事 1、
9	同上 2、
10	通過儀礼の諸問題 1、
11	同上 2、
12	同上 3、
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期概要のまとめ
2	祭りの事例 1、
3	同上 2、
4	同上 3、
5	祭りと現代 1、
6	同上 2、
7	社会と宗教（集団） 1、
8	同上 2、
9	タブーと戒律
10	修行 1、
11	同上 2、
12	宗教の規定
備考	

科目名	特殊講義（営旧） 経営学特論A（営旧旧）	担当者名	栗村英二
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	<p>いま、日本で問われている典型的な「会社人間」について 仕事は人生の一部にすぎないが、人生に及ぼす仕事の影響は測りしれない。</p> <p>企業における「ヒト」の問題はますます重要になってきた。「ヒト作り」「人材育成」等々社会で検討しなければならないことは多い。</p>		
講義概要	<p>日本経済の海外活動はきわめて大きい。活動の成否は日本のくらしにひびく。日本の方式は海外に通用するであろうか。年功賃金、終身雇用などまったく異った制度は日本でこそ成果をあげたが他国ではどうか、従来の常識を再吟味する必要がある。また途上国との技術協力についても、資源のない日本経済が成長したのは人的資源の向上でこの点から協力は可能であるが、実務的訓練方式の理解を求めることが肝要である。日本は高年齢化のスピードは速い、年齢が高まると能力が低下するのに年功賃金ではコストが高い。日本の失業率は低いといわれるがどうか検討されなければならない。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>・小池和男『仕事の経済学』『アメリカのホワイトカラー』『大卒ホワイトカラーの人材開発』等</p>	
評価方法			
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	○労働者グループ拾就業者、自営業者、雇用労働者について。
2	○「年功賃金」の吟味。 年功賃金論、日本的熟練論。上がり方ときめ方。賃金の上がり方の国際比較。
3	○終身雇用の吟味 離職率。勤続の国際比較
4	○大企業労働者のキャリア アメリカ大企業労働者のキャリア レイバー・プール、昇進、解雇
5	入転 退職者、養成工と熟練工
6	非量産職場、装置産業の職場、量産型職場、配転、日米比較
7	○知的熟練 異常と変化への対応 総合方式と分離方式
8	その形成方法 知的熟練の将来
9	○現代の理論 人的資本論 企業特殊熟練、訓練費の負担、長期の対応
10	内部労働市場 定着性の仮説
11	キャリアのくみ方
12	○解雇と失業 雇用調整 日本の解雇
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	○中小企業労働者 規模間格差の実態 中小企業の技能形成
2	○高年労働者と女性労働者 高年者 女性労働者
3	○日本方式の海外通用性 英米の日本企業 東南アジアの技能形成
4	技術協力
5	○大卒ホワイトカラー 海外の通用性 日本の企業内昇進
6	
7	○働く場での労働組合 争議の国際比較 アメリカのローカル・ユニオン
8	ドイツの従業員組織 日本の企業制組合
9	○賃金水準の変動と失業 賃金水準
10	失業 分配
11	
12	
備考	